

平成21・22年度

2回生進級時アンケート

高等教育研究開発推進機構

平成 21 年度

目 次

はじめに——調査の趣旨と概要.....	1
1 学習意欲などの変化.....	3
1. 1 学習意欲の変化.....	3
1. 2 出席コマ数の変化.....	4
1. 3 授業外学習時間の変化.....	4
2 成績評価への納得度.....	5
2. 1 成績評価全体への納得度.....	5
2. 2 成績評価に納得できない理由.....	6
2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容.....	7
3 「満足した科目」「不満だった科目」.....	8
3. 1 「満足した科目」とその理由.....	8
3. 1. 1 科目群別の集計.....	8
3. 1. 2 「満足した理由」の分析.....	9
3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容.....	10
3. 2 「不満だった科目」とその理由.....	15
3. 2. 1 科目群別の集計.....	15
3. 2. 2 「不満だった理由」の分析.....	16
3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容.....	17
4 全学共通科目への期待.....	22
5 期待は実現されたか.....	24
6 今後の全学共通教育への要望.....	25
6. 1 項目別集計.....	25
6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容.....	27
7 自由記述.....	29
7. 1 総合人間学部.....	29
7. 2 文学部.....	31
7. 3 教育学部.....	36
7. 4 法学部.....	37
7. 5 経済学部.....	42
7. 6 理学部.....	45
7. 7 医学部.....	49
7. 8 薬学部.....	52
7. 9 工学部.....	53
7. 10 農学部.....	66
【資料】平成 21 年度 2 回生進級時アンケート (KULASIS 掲載内容)	72

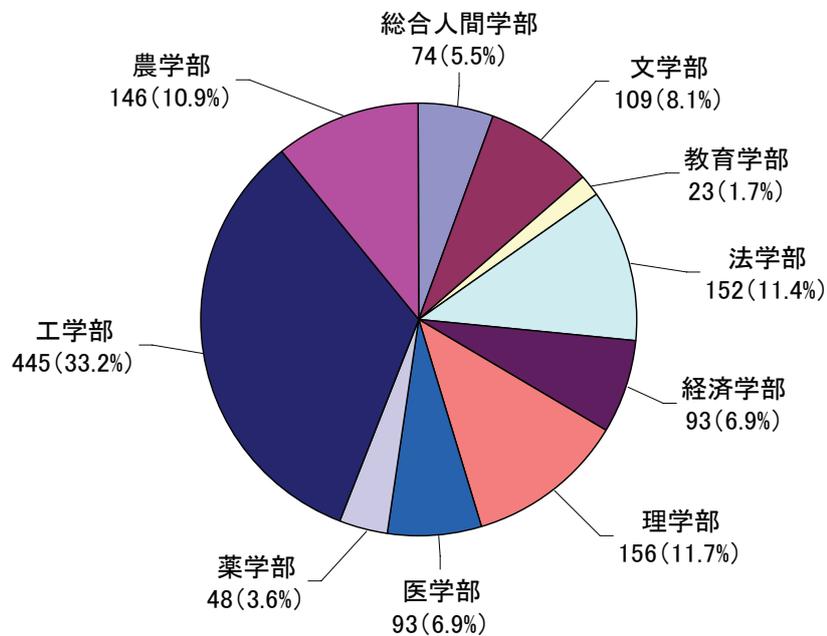
調査の趣旨と概要

- 対 象：学部新 2 回生（平成 20 年入学生対象）全員
- 目 的：学生が入学後 1 年間の大学生活の中で京都大学の教育に対してどのような感想を抱いたかについて 2 回生進級時点での意見を聞き、今後の京都大学の教育を改善・充実してゆくための重要な資料とする。
- 概 要：新入生ガイダンスの際、記入してもらった「新入生アンケート」の回答を学生に返却し、自分の入学当時の抱負・期待を読み返しつつ、1 年間の全学共通教育を中心とした学習を振り返って、どんなことを感じあるいは考えたかについて率直な意見を表明してもらおうよう求めている。
- 方 法：KULASIS（全学共通教育教務情報システム）上でのアンケート方式をとっている。
平成 21 年 4 月、各学部新 2 回生が 1 回生後期の成績確認のため KULASIS にログインした際、アンケートへの協力願いを掲示し、回答フォームに入力してもらおうという方式をとった。（アンケート全文は末尾に添付している。）

表 0-1 学部別アンケート提出者数・提出率

学部	在籍者数(2009/5/1 現在)			提出者数	提出率
	計	男	女		
総合人間学部	125	85	40	74	59.2%
文学部	217	119	98	109	50.2%
教育学部	61	35	26	23	37.7%
法学部	342	264	78	152	44.4%
経済学部	256	218	38	93	36.3%
理学部	311	278	33	156	50.2%
医学部	250	122	128	93	37.2%
薬学部	83	50	33	48	57.8%
工学部	984	902	82	445	45.2%
農学部	317	208	109	146	46.1%
合計	2,946	2,281	665	1,339	45.5%

図 0-1 学部別アンケート提出者数・構成比



1 学習意欲などの変化

問1 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在までに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

(学習意欲) 5. 非常に意欲あり 4. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない
2. あまり意欲なし 5. まったく意欲なし

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

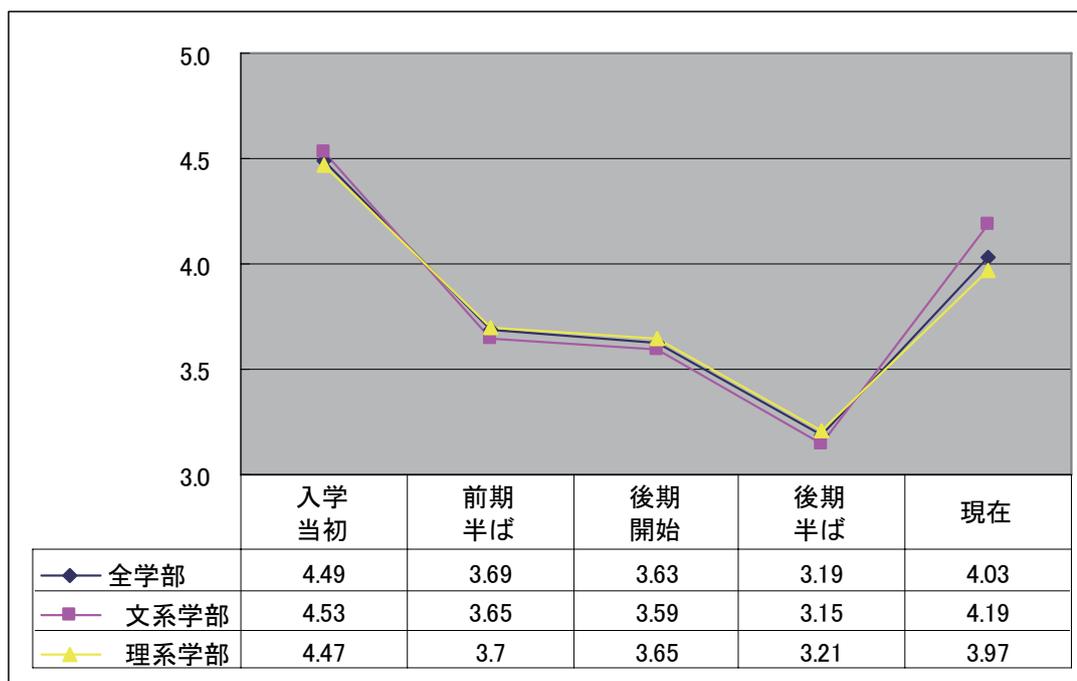
(作成例)

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	5	15 コマ	1.5 時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開始	4	4 コマ	3 時間
後期半ば	4	〃	〃
現在	1	12 コマ	

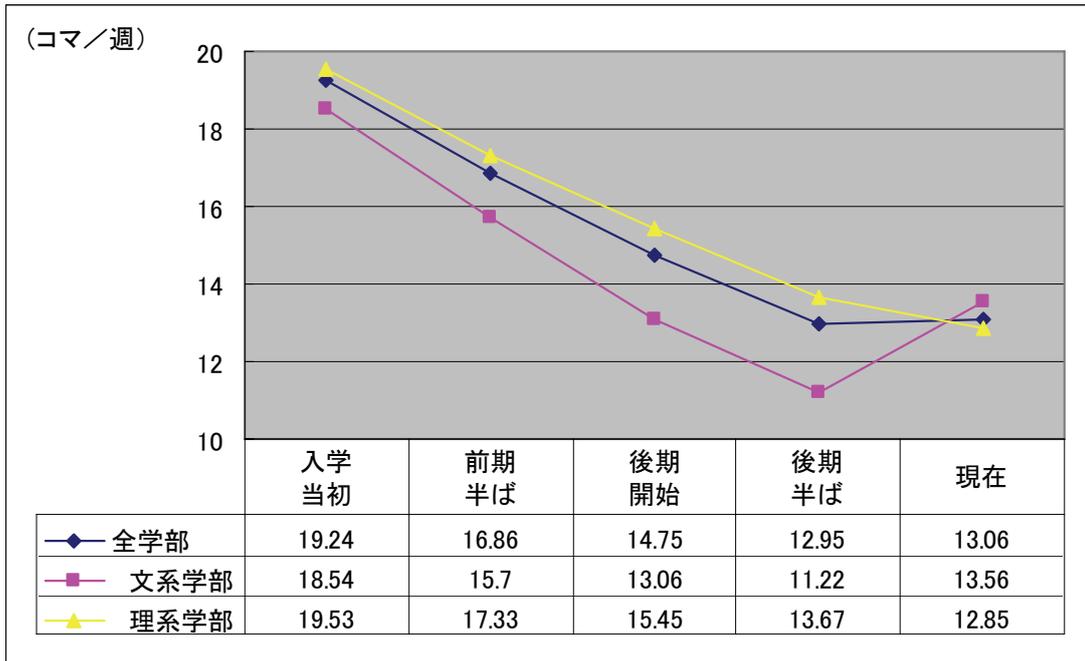
* あまり深く考えず「平均」「おおよそ」でご記入ください

* 現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

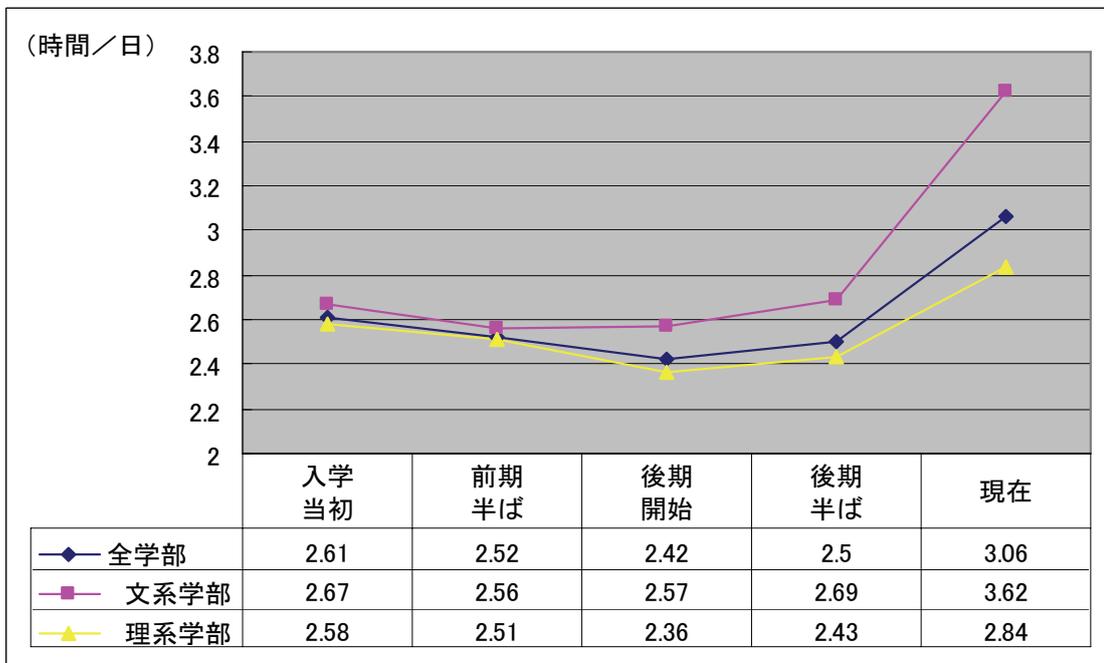
1. 1 学習意欲の変化



1. 2 出席コマ数の変化

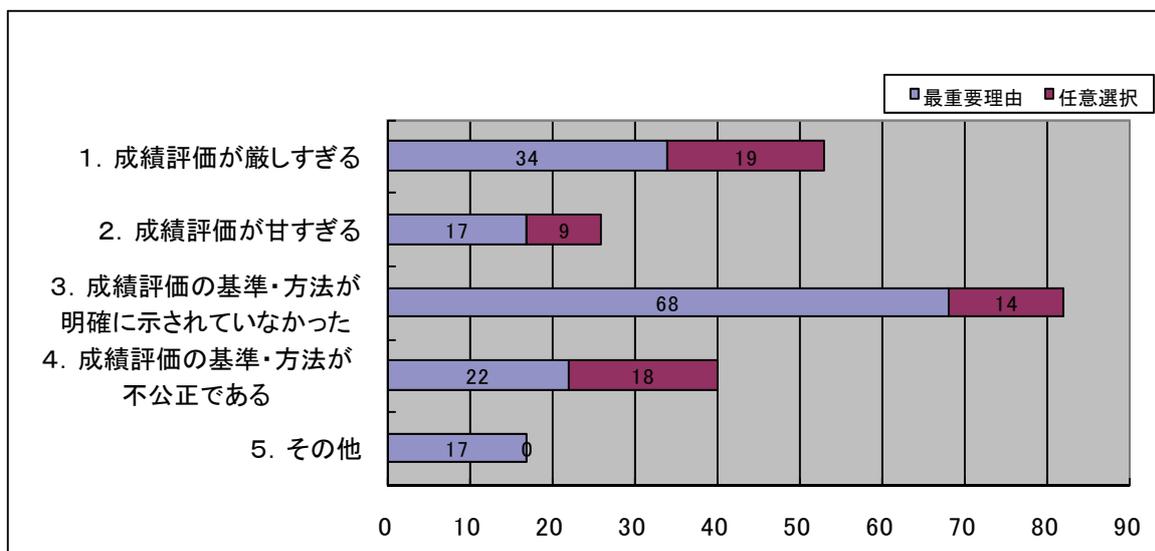


1. 3 授業外学習時間の変化

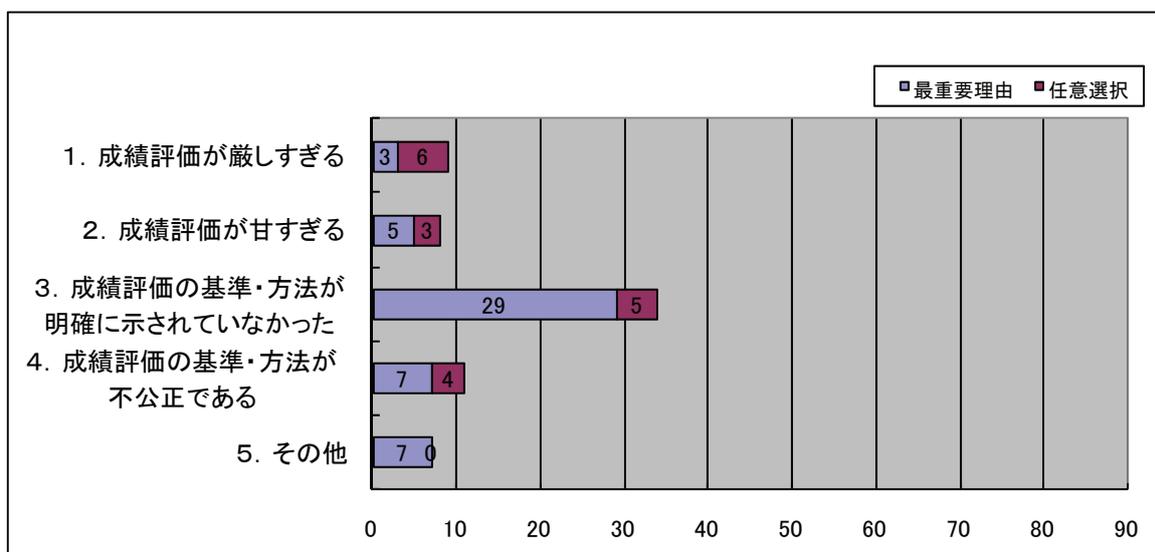


2. 2 成績評価に納得できない理由

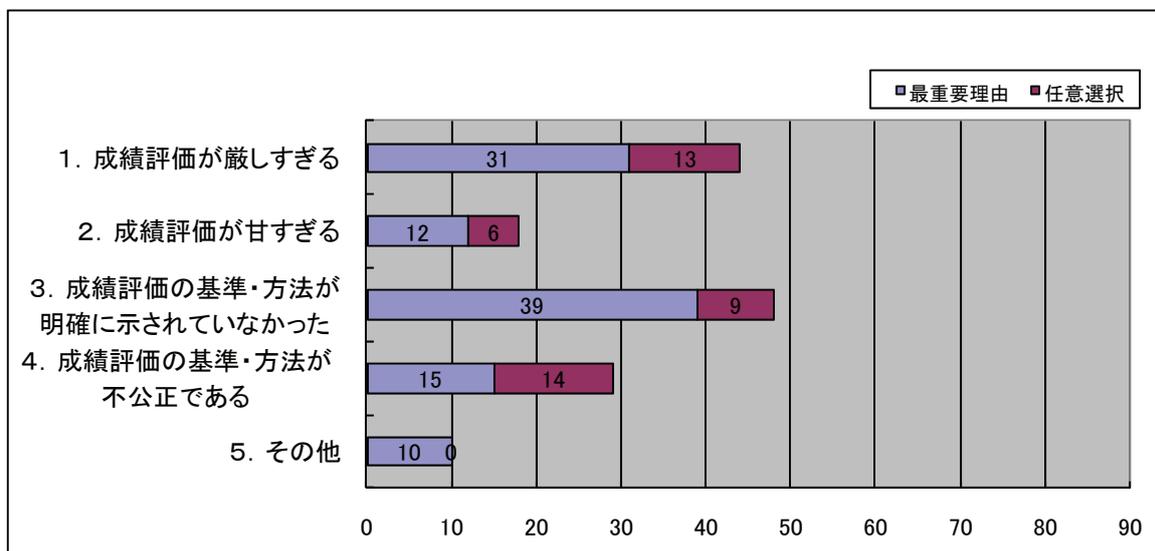
【 全 体 】



【 文 系 】



【 理 系 】



2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容

◎は最重要項目 [1 つだけ選択] を、○は任意選択項目 [複数選択] を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- ◎自分の能力が低すぎた。【総人（文系）・女】
- ◎こんなもんかと。【文・男】
- ◎不可抗力。【教育・女】
- ◎怪我の内容を全く考慮してくれなかった。【経済・男】
- ◎答案を返してほしい。点数だけでは学習効果はない。【経済・男】
- ◎自分が甘かった。【経済・男】
- ◎語学落としたから。【理・男】
- ◎講義を行った講師と採点を行った講師が異なったために、講義で教えられた解答を期末試験で書いたのに不正解になった。【理・男】
- ◎レポート提出の確認がきちんとされなかった。【理・女】
- ◎テストが返却されないため、自分ではできたつもりのもので単位を落としたこともあった。自分が何を分かっているかを知るために答案返却をしていただかなければ、何の役にもたない。だが、履修者の多い全学共通教育科目のテストを全員に返却するのは難しいと思われるので、答案用紙に「返却希望者はしるしをつけてください」という欄を設け、しるしをつけた人にだけ返却すればよいと思う。【医・女】
- ◎人によって基準が違いすぎる。【工・男】
- ◎ガイダンスでは初学者向けと言っていたのに、初学者では到底ついていけない授業があった。【工・男】
- ◎答案が返却されず、復習できない。何事もやりっぱなしはダメなはず。【工・男】
- ◎僕はがんばった。【工・男】
- ◎自分のふまじめさ。【工・男】
- ◎テストの時にミスをしないうな冷静さを身につけたいですね……。【工・男】

3 「満足した科目」「不満だった科目」

3. 1 「満足した科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。
 A. あなたがとくに満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

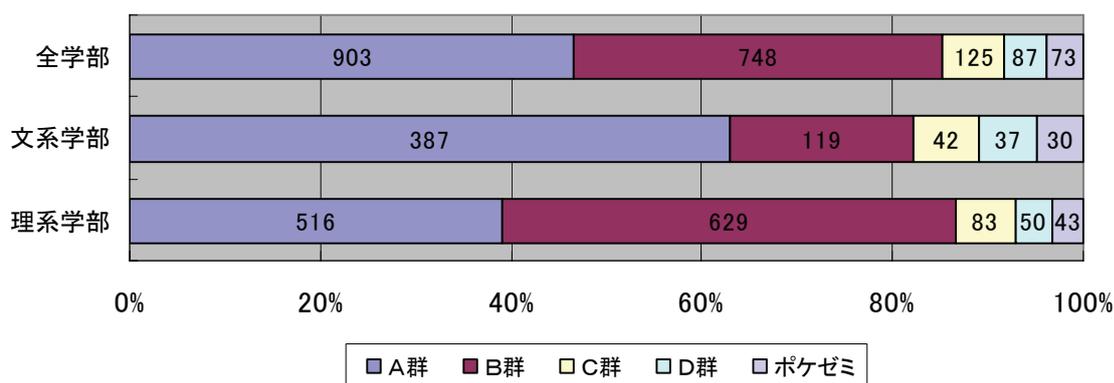
あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）

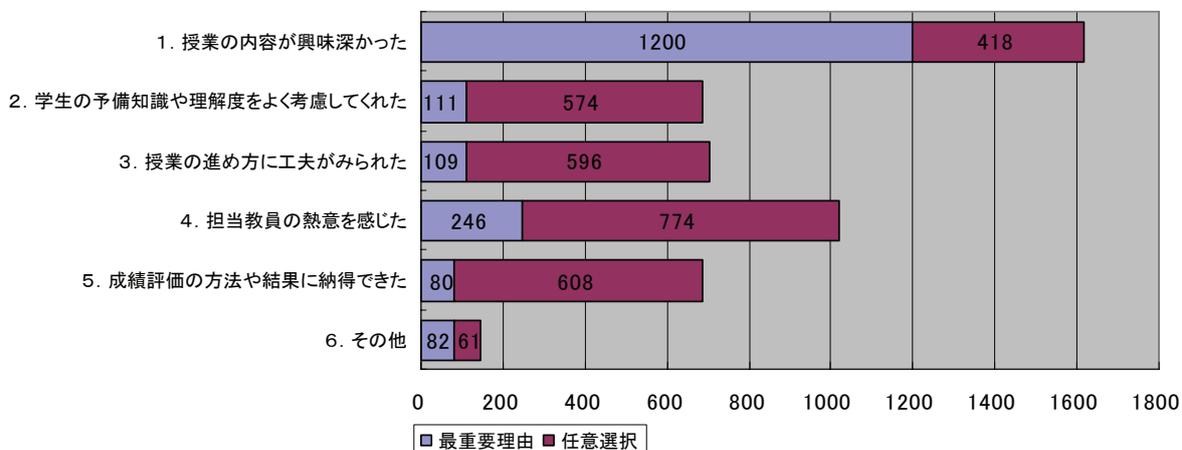
（以下、科目2、3も同様）

3. 1. 1 科目群別の集計

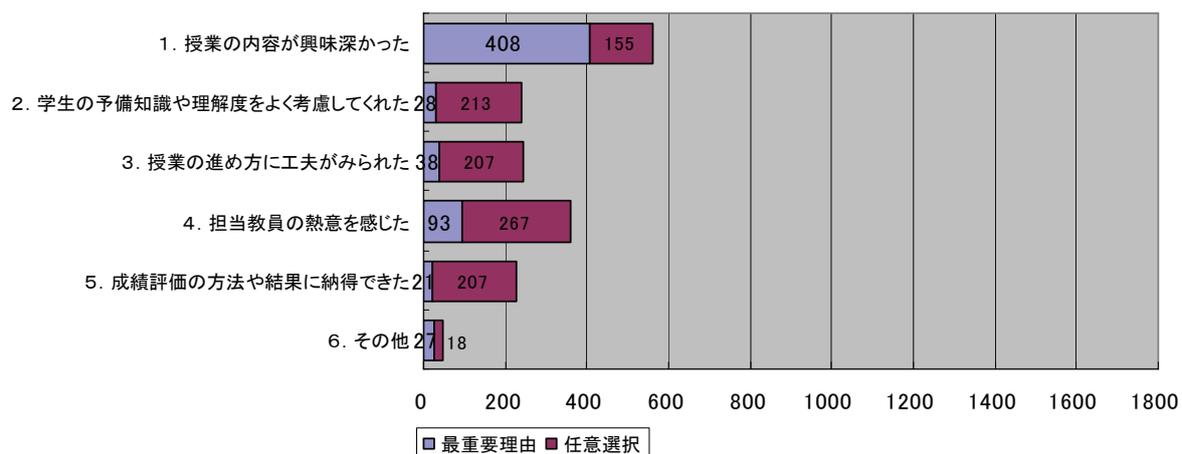


3. 1. 2 「満足した理由」の分析

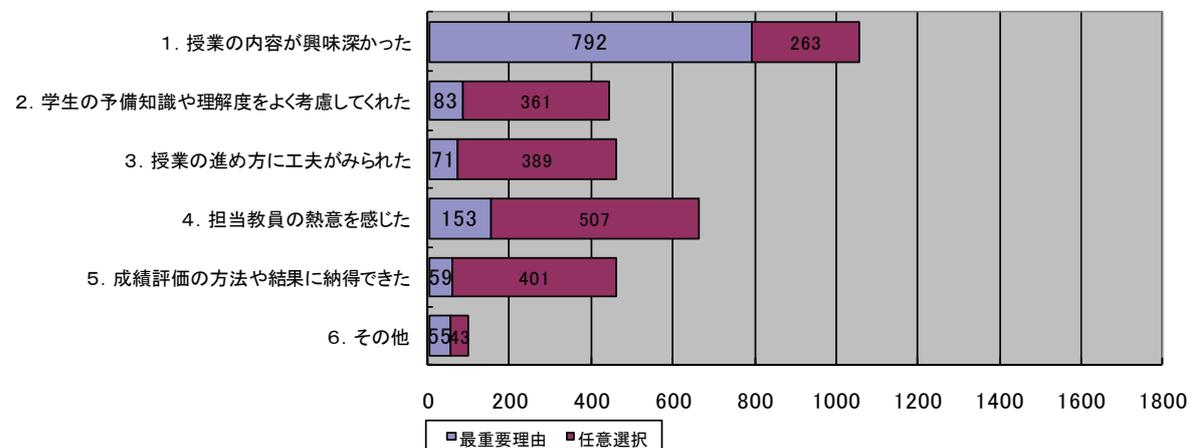
【全体】



【文系】



【理系】



3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容

「満足した理由」の「6 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。以下、A群、B群、C群、D群、およびポケット・ゼミの別に、記述内容を掲載する。

なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

■A群科目

- ◎教員の教え方が上手だった。【総人（文系）・男】
- ◎はじめてのゼミ発表でしたが、自分なりに精いっぱいやりきることができたので、達成感が得られた。【総人（文系）・女】
- ◎担当教員が面白かった。【文・男】
- ◎書籍の調査、ディベート、プレゼンテーションなどの技術を磨けた。【文・男】
- ◎レポートで自分の暮らしていた町のことを詳しく理解できた。【文・男】
- ◎きちんと板書してくれたから。【文・男】
- ◎課題の面白さ。【法・男】
- ◎ゼミでものを話す面白さを学習できた。【法・男】
- ◎非常にためになった。【法・男】
- ◎後々役に立つ知識を得られた。【法・女】
- ◎担当教官が楽しそうに講義されていたので、自然とその内容に惹きつけられたから。【理・男】
- ◎先生の話が楽しくわかりやすかった。【医・男】
- ◎そらまめくんかあいよいよ。お持ち帰りいいいい。【工・男】
- ◎なんか、生き方みたいなのを考え直すきっかけになった。【工・男】
- ◎教員の語り口が面白かった。【工・男】
- ◎授業で使用した教科書の内容が興味深かった。【工・男】
- ◎他機関の人による講演を行ってくださった。【農・女】
- ◎授業がわかりやすかった。【農・女】
- ◎単に知識をつめこむだけでなく、スライドを使って実際に絵画を見ることができたので良かった。
【農・女】
- 意欲の高い学生と議論し、有意義な時間が持てた。【法・男】
- 授業が厳しかった。【理・男】
- 少人数で発言の機会がたくさんあった。【総人（文系）・女】
- 面白い。【理・男】
- 英作文だけに限らず、幅広く英語のスキル上達法を教えてくださいましたから。【理・男】
- 前期ではほぼ同形式の講座があるが、後期の方が、単位にこだわらない真面目な学生が多く、勉強しやすかった。また、芸術に対する関心、理解が深まり、自分の見識の幅が明らかに広がった。
非常に素晴らしい授業でした。ありがとうございました。【文・男】
- とにかく素晴らしかった。学習だけでなく、人生、その他の意味でもためになりました！！ほん

とうにありがとうございました！ 新入生は是非でも受講してほしいです！！ 【文・男】

- 担当教員の雰囲気が好きだった。【文・女】
- 単純におもしろかった。こういうゆるい感じの授業で知識・教養を身につけられる科目はもっとあってもいいと思う。【教育・男】
- 教授の教科書の内容が興味深かった。【法・男】
- この授業でしか得られない情報も得られ、すごく考えさせられた。【法・女】
- M&A の実際の話が聞いて興味深かった。【経済・男】
- 先生が質問にも丁寧に答えてくれた。【医・男】
- 今の日本の財政状況の「なぜ」を追及できたから。また純粋に理解が深まったと実感できたから。
【医・女】
- 教養人オーラが感じられた。【工・男】
- **教諭の人柄がものすごくよかった。【工・男】
- さまざまな分野で活躍しておられる方を招いての講義がよかった。【工・男】
- 教員がおもしろかった。【工・男】
- 猿についてだけでなく、脳科学についても勉強できた。【工・男】
- アフリカにおける人種の違いについてよくわかった。【工・男】
- 文献引用の仕方等、レポートの書き方を教えてくれたこと。先生が個人的な質問に丁寧に答えてくれたこと。【農・男】
- 教員の人柄。【農・女】

■ B 群科目

- ◎大学で教養をつけるノウハウの紹介をしていた。【文・男】
- ◎**教授の人柄。【法・男】
- ◎教員の熱意というよりは京大理系のもつべき雰囲気が伝わった。【法・男】
- ◎高校のときに勉強しなかった物理がちゃんと学習できた。【法・男】
- ◎教え方が上手だった。【理・男】
- ◎レポート課題が友人とのコミュニケーションにも勉強にも役立った。【理・男】
- ◎実験設備が整っていた。【理・男】
- ◎板書が丁寧で、説明がとてもわかりやすかった。【理・男】
- ◎受講者の主体的な思考を促す授業だった。【医・男】
- ◎担当教員が自学自習を容認してくれたから。【医・男】
- ◎教科書は不親切だが、実験は興味深く勉強になった【医・男】
- ◎レポートの書き方、実験器具の使い方が学べた。【薬・女】
- ◎簡潔に、必要なものだけを知識として与えてくれたので他の B 群科目を理解するうえで非常に役に立った。【工・男】
- ◎**教員の方言、時折混じる英語がかっこよすぎて惚れた。【工・男】
- ◎実演がすばらしかった。【工・男】
- ◎単位がもらえた。【工・男】
- ◎レポートを書く力がついた。【工・男】

- ◎担当教官がとても面白い人だった。【工・男】
- ◎**先生の説明が本当にわかりやすく、やる気が出ました。【工・男】
- ◎基本的な知識を得られた。(それ以外の理系科目は初期の知識レベルを無視した授業に疑問を感じた)【工・男】
- ◎今後の学習に役立った。【工・男】
- ◎講義がわかりやすかった。【工・男】
- ◎学生の質問に詳しく答えてくれた。【工・男】
- ◎教え方がうまかった。【工・男】
- ◎レポートの添削が丁寧であった。【工・女】
- ◎レポートの書き方を学べた。【工・女】
- ◎1回生でもゼミ形式の授業に参加できるので良い経験になる。【農・男】
- ◎ゼミのメンバーがアツかったし、先生も好きにさせてくれたこと。【農・男】
- ◎普段入ることのできない研究の場で話を聴くという貴重な機会を得られた。【農・男】
- ◎座学と違って、野外でのその場に即した授業が良かった。【農・女】
- ◎**先生のお話を聞いた。【農・女】
- ◎ゼミ形式で真剣に話し合いができたのがよかった。【農・女】
- やりたいと思っていた大学範囲の数学が勉強できた。【法・男】
- 学生のやる気が高かった。【法・女】
- 先生が優しくて、グループのメンバーとも仲良くなりました。【理・男】
- リレー講義で色々幅広い内容に触れられた。【理・男】
- 実践してくれた。【理・男】
- 実習が好きだから。【理・男】
- これほど学生の興味を引き立てる授業は他にはない！！数学を専門にする気はないのに、先生の魔法の力にかかって、非常に意欲を持てた。板書も読みやすく、先生の喋りも分かりやすく、要点も掴めるし最高だ。先生との距離も近い授業で、懇切丁寧な説明も初学者には優しい。1年間習って**先生の大ファンになれた。【理・男】
- 学生がより積極的に参加できた。【理・女】
- 毎回お勧めの本を紹介してくれた。【医・男】
- 実生活にかなり応用できる技術を学び、自分に自信がついた。【医・女】
- 毎回、各分野のエキスパートの話をうかがうことができ、2回生以降の専門分野の導入になるような話が聞けました。文句無しの、ベストワンです！！**先生ブラボー！！【医・女】
- 野外実習が面白かった。【薬・男】
- 勉強した分だけの効果ははっきりとわかったため。【工・男】
- 先生がとにかくすごい。【工・男】
- 講師の方の授業の進め方と、私の好みがあったのだと思います。【工・男】
- 教授の秩序立った講義には好感が持てた。【工・男】
- 今になってもものすごく大切なことをやっていたと気づいた。【工・男】
- とても素晴らしい先生です。【工・男】

- 少し理解できた。【工・男】
- 学生をしっかりと叱ること。【農・男】
- 学習意欲を持って取り組めた。【農・男】
- 毎回の課題が非常に興味深い内容で良かった。【農・女】
- 先生の説明がとてもわかりやすく、質問にも親切に答えてくださった。【農・女】
- 深く考えさせる授業だった。【農・男】
- 教員の人柄が良かった。【農・女】

■ C群科目

- ◎イタリア語が好きになれた。【文・男】
- ◎授業内容が充実していた。【法・男】
- ◎初修者に分かり易く、ドイツ語を学ぶには、まず何が重要かを教えてくださり、また教科書の書き方がわかりにくい部分については、より分かり易い理解の仕方、暗記の仕方まで教えてくださったから。【理・男】
- ◎毎回の授業の予習復習の量は多かったが、その分やりがいがあった。【理・男】
- ◎学生が初学者であることをしっかりと受け止めてくださって、本当に分かりやすく説明して下さった。また、単にドイツ語の教科書を進めるだけではなく、先生のドイツ生活についてお話を聞かせてくださったりビデオを見せてくださることによって、ドイツという国に親近感を感じられるようになった。【理・男】
- ◎ちょっとレベルが高すぎる気もしたが、学生一人一人が本当に理解しているかを常に確認し、厳しく指導して下さったことはとてもためになった。怒号のような宿題も、今から思えばドイツ語学習に大きく寄与したと思う。システムチックに教えて下さるので、理系にはなじみやすい。【理・男】
- ◎先生が面白かった。【医・女】
- 僕自身が最も真剣に取り組めた。毎回の予習は余裕綽々というわけにはいかないが、それが血となり肉となった気がする。また、文学部の自分としては、文学部的なメニューで、個人的に都合が良かった。教員の先生も学生の様子を見つつ、臨機応変に、授業をすすめてくださった。【文・男】
- 全てがパーフェクト。やる気がないと揶揄される教員は一度見学すべし。【経済・男】
- 宿題の量も適切だった。【医・女】

■ D群科目

- ◎他の学生と一緒に楽しめた。【文・女】
- ◎片道2時間かけて通学しており時間に余裕がない私にとって、貴重な運動時間だった。【法・男】
- ◎教授が個性的で面白かった【法・男】
- ◎体を動かさせた。【理・男】
- ◎他学部の学生と仲良くなれる。【理・男】
- ◎面白かった。【理・男】
- ◎京都の地名や観光地を早い段階でいろいろ知ることができた。【理・男】
- ◎メンバーがよかった。【農・男】
- ◎みんなで楽しく体を動かして良かった。【農・女】

◎他学部や上回生と仲良くなれた。【総人（文系）・女】

○学部は回生を超えた友人ができた。【文・女】

○楽しかった。【教育・男】

■ポケット・ゼミ

◎友人ができ楽しかった。【文・女】

◎他学部の学生と京大生らしい知的な会話をする機会をもてた。【文・女】

◎考える時間が多かった。【法・男】

◎実際にフィールドで作業したことが楽しかった。【法・男】

◎授業の雰囲気がとてもよかった。【法・女】

◎少人数だった。プレゼンの練習ができた。【理・女】

◎非常にためになった。【工・男】

◎普段入ることのできない研究の場で話を聴くという貴重な機会を得られた。【工・男】

◎ゼミ形式で、授業内容以外にも発表の仕方などを学べた。【農・男】

◎友達ができ、実験ができた。【農・女】

○友達が出来た。【法・男】

○実習もとても楽しく、楽しみながら色々学ぶことができました。ありがとうございました。【法・男】

○いろいろな話を聞けたし、人脈に幅ができた。【工・男】

○教員との距離が近くて、とても楽しかった。【医・男】

○舞鶴での実習はとても楽しく、多くのことを学んだ。【医・女】

3. 2 「不満だった科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

B (不満だった科目)

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：(自由記述)

登録群：(A・B・C・Dから選択)

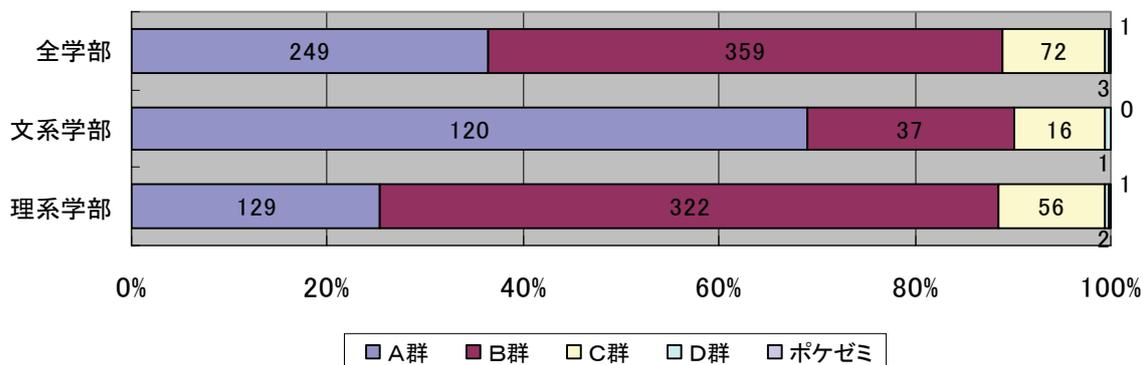
あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
- 6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
- 7 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～7から選択）

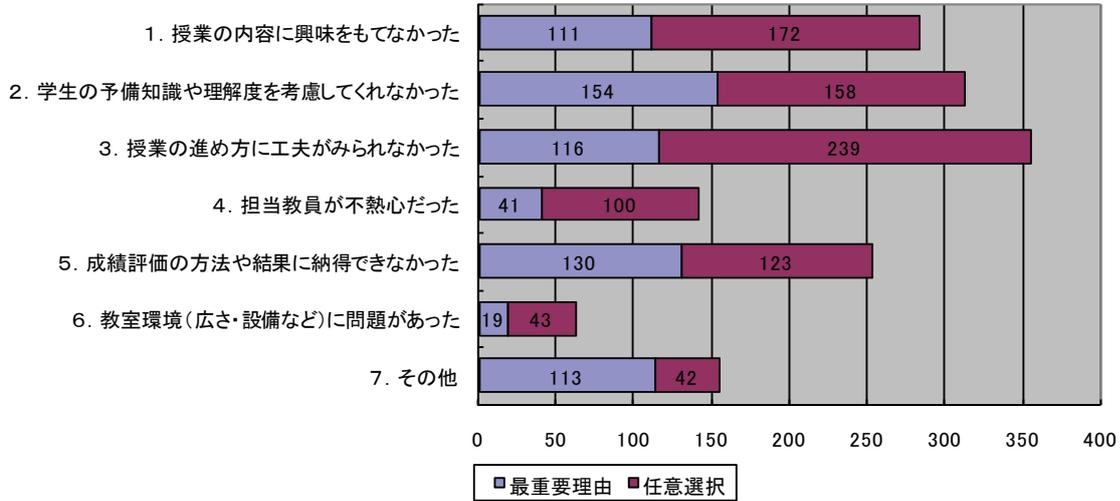
(以下、科目2、3も同様)

3. 2. 1 科目群別の集計

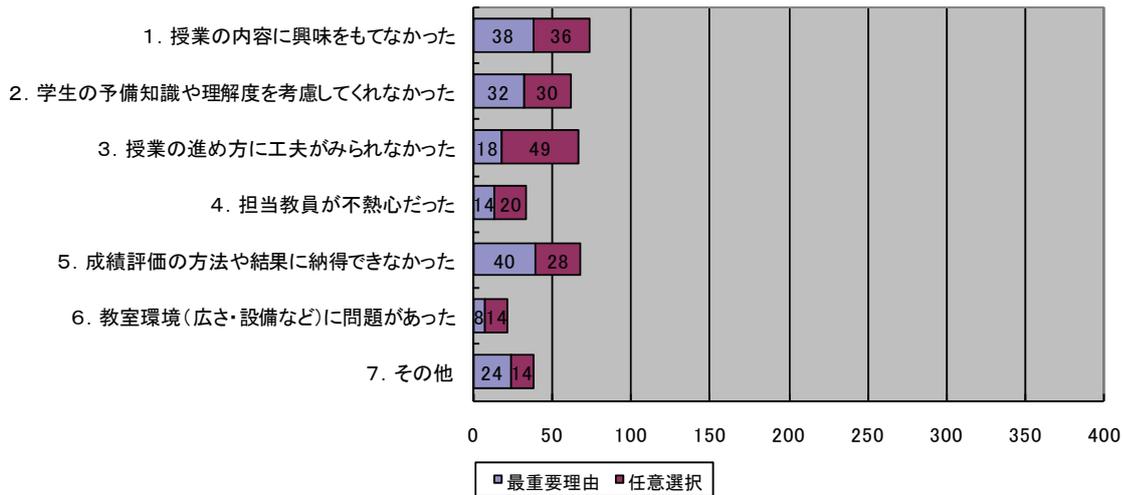


3. 2. 2 「不満だった理由」の分析

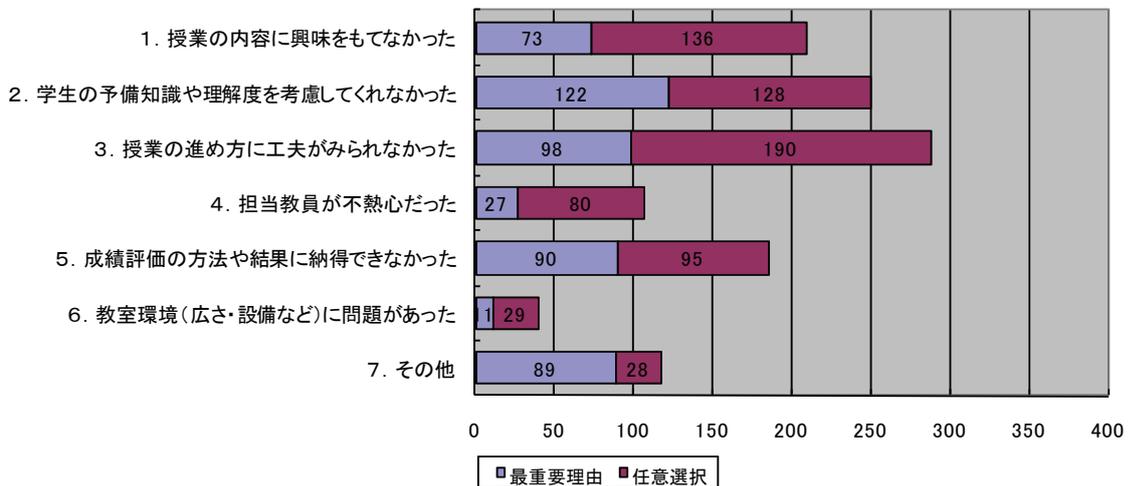
【全体】



【文系】



【理系】



3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容

「不満だった理由」の「7 その他」についても、その内容を自由記述方式で尋ねている。以下、A群、B群、C群およびポケット・ゼミの別に、全記述内容を掲載する（D群科目については記述がなかった）。

なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

■ A群科目

- ◎教科書が多すぎる。銭ゲバ。【総人（文系）・男】
- ◎教員の態度が横柄過ぎた。【文・男】
- ◎字が細くて見にくい。声が小さい。【文・男】
- ◎授業中、学生の話し声がやまなかった。【文・男】
- ◎政治史の内容がほとんど無かった。【文・男】
- ◎前期の同じ授業と比べて専門的でなく、面白味に欠けた。【文・男】
- ◎授業内容が終始、教員の研究自慢であった。【文・女】
- ◎一つのトピックに当てられている時間が少なかった。【教育・男】
- ◎教官同士のなれ合いは他所でやってください。【教育・男】
- ◎テストが授業のレベルからは考えられない難しさだった。【法・男】
- ◎教員の声が小さい、字が小さい、レジュメを人数分用意していない。【法・女】
- ◎教員の話し方が一定で話の内容が理解しにくい。【経済・男】
- ◎授業内で自身の倫理観を真であるかのように言ってしまうのが不愉快。【経済・男】
- ◎開始時刻と終了時刻が守られていなかった。【理・男】
- ◎教科書を書いた人の頭が悪く全くまとまってなかった。【理・男】
- ◎授業の展開に脈絡がなく、何も教わった気がしなかった。【理・男】
- ◎内容が子供だまして、習得感が無かった。【理・男】
- ◎落ちたから。【理・男】
- ◎落とされたから。【理・男】
- ◎専門・語学と重なり、授業に出ても疲労が蓄積して寝てしまった。【医・男】
- ◎出席点なし、テスト時の教科書・ノートの持込可、判定は合・不合のみ→積極性や興味関心は邪道な授業。【医・男】
- ◎前期の人間健康科学概論とほとんどかぶる内容だった。必修でなければとらなかった。【医・男】
- ◎宗教学基礎論入門なのになぜかほとんどキリスト教の説明で終わった。【医・女】
- ◎講義担当者のエゴ。【薬・女】
- ◎履修制限の抽選結果が出るのが遅すぎる。【薬・女】
- ◎言ってることが意味不明だった。【工・男】
- ◎パワーポイントを進めるのが早くて板書がついていけなかった。【工・女】
- ◎教授の仲のいい友達の話ばかりされても興味ない。【工・男】

- ◎生徒が不熱心であった(ほとんどが寝ている)。【工・男】
- ◎教員が著書の販促ばかりしていて見苦しかった、愚かだった。【工・男】
- ◎僅差で不可だったから。【工・男】
- ◎適当に解答した友人が優なのに、まじめに解答した自分が不可だったから。【工・男】
- ◎教員の感性を押し付けられた。【工・男】
- ◎自論ばかり述べるので一般論がわからなくなった。【農・男】
- ◎マイクを使ってしゃべってほしい。【農・女】
- ◎リレー講義で授業の進み方がよくわからなかった。【農・女】
- ◎人が多すぎる。【農・女】
- 休講が多すぎる。【文・男】
- 教材が高かった。【文・男】
- 講義の進度が遅く、得られた内容が少なかった。【文・女】
- 心理学を扱う授業なのに人間味が感じられなかった。冷たい感じがした。【教育・男】
- 僕には先生の意図がつかめなかった。【教育・男】
- 声が小さい。【法・男】
- 担当教員の英語がききとりにくかった。【法・女】
- 授業にすべて出席してテストも準備をしてきちんと受けたのに 50 点で落とされた。異議申し立てをしても理解してもらえなかった。まわりもよくわからない基準で評価されていて、50 点で落とされるケースが多かった。本当に不公平だと思った。【経済・女】
- 事前告知なく授業回数が増えた。【医・女】
- 開講の時限が不便。【工・男】
- 課題が重たすぎる。【工・女】
- 突然の休講がたびたびあった。【農・女】
- シラバスの内容から期待していた内容と実際が異なっていた。【総人(文系)・女】

■ B 群科目

- ◎字が読みにくかった。【総人(文系)・女】
- ◎板書が読めず、説明も聞き取れなかった。【文・男】
- ◎私語・中途入退室が多くてイライラしてしまった。空気も悪かった。【文・女】
- ◎専門的過ぎて一般教養科目としては不適切に思われた。【文・女】
- ◎特定の生徒と教授の質疑応答のような授業でつまらなかった。【文・女】
- ◎文学部優先で、非常に大事な内容なのに受けられなかった。【経済・男】
- ◎板書中心の授業にも関わらず、字の大きさや丁寧さへの配慮が足りない・声が聞こえない。【総人(理系)・男】
- ◎NHKで大昔に放送されたビデオを講義中に流しているだけでたいした解説もなくこれが大学でなされる講義と認めてもよいのかと疑問に思ったから。【理・男】
- ◎クラス指定科目で重要なのかぶっていた。【理・男】
- ◎課題(レポート)の量が多すぎる。【理・男】
- ◎教科書の説明がおおざっぱすぎる。【理・男】

- ◎講義に計算間違いや、板書の内容に間違いが多く、質問に対して的確な回答がなされていないことがあったから。【理・男】
- ◎講義を行った教官と期末試験の採点を行った教官が異なり、講義で教えられた通りの解答を書いたのにも関わらず、不正解とされたから。【理・男】
- ◎大変だった。【理・男】
- ◎担当教員の話し方にもんだいがあった。【理・男】
- ◎(5に補足)期日を守ったレポート提出を確認してもらえなかった。【理・女】
- ◎内容が難し過ぎ。【医・男】
- ◎進むのが早すぎる。【医・女】
- ◎先生の説明が分かりづらすぎた。【医・女】
- ◎担当講師がマイクを使わない、板書が汚すぎる、高校で物理を履修してない人間に一切考慮のない授業で最悪だった。【薬・男】
- ◎教授の計算ミスが多い。【工・男】
- ◎指定の教科書に載っていない内容を扱ったときのフォローが無かった。教授のしゃべり口がいくらなんでも淡々としすぎており、どこが要点なのか、何を目標として学習すべきなのかがわからなかった。【工・男】
- ◎授業の説明がわかりにくかった。【工・男】
- ◎数学は聞いているだけで理解することは(僕にとっては)到底不可能だった。話す内容はもっと要点、核心にしぼって細部は自学に任せてもよかったように思う。また、数学の基礎理論は先々でのその必要性が一番感じ取れなかったのでいくつかの学習目標(例えば、Taylor 展開がすばやくできるようになる)を学生に提示するくらいは必要ではないかと思った。【工・男】
- ◎担当教員が好きになれなかった。【工・男】
- ◎担当教員とのコミュニケーションがいまいち上手いかなかった。【工・男】
- ◎担当教員の字が汚すぎて読めなかった。声も小さいので出席することが苦痛でしかなかった。【工・男】
- ◎レポートの質・量とも要求が高すぎて、他の授業に支障が出た。【工・男】
- ◎授業レベルと進度が厳しすぎた。【工・男】
- ◎書きながら話を進める(もちろん何を書いているかが場所を動くまで見れない)のでただ板書を続けるだけになった。【工・男】
- ◎少しは学生のことを考えてほしい。【工・男】
- ◎進度があまりにも速かった。【工・男】
- ◎突如知らない微分方程式などが出てきて苦労した。【工・男】
- ◎明らかに生徒がついてこれない速さで授業をした。【工・男】
- ◎2コマで2単位(笑)(←無視してください)。【工・男】
- ◎やっていることの意味がわからない。【工・男】
- ◎教諭の言っている意味がわかりにくかった。【工・男】
- ◎単位数。【工・男】
- ◎担当教員が予習不足であった。【工・男】

- ◎レポートがやりづらかった。【工・男】
- ◎教員の字が薄い、声が小さい。【工・男】
- ◎教室が臭い。【工・男】
- ◎試験期間中に提出のレポートがあった。【工・男】
- ◎説明がわかりにくすぎた。黒板の字が読めなかった。【工・男】
- ◎テストが難しすぎた。【工・男】
- ◎黒板の消し方がむちゃくちゃ。【工・男】
- ◎生物で受験してきた人にとって、授業内容が物足りなかった。【農・男】
- ◎説明が分かりにくかった。【農・女】
- ◎物理学の知識が曖昧。【農・男】
- ◎英語でやっていると言うだけで、講義の中身は薄いと思った。【農・女】
- ◎説明が分かりにくかった。【農・女】
- ◎担当教員の説明が非常にわかりにくかった。【農・女】
- 突然の休講が多かった。【文・女】
- シラバスに書いてある内容と違った。【教育・女】
- 経済学部推奨にも関わらず授業内容がお粗末すぎる（高度すぎるし丁寧でない）。【経済・女】
- 文系の人間への配慮が足りない。【経済・女】
- 学生の勉強時間（他科目との配分）を考慮してくれなかった。【理・男】
- 教科書の内容が不十分だった。【理・男】
- 高校からとの違いに関する説明がない。【理・男】
- 進度が遅い。【理・男】
- 先生の説明が分かりづらすぎた。【医・女】
- 自論を述べているにすぎない印象をうけた。【薬・女】
- しゃべる教科書みたいだった。【工・女】
- 教員は熱心だった。が、成績があんなに悪いのは少し納得いかない。【工・男】
- 担当教員が学生にとって無益と思えるノート提出を要求した。【工・男】
- **教員の授業がとてもおもしろくなかった。【工・男】
- あのしんどさで2単位は納得できない。【工・男】
- 授業が整っていない。【工・男】
- まさに内容がないよう。【農・男】
- 担当教員がいきなり代わった。【農・女】
- リレー講義だったが、内容に重複が多く見られた。【農・男】
- 講義の内容に重複があった。【農・男】

■ C群科目

- ◎難しい。予習に莫大な時間がかかる。【総人（文系）・男】
- ◎クラス指定科目にも関わらず、必要な内容を教えている気がしない。【法・男】
- ◎テストが英語力を問うものでなかった。【法・男】
- ◎**先生の英語が下手くそすぎて聞くことが苦しかった。TAも下手すぎて呆れた。単に発音が変

なだけではなく、英語を全く分らずに教えていることがバレバレ。【理・男】

◎教員が日本語をしゃべれずに、授業がすべて英語とフランス語のみで行われたために、理解が不足する部分が多かった。【工・男】

◎するべき予習範囲が広すぎた。【工・男】

◎授業の工夫に問題があった。【工・女】

◎講師が悪いというよりは配置のミスだと思います。理系専攻の学生にイギリス英語や小説読ませて何を得させたいのでしょうか？大学側の怠慢ではないのでしょうか？【工・男】

◎いいかげん。授業進度の遅れによる抜き打ちテストなどの実施。【農・男】

◎教員が何を言いたいのか分からない。【農・女】

○授業のレベルが低すぎた。【経済・女】

○成績評価の方法を、問うても全く答えてくれなかった。【工・男】

■ポケット・ゼミ

○あまりゼミらしくなかった【経済・男】

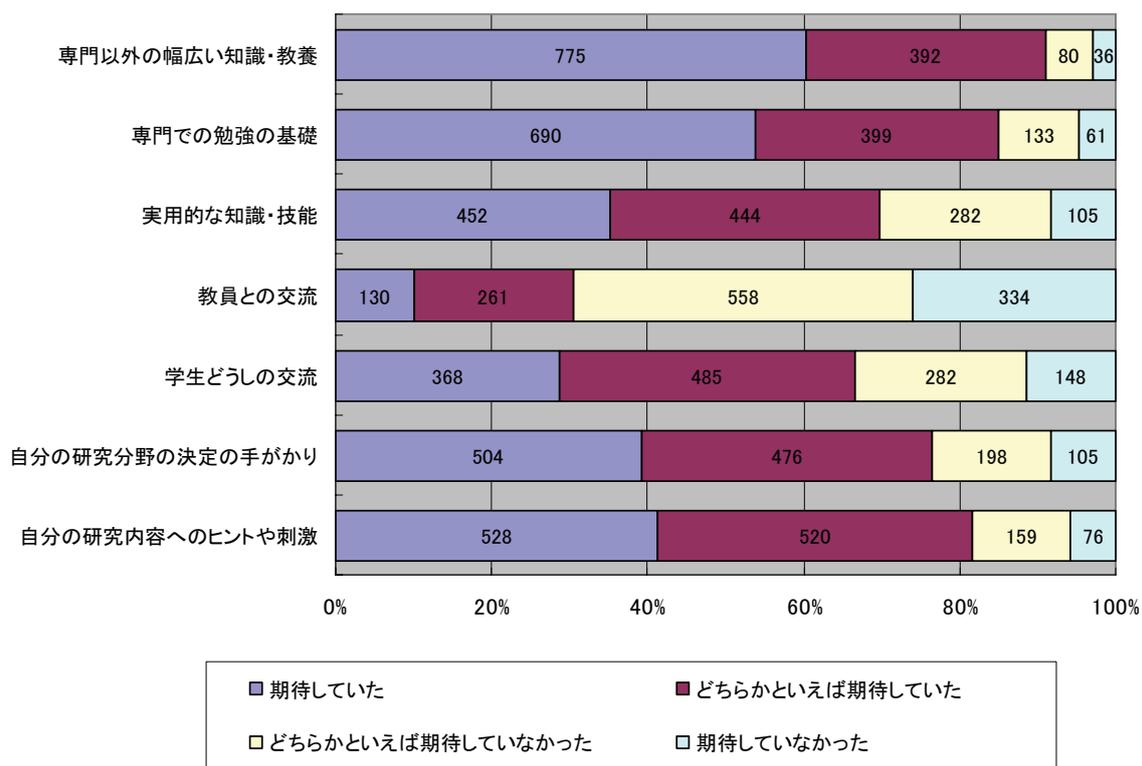
4 全学共通科目への期待

問4 あなたは入学当初、京都大学の全学共通教育に対して、次の各項目をそれぞれどの程度期待していましたか。

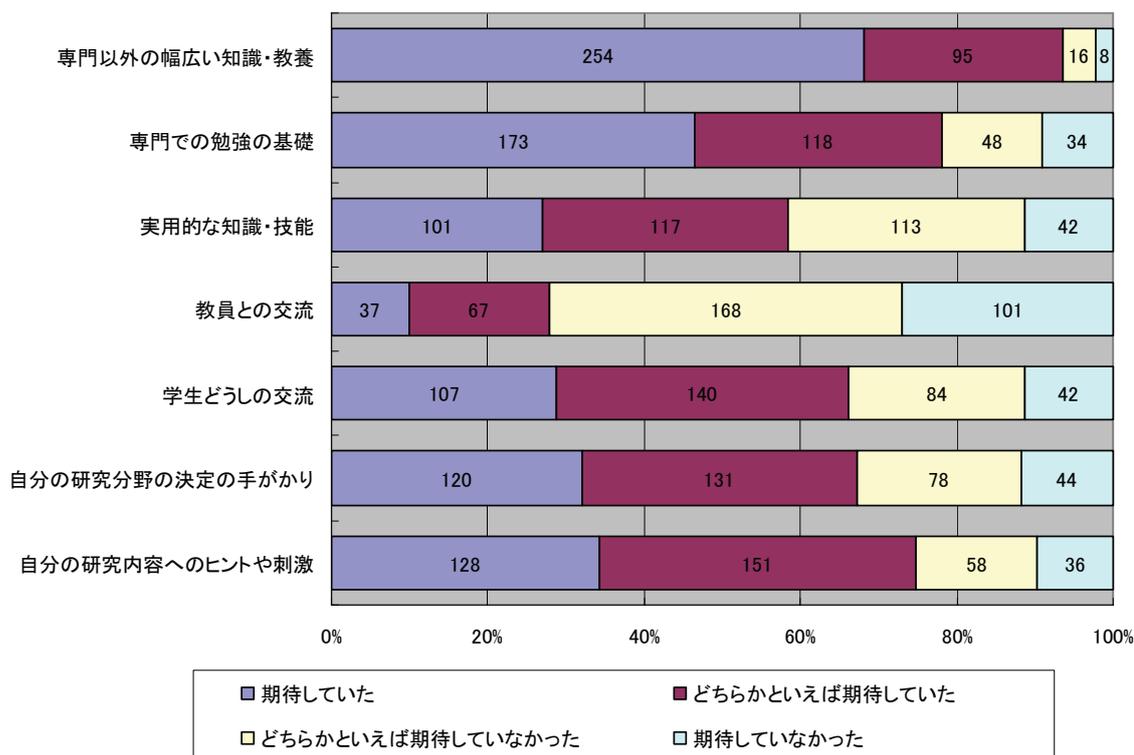
	どちらかといえば		どちらかといえば	
	期待していた	期待していた	期待していなかった	期待していなかった
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生どうしの交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手がかり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

4. 1 全学共通科目に期待する内容

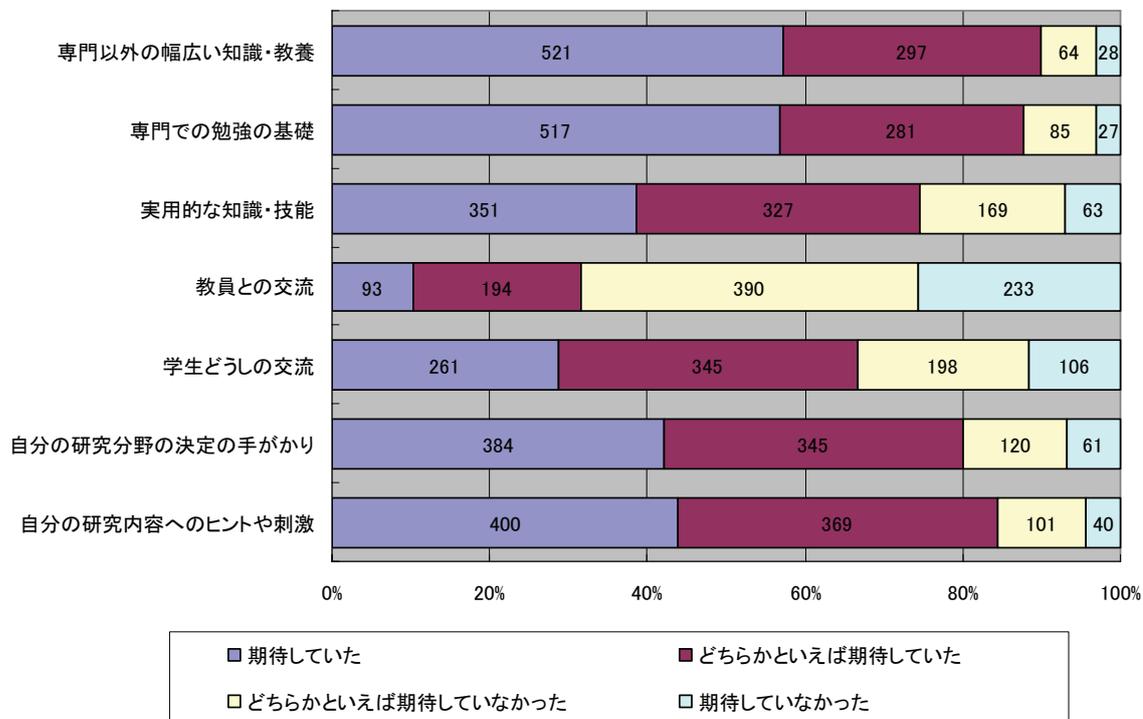
【全体】



【文系】



【理系】



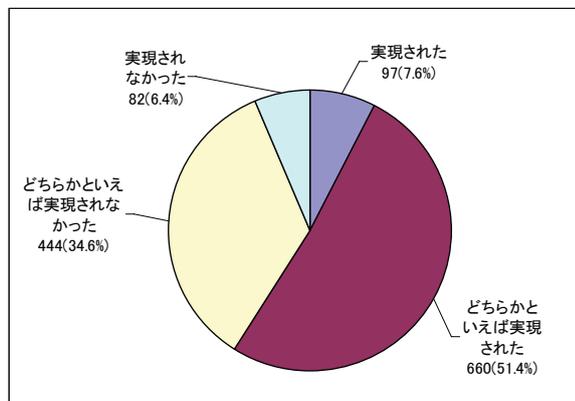
5 期待は実現されたか

問5 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。

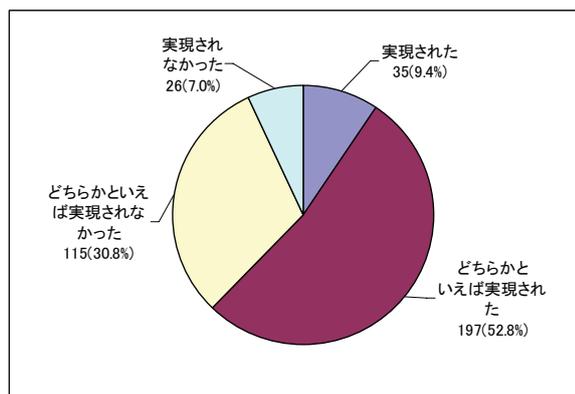
- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった |

5. 1 期待は実現されたか

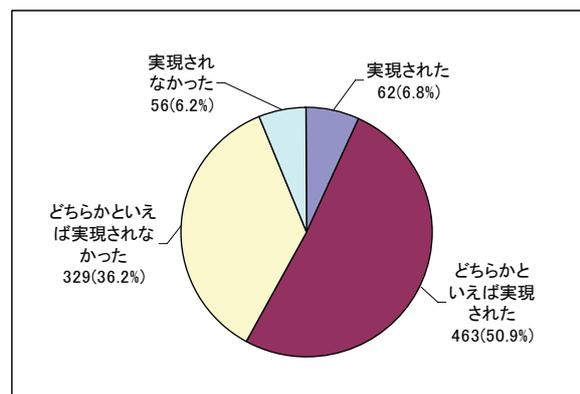
【全体】



【文系】



【理系】



6 今後の全学共通教育への要望

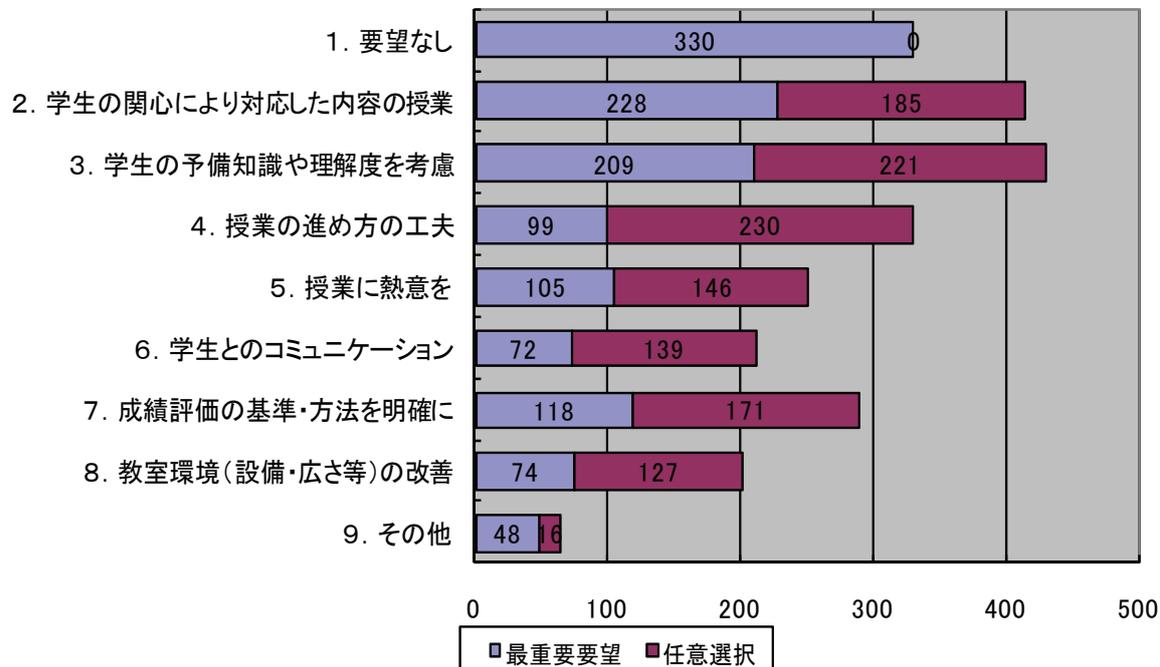
問6 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるすべてのものすべてに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 特に要望はない
- 2 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 3 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 4 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 5 授業にもっと熱意をもってほしい
- 6 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 7 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- 8 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 9 その他（自由記述）

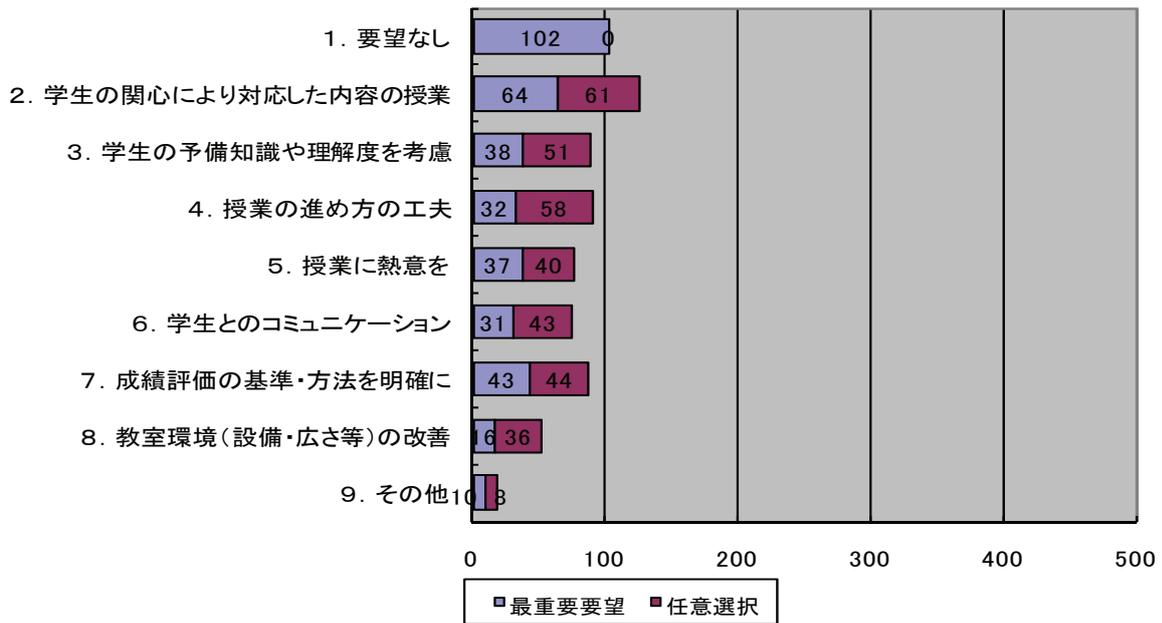
上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～9から選択）

6. 1 項目別集計

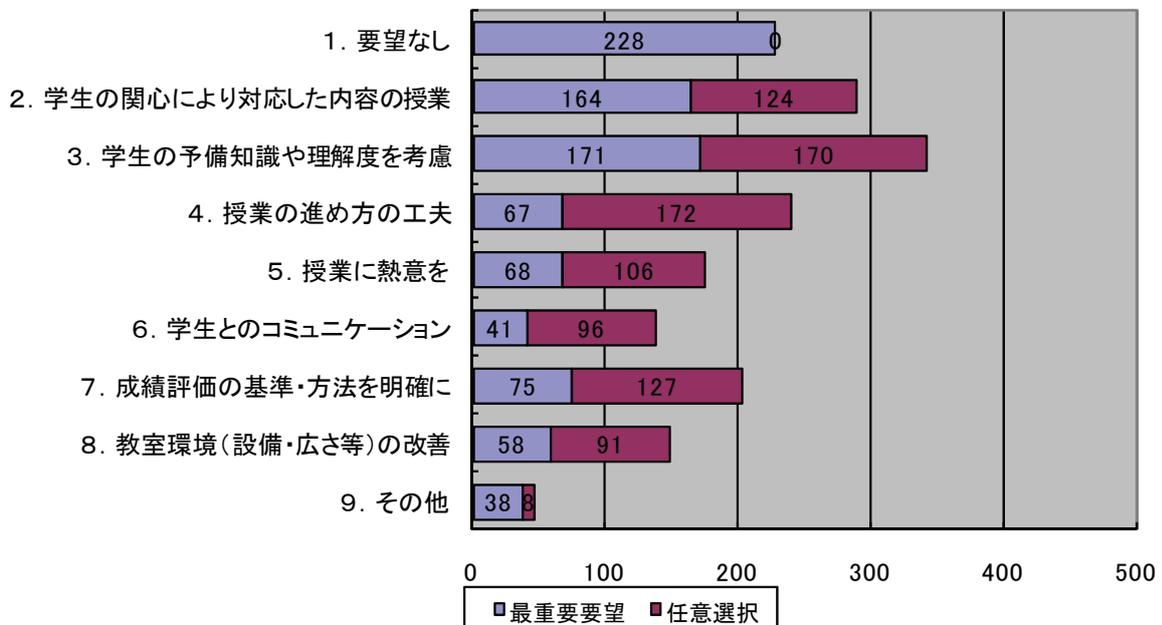
【全体】



【 文 系 】



【 理 系 】



6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容

◎は最重要項目 [1 つだけ選択] を、○は任意選択項目 [複数選択] を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- ◎第二外国語を必修じゃなくして欲しい。【総人（文系）・男】
- ◎1 回生はレポートを書くのが初めての人がほとんどで、レポートがどのようなものかも分からないので、レポートの書き方の見本となるようなものが入手しやすい環境を作っていただけると、有難いです。【文・女】
- ◎2 回生以上もポケゼミがとれたら良いなと思いました。【文・女】
- ◎その分野の面白さ、不思議さが伝わるような講義をして欲しい。【教育・男】
- ◎担当の先生方の中には、もっとやる気を出してほしい、と思わせる方もいた。【教育・男】
- ◎90 分は長すぎる。【法・男】
- ◎語学と専門がかぶらないような時間割を組んで欲しい。【法・男】
- ◎担当教員の研究領域のつまみ出しではなく、基本から計画だった講義をして欲しい。【法・男】
- ◎教員の声の小ささや字の小ささを何とかして欲しい。【法・女】
- ◎高校や社会により効果的な情報発信をしていただきたい。【経済・男】
- ◎どんな科目でも単位をくれるようにしてください。【理・男】
- ◎もっと解説の詳しい教科書を使って欲しい。【理・男】
- ◎学生に対する要求をもっと高くして欲しい。【理・男】
- ◎学生の自学自習を重んじて、そのきっかけがうまれるような授業をして欲しい。【理・男】
- ◎教員を選択できない科目(指定や必修など)を極力減らして欲しい。【理・男】
- ◎時間割をもっと考えて欲しい。【理・男】
- ◎専門基礎の特に数学系の授業をもっとわかりやすくして欲しい。【理・男】
- ◎特になし。【理・男】
- ◎教務の人の親切さ。【医・女】
- ◎履修の制限人数を可能であれば増やして欲しい。【工・男】
- ◎A、B 群共に大変満足できるものでした。ただ、わざわざ語学までクラス配当科目にしているのであれば、各学生の興味に沿った講義を展開していただきたいです。【工・男】
- ◎テスト答案の返却。復習できないとは、クソゲーとしか言いようがない。【工・男】
- ◎とりあえず、全共科目に関してはもっと単位認定をゆるくしても良いと思う。専門科目で留年ならまだしも、第二外国語で留年とか絶対にオカシイと思うので。【工・男】
- ◎もっとわかりやすく説明して欲しい。【工・男】
- ◎もっと自由に授業を選択したいです。【工・男】
- ◎学部学科によっては受けるべき B 群科目が最初から指定されているところ。【工・男】
- ◎教育に熱心でない一部の教員を解雇して欲しい。【工・男】
- ◎教員ごとの単位認定基準をそろえて欲しい。【工・男】
- ◎工学部でも B 群が自由にとれるようにして欲しい。【工・男】
- ◎取れる単位数に制限を設けるべきだ。24 コマもとっても予復習はできない。【工・男】
- ◎数学質問コーナーをもっと使いやすい形に！【工・男】

- ◎単位くれ。【工・男】
- ◎単位所得が容易である。【工・男】
- ◎内容は偏ってもいいからものすごくマニアックな講座もいくつか欲しい。【工・男】
- ◎微積などは予備校の講師を呼んで欲しい。【工・男】
- ◎必要単位数を減らして欲しい。【工・男】
- ◎表面をなぞるだけみたいな授業はやめて欲しい。【工・男】
- ◎僕のがんばりを認めて欲しい。【工・男】
- ◎要望を記述しても改善されることはなさそうなので控えておきます。【工・男】
- ◎理系の人間の卒業認定科目として認められているB群科目の制限をなくして欲しい。【工・男】
- ◎アンケートはPCでなく紙でやってください。【農・男】
- ◎クラス指定の科目は外部から受けづらい。【農・男】
- ◎クラス指定をなくすこと。制限が邪魔でしょうがない。学問の自由の侵害だ。【農・男】
- ◎要望があれば自分から先生に伝えるし、こちらがきちんと話をして通じない先生はそれまでなので、特に改善点を挙げる必要もないかと思います。大学は自助努力の世界でしょう。【農・男】
- ◎シラバスをもっとわかりやすく作ってほしい（分野別に分けるなど）。【農・女】
- ◎スキル取得に役立つ授業をして欲しい。【農・女】
- ◎スライドが早すぎる、印刷物の字が小さすぎて読めない、ことが多かった。【農・女】
- ◎教授自身の研究内容について教えてくれたり、研究室を見学させて欲しい。【農・女】
- 授業の曜日時限が被らないようにして欲しい。【総人（文系）・女】
- もっと少人数のものを増やす。【総人（文系）・女】
- うるさい学生を教室外に追い出して欲しい。【総人（文系）・女】
- 概念論や学者の説を教えるだけでない倫理学の授業があったら嬉しい。【法・女】
- 基礎クラスを作って欲しい。【経済・男】
- 少人数制授業をふやして欲しい。【経済・男】
- 外部からより多くの講師を招いた授業を開講して欲しい。【経済・男】
- 授業をただパワーポイントを見せるだけのやっつけ仕事にしないで欲しい。もっと工夫（プリント配布など）が欲しい。【経済・女】
- 自分の専門分野の面白さをもっと伝えようとする意欲をもって授業していただきたい。自己満では困る。【総人（理系）・男】
- プロジェクターを使う教室では、スクリーンのすぐ前の電気だけを消せるようにして欲しい。
【理・男】
- 理学部でB群をもっと認めて欲しい。【理・男】
- 必要単位数を減らして評価を厳しくすべき。【医・男】
- 前情報を幅広く一回生に知らせて欲しい。【医・男】
- 講義ごとに先輩方のレビューとかをまとめていただけるとありがたいです。【工・男】
- テストのある科目でもレポート課題を出してほしい（大きな配点はいらない、5パーセントでも構わない）。【工・男】
- パワーポイントを使うと授業のペースが速くてノートを取る時間がない。【工・男】
- 実用的な外国語の授業。【農・男】

7 自由記述

問7 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

●は男子学生、○は女子学生の回答である。

7. 1 総合人間学部

【文系】

- 提示されている教科書を読めば理解できるような内容はあまり授業で扱う必要性がないと感じた。そうした内容を説明する授業よりは、たとえそれが多分に偏向的な見方のものであっても、オリジナルな授業のほうがよっぽど興味深いと思う。結局、そのうち本当に熱中できそうな学問を見つけることができるだろうという確信が得られなかったのが不安。
- 言いたい事は色々あるが、学問的な意味で楽しかった。
- 幅広く知識を吸収できるのですごくいいと思います。総人なので2回生でもパンキョーにはお世話になると思います。よろしくお願いします。
- 興味のない授業も履修すればよかったかもしれないと少し思う。
- いろいろなことが自由に学べるのが嬉しいです。
- どんな授業であっても、教員が楽しそうに講義しているところにも興味をそそられて授業に集中できた。逆にあまり熱意の感じられない教員の講義はいくら興味のあるテーマであっても集中して取り組むことができなかつた。1回目の授業に出席することの大切さを実感した。
- 全体的には満足している。ただ、履修登録前の授業1回目がガイダンスで終わるものもあればしっかり授業するものもあって、その差に戸惑った。個人的には履修登録前なのだから、全体の概略程度で終わらせてもらい、試験にはあまり関わらないようなものにして欲しい。
- まず単位を取り過ぎた。興味のある授業の割に許容される単位数が少なく、大量の増加単位が出てしまった。私の専門にする予定の分野に近い授業でも自由単位に回されてしまう授業が多く、もうすこし其処を考慮していただけたら有難かったと思う。授業自体は興味深く聞けるものが多く非常に面白かった。まだまだ全共には受けたい授業も多いが、専門が入ってきてしまって受けにくくなってしまふのが残念だ。
- 京大には頭が良い人がたくさんいる。たとえば、微分積分の授業。同じ授業をきいていて僕が1わかったら10わかる人がいる。賢いひとが勉強してくれれば僕は何もしなくてもいいんじゃないか？って悩んでいます。でも、良い教授と出会えたり、興味のそそられる分野はみえてきた。
- 特になし
- 授業の面白さは内容より教員によって決まるということ。
- 4 共教室の机といすの距離が近すぎる。
- 1年たってようやく全学共通科目のシステムがわかってきた。
- あまりにも適当過ぎて、これでは生徒のモチベーションを維持できないとおもう。自由とかいって、十分なフォローもせず、学生の自己責任にするのは教育機関としては、不満。
- 出席を取る授業が少なく、興味がない授業はテストを受けず、興味がある授業はまじめに受ける

ことができ、自由に勉強できたのが良かった。

- 面白そうな授業がたくさんあって、総人の自由単位枠がもっとあればと思いました。
- 授業の内容が教授の専門分野に則したものが多かったのが自分の興味と一致すれば面白いが、一致しなければあまり意欲が湧かなかった。そういう意味では概論の授業は分野を網羅したもので、内容は浅いが意欲が続いた。
- 最高。
- 僕は総人であり専門科目等の制約を受けずに授業を選びました。興味を持てた科目は熱心に取り組んで結果として単位が付いてきた、興味がわからない科目はすっぱり中断しました。よくも悪くも、あまり単位のことを考えていない1年だったと思います。
- シラバスから十分に授業内容を想像できない。
- 楽をしようと思えばいくらかでも楽をすることは出来るが、それでは大学生活4年間が終わった時に一抹の虚無感を覚えるに違いないと思った。2回生からは、学業を本分とする、学生らしい学生になろうと思う！厳しいと言われる理転を絶対実現させてやる！！
- 興味のある科目ばかりを好きなように取りましたが、色々な先生方の考え方や研究内容を知ることができ、自分の進路を考える良いきっかけとなりました。私は総合人間学部には属しているということもあり、これから専攻を決めていくにあたってとても幅広い選択肢が与えられています。まだまだ広い世界を「知る」段階であり、「しぼる」ところまでいけていないので多少不安はありますが、2回生の1年間にはできる限り自分のこれからの方向性を定めていきたいと思っています。
- プレゼンテーションの苦手な先生がおられるので、そういった先生は、少人数制の授業をもつなど、いろいろ対策すべきだと思います。そうじゃないともったいないと思います。私は、先生方と意見を言い合うのが楽しいと感じるので、できるだけ質問を学生に投げかけたりする授業をしてほしいなと思います。また、学生の意見に対して、自らの知識で反論してしまう先生もおられますが、そうすると学生のやる気を逆にそいでしまうと思います。学生の意見も尊重し、でも違うところはきちんと指摘するようなコミュニケーションをとっていきべきだと考えています。
- 幅広い話が聞けるので楽しかったです。楽勝科目と言われるものはあまり楽しくありませんでした。
- 教員によって熱心さや授業の分かりやすさは異なっていましたが、専門とはちがって浅く広く知識の幅を広げられるような内容の授業が多く、面白かったです。仕方のないことかもしれませんが、要領のいい子が授業には出ずにノートを借りて自分よりいい成績をとっているのは、やはりやるせない気がしました。
- 提出したレポートに対するフィードバックをいただけたら、自分のレポートをよりよいものへとしていけるとと思います。

【理系】

- 自分にとって意味あるものなのかとても悩んだ。ただ単位がほしいがために大学に来たわけではなかったぶん授業の内容にがっかりした。
- 大学の数学や化学がわかったとき、高校までに増して知的好奇心が満たされたような気がする。文系科目も、いろいろと受けてみると、なるほどなあとわかる話もあるし、さっぱりわからんような話もあって戸惑った。どの話にも共通しているのは、話の始まる部分（基礎）は、具体的（みんなが少しは知ってる例を示すなど）でわかりやすい説明を聞かないと、わからない。その出始めの部分の説明が上手い先生ほど、後の話も理解できて、全体の話もわかりやすい感じを受ける。先生にとっては当たり前でも、学生にとってはなじみのない（が大事？な）話の説明を簡略化されると困る。A群もB群もそう。多くの学生がわからないところをわからない先生が困る。

逆に、学生がわからない、つまずきそうなところをわかってくれている先生が、本当に「教える」という面で、先生たるにふさわしい先生だと、色々な先生を見てきて感じた……。後継者が育たないことにはその学問には限界があるんじゃないの？って、多くの学生が困らされている先生に言いたいかな。いい先生も結構はいるんだけど。

- とにかく、いろいろな分野の授業が受けられるのが、この大学の良い所だと思う。「内容が浅い」と文句を言う人もいるが、僕は逆に、広く雑学が増やせて有意義だったと思う。
- 授業を選ぶ際にシラバス等から想像した内容と最終的に食い違うということがあります。その点はまだもう少しシラバスをわかりやすくしてほしいです。
- 抽選のある授業で、当選したのに不真面目な学生がいたので、ほんとに興味があつて落選した人が可哀そうだった。
- 自分に教養がないこと。全学共通科目だけではその学問の本当の所までは見えないため、自分から積極的に学ぶ姿勢を取らないとその面白さを実感することはできないこと。
- 授業に関しては想像以上に熱意をもった先生が多かった。ただ研究に関しては、たとえ京大の教授といっても、本当にのめり込んでいる感じのする方は半数ほどに感じた（内容の良し悪しは今の僕には、わかりませんが）。
- あまり興味が持てなかった。
- もっとお固いイメージがあつたけど実際はかなり意味わかんなくてちゃらけた授業もあつて楽しかった。
- さまざまな人が受けに来る全学共通科目なので、生徒のレベル、理解度に合わせた講義というのはなかなか難しいのかもしれない。しかし本当に自分が好きで取り組んでいる研究分野ならたとえ基礎的な内容でももっと面白さがわかるように教えられているのではないかと思った。それが出来ている人とそうでない人の差が激しかったように感じる。自分の専攻予定分野以外の講義の基礎科目も沢山受講したが、非常に面白かった授業も多かったのでその点は満足している。
- 大教室の授業では特に、学生がうるさく、授業を受けにくいと感じることがありました。また、ポケゼミは他学部の学生とも仲良くなることのできたので、とても良いシステムだと感じました。
- これからの進路を決定するにはまだ未確認要素が多く、もう少し絞った内容で全学共通科目をとればよかったかもしれないです。ただ、1年時にとった科目は大体全部面白かったと思います。総人は単位の指定がないので気ままにとれるので楽しいと感じる科目を単位のためじゃなくとれて授業を面白く受けられました。
- 楽しかったです。
- いろんな学問分野があることがわかり、自分の興味が広がった。興味が広がった分、自分の専攻する分野をどうしようかという悩みが増えた。

7. 2 文学部

- EX 群で選べる互換授業が少なすぎる。(社会科学系の授業が受けられなかった。) 4月からは一般枠から聴講生として受講することにした。EX 群の意味があまりないように思われるので、是非とも改善していただきたい。
- 非常に興味深い授業も多々あつたが、中には不熱心な教授などもいて、授業を受ける側としては不愉快なこともあつた。

- 大学での学問の在り方や方法を考えるきっかけになり、また、高校では味わえなかった「知る」という楽しさや好奇心を感じることができました。
- 京大大好き。
- まず、全学共通科目に対する教員の先生皆様方および、関係各位の皆様の多大な努力が学生である僕にも多いに伝わって参りました。ほんとうにありがとうございます。そして今後ともよろしくお願ひいたします。全学共通科目に対する僕の全体的な感想を述べます。語学をはじめ、社会科学、自然科学、または学際的なもの……。僕はまだまだ未熟とはいえ、現在では本学入学以前とは全く比べ物にならないほど見識が広まったと我ながら思います。個人的な話で申し訳ないのですが、フランス語とイタリア語を同時に履修しようとしてしまい、毎回の予習が大変だったり、試験の日がかぶって慌てたりと、「てんやわんや」なこともありました。自分の選択であるにもかかわらず友人に愚痴をこぼしたりと大いに迷惑をかけてまいりました。しかし、休暇中にイタリアを旅行して、今ではいろいろな語学の必要性や楽しさを確信しただけでなく、文化、芸術、自然科学、人々の苦しみ、幸福に至るまで、様々なことに思いが巡りました。これは本学での学習があったからこそ鋭敏に感じ取り、得られた経験に他なりません。でも、この1年間はそういった見識の深まりに対する喜びを感じると同時に悩みの極みでもありました。本学への入学で一定の社会的評価を受けているはずという自負心からか、傲慢な態度や発言を次々と犯している自分。同時に学問の大海のなかでは極めて卑小な存在でしかない自分。見識の広まりに従い、そういった自分の醜い部分への視力が高まってしまったことは否定できません。つまり、激烈な自己嫌悪との戦いでもあったわけです。これは今でも続いています。そして、そういう経緯を踏まえて今ではこう考えております。自己嫌悪に陥ってよかった。ほんとうによかった、と。ヒト、特に若いヒトは「背伸び」をして生きていることが多い。そんな風に最近思っています。自分も例外ではなく、良く見せたり偉く見せたりということに苦心するのです。反面、ヒトにはそれぞれ必ずといっていいほど決定的な弱点、ウイークポイントが存在します。さらに、「いい」も「わるい」もそう簡単に割り切れない。例えば、「悪い顔立ち」が歓迎されたり、「善行」が疎んじられたりといったこともたくさんあります。なのに「背伸び」をするのです。よくよく考えれば僕も昨年まではただのつまらぬ受験生。今でもほんのお子様にはすぎません。いつまでも見識が狭いま自分の卑小さにも全く気づかぬまま傍若無人な態度を取り続けていればどうなることか……。若いとはいえ、僕の蓄積させてきた恥は少なくないでしょう。しかし、そこから逃げることは許されません。ですから、「まなび」を通して知を深めて日々精進し、心から全ての人々に敬意を払って行動し、最終的に自分をも許すことのできる。。そんな日がきっと来ることを心待ちにしております。以上、大げさきわまりない、かつ、くだらない文章ではあったかと存じますが、恐縮にも一読していただいたのであれば誠にうれしかぎりです。ありがとうございます。
- 担当教員が幾分か、一般教養に対して、甘く見ているというか、若干やる気が感じられない場面がありました。仕方のないことかもしれないし、そうでない人もたくさんいるのですが、出来ればもっと熱意を持って欲しいです。
- 京都大学の学生の一部は自分に関係がないと考える勉強に対して不真面目だと感じました。特に英語の writing の授業で同学部の人々の学問に対する意識を聞いたときに啞然としました。その学生のやる気がないのはないで良いのですが、授業中はずっとしゃべっているのにはうんざりしました。一方、京都大学に来て様々な先生に会い、いろいろな考え方を聞いたことと、個性的な学生に刺激されて今まで自分が関心のなかった分野に興味を持てたことは非常に良かったです。京都大学の学生はやはり賢いと感じました。また、自分の考えていたことが知識をえることで完全に逆転したことは非常に感動しました。
- 入学当初持っていた熱意でたくさんの授業を登録したものの短所の墮落がちな精神が出てしまっ

て、結局とれた単位は人並み以下という結果となり、そのような自分の愚かさを実感して情けなく思う。授業は魅力的なものが多々あったのに少しでも自主性が求められそうであれば出るのさえも億劫になってしまった。それが自分の性格だと理解し、改善しようともしなかったが、これから社会に進出していかなければならないというのにあまりにも現実から目を背けすぎたと反省している。

- 退屈でした。聞いていても理解できなかつたり、教員の熱意が感じられなかつたりしました。
- 語学を中心として、将来役に立つ実践的な知識を身につけたいと思います。
- 幅広く、まんべんなくというよりも、学問の最先端とはどのようなものを肌で感じる事が出来ました。
- 自分で勉強することが大切であると考えた。
- 大学やめたい。
- 全学共通科目の目的、学生に何を求めているのか、それがいまいち良く分からなかった。しかしながら、一方で、それを自分で主体的に考えていくのが大学なのか・・・とも思った。
- 満足のいく結果が得られた。
- ほとんどの授業が入門であるため、浅い分幅広い教養が身につけられたと思う。
- 開講科目の多さに驚いた。知識が身についたとか、深まったとかは自分の不勉強のせいもあってあまり感じなかったけれど、大学での学問に触れる契機になったと思う。
- サボる生徒が多い。単位さえ取ればそれでいいという生徒が多い。知識面で得たものは多いと思うだけに、こういった現状は残念だ。見る見るうちにキャンパス内から生徒が減っていくのが分かる。4月の活気はどこへ行った。自分にもこういう傾向はあると思うが、全体が4月の活気を維持していたならば話は別じゃないかという発想もある。
- 進路選択の決定に役立ちました。
- 様々な学問分野に触れることができたのでよかった。
- 教師によって授業に対する熱意が違い、面白い教科とそうでない教科に大きな開きがあった。また、もう少し専門的なことに踏み込んだ内容があってもよかったと思う。
- 教室で見かける他の受講生たちの存在が大きかった。真摯に勉強に取り組む人たち、そしてまったくやる気のないことがその態度に明らかな人たち。このどちらによっても、大学で学ぶことの意味、教養教育の意味などを考えさせられた。
- 僕は文系なので、B群の科目はとても新鮮で、さらに授業も文系生徒向けに配慮したものも多く、とても勉強になりました。
- 生徒のことを考えて授業をしてほしいと思った。
- 専門の領域への導入的講義と、幅広い教養のための講義がバランスよく受講できたと思う。
- あまり勉強した記憶も何か身が付いた実感もありません。かといって単位認定を厳しくするだけでは効果は無いと思います。共通科目主体で過ごす1年を無駄にしないためにも学生、教員、大学がそれぞれ本気で考えなければならないと思います。
- 正直言って、般教では何も身につけてません。授業は出ていましたがずっと上の空で、でもそれでもある程度単位はとれて・・・京大は生徒を成績で縛って勉強させることをせず、生徒の勉強に対する熱意を期待する、つまり自学自習で自分で勉強しなければ、本当に何も身につかないのだなと思いました。でもそこが京大のよさであって、決して京大が悪いわけではなく、勉強しない自分が悪いと思います。今考えると、勉強しない日々がどういふものかとか自分がこれからのように在りたいのかとかを考えるいい時間だったのではないかと思います。だから京大はいい大学なんじゃないのかなと今は思っています。

- 全学共通科目は、自分の好きな分野の入門編のような授業だったので、授業が終わってからも、関連する本を読んだりして、自分で勉強できてよかったです。
- 大学教員の態度が横柄すぎるように感じた。ブラインドを閉めるだけでも、「さっさと閉めろ」と言われた。(東洋史学と中国歴史風土論の教員)
- B群が面白くなく、まったく興味を持てなかった。
- いろんな授業があつていいと思います。必ずしも教員の熱意があるからといっていい授業になるわけではありません。どちらかというと大学らしいぶつとんだ(?)授業の方が私は好きです。むしろ授業評価がどうかでそういう授業が減ってしまうのは寂しい気がします。教員の個性を尊重してあげて下さい。変な教員を見るのは楽しいです。ただ第二外国語の授業だけはちゃんとしてほしいです。少し意見させていただきますと、第二外国語の授業は教科書中心すぎます。しかもその教科書がペラペラで説明が少なく、わかりにくい上に高いです。なので自分でわかりやすい参考書を買いました。ですが、試験が教科書そのままとかで結局、第二外国語は教科書を丸覚えただけで力は何も身につけませんでした。少なくとも私の受けた授業はそんな感じでした。だから今中級で非常に困っています。
- 幅広い知識を身につけようと思っていたが、やや自分の興味や専門に左右されて、科目に偏りができてしまった。しかし、高校とは違うより専門性のある、または広範囲に及ぶ領域の授業を受けられてよかった。2回生以降も、専門に特化するのではなく、他領域の知識を得るために全学共通科目を受講していきたい。
- 授業はこんなもん。やらないよりはマシだし、自分で勉強する刺激にはなる。
- 大学の一般教養などは特に、自らの興味・関心を満たすために自発的に受けていくものだと思います。なので、教員の側が、あまりにも授業の出席を重視するというのもどうかと思うし、逆に、大学側が(このアンケートにもまま見られたことですが)学生のニーズにまるで企業のように合わせていく必要もないと思います。普段は研究に打ち込んでいらっしゃる教員の方々が、一週間のうち90分だけは吉田キャンパスに出向いて(笑)、自らの研究をある意味自由に紹介する、そういったもので一般教養の授業は十分そのつとめを果たしていると思います。あと、新入生の方には、一般教養の意義をガイダンスでもっとちゃんと説明して、あまり偏った授業選択をするよりは普段関心を持ってこなかったジャンルにもチャレンジするぐらいのほうがいいよ、とお勧めしたほうがいいと思います、私の経験則でしかありませんが(笑)
- 自分の専門以外の知識を身につけることができましたと思います。特にB群は興味のある科目が多かったように思います。
- いろんな分野の科目を自由に受講できて、広く学べたことはよかったと思いました。
- それなりにまじめに授業に出席し1年間を過ごしましたが、振り返ってみると、この1年間で私は何を学んだのだろうと思うことがよくあります。専門の授業ではないから当たり前かもしれないし、私の授業の選び方や参加の仕方に問題があったせいかもしれませんが、全体的に学んだことがぼんやりと霧に包まれていて、結局自分のものにできていない気がします。2回生からは、もっと自分の知識として定着するように学ぼうと思います。
- やはり、聞いてもすぐには理解できないような授業からこそ学びとれることは多い。上記の質問を見ていると何かと「学生にわかりやすくしよう」とする意識が感じられるけれど、無理してそうしなくてもいいのではないか。今ぐらいでいいように思う。あまりに専門的すぎるのも困るかもしれないけれど・・・。
- 一般教養なのだから、教員の専門分野に限らず、より幅広い授業内容にしてほしかった。例えば哲学の授業なら、一人の哲学者に限定するのではなく、複数の哲学者を扱い、それぞれの思想を簡単に紹介するなど、浅く広い授業内容のほうが初学者にとっては敷居が低くて良いと思う。

- 幅広く、専門以外のことを学べて楽しかったです。
- 一流の研究者が講義をしてくださっているのだから内容は素晴らしいものが多いとは思いますが、教員の講義姿勢が淡白だったり、学生の興味関心とうまく結びつかず、その学問分野の面白さがあまり伝わってこない授業がほとんどでした。全体的にみて、自分が非常に興味を持っているか、履修の必要のある科目しか熱心に取り組む気持ちがおきなかったと思います。
- 入学時に考えた通り、自分の専門とは一切関係ない科目を履修したことは世界が広がるきっかけとなってよかったと思う。
- 好きなものを選んで勉強できるのが楽しかったです。同じ科目をとっている友達と勉強会などをして楽しく勉強できたものもありました。言語についての科目もいくつかあり、専門にもつながったと思います。
- 全学共通科目は多くが基礎的・入門的な内容の授業なので、予備知識がなくても比較的理解しやすく、様々な分野の科目に挑戦することができました。時には興味を持たない科目もありましたが、一方で大いに興味を持った科目もあり、自分に向いていないと思われる分野と今後も学びたい分野とを選別する手掛かりになりました。また、自分の研究分野を決定する上でも、受講の経験が大きな手掛かりとなったので、有意義な1年間になったと思います。
- 多すぎて逆に分からなくなりそう。終わってから「こんな授業があったんだ」という発見がある。
- 授業を通して友達ができたし、広い分野から興味のあるものを選ぶことで様々な知識を得ることができた。京都大学がどんなところか、大学の楽しみ方、勉強の仕方のさわりなどを学んだのも全学共通科目を通してだったと思う。1年前は自分の専修についても迷いが強かったが、今は興味があるもののイメージが固まってきた。
- 文学部での専門をどうするか考える際に、全学共通科目で勉強した内容を参考にすることができた。具体例をあげれば、心理学に興味があったが、全学共通科目の心理学概論を受講し、自分の思っていたものとは違うと感じ、専門ではやらないでおこうと考えた。
- 最初は不安もたくさんありましたが、実際の1年間を振り返ってみると実りや収穫の多いものになっていました。全学共通科目で受講した理系の内容や文系でも自分の専門とは少しずれる内容を得たことで、興味の幅が広がったと思います。
- 京大では出席をとらない授業が多いため、授業に出ずに友達にノートを借りて単位をとることが当たり前になっているように感じられる。しかし果たしてそのような行為は許されるのであろうか？留年をしない限りは京大生が京大生として過ごす時間はどの人も等しいはずである。どの人も授業に出る時間は「自分で」確保した上で、それ以外の時間に自分の自由時間を設けるべきである。京大在学中から、「人にノートをとらせて自分は楽をする」というような、他人任せのずるい習慣を身につけてはならないと思う。
- 大学の授業はとても面白い、これが一番の感想です。高校までの「科目」という区切りを軽々と越えて様々な知識を結びつけ、どこまでも追究してゆく点が、魅力的です。専門分野と直接関係ある知識だけしか持っていないのでは、考えが広がらないと分かりました。分野にこだわらず、様々な知識を吸収し、使えることが大事だと思いました。一般教養の単位はもう揃いましたが、今年も空き時間には聴講しに行こうと思っています。
- 自分の専門とは直接関係のない、様々な分野の学問に触れることが出来てとても面白かったです。特に哲学・思想系の授業には素敵な先生が多くて刺激になりました。理系科目には興味が保ちにくく難しいものもあり、結果的にAB群の単位取得数に偏りが出来てしまいましたが、文系としての自分の興味の方向や性格を確認出来たという意味で（B群科目はあまり肌に合わないことを実感しました・・・）前向きに捉えようと思います。特に印象に残っているのは**先生の**

の授業です。1年の講義を通して「学問をする」ということのスリリングな楽しさを味わうことが出来て、とても勉強になったと思っています。残念だった点を挙げるとすれば、学期末のレポートを少しいい加減に書いてしまったことです。調べ物も不十分なまま短時間で仕上げたようなレポートでも単位が取れてしまうこともあり、レポートに対する私の姿勢はとても甘かったように思います。大学の1年を終えた今でも、レポートの書き方に自信がありません。成績評価の基準云々よりも、卒論などを見越して、基本的なレポートの書き方の指導があればよかったかもしれません。

- 自分の興味のある専門分野を定める参考になりました。他学部（工学部）の友人が、全学共通科目の科目で受講したいと思う科目があっても、自分の学部の専門科目と被って受講できない科目が多すぎると嘆いていたので、少しでも改善してもらえたら良いと思います。
- 全学共通科目は理系文系関係なく、様々なものを受講できるので、面白い。
- 各担当教員の先生方の研究の一端が覗けて楽しかった。
- 大学の授業形式に慣れることができ、興味深い授業もあって全体的に楽しかった。

7. 3 教育学部

- いろいろな分野に関して学ぶことができたのは本当に良かったと思っている。しかしながら、その記憶がほとんど無いのも事実である。どうしても馴染みの無い、興味の薄い分野に関しては、それがどんなに素晴らしいものであれあまり理解することができなかつたように思う。それは当然私の知識不足、意欲不足もあったように思うけれども、全学共通科目としてある以上何かしらの工夫があればよいのではと思った。学問はまず興味を持つことから始まると思う。そういった意味で、特にリレー講義などでは導入に小話を1つ挟むくらいの余裕が教授の側にあると入りやすいのではないかなどと思った。
- 般教なら自分の専門でもないし、それほど重要視していなかったが、実際は専門の基礎として使うことも出来たのだと少し後悔している。
- さまざまな研究分野に触れることができた。前期の時点である程度単位数をそろえていたので、後期は特に自分の興味に合わせた授業を、履修はしなかったが、受けることができた。
- 単位にとらわれず、さらに教養を深めるのもありだと思った。
- 一言で言えば全学共通科目で受け取る情報は、本屋や図書館に行けば有象無象ある入門書や概説書で事足りるものが9割以上です。残りの1割が楽しいから耐えていられましたが、あまりに無駄が多すぎます。もちろん教員と学生の人数比を勘案すれば大講義室での一方的抗議も必要ですし、人気のある教員の場合はやむを得ない事情もあるでしょうが、教養段階の学部生に求められるのはやはり概論を耳で聞き流すことよりも実際に本を読んでみることでないでしょうか。そういった意味で、1冊の本を半期で輪読するスタイルの「ポケゼミ」がメインとはいかないまでも、興味のある学生が何らかのそういったゼミに参加できるような体制を整えるべきではないでしょうか。
- あまり勉強をしなくても単位だけは取れてしまうことを実感し、若干の危機感を覚えた。にもかかわらず、自らすすんで学習しようとしなかったことは反省したい。
- 興味深い様々な講義に出合えて有意義だったと思いますが、きちんと身につけられている実感はあまり持てなかつたような気がします。また、いわゆる“楽勝”目当てに受講している学生が真面目に取り組んでいる学生同様単位を得ることが出来る現状には疑問を感じます。(楽勝科目といわれる講義における私語は非常に気になりました。大学生として情けないことだと思います。)
- 板書もほとんどなく、最初は講義の受け方が分からず戸惑いました。しかし、教官の著書を複数読むと、授業への関心がより高まりました。特にA群の場合は、授業に関する領域だけでなく、

教官の考え方の全体がつかめて、良かったと思います。

- 意外に楽しかった。
- やる気次第で変わる。
- 高校とは全く違う内容で全体的には面白かったと思うし、好きな教員もできてよかった。ただやる気のない教員というのは、やる気があったり興味のある内容を教えてくれる教員に惹かれれば惹かれるほど、際立ってやる気のなさを感じられた。1年間、専門ばかりをやるのではなく様々な科目にふれられたことで知識の幅も広がったし、こういうやり方は維持していくべきだと思う。
- 所属学部に関係なく、いろいろな研究分野に触れることができたことがよかった。また、他の学生との交流がさかんな授業は特に楽しかったし、興味深いものだった。ただ、ポケゼミなどを除くとほとんどの授業が大人数の学生を対象としたものであったので、教員と個別にコミュニケーションをとる機会が少なかった。
- 専門に進む前に、様々な分野を幅広く学びたかったので、京大の全学共通科目の種類豊富さには満足でした。ただ、結果的に単位を揃えるためだけの受講になってしまったものもあり、反省しています。またどうしても受け身な姿勢になりがちだったので、もっと自分から積極的に取り組めたらよかったなと思いました。
- 一般教養といいながらその多くは教授の趣味の内容に終始し、専門知識は必要ないとしながら実際は専門知識が無いと理解が到底出来ない授業が多かったと思う。また、試験において「自分の考えを述べよ」と書かれていても本当に自分の意見を書いてはいけないのだと思った。教授の意見と一致しなければ成績評価は期待できないことを学んだ。大学とはそのような場所だと想像していたが、やはり残念であった。そして何よりも残念であったのは、京都大学の学生自体に学習意欲が無いことであった。授業中に集団で飲食をする（お菓子の袋を仲間内で回して食べる等）など、考えられない光景が見られたのには驚いた。教養科目とは何なのか、何のために存在しているのかを考えさせられた。
- テスト対策の方法がわからない教科もあり苦戦した。

7. 4 法学部

- 自発的な勉強は難しいものだと思う。
- 私語や途中退室の物音などが気になることがあったので、あまりにもうるさい時には注意を呼びかけることが必要かも知れないと思いました。あと、人気の授業では立ち見が出たり、座席争いが熾烈だったりしたので、抽選等で席が足りるようにしてほしい。
- いろいろなことを、知ることができました。
- 語学の授業のレベルがかなり低いと感じた。意欲的に学ぼうとする生徒に適する授業を行ってほしい。むしろ、出欠を重視しないほうがよいのではないかと思う。
- 科目によっては全く勉強しなくても単位が取れたり、勉強しても単位が取れなかったりといったものがある。やはり自分が興味のある科目を受講したほうが自分のためだけではなく教員のためにもなると思った。
- たくさんの講義が開講されているので、必ず自分に合った満足のいく講義にであえるという点が良かった。あとシラバスに熱意を感じる教員が多数いたことは、内容をはじめからわかって講義に望めるので助かった。
- 京都大学ではどの先生も「授業出るくらいなら自分で本を読んでいた方がためになる」等と言いますが、実際、授業にきちんと出てみるとそれはそれでためになりました。それに、テスト前だけでも、勉強は勉強としてきちんとするから、単位の下りた科目にはそれなりの理解が得られま

す（東大はクラスの拘束が強いから、クラスで分担などして全く勉強しない奴が優を取り放題だそうです。京大のクラスは友達ぐらいはできるが、分担なんて面倒臭いことは皆逃げて、結局一人で勉強する）。これからも質の高い授業を維持して、学生が本も授業も勉強手段として選択できる環境が維持されることを期待します。なので、出席は授業に出続けた学生に下駄をはかせる意味でつかわれる分にはいいと思いますが、絶対化は避けてほしいなと思います。

- 興味深いものがたくさんありました。ただし、語学とかぶってしまった授業がとれなかったのが残念です。
- 全学共通科目を受講することで今まで分からなかった幅広い知識の習得が出来たと思う。授業に出席することで本から知識を得る以上のものが得られたと考えている。
- 楽しい授業もありましたが、比較的淡々と進んでいくものが多かったように感じました。また、KULASIS で「文系生徒も受講可」という表記をしておきながら、実際には物理Ⅱなどのおよそ文系学部生が持たない知識を理解に要する科目があったため、より KULASIS の内容を充実したものにしてほしいと感じました。
- 内容には特に不満はない。しかし、上述したように語学と専門科目がかぶってしまい、ただでさえ少ない法学部の専門科目が履修出来ないという事態になってしまったので、これは避けていただけだと助かります。
- これまでほとんど知らなかった分野の講義をたくさん聞くことができ、自分の視野を広げることができて嬉しかった。
- 「基礎論」という名のつく科目においても、教員自らの研究分野を中心として授業内容が構成されていたことが多かった。「基礎論」とは名ばかりのものであると不満を感じることは多々あった。教員の研究分野を中心に授業を展開するのは大学において当然のことである。しかしながら「基礎論」と名のつく科目ではもう少し受講者に配慮し、教員側が考える「基礎」ではなく受講者側が考える「基礎」を授業の中心に据えていただきたい。
- 単なる教養ではなく、自分の考えをもう一度問い直し、新たな知見や発想、思想を得ることができました。もう少し専門的になってもいいので、教養でもより高度な内容を学びたかったです。
- 語学は頑張った気がする。2年生以降の語学の仕組みがわかりにくい。中級と上級のどちらをとればいいのか、CALL、会話などどれをとればいいのかわからないし、もし間違えて登録していたらどうなるのだろうかとかかなり心配である。
- 初修者には理解できない内容を並べたてる講義がたまにあったが、ああいうのはよくないと思う。もちろん、素晴らしいと感じる講義もたくさんあった。
- 自分の興味関心・必要に応じて、またやる気次第ではかなり専門的な内容にまで踏み込んだ学習ができる良い機会を与えてくれるものであった。自分の専門分野ではない分野の教養を得られるのは、非常に有意義であったし、この文系理系の境を越えた知の感覚は専門を学ぶようになってからも大切にしたいと思った。
- やはり、授業を受けるという勉強スタイルは性に合わないと思った。受験勉強から大学の勉強への橋渡しができていない。これから専門科目が多くなっていくので、どのように勉強していけばいいのか非常に不安である。
- よく学べたと思う。
- 全体的に授業内容は、幅広い範囲での教養ではなく、非常に狭い範囲での蘊蓄にすぎない場合が多かった気がする。授業名の割に、あまりにも扱う内容は、狭かった。
- 単位修得が楽で良い。
- 法律を専門としているため、法律以外の科目、特に数学系の科目、を受講することが出来たのはとてもうれしく、新鮮な体験になったと思う。

- 狭い専門の枠にとらわれないためにも、全学共通科目は必要なものだと思う。楽しく興味深い授業が多かった。ただ、「所詮専門科目ではないから」という態度がすけてみえる教員も多く、授業の進め方などに工夫が見られない科目も散見されたように思う。研究者としてだけでなく、教育者としての自覚が教える側に身につけば、より有意義なものになるのではないだろうか。
- 幅広い分野の科目を受講したが、どれも中途半端にかじっただけで、自分の身についたものは少ないように思う。どの科目も、最初は「面白そう」だと思うのだが、本当に「面白い」と感じられる段階に到達するためには相当努力が必要とされるのだという当たり前のことをこの1年で痛感した。全学共通科目に対するスタンスが曖昧なままこの1年を過ごしてしまったことを深く反省している。結局のところ「自由を使いこなせなかった」という一言に尽きる。
- 受験勉強とは異なる、幅広い内容の授業を全学共通科目で受けることができ、視野を広げることができたと思う。
- 逆に道を失ってしまった気がします。
- 生物は奥が深い。
- 私が1年間全学共通科目を受講して思うことは次の2つである。
 - (1) 少人数で行う講義は概して、知的好奇心を刺激する内容が多かった。
 - (2) しかしながら一方で、大教室で行う講義は概して学生の勉学意欲も低く、教員の成績評価も非常に適当なものが多かった。例えば一度も講義に出ずに単位を取得した友人を何人も知っている。私の意見としては、京大の全学共通科目の成績評価は甘すぎるため、大学新入生に勉学の習慣をつけさせるため、また学位の国際的信頼性という観点からも、もう少し厳しい成績評価を行った方がよい。また、京大はこれほどまでに全学共通科目を提供しているのに対し、ほとんどの学部で全学共通科目の履修が1年生時だけで終わってしまうというのは少し残念にも感じる。
- 勉強の仕方が専門分野や教員によって異なるため、まず、最初に勉強の仕方とは言わないが、体系立てた概論的な説明をしてほしかった。そうでないと、どういうことを目標にしているのかわからないし、教員が何を教えようとしているのかわからないままになんとか勉強しているというのは苦痛である。
- 自分の興味のあることを、高校までとは違った見方で学ぶことは楽しかった。ただ、高校時代の学習の方が楽しかったと思える教科もいくつかあった。
- 様々な分野に触れることができ興味深かったです。
- 幅広い知識を得ることによって、自分の考え方に深みが増すことが感じられ、よい1年だった。
- 専門の勉強とはまた違った、初歩的な理系の分野や、歴史について学ぶことができ満足です。
- 面白そうな科目がたくさんあるものの、90分という長時間や先生が面白くなかったりで出なくなっていました。でも**というポケゼミだけは積極的に出席しましたし、大変面白かったです。
- 授業が面白い。
- 結局後期は楽勝ばかりとっちゃいました。興味深い内容の授業もなくはなかったんですが、サークルとかよりは面白くないのでそういうことになりました。
- 全学共通科目のA・B群を軽視する傾向が学生に強いように感じた。逆に、C群のいわゆる語学だけを何とかすればよいのだというふうに思っているのではないかと感じさせるような様子だった。また、予備登録をしなくてもよいような語学科目のクラスが明らかに少ないので、教員が見つかるのならばもっと増やしたほうが良いと思った。
- 興味深い内容の授業もあったが、生徒の興味をひきつけない授業もいくつか見られたと思う。
- 他学部の専門科目を全学共通科目として受講できるのはとても良い制度だと思った。それによっ

てかなり自分の今後に役立つ授業を受講できたと感じた。専門以外の幅広い知識・教養を身につけたい学生を増やしたいなら、もっとこういう科目を増やしてほしい。

- 問1 覚えてない。
- 特にありません。
- 楽しい講義もあり、それほど興味を惹かれない講義もあるのは当然のことであると思います。そういう状況の中で自分の好奇心を呼び起されるものを探するというのを学んだような気がします。これから専門分野の学習がメインになっていきますが全学共通科目で学んだことを活かせる時があればと思います。
- 日本の教育の問題点を感じた。入学当初はまじめに授業に行っていた多くの学生が、授業に失望し、学校に来なくなったりサークルに熱中する姿を間近でみた。京都大学だけではなく、大学全般に言えることではあるが、教師は、研究者以前に教師としての自覚を持つべきではないだろうか。
- 特にないです。
- 第二外国語等の語学の授業が、担当教員によってかなり進度・難易度が違うことが納得できない。
- 学部を超えた友人関係を築くことができた。
- 楽しく、ためになる教科はたくさんあった。シラバスが適當すぎる。試験や成績評価などでもシラバスのものを大きく守っていない教科がざらにある。
- 文系でも物理・化学・数学をじっくりやりたいです。
- 僕は高校のとき、かなり体力的な問題があり、大事な時に限ってひどい病気に罹ったりしていました。そこで大学では健康分野の授業を広くとり、様々な知識を得ることができ、結果として今では体力的な問題は解決できたように思います。
- 前期にとった科目が法律系ばかりで、個人的に全学共通科目としての役割を果たすことができなかった。しかし、法律の勉強のとっかかりになったので、その点はとてもよかった。例えば、歴史の授業だと、先生の興味分野によって、範囲がかなりせまいので、積極的にとろうと思えなかった。現代の国際社会や国際政治、また、近代の世界情勢について、体系的に学べる講義があるとうれしい。その点、**先生の講義に出ていたけれど、期待していただけに、少し物足りなかった。先生が徒然に語っていたという感じだった。今、受けている専門の授業はとても興味深く面白いですが、全体として、全学共通科目は、内容が浅く、先生もなんとなく熱意がなく、その日の授業のテーマがわかりにくかったりして、物足りなかった気がします。
- 専門科目以外の科目についても学ぶことができ、よかったと思う。
- ガイダンスの段階で授業の方向性がわかりにくく、授業内容が把握しにくかった。
- 興味がある科目が少なかった。
- 全学共通科目といいつつも、かなり専門的な内容の講義もあって、敬遠せざるを得なかったり、もしくはついていけないものがありました。確かに僕の努力も足りなかったとは思いますが。
- 自分が興味のある事柄を、ある程度の制限はあるものの、自由に学ぶ機会が得られたことは非常に有益なことに感じる。専門科目のみならず、ほかの学問知識を一定レベル修めることができたおかげで視界が広がったことはありがたい。ただ第二外国語は正直、負担が過ぎるようにも感じた。
- シラバスに書いてある内容から想像したものと実際の内容にギャップがあることが多かった。
- 幅広く勉強できてよかった。
- 好きな和歌の講義を受けることができ、法律の勉強の気分転換になった。
- 専門以外のことをたくさん勉強できて、そして違う分野の人との交流もできたことがよかった。しかし、成績の評価の不明確な部分もあり、そして授業全体の先生と学生のモチベーションが低

いところもある。

○シラバスに載っている授業内容とあまりにかけ離れた授業が多く、期待はずれに終わったことがおおかった。

○ポケゼミのような実際に体験できる形式の講義が一番興味深く楽しかったように思います。

○自分の専門分野に関するものだけでなく、様々な分野の勉強ができてよかったです。

○法律の勉強を初めてして、難しいし大変だと思った反面、やっていると楽しくて覚えるのも苦じゃなく、2回になったらもっといろいろな法を学べると思うとわくわくします。

また、京都大学は私たちにやりたいことを、やりたいだけやらせてくれるので、素晴らしいと思います。

素敵な友達にも巡り合え、幸せです♪

○取りたい講義が同じ時間に固まってしまっているのが、少し残念に思いました。

○私は学部の専門科目があまり好きではないです。自分が勉強不足ですし、あまり興味が持てないのです。でも一方で、自分が本当に面白い・学びたいと思う教科を選べる全共科目は、本当に好きで、授業も楽しく、熱心にノートを取って、いい成績もとれました。大学の授業、というイメージ通りでした。ただ、高校までとは違い、どんなに授業や教授の話が面白いと思っても、なかなかその教授と直接接できないのが残念です。それが大学なのかもしれないですし、もちろん質問には個人的に答えてくださったり、授業中に意見すれば、顔くらいは認識してくださいます。でも、どんなにその授業でいいレポートを書いても、試験成績が良くても、名前すら覚えてもらえずそれっきりになってしまうのは、少し悲しいです。自分から教授の研究室をお訪ねすべきなのか、それとも般教の一生徒がそんなことするのは無遠慮で迷惑なことなのか、よく分からないのです。でも、とにかくこの1年（とりわけ後期）の全共科目の受講はそのほとんどが満足できるものでした。

○受講している時にはあまり面白くないと感じていた科目も試験前に勉強したり、テレビで関連した特集を見たりした時に内容が以前より理解できた時には面白いと感じることがしばしばあった。

○専門以外の科目をなるべく履修するように心がけたので教養を身につけられたと思う。しかし一方で、前提知識がなく受講した授業は初学者への配慮が十分でないと感じることが多く、残念だった。また1年間を通じて、やはり自分が最も興味を持てるのは自分の専門分野だとわかったので、これからより一層勉学に励みたいという気持ちになった。

○講義に、自分の興味に応じて選べるだけのバラエティーがあるのが嬉しかった。しかし、実際は単位のための勉強になるところがあり、入学当初の自分の勉強への意欲はどこへいったんだろうと、自分で自分を残念に思う。

○全学共通科目を受講することで、教養を身に付け、視野を広げることができるのではと期待していたが、全学共通科目は様々な分野の導入に過ぎず、自学自習無しには財産となるような知識は身につけられないことがわかった。単位を取ることを重視しすぎて、興味のある分野についてじっくり本を読んでみるといった時間を持てなかったことが悔やまれる。

○上に色々評価を書かせていただきましたが、全体として京都大学の全学共通科目には満足しています。まず何より、高校までとは違って、自分でほとんど取りたい科目を決められるというのが新鮮でした。しかも、どの群も非常に種類豊富な科目がそろっていて、シラバスをめくりながら取りたい授業を決める時間は非常に楽しかったものです。このように、学生が自由に科目を決められることや科目の種類の豊富さはやはり京都大学ならではの恵まれた環境であると感謝しています。しかし、上にも挙げたように、不満な点もいくつかありました。最大の不満点は、「教員に熱意が感じられないこと」です。よく大学（特に京大）の教員は「研究者であって教育者ではな

い」ということが言われますが、そう感じるものがしばしばありました。自分の研究にばかり夢中になっていて学生を教えることには興味がない、というような雰囲気をあからさまに出している教員も結構いて、そういう教員の授業は活気がなくすごく退屈でした。シラバス上ではとても面白そうな授業に見えるのに、実際に受けてみると教員にやる気がなく非常に退屈、というケースも多々ありました。もちろん大学での勉学の本質は、授業を受けるという受け身のなことよりも自学自習し学問を追求することなのですが、やはり学生（特に新入生）は少なからず「大学での授業」を楽しみにしてある程度のやる気を持ち合わせているので、それに応える熱意というものを見せてほしかったです。

また、これは全学共通科目だけでなく学部科目にもいえることなのですが、成績の評価基準をもっと明確にしてほしいです。試験を受けたのに答案が返却されないというのは、自分が間違った箇所すら気づけないということで、教育の精神に反していると思います。学生の数が多いので試験を返却するというのは困難だとは思いますが、改善してほしいと思います。しかし、もちろん問題は教員だけでなく、学生にもあります。学生も、授業をさぼるなどのやる気のない側面を持っているので、教員ばかりを批判するのではなく、学生も学問に対する自らの姿勢を変えていかなければならないと、自分を見て特に思います。しかし全体を通して、全学共通科目の学習は非常におもしろかったと思います。自分は個人的な理由から授業を非常にないがしろにしてしまったので、後悔し、2回生になった今でも専門科目の合間に全学共通科目をいくつか受講しています。専門科目ばかりになった2回生にとっては、全学共通科目はとても刺激的でよい「癒し」になります。全学共通科目を学習し、さらに自学自習することで、専門分野ばかりでなく、広く教養を身につけた大人になりたいものです。最後に、全学共通教務掛の方々への感謝の気持ちを。全共の方々はいつどんな些細な質問をしに行っても非常に親切に答えていただいて、大変助けられました。特に入学したての時期は分からないことだらけで、しかも学部の教務が非常に不親切だったため、全学共通の方々の親切が本当に嬉しかったです。これからも全学共通科目のますますの発展のため、ご尽力ください。

- 自分の自由な選択で、興味のあることを幅広く学べたのでよかったと思います。
- 全学共通科目の評価はたいへん甘いので、これで教養を身につけることができたのが疑問です。

7. 5 経済学部

- 1年を通して、全学共通科目から専門分野への刺激を受けることがあった。他分野であっても研究の手法・精神というものが自身の糧になりうることを実感できた。
- 自分のしたい勉強を優先するのではなく単位の取りやすさを優先して履修している者が多い授業において、集中して勉強することは困難であった。そのため全学共通科目の履修制度にまだまだ改善の余地は見られると思う。
- 全学共通科目は、自分の専門外の勉強ができる機会なので、気楽にのびのびと受講することができた。一回のうちで、卒業必要単位がそろったのもう受けることはないと思うと、寂しくなる。
- 授業に遅れて来て、授業を延長するのはやめてほしい。
- 最初に興味のある科目でも途中で続かなくなってしまうことが多々あった。しかし、怠け心からではなく他の活動で忙しくなってしまうためなので仕方がないと思う。
- 基礎がまったく分からないが、興味のあるクラスは多数存在するので、そのような人々のためにも基礎からのクラスを作ってほしい。
- 入学直後は専門以外でも幅広く学ぼうと思っていた。だが、1年間共通科目を履修して、それほどそれらの科目に対する興味が長続きしないことに気づき、自分がやはり専門（経済）の内容に強く興味を持っていることがわかった。

- 勉強がここまで楽しいと思ったのは、この1年が初めてだったかも知れない。
- ある授業は、出席もしっかりとし、勉強もしていたつもりなのに、成績評価が期末テスト only だったのでテストの出来が悪かったのか落ちてしまった。とても残念でした・・・。
- 全学共通科目が本当の意味で授業としての役割を果たしているのは語学だけではないだろうか。もちろん教科の特性を考慮すれば、語学は予習復習が大切なので自ずから勉強するようになるという側面もある。しかし、それだけでは学生はついてこない。ここで重要なのはホームワークである。敢えて私は宿題とは呼ばない。ある程度の課題をこなすことで知的好奇心が刺激され、かつ、より発展的な内容を知りたくなるような、このサイクル。真の意味で Home で行う知的 Work。私はこれを期待していた。より京大では自学自習の精神が尊重されるのだろうが、もはや時代遅れで現代教育（ゆとりという悪しき世代）のニーズを満たせていないと思う。少しは縛ることも大切なのではないか。
- 他大学の友人の話を聞いていると、いかに我が校の授業やテストのレベルが高いかがよく分かり、さすがは京都大学だな、と感じた。ただ、自分ではそのレベルにまったくついていけない科目もあった。プラス、生徒同士の交流がほぼ皆無なのがかなり残念だった。
- 無意味に感じてしまう。
- 数多く、多彩な授業を受けることができるのはすばらしい。
- 自分の興味あることについて学べることの面白さを知った。
- 高校までの授業とは全く違う分野を学ぶことで、知らないことを学ぶ楽しさを感じるという貴重な経験ができてよかった。
- 単位の取りやすさで選ぶより、自分の興味のあったり、自分のためになるものを選んだ方が絶対に良い。国際交流科目やポケゼミなどは普通の教室式授業では得られないものがあるので、積極的に履修するのがいいと思った。
- 全体的に眠かった。
- いろいろな面白い科目を聞くことができてよかった。これからは成績評価の基準をもっと明確にして欲しい。そうすれば科目の対策がより順調に進められるから。
- 京大の素晴らしさ。
- やはり試験の答えは返してほしい。自分の理解や考えのどこが正しくて間違っているのかがわからなければ、試験を受けた意味もないし勉強した意味も感じる事が出来ない。答えを返さないということは教員にとっても学生にとっても勉強や試験が単位認定のための手段に過ぎない状態になってしまっていると思う。
- 興味が持てそうだったものでも出席が面倒になったものや、またその逆もあった。今の時代、特定の教授に憧れて京大に入る人はまれだし、まじめさが茶化される風潮もなくはないので、パンキョーを単位のとりやすさで選ぶ人が多数派なのも無理はない。教授の努力もあれば講義も少しは面白くなると思うが・・・(苦笑)
- ありきたりだが、学部専門科目のみでは知識に偏りが出てしまうので、様々な教授の様々な授業を受けることで、幅広い知識を身につけることができた。
- 京大生相手だろうからという感じで「自分でやれ！」という面があまりにも多すぎた。
- やはり、人間というのは、一つの専門的な分野のみに傾倒するのではなく、他分野の知識を獲得かつそれを活用することによって物事を正しい視点で見ることが出来るのだと思う。
- いろいろと面白い授業もあり、将来役に立ちそうなことをいろいろ教えていただけて良かったです。
- だいたいどの講義でも教室の座席数にゆとりがなく、落ち着かない状態で講義を受けざるをえなかったのも、とても講義に集中できるような状況ではなかった。人気の講義は週のコマ数をもっ

と増やして学生を分散させるなど、落ち着いた講義に臨めるような環境を整備してほしい。

- 高校までの授業とは違う、大学の講義というものを感じた。教員の講義への臨み方が人によって全然違うし、高校までとは異なるので、学生のより積極的な授業への対応、学問への探究が求められると思う。
- ユニークな先生が多くて、様々な考え方に触れることができよかった。
- 教養を身につけるといよりはどやって効率よく単位を取得するかを学んだ。
- 力をいれようとは思わなかった。
- 全学共通科目を通して、これまで関心のなかった科目なんかに興味を持てたのはよかった。
- 全学共通科目は専門バカにならないための修養でした。とても楽しかったです。ありがとうございます。
- 1クラスにおける人数が多いほど、その授業に対する関心が低いように感じた。授業の数と学生の数の関係で、各授業を受講する人数が必然的に多くなってしまふのは百も承知であるが、やはり少人数で行われる語学の授業は学生や先生との交流もあり、面白かった。もっと少人数で行う授業を増やしてほしい。
- それなりにやれば単位は取れると思った。
- 将来の進路がまだ決まっておらず、何をしようか、どのように生きていこうかがいまだ不透明である。
- やはり、自分が興味のある科目でないといつまらない。
- 興味のわく授業は少なかった。もっと時事的な話題などを絡めてほしい。
- 京大に入って得たものはない。
- ・講義のタイトルにつられてはいけない。
 - ・教授の知名度と講義の面白さ(=どれだけ工夫されているか)は正比例ではない。
- 全学共通科目が思ったよりも声が聞き取りづらく、一度行かないことを経験してしまうとその後授業に再び出席しづらくなります。もちろん自分のせいなのですが、大学では高校までと違いフォローがなく自主性を重んじられているため、その分自分でやらなくてはならないのだと思うと思ってたよりも勉強以外に励む時間はないのだと痛感しました。
- 語学はためになったと思う。語学自体好きなので楽しかった。ポケゼミは、他学部のひとと交流でき、ゼミ形式の授業で濃い勉強ができたうえ、濃い人間関係を築くことができた。とても満足している。残念だったのは、とりたい授業が語学や専門と重なっていたためにほとんどもう全くといっていいほどに履修できなかったこと。それによりかなりの意欲をそがれてしまった。実際に履修した授業のほとんどは、どうしても興味を抱くことができなかつたり、興味はあっても授業の進め方が好きになれなかつたりで、身にならなかつた。結局授業に行かなくなつてしまい、記憶に残つてすらない。ききとりやすいようはきはき話すとか、字は大きく見やすく書くとか、そういうことだけでも、もう少し工夫してもらえたらなあと思う。
- たくさんの学問に触れることができ、社会にはいろんな人々によって、各分野の仕事を頑張つて支えられてきたものだと思うようになりました。
- 授業のテーマではなく先生の授業の進め方によって、授業の価値・面白さが大きく変わる。最初のオリエンテーションにおいてどのような授業をするのかを見極めることが重要。また、いくら楽勝でも自分の興味のないものはとるべきではない。
- 私は文系ですが、理系の授業がとても面白かったです。自分なりにもっと調べてみようという気持ちにもなりました。
- ゼミは大変だけど、少人数なのでモチベーションも上がるし、教員や他の生徒と交流が持ててもよかったです。ぜひ講座を増やしてほしいと思います。

- 幅広い分野の授業があり、とても興味深かった。
- 教授に授業に対する熱意が感じられない場合が多いと思う。
- 興味があり、受けてみたい講義があっても、語学が指定されていたため受けられない授業があったことが、残念だった。授業に出た時間と単位は比例しないのだとよくわかった。

7. 6 理学部

- 学問は自由なものだと思っていたが、入学してからは、何か束縛されすぎているような感じがした。自分はある特定の学問が好きだと思い京都大学に入ったが、自分が好きだったのは学問ではなく対象そのものだと感じるようになったように思う。
- 理学部の自習室を土日も開けてほしい。
- 得られたものがあまりなかった気がする。
- 結論から言うと忙しすぎたかな？自由に学習できる時間がとれなかったような。今後はもっと講義の取り方を工夫しなくては。
- 今になって思うことは、もっと勉強しとけばよかったってことです。1回のうちは遊んでいいと思うけど、ちゃんと単位はとるべきやった。あと前期のいろいろな授業あるから、もっとちゃんとえらんどけばよかった。
- 授業内容が面白く、興味深いものが多かったが、予想していた以上に難しく、理解しきれないことが多くて大変だった。また、毎日平均4コマ取っていたので予習や復習やレポートが多くなり、平日はほとんど寝られない日が続き、サークルに入る余裕までなかったのが残念だった。
- もっとゆとりをもって勉強したかったです。
- 高校のカリキュラムでとることが出来なかった科目に対して、興味があったために全学共通科目で受講してみたが、高校で習う予備知識がなかったために理解できなかった。高校で習う基礎的なことを少しでも教えてほしい。
- 大学の勉強は想像していたのとは全然違った。同じ科目名でも担当教員が違っていると、授業内容も成績認定の方法や難易度も全然違うのは不公平だと思った。他学部、他学科、他クラスの学生と知り合いになれるチャンスが少ない。
- 大学入学後すぐは、特に数学がほとんど理解できなかったが、計算問題などに取り組みもがうちに、なんとなく何が言いたいのか分かるようになってきた。その後物理を勉強するうちに数学の知識がでてきて、世界がつながる楽しい感覚を得ることができた。これからも、勉強を楽しんでいきたい。
- 特になし。
- 京都大学に入り、勉学に対して意欲は高かったが、次第に低下した。
- 一部の教授陣のやる気のなさも問題だと思うが、大学自体にかすかにある単位軽視の風潮にも問題があると思う。
- 大学生活は自由度が高く、十分に自立・自律ができていなければ目標を見失って勉強をはじめとした様々なことに対しての意欲を失う恐れが大きい。そこで私は、とにかくひとつこれと決めた分野を選び、その分野においては自信を持てるようにしようと思った。私はまず生物を選び（essential を用いて基礎分野の習得を目標とした）、その後有機化学を選択した。いずれも興味あふれる内容であり、今ではバイトなどなければ、遊ぶより寧ろそれに時間を割きたいほどである。
- 勉強を通して、大学生としての自覚が出来てきた。
- 自分の学部に関係なく様々な講義を受けられることはとても有意義な事だと思います。ただ、興味のある講義が自分の空き時間となかなか合わずに悔しい思いをした事も多くありました。もち

ろん学年が上がってから取れば良いと言われればそれまでですが、上回生になるにつれて自分の専門外の講義は取りにくくなるし、1回生ではクラス指定が多すぎてなかなか上手くいかないのは事実です。できる範囲でまんべんなく各領域の講義があるようにして欲しいです。

- 時間のやりくりが大変だった。
- 自学自習が大事。
- 自分が興味の持てるもの持てないものをなんとなく判断することができた。
- 京大生って頭いいよね～（俺を除く）でも、おれ、がんばる。おれの夢はでっかく、海賊王だ～
～！ By ヤンマー
- しっかりと学んで身につけたものだけが、自分の力になると思いました。
- 北部キャンパスと吉田南キャンパスの距離が長いので、移動するのに時間と体力を費やすことになるのが正直つらいです。
- 最初頑張って書いたのですが、30分でログアウトされて萎えたので申し訳ないですが書きません。せめて一時間にして欲しいです・・・
- 自分の興味に沿ったA群・B群の講義が少なかった。一流の自然科学者が自然科学の醍醐味を熱く語ってくれる講義が欲しい。
- 学問の幅広さを垣間見れたのはすごく面白かったです。視野が広がる感じ、が少ししました。
- 全学共通科目は、各専門に分かれる前に幅広い教養を身につけるという意味で、きわめて重要なステップだと思う。現代のあらゆる学問分野はどんどん細分化しており、分野を超えた包括的な視点を持ってなくなってきているようにも思える。自分の周りでも、「理学部なんだからA群は適当でいい」と考えている人が多かれ少なかれいるが、そのような「もろい」教養が、これから先われわれがぶつかるであろう科学的難局に立ち向かうための確固な武器になるとは到底思えない。そういう意味で、あらゆる学問分野に少しでも触れる機会を持つことは、きわめて有意義なことだと思う。
- 自分の興味にあったものがなかっただけかもしれないけれど、この授業がすごく面白い、と言えるような授業がなかったのが残念だった。
- 自分に合った科目を受講し、好奇心を刺激することができたと思う。
- 人と協力することの大切さ。
- 教員の方々の授業に対する意識の差が激しいと感じた。ある先生がおっしゃっておられたことだが、教員が熱心に授業に取り組んでも何の見返りもないそうなので、授業の質に対する評価が行われるべきだと思う。学生に都合のいい授業にするべきというのではなくて、学生の理解度を無視した授業やスケジュール上の都合で進度を急に速めるといったことはなくす方向にすすんでいただきたい。
- 現代国際政治論において非常に有意義な時間を過ごせた。
- いろいろなことについての知識が得られてよかった。
- 大教室（4共30など）で受ける授業は自分に合わなかった。
- 語学が難しかったです。
- 特にありません。良くも悪くも大学の授業だなという感じはしました。
- 自分が今まで学んだことがなかった興味深い分野がたくさんあった。
- 大学の授業の内容は基礎レベルといえども難解で、復習などをしていなければとてもついていけないものではなかったと思う。
- 京都大学では、差別があるということが、わかりました。私は現在43才ですが、何をするにしてもまず年齢のことに対する奇異の目、差別的な目があり、そのことで、ストレスが溜まり、勉強ができないことも度々ありました。なぜ一生懸命勉強をがんばっている人間よりも、若いという

だけで不真面目な人間の方にチャンスが与えられるのか、非常に腹立たしい苦痛な毎日の 1 年でした。

- クラス指定科目とかぶってとりたい講義が取れなかった。
- A群がしんどい。
- 最初は、自分は理系だから人文科学など興味は無いと思っていた。しかし、とある A群の科目を受講してからは、言語学に非常に大きな関心を持つようになった。言語学が高校には無かったから当然ではあるが、この科目を受講しなかったら、このような感動は得られなかっただろう。全学共通科目は、自分の中に隠れている、新たな世界を開けてくれるものだと私は思う。学部や専門というある種の固定概念に縛られていては、見えないものがそこにはあった。
- 教員によってもものすごく楽しく学習できるものと、ものすごくフラストレーションのたまる授業があるなど感じた。教員は研究者であると同時に教育者でもあるという自覚のない人が多いのではないかと思った。
- 授業が先生によって種々多様（教え方、熱意 etc...）で興味深かった。また、単位認定の基準も先生によってまちまちだった。
- わからないときに質問がなかなかできなかつたと思いました。面白い科目は面白いと感じることができました。
- 全学共通科目は本当に仕方なしに受けてたと思います。現在専門科目が増えとても楽しいです。
- メリハリが大切だなと感じました。
- 全学共通科目はあくまで全学共通であり、学部による専門科目のほうが魅力がある。
- 経済の面白さに気づきました。
- 元々自分が興味があった理系科目はもちろん楽しかったが、あまり興味のなかった文系科目も受けてみれば面白いものもあったのでよかった。
- 幅広くいろいろな分野の授業をとったが、強い興味を感じた授業がいくつかあり、自分にとって新たな発見となった。今後勉強していくうえで参考になると思う。
- 6, 7 割は満足できるものだったし、良いものはより学問への関心を高めてくれました。しかし一部予備知識等が全く足りないものに関して、まるでわからずに辞めてしまいました。（情報処理演習）勉強というのは非常に楽しい分、つらいこともあるしエネルギーを使うが、大学ではほとんど強制されないの、つい墮落してしまいます。これがもっとも大きな悩みです。自分は勉強は好きだけど怠けがち、かといって縛られるのがいや、ということがわかりました。
- 入学してからすぐに大学における勉強は自分自身でやっていくしかないことを知った。理解の早さや度合いは人によって違うから、(必要な内容を持つ) 講義が自分にあったものかどうかはおおむね偶然に頼るしかない。そこで、これからは他人からもたらされる勉強の場に頼るのではなく、それは単なるきっかけ（例えば単位をとることは当面は必要なことと考えられる）と捉え、自力本位で学んでいかなければならない。次に具体的に何を学ばなければならないかを考えることになる。今はコンピュータ科学や人工知能などに一番興味を持っているが、それらの分野に基礎として密接に関係があるもののひとつとして数学が考えられる。一方で数学は自分にとって相性もよく、広く様々な分野にとっても有用なものであると確信し重点的に勉強している。このような連想から上に上げた分野はこれから数年間のスパンに渡る自分の活動の道標と定めるのに十分なアクセシビリティと挑戦のし甲斐を備えていると考えている。このように将来の展望がわずかに開け、自分のやるべきことが将来の目標と結び付けられるようになることによって少なからぬ自信を持つことが出来たが、このことは京都大学における教育が効果的に作用することで自分にもたらされたものではない。むしろ大学の授業を初めて受けたときに感じた、あるいは 1 ヶ月やそ

こら受けることによって感じたある種の非建設的で論理的曖昧さに満ちた（と思った）授業内容に当惑し、自身の社会的自立に関するモラトリアム状態に気づいた時の葛藤を経て、偶然的に再認識することが出来た自分の能力を鑑みることから始まって導き出された現状の結論であることをはっきり言いたい。すなわち、大学の教育は自分にとって有益だったとは言えないが、少なくとも正しいと思えるような結論を出す最初のきっかけをもたらしてくれたといえる。そして定めることができた道標に向かって、自分が満足できる結果を出せるためには最大限の努力をしようと考えた。数学を学ぶ過程で培われた演繹的な思考は、目標という「定義」を達成する戦略を考える上でも応用された。つまり目標につながるために自分がなすべきことをトップダウン的に考え、ときに経済的な選択を行うことで、半年、一ヶ月、一日、一時間という時間の中で自分がなすべきことが決まっていき、その行動原則のようなものが定まっていっていった。自分にとって必要なものを考えるのと同時に、必要でないもの、すなわち現在の自分から切り詰めるべきものも見つかり、自分の感情をも対象にして取捨選択に努めた。こうした努力がどれくらい効果があり、将来の成功を約束するかどうかは保証できないので、一生報われないまま終わることも覚悟の内には入れているが、自分を支えるのはそうした成功ではなく努力の過程そのものであり、自分が子供のときから持っていた、ものを納得するまで考える力を信じるのが持つ意思を確かなものにしてきているのだと思う。

- とりたいものが取りきれなかった。
- 特になし。
- B群は授業についていけないものが多かった。
- 吉田南から北部やまたその逆など、教室移動が大変なことがあったのでもう少し授業の始まり、終わりに余裕が欲しい。授業の内容は面白そうなのに、授業形態がパワーポイントを作成してそれを読むだけになってしまって、全体的に面白くないなど感じてしまった科目がいくつかあった。
- もっと学生の興味を引くような授業をしてほしかった。
- 友人から話を聞いたりしていると、語学や微積、線形などの科目において、講師によって分り易さや単位のとりやすさが著しく差があることが判明した。また、これらの科目はクラス指定科目であることが非常に多かったので、原則自分にあった講師を選ぶことすら出来なかった。これは、ある程度は仕方のない所ではあるが、出来れば改善していただきたい。
- 教室が汚かったりすると、板書をとるのに影響したり、気持ちよく授業を受けられない。人の多い授業などは状況に合わせて、増設してほしい。
- 学問は広い、深い。その中を若干迷走中な気がする。
- とりあえず驚いたのが、英語の**先生のレベルの低さ。発音はぐちゃぐちゃ（区別すべき音を混同したり）、文法もおかしい、語感もネイティブのそれとはかけ離れている、それでいてピノキオ並みに鼻だけ高いから下手な英語を喋り、学生がそれを聞く・・・最低の授業だと思った。先生が力量不足なのだけではなく、その力量不足に気付かないまま教え続けていることにより大きな問題を感じた。はっきり言って、僕は**先生より絶対英語が出来ると思う。なんなら、つぎの英検で勝負したい。いくら**生が努力を重ねて英語のカリキュラムをお作りになっても、実践する教員がこんなでは話にならない。早急に解決が求められる。もちろん、その他の授業はそれなりに満足だ。特に、**先生の英語、**先生の微分積分、地学実験、生物学実習、**先生の地学、**先生や**先生のドイツ語には本当に学生を虜にする力があつた。出来損ない教員がいるのは（特に文系科目では）致し方ないことだとおもうので、それについてこれ以上どうこう言わずに、良かった点を高く評価したい。
- 幅広い知識は持っていて不自由しないし、思わぬところで役に立つので、専門でなくてもしっかりと勉強することが、意外に大切なんだと気づいた。

- 単位との戦いでしんどいです・・・いきなり難し過ぎる科目が多いです。理系科目で。
- 学生の勉強への取り組み方などが期待よりも低く、少しがっかりした。
- 特になし。
- 1年間全学共通科目を受講してみて感じたことは、ある程度予備知識のある科目については理解でき、勉強も（やる気さえあれば）進みますが、そうでない科目、例えば文系の科目などは、分からなかったり、興味が持てないことが多いということです。限られた時間の中で勉強以外にもやりたい事はたくさんあり、結局、単位をとるための必要最低限の勉強ばかりであったことがとても残念でした。また、他学部の人と交流する機会をもつことは実際には非常に難しいと思いました。それでも熱意のある先生を見つけられたことで、京大に来て本当に良かった、と何度も思いました。
- もっと自主学習の時間を取るべきだった。←特に生物系
- A群科目に出る気がしなかった。
- B群では幅広い分野の基礎に触れることができたのがよかった。A群は、興味のもてた授業についてはB群科目と同じくらい積極的に取り組めたと思うが、あまり内容に興味の持てなかったものについてはそれほど真剣にはなれなかった。また、そのような科目は評価が甘い気がした。
- 野生動物研究のすすめで単位を落としたのは納得できないけど、また後期で受けられることになって良かったと思うことにする。
- 様々な知識が得られた。
- 1年間さまざまなことに触れ合って、今、専門の授業を受けているとやっぱり自分の興味は自分が選んだ道に一番向いているのだと改めて思った。一般的な教養というが、内容はかなり高度なことが多かったように思う。
- 専門外のことなど、普段は興味がなかったりして、なかなか触れることのないような内容にも、授業で触れ、実際はとても興味深いことも多く学べた。ほかにも専門的に学べばとても難しいことも、授業によってはかなり噛み砕いて教えていただいたので、内容の面白さに触れ、今後、専門を学ぶ際の取っ掛かりになったと思う。

7. 7 医学部

- 少人数で開講されたポケゼミでは、教員が丁寧に指導してくださり意欲がわいた。実習も貴重な体験ができ、非常に感謝している。
- 前期は後期に比べ面白い授業が極端に少ない気がします。
- とりあえず医学部にはいるために費やして犠牲にした年月を必死に取り戻そうとしましたが、それが無意味だと諭された1年でした。要望としては大学としてのイベントをもっと増やしてほしいです
- 単位が取れるか不安で、前期はほとんどがいわゆる楽勝科目を履修してしまった。それでも授業にはかなり出席したのでそれなりに得るものはあった。しかし、いざ後期になってみると、単位が足りているという安心感からか、結局自分の興味のある科目であっても、出席し続けることができない授業があった。
- 何にでも興味を持つことが重要。興味を持てなかった科目があったのが残念だった。
- 大学での勉強がどういうものか、なんとなく掴むことができたと思う。自分の将来の専攻に限らず、ほとんど関係がないとも言える法学系の講義を履修したりすることを通じて、4月当初に掲げていた「自分の幅を広げる」という目標がある程度達成されたと考えている。
- 成績評定方法が明らかでない科目が多いのが不満。全然テストできなかったのに優で通っていた

科目もいくつかある一方で、自分の手ごたえはあったのにあまり良くない成績の科目もあり、自分の感覚と相違するものも多々あった。特に、テストが返却されない科目が多く（受講人数や教員の都合を考慮するとなかなか返却は難しいのかもしれませんが・・・）、成績の根拠が学生からはわからない。授業内容に関しては教官ごとにかなり差があったが、興味深い科目が多かったようには思う。

- 大学のレベルに少し驚かされた。大学の教員の無関心さにはもっと驚かされた。
- ポケゼミ以外は全学共通科目は機能しておらず、自分で本を読んだり研究室に行ったりする方がエリートとしての知識及び思考力が身に着くと思った。
- 文学部の専門授業にも出たいと思った。そしてそう実行したい。
- 京都大学の先生は授業の上手い方が多いなと思います。満足した教科を5つ位聞いて欲しいほどです。僕は中年のためか朝鮮語を2つ共落としてしまいました。1年間の学習としてはテストが難し過ぎと思いました。授業は良かったのですが暗記できませんでした。また頑張ってみようと思っています。
- 特になし。
- 面白そうだな、と思って取った講義でも実際は内容がものすごく難しいものだったりしました。自分に合った講義は何なのかは、受けてみて初めて分かるものだなと痛感した。後、ずっと感じたことは講義時間が長いということ。なので、面白くない講義ではすぐ眠くなりました。専門・語学の講義は結構面白かった。
- 非常に多岐にわたる分野の知識を得ることができるシステムであり、実際に専門外の理解を深めることができた。一方で、いわゆる「楽勝科目」は自分が興味があってもまわりは興味がない人たちがばかりなので正直がっかりすることもあった。なので、本当に勉強したい人のためのコマも別枠で用意してほしいと思った。
- テスト直前だけ授業にでて単位がもらえてしまうのはおかしいと思う。また、専門科目と第二外国語のダブリを事前に教えてほしかった。入学早々に第二外国語を選択し、後期で専門科目とかぶってしまい結局専門のテストを受けることができなかった。
- 試験の答案を返してもらえそうな仕組みがほしかった。興味がある授業が専門や語学とかぶっていて取れないのが残念だった。
- 興味のある分野の講義をとって受けていたので比較的授業に集中して受けることができましたが、4共のような広い教室での講義だとどうしてもしゃべり続ける学生がいたり、授業の最後にはいつてきて出席だけとってかえる人たちがめだっていたのでそこは不満を感じました。
- 専門科目以外の一般教養を学べる場としてさまざまな分野の講義を受講することが出来、とても満足しています。特に、自分の所属していない学部の講義を受けることが出来たのはとても新鮮で良い刺激になりました。
- とりたいたと思った講義が語学や専門など、出席しなければならない講義と重なっていて残念だった。
- 大学生活を謳歌できたのでよかった。パンキョウの勉強はしたい人だけがとことんがんばれる、素晴らしいシステムだと思った。
- 入学前よりは幅広い分野の知識が得られたと思う。ただ、レポートが多いときは大変だった。
- やる気がなくて寝る人はまだかまわないが、講義中におしゃべりをする人が結構いて、(特に大人数クラスで) 気が散った。
- 自分の興味のあることはとことん勉強させてくれると思う。けれど、自分を含み多くの学生が単位の取得に躍起になっているから、もったいないことをしてしまった、もっと積極的に学問に対して食欲になればよかったと思う。

- 京都大学ではさまざまな研究がなされているということが分かり、またその内容に関して少しでも触れることができたと思います。
- 自分が学びたい科目を自由に選択できたことが良かったです。「この授業は面白そうだな。」と感じても、抽選で落ちてしまったことが何度かあったので残念でした。また、次が専門科目なのに全学共通科目の授業が長引いてしまったときなどは移動が大変で、少し遅刻してしまうこともあったので気をつけていただきたいなと感じました。
- 全体的に前期に興味深い科目が集中していて、後期にもあったらいいなという感じがした科目がいくつかあった。ポケゼミはプレゼンやディスカッションなどもあり、大変だったが、今後役に立つことも多かったので、後期も開講してほしいなと感じました。全体的に見て、全学共通科目は面白く、ためになった。
- 私は全学共通科目に期待してましたし、今も全学共通科目は大事だと思っています。けれども、実際に受けてみて、面白いと思うものもあれば、期待はずれなものもあり、教授の興味に偏っているなあと思うものもありました。また、周りの友達や先輩などが、あくまでただ卒業に必要な単位をそろえるだけ、とか楽勝科目ばかり取っていたり、しまいには全学共通科目は無駄だと言いつつので少し残念に思いました。私は看護学を専攻していますが、経済や政治などの全学共通科目をとり、それが今専門につながっているとは感じません。けれども、いつか仕事や生活の中で、ああ、あのときの全学共通科目がつながっていると思えると信じているし、そう思えるようになるのが楽しみです。結局、信じてる人は将来そう感じられるのかなと思っています。
- 入学当初は、心理学にも興味があるし、環境にも興味がある、本当に自分は看護を選んでよかったのか、と悩んでいましたが、自分の専門以外に興味のあるさまざまな分野の授業を受けて、やはり医療の道に進みたいと、将来自分の進みたい道を見つけることができたと思います。
- 授業内容はとても興味深いものから、あまり自身には身につかないと思ったものまで様々であったが、全体としては有益であったと思う。語学にいたっては、試験に苦しんだり、教師とのコミュニケーションを楽しんだり、かなり満足のいくものであった。ただ、京大自体、栄養に関する授業がないので、できればそういった授業を作ってほしいな。
- 履修が決まるまで（もしくは決まった後も）、人気の科目は立ち見になっていて、特に人気がある科目は、教室にも入れない状況なので、なんとかして欲しいです。
- やるもやらないも自分の責任なんだと痛感した。
- 高校生活まででは学べない分野について、多く学ぶことができ幅広い知識を身につけられたように思います。2 回生になると専門分野ばかりで、全学共通科目をあまり多く学ぶことがなくなって少し残念です。
- 2 回生になってから専門科目ばかりの授業となってしまったので、専門とは全く関係のない分野についても学ぶことができ楽しかった。できることならば、もっと全学共通科目を受けたかった。
- たくさんの講義の中から興味のあるコマを選択するのはとても楽しみです。自分の専門以外の授業でもわかりやすく丁寧に教えていただけるし、些細な質問にも答えてくださり授業にはあまり不満はありませんでした。けれども、出席重視の授業だから最後 5 分だけ参加し、簡単なレポートを提出して帰る学生の数や、授業中に平気で私語をする学生が大変多いのが納得できません。そういった学生にはもっと厳しく接してもよいのではないのでしょうか。
- 当初どのように時間割を作成していけばよいかわからなかったのも、そのあたりのサポートがもう少し充実してほしいという思いがあった。自分の専門以外の講義やポケゼミを受けることができて面白かった。

- 想像していた以上にいろいろな分野の知識を得ることができ、また教員がそれぞれ独特の個性を持っていてとても面白いと思った。話に聞いていたほど休講がなかったので、皆真面目なのだなと感じた。一部教員の出す課題の量は、あまり学生がほかの授業を受講しているという事実を認識していないらしいものであったりして、複数の科目にわたって不都合が出ることがあった。自分が不器用であることを認識し、少し悲しくなったが、しばらくしてもっと頑張らないといけないう意識を新たにすることができた。
- 熱意を感じる先生が期待以上に多いことにびっくりしました。しかし、同時にあまりにもずさんな先生にも驚かされました。単位上げましょう、みたいな授業は望んでいません。
- 生徒の人数と教室の広さが合ってなかったりして、せっかく選んだ授業もやる気がなくなったりしました。もう少し環境を整えてほしいです。
- 扱っている分野が幅広いので専門だけを受講しているよりも楽しいと思う。2回生でも興味のあるものは受講したかったが、必修の専門授業とかぶっていたため取れなくて残念である。

7. 8 薬学部

- シラバスを読んで抱くイメージと、現実とのギャップをいかに妥協するかが一般教養を受講する際の課題だと思いました。
- 高校では学べないような実践的な知識の使い方を知ったように感じた。これからは専門科目がとて多くなるが、今までに培ってきた知識も是非使っていきたいと思う
- 自主性云々以前に、出席しないのはどうかと。
- はじめのうちは授業に対して強いやる気を持っていたが、そのうち授業に出るのがおっくうになり、次第に授業に出なくなった。その結果、思うように単位が取れなかった。
- 所詮、パンキョー。やらせられてる勉強以外の何物でもない。単位をそろえるための作業。
- 自分の興味のないことも学ぶべきだった。
- 1年間講義を受けて一般教養が身に付いたと思わない。開講数が多いせいか、履修登録する前に、内容がよくわからないものが多すぎる。興味がある分野をとったのに、全然面白くなくて、裏切られることがしばしばあった。学生に単位を与えることを目的とするなら、このままでいいと思うが、そうでないなら、より興味を与える授業を展開してほしいと切に思う。以上。
- 様々な分野に触れられたのは良かったと思う。
- やはり1回生の前期はコマ数が多くて、テスト前などが大変だった。だけど、自分の専門分野とは違った内容の知識を得ることができて、楽しかった。
- 全体として、様々な分野で興味深い内容の授業を受けることができ、満足している。色々な学部の学生が集まるのが面白いと思った。
- まずは単位がとれるかということがどうしても気になってしまったという印象があります。しかし京都大学では全学共通科目の数が多く自由に時間割を組むことができたので良かったと思います。
- 1年間、全学共通科目を受講して、いろんな考え方に触れ、自分の知らないことが沢山あることを痛感しました。そして、今まで知らなかったことを学ぶ楽しさを感じることができました。
- 大学という場における、講義のゆるさを感じた。自らやろうと、意欲をもって取り組まないかぎりは全く勉強する必要がないのではないかと思った。
- 様々な分野の知識を身につけることができ、とても良かったと思います。しかし、授業によってはかなり高度で専門的な授業もあったので、理解するのが困難でした。ですが、全体的には満足しています。
- 幅広い分野において様々な知識が得られた。専門分野とは関係があまりないことでも興味のあることを学ぶことができてよかった。

- 今までは教育されている立場だったが、もう好きなことをどんどん学んでいけばよいのだ、と思った。これぞ京大の「自由の学風」。自主的に興味をもって学問することの難しさを実感した。大学の先生は教育をするというより、自身の興味をもった分野を語るのが得意だと感じた。教員と学生の興味が一致すれば問題ないが、一致しないときでも、熱意をもって語られると授業に魅力を感じた。発表技術が素晴らしいと、将来自分が研究者として発表する際の参考になった。
- 全学共通ということで、非常に多くの選択肢の中から好きな授業を選べるという制度に魅力を感じました。クラス指定などの授業がかぶってしまった場合に受きたい授業がとれないのは残念でした。
- 1 回生の前期から 2 日目の英語Ⅱまで、全ての抽選に落ちています。抽選に落ち続けている人に優先措置をするか、皆平等に当たるようにしてください。受かってばかりの人もいて納得いきません。単位を取れたから良いものの、抽選のせいで成績の不利を食らった人もいるかもしれません。
- 前期は面白そうと思った講義ばかりを取っていたら B 群に偏ってしまい、後期で A 群の単位を取るのに必死になった。でも前期で取った講義の内容は、似たような分野の講義ばかりとったせいもあるけど互いに重複するところが多く、それが今専門の授業で役に立っているの、前期に単位の事を考えずに「面白そう」を重視して講義を選んでよかったと思った。

7. 9 工学部

- 授業、教員によるあたりはずれが大きい。はずれの授業がクラス指定だったりしたら、またきつすぎる。全学共通科目といえども教員もドキドキするような内容を伝えて欲しい。ちょっとやそっと難しくても構わない。
- 自分としては数学、物理の科目で最も感じたのだが、大学での学習は今までと「違う」ことは強調されるのだが、じゃあ具体的に「どう違う」のか、また具体的に「どのように学習をすべきか」という話は聞いたことがない。結局本等で調べつつ自分なりに実践しているが、1 回生のはじめには自立学習のための手助けがあつていいと思う。別に全体での講習会を開く必要はなく、教授が学生の時どういう学習方法をとっていたかを聞くだけでもためになると思う。
- 多くの科目を受講しすぎて自身の負担になることはあったが、さまざまな分野の内容に触れることができ満足しています。
- パワーポイントの授業が多すぎると感じた。それまで板書形式で勉強してきた人間にとっては熱意の薄い、適当な授業に感じられた。
- 多くの授業ではシラバスの内容に限らず、教員の専門分野の話も交えた深い講義になっていて、興味を覚えることができた。
- A 群はあまり身に付かなかった。B 群はいろんな知識を得たと思う。
- 大学での学習は今までとは違って放任主義で、生徒自身の意欲や関心によって大きく差が出るどころだと実感した。今後も熱意を持って、興味があることに取り組んでいきたいと思った。
- 最も強く感じたことは「試験が簡単である」です。高校の定期テストのほうがむしろかしかつたとさえ思えます（私の出身高校は 3 流進学校でしたが・・・）。単位が落ちてくるという表現がぴったりだと思えます。京大の入学試験に受かるほどの学力があるくせに「単位が取れない」と叫んでる生徒はよほど勉強していないのでしょうか。私は簡単すぎるのが不満なのではなく、勉強を極力強制させない校風が予想通りであることに満足しています。そして、その自由さが自らの探究心・勉強したいという欲求を増幅させていることがよくわかります。これはすばらしいことだと思います。一方、私は陸上競技部に所属していたのですが、1 月で辞めました。理由の一つは、

周りのほとんどの人が勉強に興味がなく、やる気がないという雰囲気が気に入らなかったからです。問題は、春休みに入ってからというもの、私は下宿しているのですが、24時間中24時間一人という生活をしています。他のサークルやバイトなどを自分から積極的に探していないからではありますが、大学側からもっと積極的にコミュニティへの参加を促す何かをしてもいいのではないのでしょうか。（「強制的に」何かをさせるのは問題だと思いますが・・・）以上です。

- わからないのに質問もできず どんどん先へ進み、やる気をなくした。
- ふつうな1年だと思った。
- 高校までの勉強と違い、もっと自主的に勉強しなければならないと感じた。
- 週一回の授業では、自主学习なしだと知識がすぐ飛んで行ってしまうし、テスト前だけ集中してもしっかりと身につけていないことがわかった。
- 京都大学の全学共通科目は聞けば聞くほど興味深い話が聞けたし、非常に中身の濃いものだが、個人的には自由放任すぎてなかなかペースがつかめないうち1年間だった。確かに自由の学風もあって自主的に問題を解いたりすることが望まれるのかもしれないが、もう少しやる気のある生徒のために、成績に反映しないまでも努力すれば定期試験の成績につながるような課題を出す頻度を増やしたりしてもいいのではないかな？
- 大学に行かないと学べないような高度な内容の学習ができたので満足している。
- 教員が生徒のことをまったく考えていなく、自分の言いたいように言葉を発して、生徒に理解をさせようとしているのは間違えていると思う。そのような授業ばかりではないが、教員に当たりはずれがあるのはおかしいと思う。また、単位をもらっても本当に自分が理解できたと思えないと意味がないと思う。
- 自分の興味の幅。好きなこと。したいこと。
- 自分に対する弱さを実感しました。
- 自分がよかったと思えるかどうかは結局のところ教える側によるなと思うようになった。特にB群に関しては（工学部だからかはわからないが）講義で教授が勝手に話を進めているだけで別に授業に出る意味を感じられないことが多かった。
- なかなか勉強が取つきにくかった。ただ、興味を持てるものがいくつか出てきた。
- 数学において、各教官ごとに授業の進め方がずいぶん違うのに生徒側には基本的に選択権がなく、わかりづらい授業を取ってしまうとそのあと非常に苦労してしまうということ。また、教科書や参考書を読んでもわからない部分の解説がほしいのに教官の説明によりなお分からなくなるということ。専門やクラス指定の都合によりどうしても取れない授業があったのが残念であったということ。
- 前期ではあまり勉強を熱心にせず、なんとかなると軽い気持ちで考えていたため、単位をしっかりとることが出来なかった。後期は態度を改め、B群はとくに日頃からも勉強した。しかし、A群はなかなか勉強意欲が湧かず、また楽しさばかり考えてあまり興味の無いものを受講し、結局勉強せずに終わったことを後悔している。また1年間を通じて自分の中で一番変わった事は、物理に対する興味が非常に湧いて来たこと。単に物理といっても古典力学から現代の素粒子物理学まで様々な分野の物理があることがわかったし、全学共通科目で物理系の授業は面白かった。専門分野の中にも、構造力学など様々な物理学を学べるので頑張りたいと思う。
- 教授が学生の理解度を確認せずに授業を進められるので、分からないまま定期試験を迎えてしまう科目があり、その点に大きな不満を持った。
- だいたい教授が適当にやっていると感じた。専門に期待したい。
- 工学部生が本当に教養として必要な哲学・文明論的な授業がどれも単位が取りにくいので、どれも避けてしまうのは大学的に改善したほうが良いのではと思う。中途半端に哲学とかをやらせて

も、という意見もあるだろうが、学び始めるきっかけとなるような授業を1つでもいいので提供してほしい。

- A郡科目は興味を持てたものも多く、比較的自分から学習が進んだ。B郡科目はどうしても熱意を感じられない先生が数人いて、残念であった。
- 役に立つものが多くて良かった。
- いい教員もいるがひどい教員が多すぎる。特にB群。同じ科目なのに教員によって試験の難易度が天と地以上の差があることが珍しくない。完全に不公平。何も知らない1回生にとっては特に。ある程度共通の基準を設けてほしい。それに従えない人は教育の場においてほしくない。大学の授業にははっきりいって失望した。高校の授業のほうがはるかに楽しかった。
- 必修科目で無いB群科目について、興味はあるが単位に認定されないのと、空きコマがなかったので受講できなかったが、A群として認定するなどして受講の幅を広げてほしい。
- 興味のない授業の単位が取れない。でも必須。
- スライドでの講義は退屈でした。
- 授業の内容が説明を聞いてもよくわからないことが多く、教科書などで勉強した。
- テスト期間が大変でした。
- 同じ科目でも教員によって全く異なる講義になることに驚いた。内容、教員の熱意、成績評価の基準まで、特に微分積分学の再履修を受けて思った。
- 高校の延長。
- まず開講数に驚き、さすがは大規模な総合大学だと思いました。クラス指定は確かに必要なものかもしれませんが、そのために他の興味のある授業が取れなくなってしまうのは残念です。また、教員を自分で選べないので、評価の甘いきつい問題ではなく、レベルや授業の質などを選択が自由にできなかったことには苦労しました。
- 興味がある科目を自分で取れるのは良いと思った。
- いろいろな学問に触れ、学問の幅広さを知るとともによい経験ができたとおもいます。これからは、しっかりと勉強意欲をもち自ら進んでどんどん学んでいくことがだいじだなとおもいました。
- 今まで知らなかった知識を得ることが楽しかった。
- 楽しかったです。
- 全学共通科目では一般教養だというせいか、自分で本を読めばすぐ理解できそうなものをやる授業が少なくないことが残念であった。講義を行う上で、本での自学自習とは別の物が得られなければ、それはただ単位を得るために効率の悪いことをしているわけであるから改善の必要はあるかと。また、A群によくあることだが、～基礎論というものがその分野の基礎ではなく、講師の研究しているもののうちの基礎を教えているよう状況になっている。これも基礎を学ぶ上での誤差をなくすために改善が必要かと思われる。
- 自分の怠慢さに驚いた。
- 自分がわかるのと、人に教えるのは違う。わかりやすい、興味深い授業もあったが、わかりにくい、つまらない授業のなんと多いことか。特に理系科目で理学部の教授が教える場合顕著だった気がする。彼らは僕たちがわかりもしないことを延々と語る(完全に範囲外のものもある)。単なる自己満足的な授業もあった。特にいま金2の線形代数続論の※※※※先生の授業は不満である。二クラス(100人)ほどが受ける授業だがすでに10人弱しか授業に出ていないそう。こんな人に授業させてよいのだろうか。教授とか関係無しに考えてほしい。
- 結局は専門よりも軽視し、単位ばかりに目がとられ、本当の意味で役に立ったとは思わない。

- 何を学ぶにしても自分が意欲を持って取り組まないと意味がないと感じた。
- 授業名と実際の授業内容が違いすぎるのがあった。
- もう少し強制的に学生に勉強させてもいいのではと思った。
- 工学部はどうしてもB群科目に力を注がなければならないのでA群科目はただ単位を取ることを目的に受講していたような気がする。だから、もっと自分の興味・関心のある授業を受講すればよかったと思う。
- 上回になるにつれて専門科目が増えてくるので、良い意味でも悪い意味でも勉強が専門分野に偏ってしまいます。それに対して、1回の間は全学共通科目がほとんどです。周りの友達の中には、自分の進路の専門分野とは関係がないから単位さえとればいいと言い出席はせずに、定期テストだけ受けて合格している人もいました。このように過ごすことで得られることも多いと思います。しかし、講義を聴くことで得られることもたくさんあります。僕の場合だと、例えば、学生紛争について少し詳しく知ることができたり、日本国憲法の概要を理解できたりと間違いなく知識は増えます。それだけでなく、教授がたまに知識だけでなく、自分の考えを話してくれることもあります。人の考えを聞くのは面白いもので、特に自分と違う意見を聞いた場合は新しい発見ができることが多いものです。このように、他人、しかも自分よりもかなり長く人生を経験している先生方、の知識や考えに触れることで、自分の今までの価値観や人生観というもの少なからず変化します。その変化が自分にとってプラスなのかマイナスなのかはわかりませんが、とにかく自分の価値観が変化するのはなかなか面白いです。僕は履修していただきたいの授業に毎回出席しましたが大学入学時のときと性格が結構変わったように思います。大分落ち着きましたし、自分から積極的に行動して色々経験しようとするようになりました。これが講義を受けていたことによるものなのかは微妙ですが、何かしら影響を受けたであろう講義はいくつか思い浮かびます。しかも、この変化は僕にとってかなりプラスになっていると思います。毎日サークルに行くとか自学自習するとかも自分の人生にとってとても大事になるとは思いますが、たまには違った経験として講義を聞いてみて自分を磨くのもいいと思います。もちろんいつも講義に出ている方はそこから何か感じとれば単位を取る以上に意味があると思います。2回になった時に有意義だったと思える1年を過ごして下さい。僕もこの1年も自分のためになる年にできるよう頑張ろうと思います。
- 同じ科目でも教員によって教え方がかなり違う。クラス指定科目で教員を選べないのに教え方にばらつきがあるのは不公平。クラス指定科目では教員を評価するアンケートが毎学期末に行われていたが、それがまったく反映されていないと思う。実力のない教員を大学側でもっと指導してほしい。
- ゴルフ難しいです。
- 先生方ともっとコミュニケーションできれば面白いと思います。
- 大学というものが感じられた。
- 思ったより、自分で勉強しなければいけないと思いました。
- それなりに高い学力はある人が集まっている。しかし楽勝科目で単位を稼ごうとするずる賢さのある人たちが大半で、本当に賢い人が少ない。そこらへんがちょっと残念です。
- 全学共通科目だけれども、本当に面白いところはちょっと専門的になってからだと思うので、基本的なことだけでなく、ちょっと応用まで踏み込んでお話いただければ、と思いました。
- 哲学を一度も学んだことがなく、哲学基礎論を受講したが、専門的すぎて理解しづらくもっと包括的に教えてほしかった。研究されている分野であるので、ある程度高度で専門的な内容になってしまうのは否めないが、もう少しわかりやすくしてほしかった。
- 興味が尽きることは無かったが、如何せん、自らの怠慢がひどく、後期には興味を引かれた授業

もなおざりになってしまう始末で、もっとちゃんと授業に出ていけばな〜と後から思う授業が多く、今年は怠慢な生活から脱却して、しっかりと勉強していきたいです。

- 授業内容や成績評価、担当教員の意識などを考えると、単位しか得るものがないという授業が残念ながら多かったように思える。単位以外の何かを得られる授業を多く設置してほしい。
- なんとなく単位を取るだけのために受講した科目もあり、果たして自分のためになったのかは疑わしい。それでも、自分の専門外の授業を聞いたりすることで、様々な分野の知識を得られたことは良かった。
- 自主的な態度で授業にのぞまないと、何も得られない。
- いろいろなことを学べる良い機会だった。
- 楽しい科目は楽しくて、この大学に来てよかったと思える。
- 前期後期連続で日本国憲法と体力医科学の抽選に落ちたので少なくともどちらか一方はとれるように授業を増やすなり工夫してほしい。
- 自分にとって将来必要な技能を磨くための足掛かりになるための講義と興味はあるけれどもそれまで全く知識のなかった分野に関する講義を同時に一週間のうちに多数受講して大変でしたが、周りのことに関する視野を広めていくことができるようになったと思います。敢えて知識がゼロの状態で教員・同学生との会話に参加することで却って純粹に講義を拝聴することができ、一層理解に努めることができました。
- 専門分野へ進む前段階における一般教養の重要性。教養を積むことによって、専門に進んでも多角的な視野から物事を観ることができるとおもう。
- よい人間関係が築けなかった。
- 工学部なのでB群には興味をもって取り組めたが、A群科目で宿題等を強要されたことに疑問をもちました。
- 理系科目における質問や疑問に答えてもらえるような環境が少ないので、勉強に困った。
- 今まで、知らなかったことへの理解。
- さまざまな教科を学習できたことは、幅広い教養を身につけるための基礎となったと思う。
- 受験に縛られない色々な内容が学べて楽しかった。
- ただ単位をとればよいと思えるような中身の授業が多かった。
- 面白い科目が少しはあるので、良しとします。
- 大学における理系基礎科目は、高校までのものと比べて遙かに複雑で難解なものだと言うことが分かった。同時に、その難解なものが正確に理解できた時の喜びも格別であると感じた。
- A群科目は、自分の進路とはあまり関係が深くないものが多いが興味を持てるものが多く視野が少し広がった気がする。
- 入学前に期待していたような、学習意欲を掻き立てる、あるいは興味深い話題を提供してくれる講義が少なかった。
- 専門の理系科目より、今まで触れることのなかった、政治学、社会学、の講義が興味深かった。著名な先生方の生の講義は受ける価値があった。理系の教科については、極論自分で教科書を読めばよい。
- はっきりいって同回生の中でもかなり真面目に授業に出ていたと自負しています。だから、京大に入って全学共通科目を受講して、知識に幅が生まれてきたと思います。はじめてパンキョーの冊子もらった時は圧倒されたけど、やっぱり自分の興味のあるのはほんとに数ページでした。その数ページの中にもいろいろ取捨選択して履修したところ、今年度の成績のようになりました。履修登録後に興味のなくなったものもあれば、聞いていくうちに引き込まれるものもありました。

まあ、程よく履修できたのではないのでしょうか。とりあえず、迷ったら履修しておくのがいいと思いました。

- 受講人数が多すぎる。
- 勉強することで、生きる上で一体なんの役にたつのかと思うようになった。
- 仕方がないことですが、理系の学部ですとやはり理系科目にしばられて自分の好きな授業をとれないことが多くありました。そのため、興味はないが単位をそろえておくために出なければならぬ授業もありました。もっと自由に選択できれば、もっと熱意を持って学校に行けると思います。
- 全学共通科目のせいで、自分の専門分野の勉強がおろそかになっていたと思う。
- 努力するものが報われるかどうかはわからないが、努力しなければ報われることは絶対はない。
- 自分の知らなかった世界を知るきっかけとなる授業がいくつかあり、新鮮な感動を覚えた。
- 教員の授業に対する熱意がほとんど感じられなかった。
- 多彩な講義がそろっており、刺激を受けることが多かった。
- 本気で受講し、勉強したいのに抽選に漏れ、逆にやる気のない単位だけ欲しい～という人が当選し授業に出ないというのは腹が立った。仕方ないといえば仕方ないことであるが、どうせ減るとわかっているなら抽選をせずに受講できるような仕組みが欲しい。
- 学力別のクラスなど、もっと生徒の学力に応じた授業を実施してほしいと思う。
- 全学共通科目の中には、学生の役に立たないような授業がたくさんありました。それはあまりいいことではないと思います。ただ、逆に有意義に感じさせるようなとてもいい授業もたくさんありました。
- 大学で何かを学び取る上では、主体性が鍵となる。全学共通科目にしても、専門科目にしても、大学は学ぶ機会を提供しこそすれ、強制はしないので、興味を持った分野については自分で調べて独習する努力は必要であるし、そうしなければ社会に出て行く上で必要な学力は身につかないと思う。
- B群の勉強量に比べA群は気楽に講義に参加できた。興味を沸かせるような授業は少なかった。ただ非常に勉強になった授業もあった。
- 自由だと感じた。
- 自分の知る世界は非常に狭いということに気付いた。大学の間に積極的に多様なことを学びたい。
- 担当教員の熱心さを感じる科目はどれも積極的に参加する気になれた一方、「担当教員がただボソボソと話しているだけ」と感じてしまうような科目もあり、そのような科目は履修して損をしているような気になった。やはり教員の熱心さは、どの科目を選択するかを決定するにあたり重要な要素であると感じた。
- 担当の教員によって、同じ科目でもかなり難易度に差があると感じた。
- あまり授業を聴いていて興味をそえられることがなかった。もっと学生の関心をひくような授業をしてほしい。
- B群の科目をもっとがんばればよかったと思う。
- とりあえず眠い授業が多い。もっと関心をひくような授業を展開する先生が増えたら良い。
- 工学部のクラス指定科目で2クラス以上が合同の際、共北の教室では狭かった。計算上では全員が座れるのだろうが、自分のかばんを隣の椅子におく馬鹿のおかげで座れないときがあった。それに再履修する人間がいることも考慮に入れて欲しい。
- 勉学がこれほど難しいものだということをまざまざと思い知った。
- 特になし。
- 前期の半ばで勉強に対する意欲を失った。授業がいきなり難しすぎたのが原因。後期が始まるに

当たりやり直そうと思ったが無理だった。学校をサボりがちになった。ただ物理学基礎論Bだけ頑張ったつもり。1年が終わりなんか気持ちが釈然としなかったので2回生では頑張ろうという気持ちになった。

- 特にC群の第二外国語に関して。本当に、もっともっと単位認定を緩くして良いと思う。大学には第二外国語を勉強してきた訳じゃないのに、1回生の頃はこれに最も時間を割かれて、かつ、単位を落としたので……。そのせいで、他の科目（専門とか）のモチベーションが落ちるくらいなら、もっと単位認定をゆるくして欲しいです。
- 仕方の無いことではあるが、履修した科目が全て自分の知的好奇心を満たすものではないというのは辛いことだった。
- 地理に関する講義を多く受講したかったが、他の講義との兼ね合いであまり多く受講できなくて残念だった。
- 教授にはエライ方が多い。
- 前期は自分の興味のある授業をとり、後期はいわゆる楽勝科目ばかりとった。やはり前期のほうが面白かった。
- 大学の授業の難しさ、楽しさを感じた。同じ科目でも、やはり教える人が違えば成績評価の基準も違ってくることを感じた。
- 長期的に物事を捉えないと勉強に集中しにくいと思った。
- 京大の自由という校風が良くも悪くも教授の授業に影響していると思う。
- 黒板の字が小さくて見えなかったり、教員の声が聞こえなかったりする授業があるので改善してほしい。
- B群の授業の質が悪いと思います。授業中に教授が教育は二の次で研究が一番と言ったのには正直あきれました。授業自体に熱意をもってしているとは思えません。
- 基礎知識はついた。
- 同じ科目でも指定されたクラスによって授業の質や試験の難易度に違いが生じる点は、もう少し平等になるように努めてもらいたい。また、A群の授業に対して勉強する意義があまり見出せなかった。
- 単位集めの目的でとった授業でも、出席を続けるうちに興味を持ったものも多く、ある程度意味はあったと思う。
- たんとんと授業をこなしている教授が多いように思えた。もう少し生徒を見てほしい。
- A群はあまり興味深いものがなく退屈だったがB群は基礎学習に役に立った。
- 教員によって熱意の差がありすぎる気がしました。
- 教科書と授業中の板書だけでは内容が理解できないことがあり、焦りを感じた。
- たいへん有意義でした。
- 幅広く専門的な内容もあり、大学ならではの授業であると感じた。しかし、授業にあまりやる気のない先生がいるのも事実だった。
- 講義ごとで評価が異なったり曖昧であったところにとまどった。もっと学生が興味を持って講義にでられるようにしてほしいのとクラスサイズをもっとうまくしてほしい。
- 特にないです。
- B群や、専門科目の授業が、授業に出ていても、わけがわからないものが多くて、授業中はわけのわからないままノートとるか、居眠りをしてしまうかだけだった。指定の教科書も、わかりにくかった。僕は理系だが、B群や専門はちっとも面白くない。入るべき学部学科を間違えた気がする。別の学部学科の方に興味がある。

- とくになし。
- 教員によって授業の質に差がありすぎると思った。自学自習が基本だと感じた。
- 勉強って大事だなと思った。
- 一般教養は、専門分野以外のことが気軽に学べてよい刺激になった。一方で、理解不能な（理解したくないような）講義をする人もいて、まあこれが大学というものなのか、と感じた。
- それなりに楽しかったです。
- 様々な授業を受けることで、特にA群の授業において広く知識を得ることができたと思う。この知識が定着してるかどうかは定かではないが、一度聴いたということ自体に意義があると思った。ほんとうに自分は知らないことだらけだということがよくわかった。大学の授業は教科書が指定されていなかったりすることがあるので、自分で学習するということを学べた気がする。
- 集団授業の限界を感じました。
- もっと多くの人に興味を持ってもらえるようなA、B群の科目をたくさん作ってほしい。あと工学部でもできるだけ自由にB群が取れるようにしてほしい。
- 私生活の問題に頭を抱える毎日で、残念ながら授業に集中できなかった。2回生からは気持ちを新たに学業に励みたい。
- 面白い授業を受けることができてよかった。
- 教授に熱意があり、板書が見やすかったり、学生が興味をもちやすいように配慮されている授業もあった。だが、そうでない授業もあったので高校のころと違い、自主的に勉強しなければならないと感じた。
- 後期は特に、自分の立ち位置というか、生き方というか、いろいろと迷いが生じました。そのことで、授業には出れなかったときもあったけど、今、そのことについて考えておいてよかったかなと思っています。
- 私がレポートの最後にお勧めの言葉と共に記した文献を教員が読んでくれて授業連絡メールで感想を伝えてくれた時は素直にうれしいと感じた。
- 専門外のことも学べてよかった。
- 様々な分野が研究対象になるということが1年間でわかった。
- 全学共通科目に対して、勉強するという目的と単位をとるという目標が入れ替わってしまっていた。もっと早期から、勉強に対する姿勢を見直すための時間と冷静さを持てばよかったと思った。今後は専門課程が多くなり、勉強に関して理解力・勉強量の不足からくる憂鬱さに悩まされると思うが、友達との交流や意見交換を通して、モチベーションをあげて乗り越えていきたい。
- nothing.
- 勉強形態の変化に対応するのが大変だった。
- 心理学や哲学など自分の専門以外の分野に興味を持つことが出来ました。さらに自分がいろいろなことを知らないと気づかされたのでこれからも専門以外の知識に関心を持ち続けたいです。
- B群の授業は基本的に言っている意味がわからない。すべての授業に出たが、授業は単調でつまらないし、そもそも言っている意味がわからないので、ノートを取るだけの授業になり、結果教科書とは違う高額な参考書を買って自分で勉強するはめになった。ゆとり教育の流れもあるのだから、もう少しわかりやすい授業であればいいと思った。教科書を使って授業をしてほしい。
- A群とB群の単位のとりやすさが違いすぎて不平等を感じる。
- 全学共通科目は専門科目を学ぶ上での基礎になったと思います。特に、物理学実験はレポートも多く、大変な科目でしたが、2回生以降の専門科目の実験に役立つ知識・技能が身に付いたと思います。

- A群科目は「～入門」と銘を打っておきながら教授が専門的な内容ばかりをただべらべら話すだけの授業が多く、総じてつまらない。B群科目のそれとは大違いで、改善すべき点だと感じた。
- ただ単位をそろえるためだけの般教が多い気がした。教員は、関係のない分野の般教も何か研究の刺激になるはずだといっていたけれど、まだ何を研究するかを決めていない人も多いだろうし、刺激もくそもないと思う。あとは、自分の興味のある分野の講義が少なかったり、「神講義」と呼ばれる内容のない講義だったりして残念だった。
- 面白い授業とそうでない授業の差が激しかった。
- B郡が難しい。
- 授業に出るのはめんどくさい。
- 自分の専門以外のことで様々なことが学べてよかったです。
- 専門科目の予備知識が身に付いてかなり必要なものだと思われた。
- まあまあ学業に興味があった。
- 受講者数と教室の大きさがあっていなかった。
- なし。
- いろいろな人がいるものだ。普段は寝ている、欠席する、早退して、テストのときだけ頑張る人・楽勝科目というだけで授業を選ぶ人など……。なんのために勉強しているのか。ただ単に単位を取りたい、というのはあまりにも空しい。
- 受講した授業の単位は、試験の出来に自信がなかったものもあったけれども、すべて取れていたのよかったです。ただ、単位が取れていたからといって、自分自身に何か知識や実力がついたかという、ほとんど実感がなく、今後の学習において少し不安。自信がない科目や、自信があるつもりだったけれども成績がそれほどよくなかった科目については、ある程度復習する必要があると感じた。
- わたしはあなたがたに超人を教える。人間とは乗り越えられるべきあるものである。あなたがたは、人間を乗り越えるために、何をしたか。およそ生あるものはこれまで、おのれを乗り越えて、より高い何ものかを創ってきた。ところが、あなたがたはこの大きい潮の引き潮になろうとするのか。人間を乗り越えるより、むしろ獣類に帰ろうとするのか。
- 比較的簡単な内容に限定されてしまいますが、高校ではただ覚えるだけだったような範囲をある程度理論的に説明できるようになった事を嬉しく思っています。
- 最初はあまり興味のなかった講義もだんだんと聞き入るようになった、という科目もあった。学生の興味を引くような講義は楽しいし、関心も生まれるのでいいと思った。
- 工学部の1回生はクラス指定科目が多く、受けてみたい授業が被ってしまいとれなかったりした。そのためか、アンケート問3問4の満足した科目、不満だった科目が想像できなかった。何のための1年間の授業だったのだろうかとかさを感じる。他の人も様々な理由、例えば人数オーバーなどで受けたかったがとれなかった授業も多々あるだろう。また勿論、僕の知らない魅力的な授業もたくさん残っているだろう。これからの1回生には、話が面白い、ためになる、楽勝などなど、授業ごとにどんな魅力があるのかを紹介できる場があればいいかなあと思いました。
- 成績の付け方が本当に適当だと思った。出席している人間としていない人間との間で、差が生まれないのはどうしてなのか、理解に苦しむ。
- 部活優先で、あまり熱心に授業を受けなかったのが心残り。
- 専門的な学習の基礎になるような学習が出来た気がする。
- 授業があまり面白くなく、むしろ授業に出ない方がよく分かるものもあり、とても残念だった。もっと意味や内容の濃い授業をしてもらいたい。

- もっと自主的に勉強すべきだった。今年からは変わります。
- 大学での講義は高校までの授業とは全く違うものだったので、慣れるのに時間がかかった。
- 単位の取りやすさだけを考慮して科目を選んでしまった感がある。今思えば、もう少し自分の興味を優先して科目を入れていけばよかったかもしれない。
- 理系の授業では、この世の中の現象を紙の上で計算し予測しさらにそれがきちんと実際問題当たっていることに感動した。文系の授業で政治学、こころの科学を受講して、やはり人間というもののは合理的であってそうでないのだと実感した。
- 先生の熱意が感じられない授業が多かった。
- 興味を持てる科目が多かったので、充実した学習が行えました。
- 高校の時にはなかった、心理関係、視覚関係の講義は新鮮で、大学生活を営んでいく上で、心地いい刺激となった。また、専門科目に向けての入門的な内容の講義を受講し、その分野に対する関心が深まっていき、ますます励みたいと感じた。
- 教員が自分の好きなように、かつ学生の反応を気にせずに授業を進めていると思う。もっと学生が授業にのめり込むように、たとえばジョークなど交えながら、楽しく学習できるようにしてほしい。今の授業なら授業中に学生が話を聞いてなかったり、寝たりする気持ちもわかる。
- 科目によって教授のやる気や単位の取りやすさにばらつきがありすぎると思います。
- 入学当初、自分は京都大学に入学してさまざまなことを学ぼうと非常に学業に対する意欲が高かったです。しかし、実際、授業を受けてみると自分の思い描いていたような授業ではないものが大半であり、退屈なものが多く、結局、大半のA群科目や数種のB群科目はただ単位を取りに行くだけで何の知識も吸収できずじまいでした。その反面、基礎有機化学や基礎物理化学などの工業化学科の専門的知識を学べる授業は非常に楽しく、さらに深く学びたい（学ぶことになりました）という気持ちになりました。
- 大学は勉強するところではない。
- 適当な感じがちょうどいいと思う。
- 興味深い授業が多くてよかったです。
- 取り敢えずレポートを出していただけでは単位は貰えないんだな、と思いました。特に苦手な文系のA群科目では興味があんまり持てないので、苦勞した割には単位取れなかった。やはり、苦手じゃない科目を取るべきだった。
- 種類が多くて選ぶのが大変だった。
- A群科目は幅広く興味深いものが多々見られた。理系にもかかわらずアラビア語を履修出来たのは、貴重な体験であると思った。物理系の科目での放任的態度がやや目立った。大学であるのだから自学自習が基本なのは当然のことであるが、今日のような積極性に乏しい学生に対して相応しい態度とは思えない。
- 経験社会学の授業形式はよかったです。
- 全学共通科目の一番の特徴である自分の興味に関わる分野を幅広く学ぶことができ、将来考えている進路以外の分野を知ることにより関心の幅を広げると同時に進路のイメージをより具体的なものにすることができた。そして何よりも専門科目よりも選択の幅が大きいので選んだ講義に対して楽しく意欲的に取り組めたのが一番良いことだった。
- 勉強の仕方が今までのやり方と全然違って大変戸惑ったが、1年間過ごしてだんだんとどのようにやればいいのかわかってきた。とりあえず真面目に勉強した科目はどんなに難しくても理解はできなくても、少なくとも単位は取れることも分かった。
- 今まで触れたことのないような分野について学ぶのは非常に面白かった。難しい内容が出てきても最後まで講義を聞いて理解することを通じて精神力が養えたと思う。

- 様々な考え方、世界があるということを知りました。
- 専門に関わるような科目は興味を持って受講できたが、A群科目などは実際はあまり興味を持ってなかった。
- あまり面白くなかった。
- 卒業単位として認められるB群の科目数を増やしてほしい。今所属している工学部工業化学科だと、卒業単位として認定されるB群の科目が19科目と制限されている。2年になってから合格しても増加単位になるB群科目を自分の興味から敢えて取っているが、自分の専門との関係が強いと感じている。工業化学科生の卒業単位の認定に関しては工業化学科が責任を持つものとは思いますが、学生の学習意欲を上げる意味でも、卒業単位として認定されるB群の単位数を増やしてほしいと思った。
- 全学共通科目によって今から必要とする教養はもちろん、今までにない教養について触れることが出来た。このような広い見識を得ることは将来を考える上で大変重要だと感じた。そこには様々な人とのつながりも重要となってくる。全学共通科目の受講はそのような機会を得る絶好の場である。それを生かすも殺すも自分次第・・・自分はあまり生かせなかったように思う。悔いの残ることである。ポケゼミを敬遠したことも大きいだろう。
- 高校のときより高度な知識が得られてよかった。様々な分野の学問に触れられていい体験だったと思う。
- 内容が難しくついていけません。特に物理が。
- 総じて眠い講義が多かった。
- クラス指定科目が多かったため、とくにA群科目に関しては自分の興味関心というより、取れるものをとりあえず取るといった具合であった。また、授業に全回出席し、勉強したにもかかわらず単位を落とした科目があったが、同じ科目で授業に出ずに単位を取得した者がいたなど、少し報われなさを感じたこともあった。やはり全学共通科目は、単位などを気にせずに自分の興味関心だけで勉強したいと思いました。
- 自分の好きな授業を選べるのかと思ったら、B群は学部から単位認定される科目や必修科目のようなものが決められていて、実質的に選択の余地がなくて残念だった。
- 何事もやる気次第。
- やはり京都大学の噂通りの学生を置いてけぼりにする授業だと思った。
- 大学でやる内容は難しいものが多く、勉強するのに苦労した時が多かったのですが、どうにかついていって、はやく専門的なことができるようにがんばりたいです。
- 先生のやる気があるのかわからない。やる気があってもそれをわかりやすく説明しようとする努力を感じられず、専門的な難しいことを一方的に説明し自己満足に終わっているように思える。数学、化学、物理などは予備校の講師のような人を望む。
- 全学共通科目を履修することで、自分の勉強方法が身に付いた気がする。また、まだまだ未熟であり、様々な先生方から教えていただくことはたくさんあり、こういった謙虚な態度は日常生活でも活かしていきたいと感じた。
- これまでとは殊更違い、一度講義を聞いた限りではあまり理解できてないことが多い。だからこそ、時間外に参考書を参照しながら勉強しなければならいが、その代わりにわからないことが理解できたときの喜びは一入である。
- 自分の勉強への熱意の減衰が感じられた。
- 専門外の事柄についていろいろと学べ、考えることができよかった (A群)。
- 昔のように勉強することがなくなり、残念でした。

- よい講義もたくさんあるが、その反面あまり興味をひかれない講義もあり、それらが学部の指定クラスだと、少しきつい気がする。
- 専門の講義と時間が重なってとりたいと考えていた講義をとれないということがあったので、それが少し残念でした。
- 同じ科目でも担当教授によって、難易度が違いすぎる・・・。共通のテストでいいと思います。
etc...
- 微分積分学など今まで学ぶことのなかった話を聞き、勉学の上で基礎の分野がいかに重要かを学んだ。また英語Wではほとんどの参考書等で意図的に抜けている(もしくは筆者すらうまく説明がつかず放置している)箇所の詳細を説明していただけて、今後の勉学の励みになった。
- 思っていたより学生の出席率が高かった。
- 自分の専門以外のことを学ぶのはとても面白かった。特に、A群科目では様々な教養を身につけることができたと思う。今後、卒業単位に関係がなくても、教養的な学習は継続していきたい。
- ただ話を聞くだけより視覚科学のように実体験しながら勉強の方が身が入ると思いました。
- 工学部は授業選択に自由が利かないことに不満を覚えました。以上
- ・はじめ…やる気に満ちていた
・終盤…単位が欲しいと切に思った。
- 1年間の全学共通科目の受講によって、社会問題や身の回りの問題についてより関心をもてるようになった。具体的には言語学、経営学、法学などの科目になるが、言語学では最近問題とされている日本語の言葉遣いの問題、経営学では昨今よく報道されている不況やM&Aの問題、法学では会社法に関する内容といったように、身近にあるものあるいは身近で問題になっているものが題材となっている科目を多く受講した。入学当初、学部の履修要覧でA群の必要単位数の欄を見て「こんなに受けないといけないのか」と思っていたものの、今となっては「これだけではまだまだ足りない」と思えるようになった。A群の必要単位数は1年間で揃ったが、今後も興味のある問題について積極的に履修していきたいと考えている。
- 第二外国語が難しい。
- 眩い光を放つ方々が駆け抜けている遙か前方を指を咥えて見やりながら、僕は先の見えない暗い道を、脅えて足を震わせて、オドオドと、おそろおそろ前に一步一步足を踏み出していきます・・・足の踏み出した先にきちんと、地面の感触があれば、安心してそして自分に自信を持って進んでいくことができるのですが、踏み出した先に何も感触がなかったりしたり、必死になって前へ進んでいるつもりでも、ふと気がつくとも何も進んでいなかったという事実をつきつけられたとき、悔しくて、悲しくて・・・前へと進むことができないように思われてしまう瞬間が確かに存在します。
でも・・・そういう問題は自分自身で解決するしかないことなのでしょう。結局、この感想は少しタイポエム以上の何物でもないのですが・・・とりあえず、2回生になって、時間割が合えば数学質問コーナーにいつてみようと考えています。
- 工学部生の私の場合、全学共通科目の中にはあまり興味を持てるような科目がなく、またあったとしてもそれがB群で単位に認められないものだったりしたので、結果として全学共通科目は単位をとるために履修するという形になってしまいました。
しかし、その中にも講義を受けていて「あ、これは面白いな」と思えるようなものがあり、幅広い知識を身につけるとまではいかないまでも、自分が今までまったく知らなかった学問分野に少しでも触れることが出来たのはよかったと思います。
- 大学の数学は面白い。
- 今まで全く知らなかった分野に触れることができ自分の世界が広がりました。

- 興味のある科目が専門とかぶってたりして受けられなかったのが残念である。
- 1時間半は長い。とてつもなく、長い。つまらない授業に対する怒り、そして諦念。結局1年間堂々巡りして得た結論は、自分が必要な知識は、自分で調達するしかないという、至極まっとうな結論だけだった。それなら、京大じゃなくても良かったのでは・・・？それだけは、考えないようにしている。
- これは専門科目にもいえることなのですが、期末試験の答案を返して欲しいです。多くの場合、期末試験や期末レポートは授業で習った事柄をアウトプットできる貴重な機会です。しかし今現在のシステムでは、そのレポートに対して返ってくる評価は点数でしかなく、どこが正しくてどこが間違っているのか、それさえ知らずに授業を終えることになります。教員の方の事情、またその他多くの困難があるのですが、これは是非実現してほしいと考えています。
- 全学共通科目で面白そうだと思った科目のほとんどが、卒業単位として認められないものだったので、敬遠してしまった。卒業単位にみとめられるものを増やしてほしい。
- B群科目が指定されていてつまらなかった。もっと興味がある講義を取りたかった。
- 時間の有限性。
- 工学部だとB群が指定で埋まるので、専門外の分野に行く気が失せたり（私は情報系ですが、例を上げるなら生物など）して、そこら辺は微妙だったかも。
- どちらかといえば授業にはちゃんと出ることが多かったが、自習を怠っていたため、有意義だったとは言えない1年になってしまった。次は、もう少し頑張りたいと思う。
- 理系科目の質問をしにくかった(先生方が本部にあまりいらっしやらないため)。
- 受講してみて、予想以上に自分の好奇心が刺激される授業もあり、考え方の幅が広がったと思う。
- 物理や微積を久しぶりに解いて、解けたとき嬉しかった。
- 単位をとることを目的に登録する授業もあった。あとから考えると、もっと積極的に学んでおけばよかった・・・など気づくこともあるのでよい経験になったと思う。
- 工学部なのでB群のクラス指定科目等でコマがほとんど埋まってしまい、興味の赴くままにA群科目を受講できなかった。B群で、淡々と説明していただく・板書が読みづらい・汚いような授業は、勉強する気が失せる。
- 入学当初は、自分があまり興味を持っていなかった科目も積極的に授業を受けようと思っていたが、次第に授業がつまらなくなり、結局出席しなくなっていく。もともと関心のあったものに対する授業に関しては難なく続けられたので、やはり興味のあることを追求していくのが望ましいのかなと思った。
- これは共通教育推進課に訴えることではないかもしれませんが・・・単位認定されるB群の授業の内容にもっと幅があってもいいのではないかと思います。
- A群、ポケゼミは非常に興味深く、得るものがあつたと感じました。B群は高度な内容が多く、ついていくことができませんでした。
- 大学は難しいなあと思った。
- 幅広く様々なことを、その分野の専門の方から学べるのがとても楽しかったです。
- 結構楽しかった。
- 興味を持たば持つ分だけ、手ごたえを感じました。逆にボーっとしていると何も得られないので、これからは注意しようと思いました。
- 専門ではないA群教科の勉強ができて、今まで知らなかった世界に目を向けられたのがよかったです。参考図書や課題が出されるとその後自分で勉強しようとするきっかけやヒントになるのでいいと思いました。

- 楽勝科目などで時間割を埋めるのではなく、自分が興味を持った分野に関する授業を積極的に受講すべきである。
- A郡をもっと履修したいですが・・・。
- はじめは全く興味がなかった分野の授業も、話を聞いているうちに面白いと感じることができました。一方で本当に勉強したいと思っていたことがあまり熱意のある先生の授業ではなかった(クラス指定)のが残念です。
- 大学に入学する前に想像していた授業形態とはかけ離れたものだった。B群科目は専門に近いので、ある程度自分の中で努力しようとしていたと思う。大学の教授が思う、持っているはずの知識が欠けている部分もあり、どうしてもわかりづらい授業も多かった。前期にポケット・ゼミが設けられているのはとてもよいと思う。A群は単位が取りやすそうなものを取る方向に走ってしまった。しかし、自分が少し勉強しようと思いついた英語講義「幸福」ではさまざまなことを考えるきっかけができ有難く思っている。どれだけ恵まれていても何を取るかを主体的に選ばなければ生かすことはできないのだと実感した1年だった。
- その講義に興味のある人だけが集まるので、友達ができやすかった。大教室で教員が延々話し続けるスタイルが、意外と気に入っている。
- 授業の中身が充実している科目が非常に少ないという印象を受けた。また、単位の取得があまりに容易な講義が多いことに若干手応えのなさを感じた。もう少し宿題などの課題があっても良いのではないかと思う。単位認定はされたものの、何を学んだのか振り返ると教養として身に付いたものは少なかった気がする。(単に、自分の努力不足が原因なのかも分かりませんが。)ただ、その中にも非常に興味深い科目が幾つかあり、教員の熱意と比例する部分が多いのではないかと感じた。
- 工学部なのでなかなかクラス指定科目以外の時間が限られていて、もっといろんな科目が取れたらよかったなあとも思います。
- A群科目は自分の興味のある講義を受講できたので、とても楽しかったです。B群科目に関しては、指定されていて選択の余地がほとんどなくて残念でした。また、難しいものが多くて大変でした。

7. 10 農学部

- 当初自分が考えていたのと違う内容の講義もあったが、それはそれで講義を聴いていくうちに興味を持つことが出来た。
- 結局、自分から積極的に学ぼうとしないと何も得られない。
- 楽に単位の取れる科目となかなか単位のもらえない科目のギャップが大きい気がした。
- 様々な分野の講義を聴く中で、自分のやりたいことを見つける手掛かりとなったことが数多くあり、とても有意義だった。
- 専門の少なさががっかりだ。
- 「近い将来役に立たなそうな勉強」に興味を持てた。本を読み返したら、理解の度合いが半年前より上がるかもしれません。
- B群の授業を比較的多くとっていたのだが、その多くが文系の生徒に考慮した内容ではじめのほうが非常につまらなかった。一人の教員が一つの授業をずっとやっていくならまだしも、後期金1「応用生命科学」はリレー形式50分ではただ眠くなることしか出来なかった。同じリレー形式でも前期月1の「生命現象の生物物理学」は文系の生徒を無視していて良かった。無駄な考慮は文系、理系にも良くないと思う。
- 自分の不真面目さにほとんど嫌気がさしたので2年はがんばりたい。
- 専門科目だけでは絶対に学べないさまざまな分野の内容を知ることができました。

- 出席をとくくだらない講義が多すぎる。出席を強制したいなら、出席とるのではなく、おもしろい講義を提供なさい。
- 理系、文系にとられず色々な講義を受けられたことは、非常にために成ったと思う。リレー講義では一コマでは伝えきれないような分野を無理矢理押し込めている感が否めなかった。
- 自学自習にもっと励まなくてはならないと感じた。多くの人に自ら本を読んだり、実際に見たりして学ばなければならいと教わった。授業はむしろ補助的だと。
- 自分にとって興味のないもの、あるいは文系の科目はあまり熱心に授業を聞くことができなかった。逆に、興味のあるものや自分のためになることは授業を聞くことができたが、内容は難しかったので理解度は低い。専門になれば熱心に勉強するようになると思う。
- 去年1年間の全学共通科目より今年全学共通科目の方が、自分の興味・関心に合ったものが多かった。
- 結局のところ、大学での勉強というのは個人の裁量次第であるということを感じた。学ぼうと思えば基本的に学べる。しかしながら、それをこなすという単純なことがなかなか難しい環境でもあると思う（もちろん私自身の甘さがその大半を占めるのだが）。ポケゼミや集中講義などはとても興味深く、ゼミを除けば距離を感じざるを得ない教員と食事を共にしたりしながら話を交えられるのは研究マインドが比較的高いはずである入学直後には最適な講義であると思う。幅広い教養科目から好きに選ぶことができる京大の履修形式自体は私にとってはとても満足でした。ひとつひとつの授業、あるいは講義環境(とくに4共の一部の授業)を考えればいくらか思うところもありますが、提供している全学側の問題ではなく各教員や学生の問題だと思うので、とりあえず自分が後ろめたさがない程度に勉強に臨まないと文句は言えませんね。単位は(語学以外)集まりましたが、今後ともいくらか自分の興味のある全学共通科目には顔を出そうと思うのでよろしくお願いいたします。
- 授業内容への興味如何にかかわらず、教官の情熱を感じることができる授業は楽しむことができ、良い授業だと思った。
- クラス指定の科目はクラス指定ではないものもできるだけ作ってほしい。
- 生徒のやる気のなさに不満。
- 自分の予備知識や常識がないことがわかった。
- 結局のところ一番重要なのは自分で勉強することであるということ再認識しました。あと、京大でも授業中に平気で私語をする人がいるというのが驚きでした。カンニングが横行しているのも問題だと思いました。どちらも学生の質の問題ですが。
- 学業は自由が多く、学業以外のことにも幅広く挑戦する機会は多くてよかった。しかし、自由なだけに友達との関係は薄かったような気がした。
- 大学で学べる学問領域の広さを改めて感じ、自分の視野を少しでも広げることが出来たと思う。
- やる気がなくなったわけではないが、日々を漠然と過ごしてしまった様に思える。
- クラス指定のせいで、とりたい授業がとれなかったことにははげしく憤りを感じる。おかげさまで、入学してすぐやる気をなくしました。そして語学は自分でやるからいいので、とりたい授業をとらせてほしい。TOEIC 何点以上なら、ロシア語検定2級なら授業免除など実施してほしい。あとは2重登録も可能にすべきだろう。理学部ができて、なぜ農学部はできないのか？
- たとえば、基礎生物学の授業など、シラバスには生物未履修者対象と書いてあるのに知っている前提で教える教授が多い。
- 学部を越えて、受講することができたのでより多くの人と交流が持てて、楽しい物だった。
- さすがは京都大学であった。教員の方が、それぞれの信念・価値観(Academic な面で)を持って

いることが講義中に感じられた。刺激的な授業は、僕が視野を広げるのに格好な材料であった。

- 好きなことを勉強する楽しさを知るとともに、上回生になって勉強する内容の基礎を身につけることの重要性を知った。
- 京都大学では多くの全学共通科目があり、いろいろな分野の研究を知ることができました。去年1年間で考え方も変わりましたし、知識も増えたと思います。
- 最初はあったやる気がどんどんなくなっていくのを感じました。私自身にとって、自由な環境は完全にだめな方向へ作用してしまいました。もちろんやるかやらないかは自分次第なので非は自分自身にあるのですが、モチベーションを維持するためのなにかがほしかったのも事実です。そのなにか、やはり一番身近な授業で提供してもらえるとありがたかったと思います。授業にでなくなった原因は授業にでてもつまらない、さらにでなくても単位が降ってくる。この二つが大きな原因だと思います。もっと教員が熱意をもって参考になる話をしてくれるのであれば授業にでていたと思うし、また出席が必要な授業であればでていたかもしれません。事実前期は出席のみの科目で何単位かとりました。ただし後者の方は京大の自由な環境を著しくそこなってしまうため、たとえそれで授業にでたとしても内容を聞くためではなくて単位を取るために出席することになったでしょう。やはり出席して講義を聞きたいと思わせるような授業をもらえ、なおかつその授業で出席をとるならば授業に出たと思います。それが前期の自然と文化でした。また出席はとらずとも自身の参考になる、またとても興味深いと思いい試験一発の科目なのに毎回でていたのが労使関係論でした。

これらのような良い授業を増やしてもらえればもっとしっかりと学ぶことのできる全学共通科目となるのではないのでしょうか。

- 1. 自分からアプローチをすれば、先生は以外ときちんと応えてくれるのだなというのが印象的でした。入学前は、大学の先生と言えどもっと閉鎖的（で高飛車）なイメージを抱いていたので・・・
- 2. 上記の裏返しとしての、自学自習の必要性というか、「自分から学び取りに行く」という能動的な態度の必要性も同時に感じました。
- 自主的に勉強していかなければならない。
- 全学共通科目では様々な分野の授業が開講されており、それを受講したことで教養の幅を広げることができたと思います。一方、語学や数学といったクラス指定の科目では、担当教員によって、学生の習得度が随分違うのではないかと思ってしまう面もあるような気がします。
- 個人的な意見かもしれないが、やはり期待していた内容とはかなり異なった内容の講義が多く失望した。入学当初は純粋に興味のある講義を履修登録したつもりだったが、最終的には単位をとるために腐心するという結果になってしまった。勉強をすることの喜びといったものは感じられなかったように思う。
- 京大に入れてよかった。
- 興味のある科目をいくつかとったが、興味があるだけに内容的に既知のものが多かった。試験とは関係なしで、より深い話をしてもらえると、より面白かったかもしれない。KUINEPは非常に有意義だった。
- 楽しかったです。高校までの勉強が全然大した事をやっていないんだなと思いました。これからもがんばって勉強したいと思います。
- 単位取得だけを目的とすれば必要な知識には上限があるが、教養を身につけようとするならば上限はなく、やればやるほど自分のものになっていくところが高校の授業と異なっていて刺激的だった。
- とても真剣に打ち込んだのに、30分たったからオートログオフ機能が働いたのかは知らないが、突然ログオフになったので（しかも2回）せっかく打ち込んだ意見が消されてしまった。アンケート

2 回生進級時アンケート [21 年度]

ートは紙媒体でしてください。僕の貴重な1時間を無に消されることがわかっていればこんなアンケートに協力はしません。まことにいらだたい。一ついうと、1回生の時の英語の授業の質が最低最悪だったことです。この具体的な意見を再三打ち込むことは時間的にも精神的にも鬱なので、適当に解釈してください。最後に、アンケートはPCでなく紙でやってください。

- 今までかかわることの少なかった分野のことも学べてよかった。
- クラス30分ログアウトシステムを失くしてください。ここに書いていたすべての記述が消えてしまいました。気合いを入れて書いていたので、ショックが大きいです。早急なシステム改善を要求します。
- 機構の熱意は感じられたが、肝心の講師側に教えることに対しての熱意が感じられない。明らかに学部専門科目とやる気が異なる先生もいた。
- 有機化学により興味を持った。
- 興味のあることがない。
- 友達ができたことが一番よかったと思います。
- 自分の興味ある内容の授業を受講していたのに、きちんと授業にでなくなってしまったことをとても後悔しています。
- 単位ばかりに気を取られすぎた。
- 充実した科目もあればそうでない科目もありました。しかし最初は何となく取ってみた、それまで興味を抱かなかった分野の科目で、また新しく興味の芽を育てられたのはよかったと思います。
- 様々な科目（特にA群科目）を受講して、興味の幅が少し広がったように感じたが、同時に自分で自分の興味の枠を開拓して広げていくことの難しさを感じた。今後は自分が知りたいことを自発的に学んでいけるバイタリティを持っていきたい。
- 授業の内容はまあ面白いものもあり、行ったり行かなかったりの科目もあり、初回の講義で諦めたものもあり、色々だったが、講義自体よりもむしろ講義を通じて出会った人々と交わした会話が、世の中にある面白いこと存在に気づかせてくれたような気がする。
- 専門以外の授業で興味深い授業がたくさんありました。ポケゼミでプレゼン形式の授業をとり、専門分野の内容ではなかったのですが、熱意のある教員とやる気のあるメンバーで真面目に楽しい授業が受けられました。ただ、授業に熱意のないように見える教授の授業などは多分すごいことを言っているんだろうなあ・・・と思いながらも何も得られなくて残念でした。
- 今まで興味の無かったことや、専門科目にはほとんど登場しない知識など様々なことを学べて良かったと思います。また、もともと興味のある科目の授業では、自分の学びたい分野を絞ることが出来ました。
- 自ら学ぼうとしなければ何も得ることができないまま大学を卒業してしまうことになるなと思った。
- 全学共通科目はさまざまな分野に関する教養を身につけるためのものであうと思うので、あまり専門的なところまで踏み込みすぎないほうがよいと思う。浅すぎず深すぎない内容を講義してほしいと感じた。
- 高校までの、与えられた課題をこなす学習に慣れた自分にとって、自分から行動することの難しさ、大切さを感じた。勉強をはじめとした自分の生活を、ある程度の強制力をもって習慣づけていこうと思う。
- 理系の学生でも人文社会学系の科目を履修できるのは嬉しかった。幅広い知識を身につけられ、有意義であった。回生が上がるにつれて専門の勉強にシフトしていくであろうが、たまに空いた時間には全学共通科目を受講しても良いのではないかとも考えた。

- 大学は本当に自由なところで、ただ自由過ぎて何をすればよいのか分からず、迷っているうちに1年が過ぎてしまった。向上したというよりは怠惰になってしまったように思う。
- 授業に対する熱意がなかったり、授業の仕方に工夫がなかったりする教員の割合が多いと感じました。熱心で分かりやすい授業をする教員の授業は学生の勉強に対する意欲を高めると思うので、今後改善して行ってほしいと考えます。
- 勉強しなくても何とかなるといった感じがあった。
- もっと積極的に自分の興味のあることを探求していけばよかった。
- 高校のときは毎時間意欲的に授業に望んでいましたが、大学の一般教養ではまったくやる気がおきず、自分でも驚きました。1年間で能力が落ちたように感じます。自分で決めて行動できるというのは大学生の特権ですが、責任も伴うということを感じています。特に、京都大学では勉強を強制されることがほとんどないので、2回生になった今、1回生のとき勉強しておけば・・・と後悔の念が残ります。京都大学の一般教養のスタンスが必ずしも悪いとは言えません。この学風は大変魅力であると思います。ただ、私のような思いを抱く学生が本当にたくさんいることも事実だと思っています。
- 教授がユニークでやっぱり京大やと思った。
- 自分自身が専門科目以外で関心を持っていることに関して、深く学ぶことができる授業がありとても楽しかったです。京都大学の他大学に比べ全学共通科目の選べる範囲が広いという点は非常に評価できることだと思います。
- 前期に受講した**先生の**の授業が非常に印象的で面白かったです。こういった授業がもっと多ければよかったのに、と思います。
- 世界に対して、多角的な視点を持つことができるようになった。この先、自分なりに思考して独歩していく際に、役に立ちそうだった。
- 色々な分野があって、それぞれの専門的な話が聞けて良かったです。
- 自分にあまり授業への参加意欲がなかったことを残念に思う。
- それまで中高では学べなかったような内容のことも学べたり、話を聞くことができたりしたことがとても良かったと思う。出席する度に周りの学生の熱心さに感心して、自分のモチベーションがあがった講義もあったし、自分の専門外のことも勉強できたこともよかった。
- 全学共通科目を受講していくうちに、社会には様々な現象や法律、基準、考え方があることが少し見えてきました。人は自分で学ばなければなりません。自分が何をしたいか、学びたいかを明確にしていないと、進むべき道が分かりません。進む方向が決まれば、大学の過去の蓄積や多くの人の手助けを受けつつ、順調に歩めると思います。
- 専門以外にも興味を持てる講義があり、進路を決める手がかりが得られた。
- 私は全部出席していたが、出席しないで代筆を頼んだり後からノートを写させてもらったり、結局要領のいい人が単位をもらって行って、何のための大学何だろうかと、残念な気持ちになった。
- 高校時代にとらなかった科目を般教でとりたかったのですが内容が高度すぎてとることができませんでした。物理、歴史などの科目でももう少し導入的な内容を取り扱う授業があってもいいと思います。
- 1回生のときは自分の興味のあるものしかほとんどとらなかったので、もう少し興味のない分野にも挑戦すればよかったなと思いました。
- 全学共通科目は自分の専門とはまた違う、興味のあることを深く追求できる科目だったので、非常に知的好奇心を刺激された。具体的に何を得たかを言及するのは難しいが、色々な事に興味を持つのは大事なことで、これからもその気持ちを忘れずに大学の授業を頑張っていきたい。
- 新しいことを知る度に、これまで自分がいかに無知だったか、様々なことに興味を持たずにいた

2 回生進級時アンケート [21 年度]

かを感じた。そして、新たな発見ができる楽しさを味わいながら、もっと食欲にいろんなことを知っていきたいと思った。

- 私が選んだ科目がよくなかったのかもしれませんが、受け身の授業が多かったように思います。もっとパワーポイントを使って発表したり、現地調査に行ったりする授業が多いと楽しいと思います。
- ほかの学生と関われる機会のある授業は楽しかったと思った。
- 専門以外の知識を得ることによって、さらに広い見地を手に入れられたのではないと思う。また、他学部の人や他学科の人との交流も私にとってはとても有意義なものとなった。しかし、先生が生徒に向けて何かを伝えようとしているのではなく、ただ自己満足するための授業であると感じることは少なくなかった。より相互的に進めていく授業をする必要があると思う。
- 全体として、特にリレー講義形式の授業では担当の教員の専門としている分野の入門をバラバラと聞くだけで、その場だけの表面的な理解で終わってしまった気がする。もう少し、全体の基礎となるようなしっかりとしたカリキュラムで授業を進めていくものを増やしてほしい。また、そういった科目であるはずの数学や有機化学は担当の教員があまり生徒の理解度を理解していなかったり、分かるように授業しようという熱意が感じられなかった。
- 実用的な知識や雑学が増えてうれしい。しかし苦手分野を積極的に克服することはできなかった。
- たくさんの授業の中から自由に選んで、プロの先生の話を生でお聞きできるというのが、よい経験になりました。でも、授業時間だけでは本当に入り口だけだとも感じたので、これがきっかけで自分で勉強していくのが大切なのだなと思いました。
- シラバスには予備知識は不要と書いてあっても、実際には予備知識を持っていることを前提とした授業があり、ついていくのに苦労した。
- 自分は理系だが、全学共通科目においてはA群科目のほうが印象に残っているものが多い。自分で時間割を組んでいくのは、1回生の前期は結構難しく感じた。健康科学や健康心理学といった自分の生活に深く関係するような科目から、物理や化学、生物などの基礎の講義まで、さまざまなことが勉強できる環境はとてもよかった。

- 4 成績評価の基準・方法が不公正である
 - 5 その他（自由記述）
- 上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～5から選択）（　　）

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A（満足した科目）

あなたが特に満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）（　　）

（以下、科目2、3も同様）

B（不満だった科目）

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
- 6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
- 7 その他（自由記述）

平成 22 年度

目 次

はじめに——調査の趣旨と概要.....	1
1 学習意欲などの変化.....	3
1. 1 学習意欲の変化.....	3
1. 2 出席コマ数の変化.....	4
1. 3 授業外学習時間の変化.....	4
2 成績評価への納得度.....	5
2. 1 成績評価全体への納得度.....	5
2. 2 成績評価に納得できない理由.....	6
2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容.....	7
3 「満足した科目」「不満だった科目」.....	8
3. 1 「満足した科目」とその理由.....	8
3. 1. 1 科目群別の集計.....	8
3. 1. 2 「満足した理由」の分析.....	9
3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容.....	10
3. 2 「不満だった科目」とその理由.....	13
3. 2. 1 科目群別の集計.....	13
3. 2. 2 「不満だった理由」の分析.....	14
3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容.....	15
4 全学共通科目への期待.....	20
5 期待は実現されたか.....	22
6 今後の全学共通教育への要望.....	23
6. 1 項目別集計.....	23
6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容.....	25
7 自由記述.....	28
7. 1 総合人間学部.....	28
7. 2 文学部.....	30
7. 3 教育学部.....	36
7. 4 法学部.....	38
7. 5 経済学部.....	43
7. 6 理学部.....	46
7. 7 医学部.....	53
7. 8 薬学部.....	56
7. 9 工学部.....	58
7. 10 農学部.....	71
【資料】平成 22 年度 2 回生進級時アンケート (KULASIS 掲載内容)	77

調査の趣旨と概要

対 象：学部新 2 回生（平成 21 年入学生対象）全員

調査の目的：学生が入学後 1 年間の大学生活の中で京都大学の教育に対してどのような感想を抱いたかについて 2 回生進級時点での意見を聞き、今後の京都大学の教育を改善・充実してゆくための重要な資料とする。

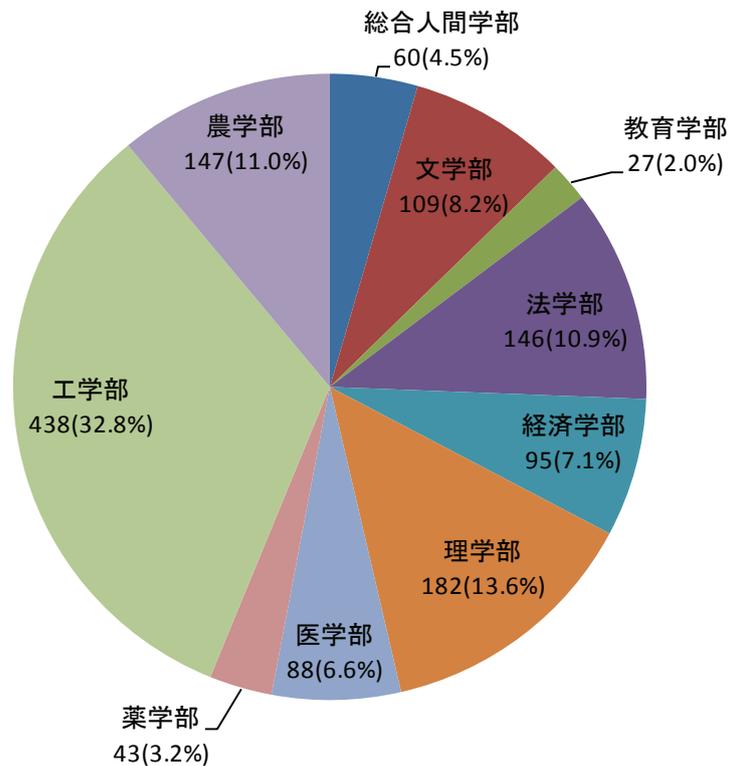
調査の概要：新入生ガイダンスの際、記入してもらった「新入生アンケート」の回答を学生に返却し、自分の入学当時の抱負・期待を読み返しつつ、1 年間の全学共通教育を中心とした学習を振り返って、どんなことを感じあるいは考えたかについて率直な意見を表明してもらうよう求めている。

調 査 方 法：KULASIS（全学共通教育教務情報システム）上でのアンケート方式をとっている。
平成 22 年 4 月、各学部新 2 回生が 1 回生後期の成績確認のため KULASIS にログインした際、アンケートへの協力願いを掲示し、回答フォームに入力してもらうという方式をとった。（アンケート全文は末尾に添付している。）

表 0-1 学部別アンケート提出者数・提出率

学部	在籍者数(2010/5/1 現在)			提出者数	提出率
	計	男	女		
総合人間学部	125	79	46	60	48.0%
文学部	219	119	100	109	49.8%
教育学部	61	31	30	27	44.3%
法学部	343	241	102	146	42.6%
経済学部	253	206	47	95	37.5%
理学部	314	286	28	182	58.0%
医学部	254	138	116	88	34.6%
薬学部	83	49	34	43	51.8%
工学部	985	906	79	438	44.5%
農学部	315	217	98	147	46.7%
合計	2,952	2,272	680	1,335	45.2%

図 0-1 学部別アンケート提出者数・構成比



1 学習意欲などの変化

問1 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在までに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

(学習意欲) 5. 非常に意欲あり 4. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない
2. あまり意欲なし 1. まったく意欲なし

(作成例)

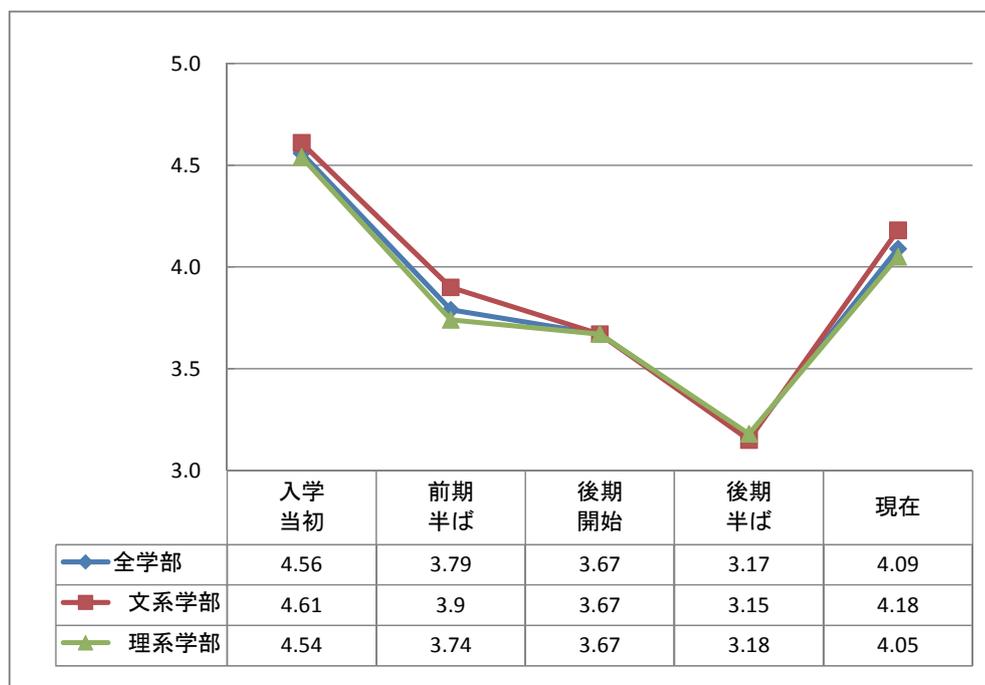
時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	5	15コマ	1.5時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開	4	4コマ	3時間
後期半ば	4	〃	〃
現在	1	12コマ	

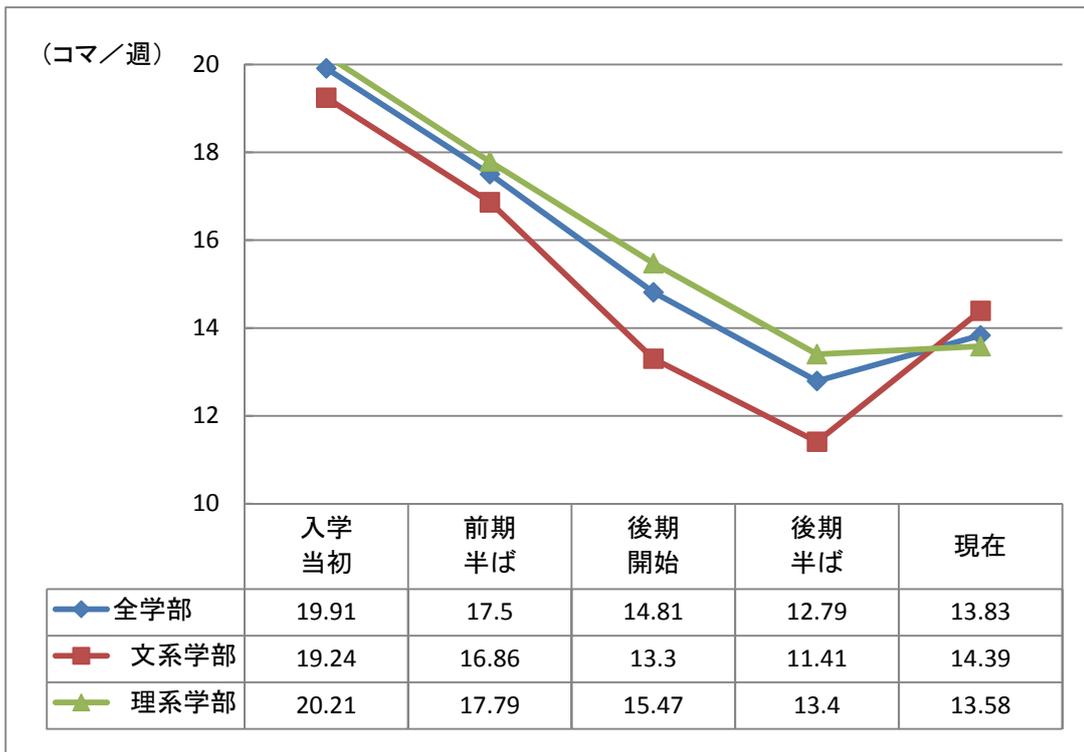
*あまり深く考えず「平均」「おおよそ」でご記入ください

*現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

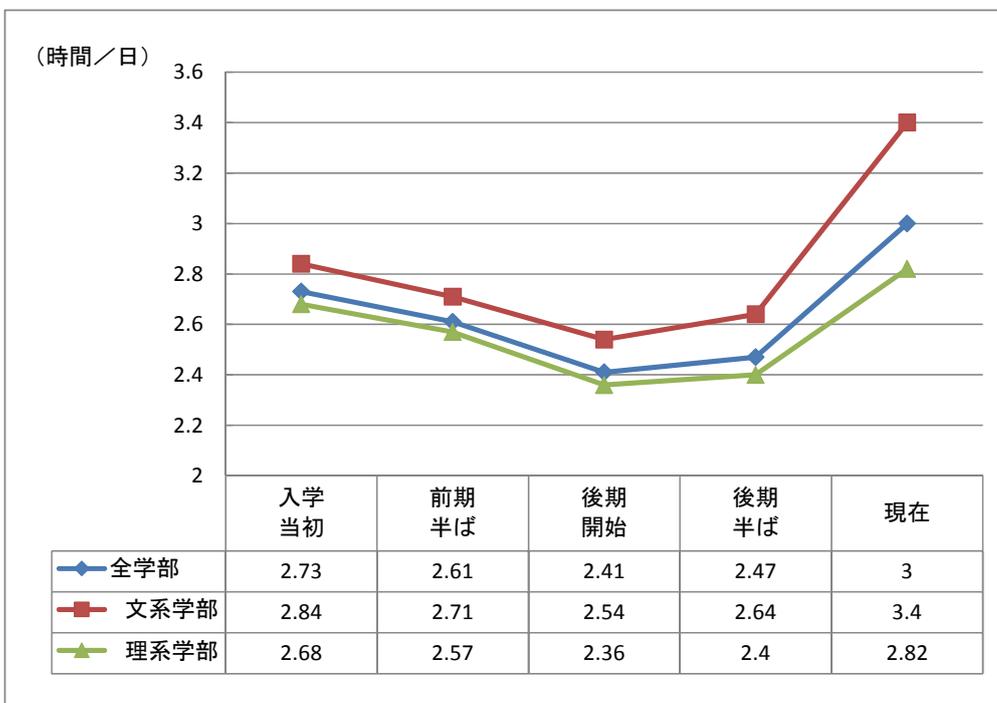
1. 1 学習意欲の変化



1. 2 出席コマ数の変化

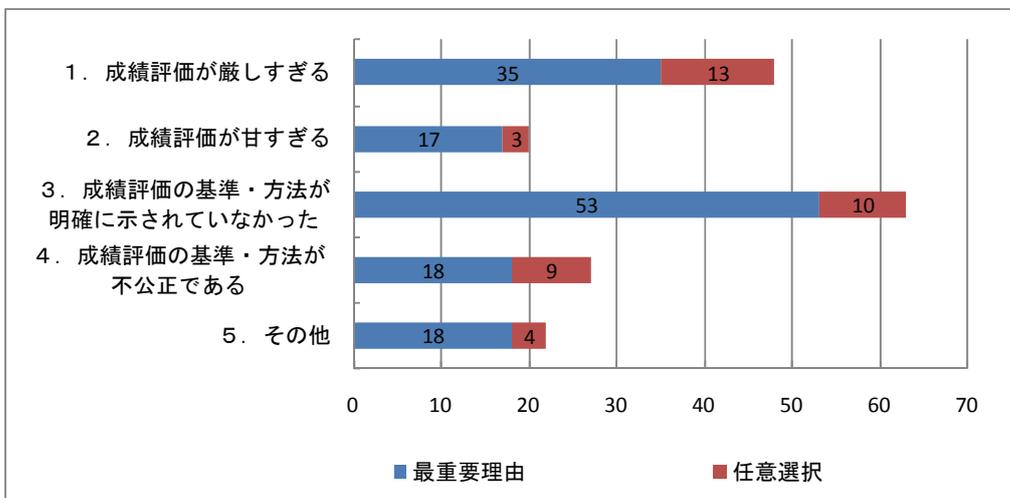


1. 3 授業外学習時間の変化

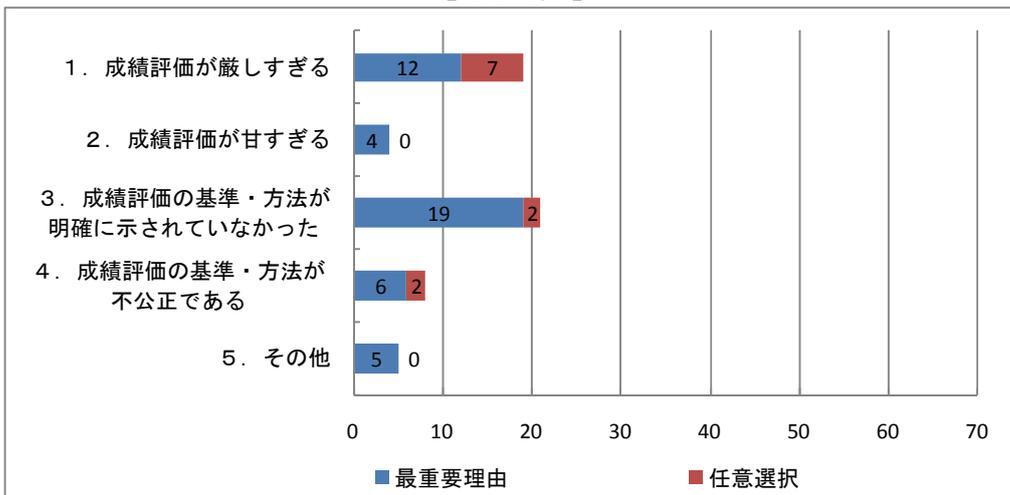


2. 2 成績評価に納得できない理由

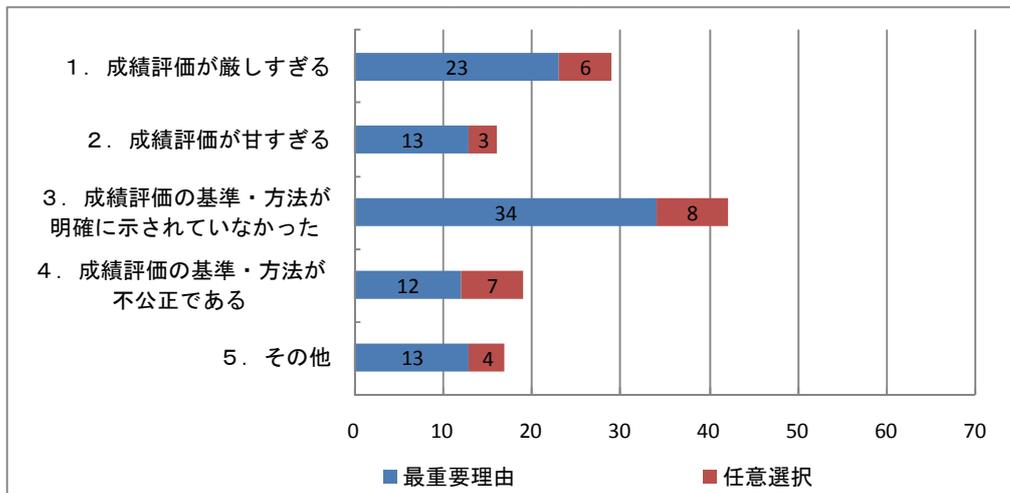
【 全 体 】



【 文 系 】



【 理 系 】



2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容

◎は最重要項目 [1つだけ選択] を、○は任意選択項目 [複数選択] を、それぞれ意味する。
末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- ◎なんとなく。【文・男】
- ◎自分の能力の伸び。【法・男】
- ◎58 点で落とされるなど、シビア。【経済・男】
- ◎自分の努力が足りなかったことと、2つ以上のとりたい授業が同じコマに重なっていた。【理・男】
- ◎授業担当者から、「教えよう」という気持ちが感じられない。自己満足が多い。【理・男】
- ◎前期に履修した線形代数学で、ちゃんと採点されているのか疑問に思う点があった。【医・男】
- ◎忠告がほしかった。【医・男】
- ◎もっと頑張れた。【医・女】
- ◎なぜそのような成績評価になったのか分からない。【工・男】
- ◎自分にもっと努力のすべきところがあった。【工・男】
- ◎ある科目の採点が納得できない。【工・男】
- ◎成績確認期間が短い。【農・男】
- 成績評価が甘い科目と厳しい科目の間で単位取得の難易度に差がありすぎるので楽勝の科目を厳しくすべきだと思います。【工・男】
- 怠慢、合格による気の緩み。【工・男】
- 同じ科目でも先生によっていくらなんでも違いすぎる。【工・男】

3 「満足した科目」「不満だった科目」

3. 1 「満足した科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A. あなたがとくに満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

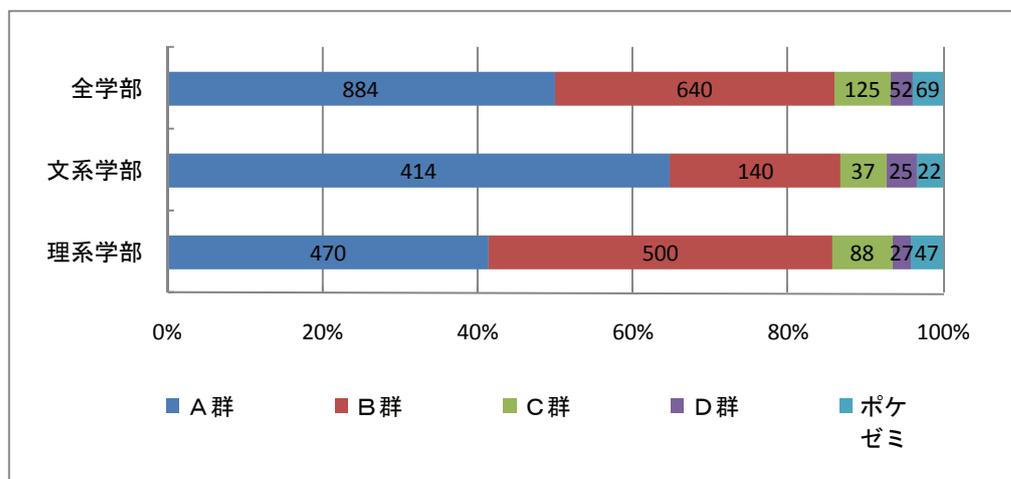
あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）

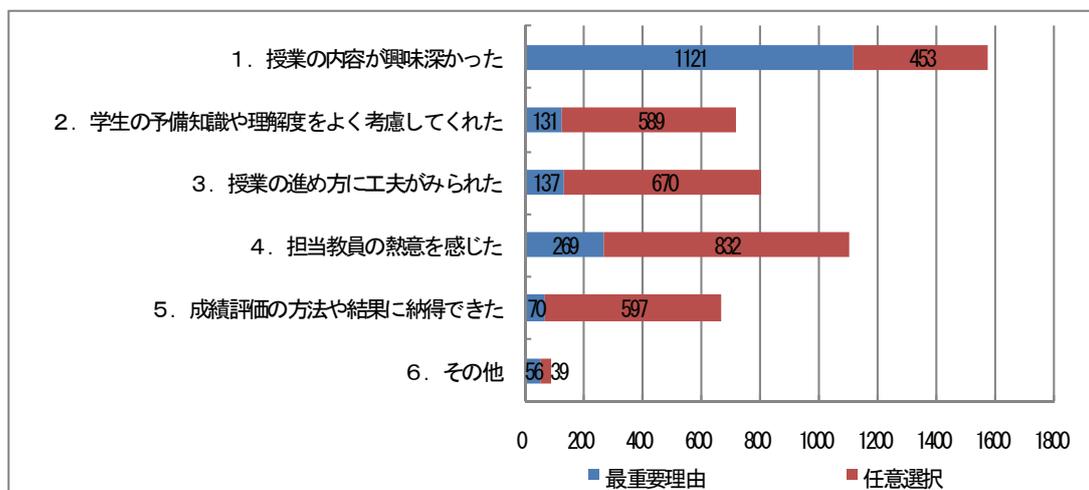
（以下、科目2、3も同様）

3. 1. 1 科目群別の集計

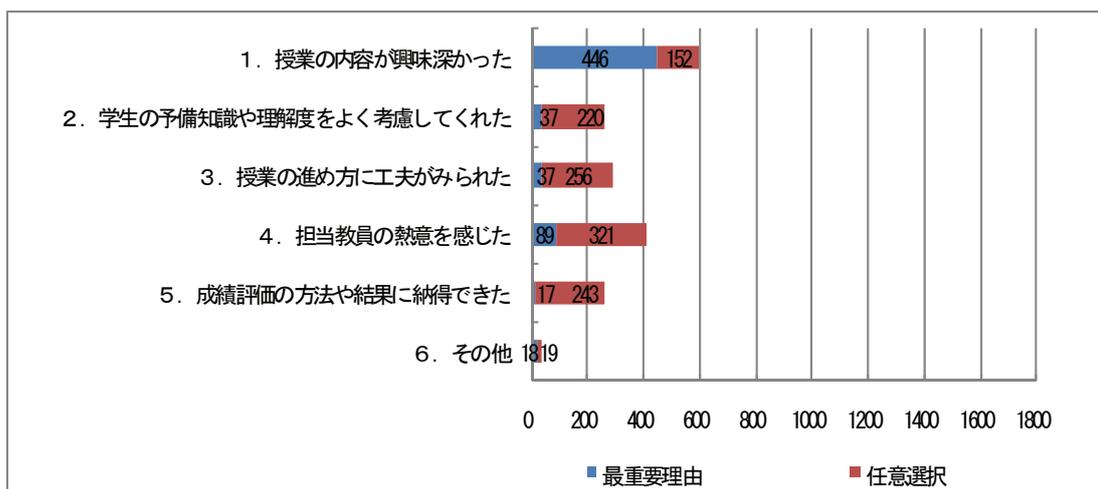


3. 1. 2 「満足した理由」の分析

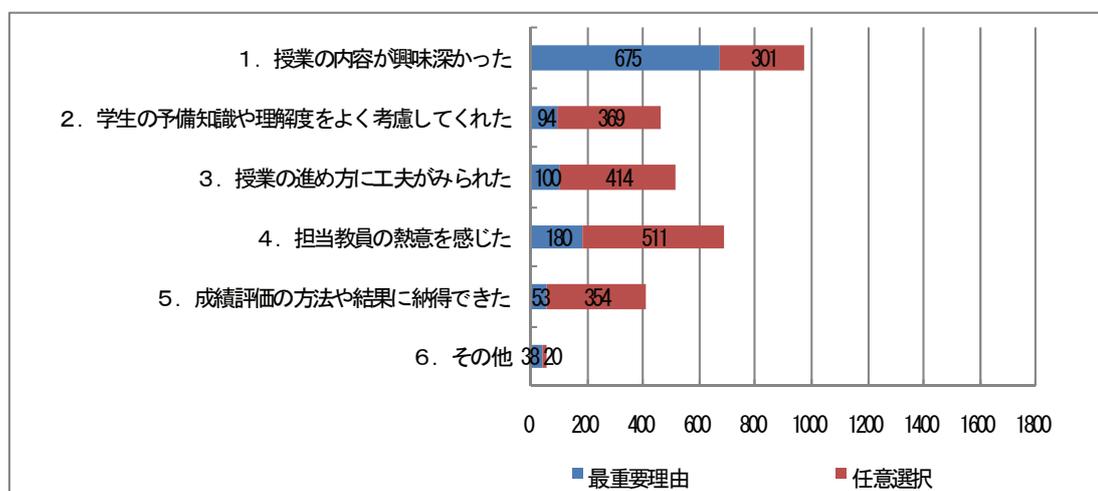
【全体】



【文系】



【理系】



3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容

「満足した理由」の「6 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。以下、A群、B群、C群、D群、およびポケット・ゼミの別に、記述内容を掲載する。

なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

■ A群科目

- ◎自ら考える機会を与えられた。【総人（文系）・男】
- ◎先生が面白かった。【総人（文系）・女】
- ◎授業に対する学生の熱意が強かった。【教育・女】
- ◎担当教員の話がおもしろかった。【法・男】
- ◎先生の人柄に魅かれ、またその知見の深さに尊敬できる部分が多かった。またそこで多くの意識の高い友人と知り合えたから。【法・男】
- ◎実際にケニアに行って、日本ではできない経験ができた。【法・女】
- ◎発表グループのメンバーと協力し、良い発表ができた。メンバーと友人になれた。【法・男】
- ◎実務家の先生だったので、そのお話が講義中聞けてよかった。【経済・男】
- ◎授業外でのフォロー【経済・男】
- ◎話し方そのものに魅力を感じた。【理・男】
- ◎自分の将来の職業と関連のある内容だった。【医・女】
- ◎実際に行ったアンケートから興味深い統計が得られ、面白かった。【工・男】
- ◎漠然としていたところ【工・男】
- ◎授業の程よい緊張感がある雰囲気よかった。【工・男】
- ◎日本の未来に必要な内容だった。【工・男】
- ◎実習形式の授業であり、座学にはない楽しさがあった。【工・男】
- ◎やりがいがあった。【工・男】
- ◎授業の説明が分かりやすかった。【工・男】
- 先生の人柄が面白かった。【文・女】
- 補講も工夫して設定してあった。【文・女】
- 先生の思想が反映された授業内容に感銘を受けました。【法・男】
- 講義の中で、人生に関する教えを伝えてくれた。【法・男】
- 声が聞き取りやすかった。【法・男】
- 教授の人柄が素敵だった。【経済・女】
- 授業の雰囲気【経済・男】
- これが京都大学かと思った。一部の学生が本当にうるさかったとき、ちゃんと叱ってくれた。【理・男】
- やさしい人柄が雑談によく出ていた。【理・男】

- 先生の話がおもしろくて印象深かった。【工・女】
- 友人の悩みを解消するのに、この授業で得た知識が非常に役に立った。【工・男】
- SITECUBE というパソコンを用いた授業があり、近代的で大変興味深かった。【工・男】
- 居眠り公認！【工・男】
- 21 世紀の食文化にとって重要な内容だった。【工・男】
- 担当教員の話し方が聞きやすかった。【農・女】

■ B 群科目

- ◎学生としての心構えなど人生勉強になるお話をたくさんしてくださった。【総人(文系)・女】
- ◎プレゼンという一つの目標のもと、フィールドワーク等を通じて他の学生達と仲良くなれた。
また先生が学生の興味や意欲、考える力を最大限引き出そうとしてくれたから。【法・男】
- ◎楽しかった。【法・男】
- ◎研究というものがどのような物なのか、入り口を知ったような気がする。
後、アットホームな授業雰囲気非常に居心地が良かった。【理・男】
- ◎実験は自分のためになった。【理・男】
- ◎これからの必要な知識が身に付いた。【理・男】
- ◎ゼミの内容が充実していた。【医・女】
- ◎授業がとてもわかりやすかったです。【工・男】
- ◎教員の話し方や授業の進め方が自分に合っていた。【工・女】
- ◎細かいところまできっちりと教えてもらえたため理解しやすかった。【工・男】
- ◎実験器具の取り扱いに慣れることができた。【農・男】
- ◎実験の基本操作や進め方、レポートの書き方などを学べた。【農・女】
- ◎生茶【農・男】
- ◎自学自習が求められ、かつ自学自習したくなる内容であった。【農・男】
- ◎※※先生が面白かった！【農・女】
- ◎自分の専門にも絡んでいて有益だった。【農・女】
- ◎自分の視野が広がった。【農・女】
- ◎レポートは大変だったがそれだけ自分のためになった。【農・男】
- ◎少しではあったが、テレビ電話で台湾の学生と英語でやりとりする機会がもてたこと。
貴重な経験だった。【農・女】
- 「科学者」や「研究者」というものを肌で感じる事ができた。【文・男】
- 担当教員の人柄がよかった。【法・女】
- 研究室を見学することができて参考になった。【法・女】
- 一部の内容が面白かった。【理・男】
- 授業に関係ない話がおもしろかった。【理・男】
- 今後の研究に必要な実験作業の基礎が学べた。【薬・男】
- 演習の大切さを伝えてくれた事。ただまだまだ頑張れると思います!あと参考書などもざっと

(2回生で習う範囲でもいいから) 紹介して欲しかったです。【工・男】

- 数学の知識を早く身につけられた。【工・男】
- 適度な難易度で学習意欲もわいた。【工・女】
- 丁寧に教えてもらえた。【工・男】

■ C群科目

- ◎わかりやすく教えてくれた。【経済・男】
- ◎笑い方が変わっていた。【理・男】
- 時折ジョークをはさんでくれたし、楽しませようとしてくれた。【総人(文系)・女】
- 京大でいままで受けた授業の中でとにかく一番楽しかった。【法・女】
- 人柄がよかった。【理・男】
- 厳しかったけれど、実力をつけてくれた。【工・女】

■ D群科目

- ◎楽しかった。【工・男】
- ◎知らない人とも仲良くなれ、またリフレッシュできた。【工・男】
- 他学部の人などたくさんの人と仲良くなれた。【文・女】

■ ポケット・ゼミ

- ◎ゼミの雰囲気よかった。【教育・女】
- ◎授業の準備がとても大変だったが、研究方法や論文作成法を学ぶことができた。【法・男】
- ◎ポケゼミだったので少人数の中で自分の意見をしっかり言い合うことができた。【理・女】
- ◎ポケゼミは楽しかった。【医・男】
- ◎よい体験ができた。【医・女】
- ◎実際に色々な作業をする授業だったので、講義形式ではできない体験ができた。【工・男】
- ◎阿蘇山での実験を通じて教授と深く話ることができた。【工・女】
- 大学で勉強・研究をしていくための基礎力・姿勢が身についた。【文・男】
- レベルが高かった。【法・男】
- iPS細胞に関する最先端の学問を学べた。【薬・男】
- ポケゼミで少人数だったのでアットホームな雰囲気がよかった。【工・男】

3. 2 「不満だった科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

B (不満だった科目)

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：(自由記述)

登録群：(A・B・C・Dから選択)

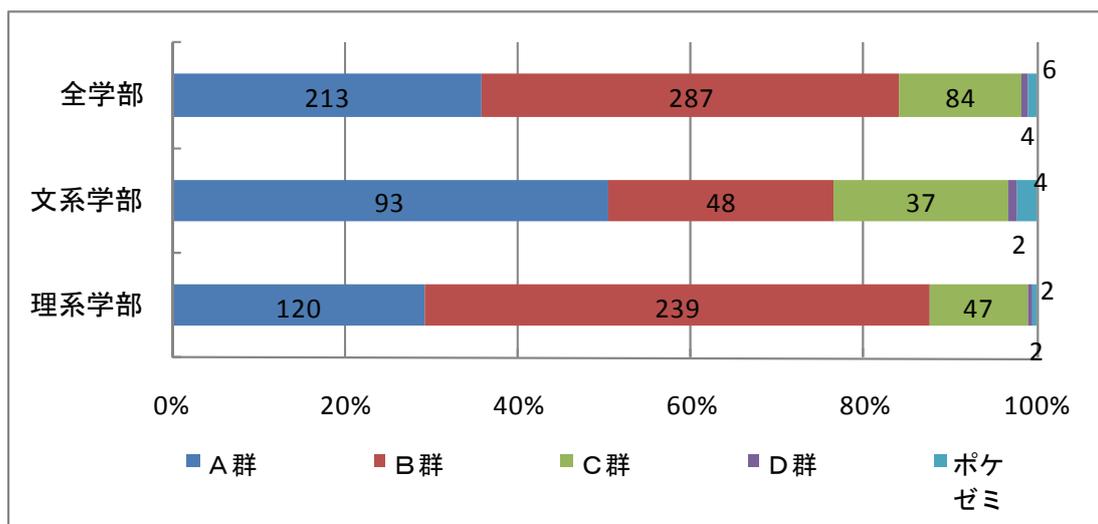
あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
- 6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
- 7 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～7から選択）

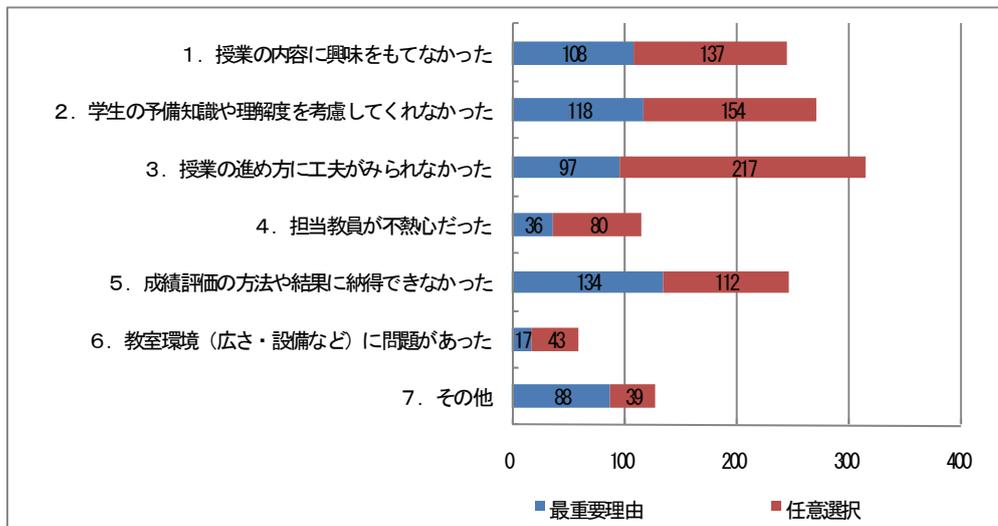
(以下、科目2、3も同様)

3. 2. 1 科目群別の集計

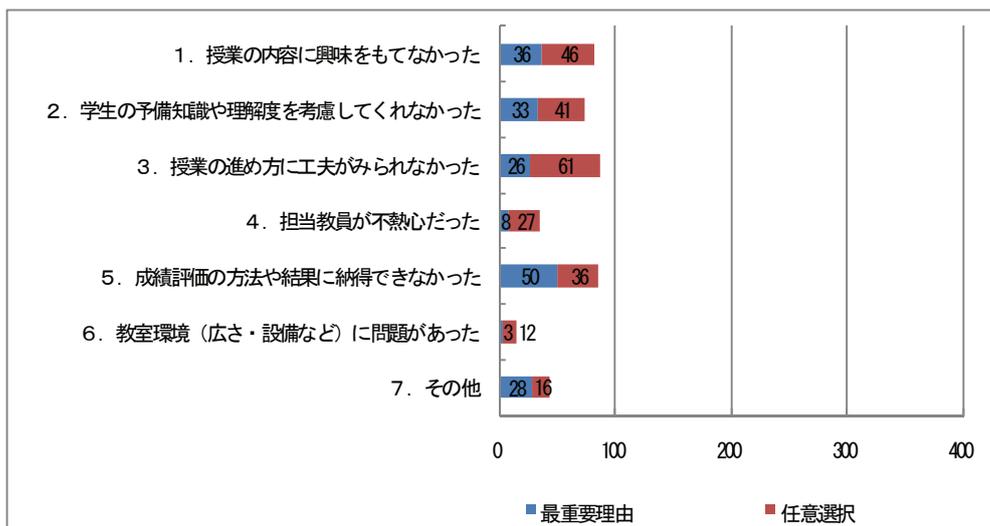


3. 2. 2 「不満だった科目」の分析

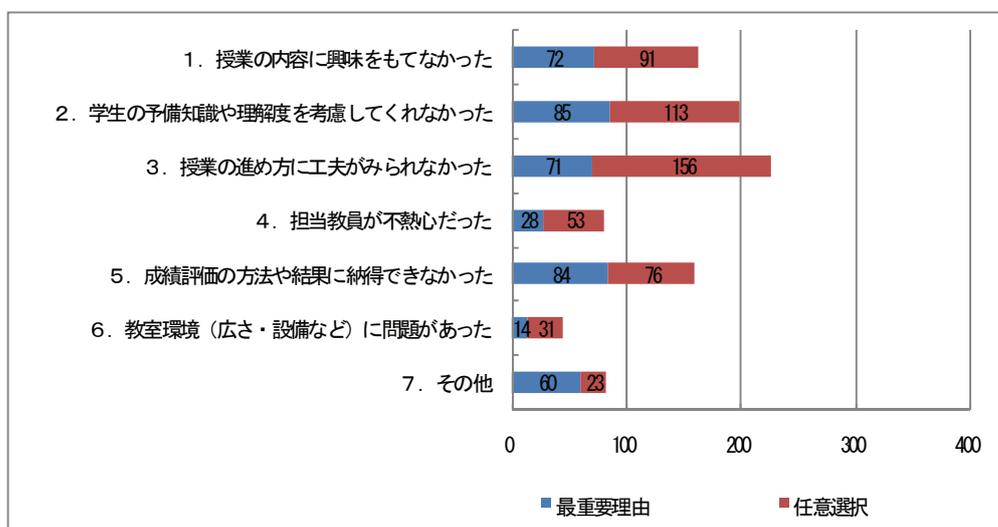
【 全 体 】



【 文 系 】



【 理 系 】



3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容

「不満だった理由」の「7 その他」についても、その内容を自由記述方式で尋ねている。以下、A群、B群、C群およびポケット・ゼミの別に、全記述内容を掲載する（D群科目については記述がなかった）。

なお、◎は最重要項目 [1つだけ選択] を、○は任意選択項目 [複数選択] を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

■ A群科目

- ◎授業内容が半分も終わらなかった。【文・男】
- ◎もっと広い範囲のアジア史を学びたかった。【教育・男】
- ◎教員が少しのミスで罵詈雑言で、精神的に追い詰められた。【教育・女】
- ◎シラバスと全く違った。【教育・男】
- ◎リレー講義であったが、それぞれがぶつ切りだった。【教育・男】
- ◎ただ自分の研究成果を発表するだけの独りよがりな姿勢【法・男】
- ◎理不尽な点数をつけられた。【法・女】
- ◎内容が偏っていた。【法・女】
- ◎受講する生徒の質が非常に悪い。【法・男】
- ◎一部の担当教員の意見が非常に一方的で押し付けのよう感じられた。【法・男】
- ◎今年から成績が長いレポートで決まり、シラバスと違っていた。【法・男】
- ◎教員がマイクを使わず声が聞き取りにくかった。【法・女】
- ◎もっとはっきりと話して欲しかった。【法・男】
- ◎教員が怒鳴ったり机を叩いて暴れたりした。【経済・女】
- ◎教授が、自分の書いた教科書を売るためだけにやっている授業だと感じた。【理・女】
- ◎すばらしい授業だったが、定員オーバーでいつの間にか、履修者から外されており、非常に残念。【理・男】
- ◎教授が遅刻してくる生徒に不満を持つのもわかるが毎回その愚痴を授業中に聞かされると嫌になってくる。【医・男】
- ◎授業終了 15 分前に来た人にも出席点を与えていた。【医・女】
- ◎出席点はないと事前に宣言しておきながら、実際は 50 パーセントだったこと。【医・男】
- ◎授業終了 15 分前に来た人にも出席点を与えていた。【医・女】
- ◎「ホントに出来る生徒は授業に出ずに自分で勉強している」とまじめに授業に出ている生徒の前で言った。【医・男】
- ◎教授の声が小さく聞こえない。友達が改善をお願いしわかってもらえたはずなのに次の時間まったく変わってなかったのには驚いた。勇気を出してお願いした友達が不憫でならなかった。【医・男】
- ◎一般教養のわりに試験がとても難しかった。【工・男】

- ◎「地図を描く」はずが「お絵かき」になってしまっている気がします。【工・男】
- ◎考え方の視野が狭く感じ、新しい物の見方・考え方が身に付かなかった。【農・男】
- ◎先生の話がまとまっていなかった。【農・女】
- ◎教員自身が自分の考えを整理できておらず、具体例を挙げて説明できていなかった。【総人(文系)・男】
- ◎採点ミスがあった。【文・男】
- ◎前の方に座らないと声が聞こえなかった。【文・女】
- ◎声が聞き取りにくい。【法・女】
- ◎黒板の使い方が悪く、ぼそぼそした話し方だった。【法・女】
- ◎ほぼ毎回教員が遅刻する。【法・男】
- ◎成績評価がほぼ出席点だけで典型的な楽勝科目である。単位が厳しくなるように成績評価方法をかえるべきである。【工・男】
- ◎声が小さかった。【工・男】
- ◎声が聞こえずパワーポイントも見にくかった。【農・男】

■B群科目

- ◎いわゆる楽勝科目だったため、授業中に騒ぐ学生が多く授業に集中できなかった。【文・女】
- ◎授業がおもしろかったのに私語が多すぎて聞こえない。【教育・男】
- ◎教室がうるさかった。【法・男】
- ◎試験と授業内容がやや乖離している。【法・女】
- ◎自身の著作の宣伝の時間が多かったうえ、火山の話題について、ビデオはよかったがそれ以外は退屈だった。【法・男】
- ◎経済学部生にとって必要な理解範囲を逸脱していた。【経済・男】
- ◎教科書がない分、板書にもう少し説明を加えてほしかった。【経済・男】
- ◎字が雑でした。板書がごちゃごちゃしてわかりにくかった。【理・男】
- ◎・教員の声が聞き取りにくい。
 - ・文字が薄くて小さく見えなかった。
- ◎以上のことを生徒が指摘しても改善されなかった。【理・女】
- ◎字が薄く、かなり前に座らないと読めなかった。【理・男】
- ◎内容が難しいのに、説明不足。【理・男】
- ◎テキストに間違いが多すぎる。【理・男】
- ◎もっと深いところまで説明して欲しかった。【理・男】
- ◎とにかくわかりにくかった。【理・男】
- ◎板書が汚かった。【理・男】
- ◎1回だけ残り30分用事で抜けただけなのに最初で最後の出席レポートがあり、それ以外すべて出席していたのに悔しい。それで61点ぎりぎりになったのも悲しい。(かなり長いレポートとかも頑張ったのに。)【医・女】

- ◎当日突然の休講が多い。授業資料の配布が遅れる。【工・男】
- ◎液晶プロジェクタを用い、教員のプリントに書き込みをする形式だったが、書き写す前にプリントが画面外に出てしまうことが多々あった。【工・男】
- ◎休講になることが多かった。【工・男】
- ◎先生の人間性が好きになれず、意欲が湧かなかった。【工・男】
- ◎先生がなかなか授業に来なかった。【工・男】
- ◎試験の時に明らかに 100 人以上いたのに普通の授業では 10 人ほどしか出席していなかったのはどうかと思う。また、試験問題の問題数がとても少なくまた簡単なので手抜き問題だと思った。もっと単位を厳しくすべきだと思う。【工・男】
- ◎教員の声・話し方が聞き取りづらかった。【工・男】
- ◎演習問題をもっと出すべきだ。後煩わしい証明はプリントで配ればいい。教科書には載っていない本質を喋るべきだ。【工・男】
- ◎話が教科書に沿っていない。【工・男】
- ◎高度な事をしすぎてわからなかった。【工・男】
- ◎声が小さい。滑舌が悪い。【工・男】
- ◎教科書写しているだけ。あれでは授業出る価値無い。後演習問題の解説をして欲しかった。【工・男】
- ◎演習問題は宿題として出すべき。そして証明はプリントで配り、大切な所だけ黒板に書いた口頭で説明して欲しかった。【工・男】
- ◎ごもごもしゃべっていてわかりにくかった。【工・男】
- ◎説明がわかりにくく、混乱した。【工・男】
- ◎生徒に理解させようという工夫、努力が微塵もなかった。【工・男】
- ◎学生の予備知識や理解度を全く考慮してくれなかった、あまりに難しい内容を当然のごとくすさまじい速度で授業する。【工・男】
- ◎試験で大半の人が不正行為（プリントの持ち込み）をしているにも関わらず、注意がなかった。【工・男】
- ◎毎週のレポートの負担が大きい。【工・男】
- ◎実験内容が学生の理解を超えている、毎週 2 日を費やすほどレポート作成が大変、それでいて単位は半分という理不尽さ。【工・男】
- ◎講義や評価に関しては不満はないが今の学生を馬鹿にしている。【工・男】
- ◎簡単すぎた。基準とする生徒のレベルが低すぎたような気がする。【農・男】
- ◎先生がいきなり専門的な話になって、ついて行けなくなった。【農・女】
- ◎質問すると先生が不機嫌になる。【農・女】
- ◎教科書の丸写しばかりの授業だった。【農・女】
- ◎演習ではなく講義だった。【総人（理系）・男】
- スライドをただ見せられているような印象を拭えない回が散見された。【法・男】

- レポートをしっかりと提出したのに評価が0点だった。ってか講義をしてくれる人が自分の会社の宣伝ばっかして中身が薄かった。もっと自分自身生きてきた人生経験をしゃべれ。【経済・男】
- 字が読みづらかった。【総人（理系）・男】
- ただ自分の中で完結しているだけで、講義の意味がない。教科書の方が分かりやすい。クラス指定だったので、このコマしか取れなかったのですが。【理・男】
- 授業スピードが速すぎる。【理・男】
- パソコンに不慣れな学生への配慮が皆無だった。教科書を読んでもよくわからなかった。【理・男】
- 眠たい。この授業に意味はあるのでしょうか。クラス指定だったので、このコマしかとれなかったんですが。【理・男】
- 板書がわかりにくかった。【医・女】
- 授業の内容と試験の内容があまり一致していなかった。【医・女】
- テスト時間が80分だと予告されたにも関わらず、60分ほどしかなかった。テスト前だけでなくテスト中にも教員が話をしており、うるさかった。【工・男】
- テストがプリントで配られた問題とまったく同じでつまらなかった。【工・男】
- クラス指定科目なのに教室が一杯で座れないことが多々。休講届が出ていないのに教授が来ないことも何度かありました。【工・男】
- 教員の熱意が感じられず、1年を通じて休講が多かったのでシラバスの内容の半分程度までしか授業が進まなかった。また成績評価が甘すぎるのでそれも問題だと思います。もっとやる気をもって授業を担当してほしいです。【工・男】
- 一概に私が分かりにくく感じる授業というのは、これから何を説明するのかをはっきり示さなくて、ただなんとなく説明始めて式などを羅列するパターンが多い気がする。【工・男】
- レポートはやれとは言いましたが出せとは言ってません etc. 【工・男】
- 授業速度がはやすぎてついていけなかった。TAが不親切でした。【農・男】

■C群科目

- ◎生徒に対する態度が不誠実であった。【文・男】
- ◎ホントに採点基準がめちゃくちゃです。本気で1回見直してください。【経済・男】
- ◎担当教員が「勉強」と「作業」の違いを理解していなかった。暗記ものの小テストをさせた後に本を読ませるだけで担当教員からの指導がほとんどなかった。質問や批判をするとすぐに怒る教員であった。【経済・男】
- ◎担当教員の人格にいやしさを感じた。【理・男】
- ◎教材に好感を持てなかった。【理・男】
- ◎そもそも理系の学生に文学作品を読ませる意義が分からない。豊かな人間性云々は全学共通科目のA群によって確保されるべきで、どんな先生、どんな授業になるかは運次第で専攻等に関係なく（むしろ専門とかけ離れた分野？）教授が選ばれるこの制度に納得できない。ま

- た、教授の人間性が好きにはなれなかった。【理・男】
- ◎課題の量が多すぎた。【工・男】
 - ◎時間に対する効率が悪い。【工・男】
 - ◎授業を行うに当たっての教員と生徒の目的の違いが・・・【工・男】
 - ◎得たものがない。【農・男】
 - ◎教材が簡単すぎる。【農・女】
 - テストで独作が出るかどうかくらいは言ってほしかった。【法・男】
 - 和訳をダラダラとさせるだけで、英語力が伸びるとは思えない授業だった。【法・女】
 - 愛情がないから怒らないと公言したのに怒ったし。【法・男】
 - 万全の対策をして受験した試験の成績が誤って 38 点という結果で通達され、非常に不快であった。自らの誠実な学習態度を全否定された気分になった。【経済・男】
 - 語学なのに出席点が無い、試験一発だった。【経済・男】
 - 前期に 15 課中 3 課しか進まなかったため、後期にその埋め合わせをすることになった。授業進度の偏りが、負担でした。【理・男】
 - 使用していた教科書が文系的かつ百科事典的な記述のみだったため、読解・要約といった作業後の達成感が薄く、モチベーションが上がらなかった。【理・男】

■ポケット・ゼミ

- ◎シラバスを見て興味を持ったが、ぜんぜん違う授業だった。【文・女】
- ◎かなり早めに課題を提出しているのに添削が遅く、再提出が間に合うか毎週不安だった。もっと受講人数を減らすなどして素早く添削できる体制を整えるべきである。【教育・男】
- 教員が発表形式の授業でポケゼミであるのに学生のテーマ設定に恣意的すぎると思われる指導をしていたため、発表テーマに個性がなかった。【文・女】

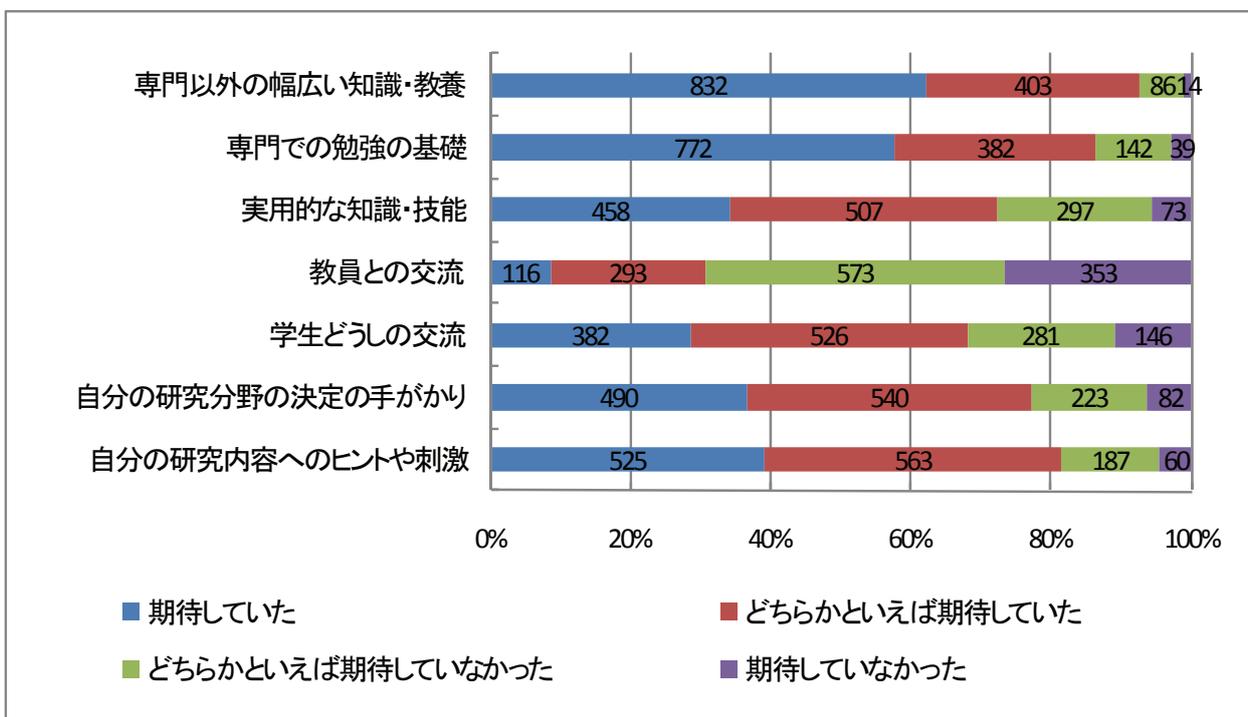
4 全学共通科目への期待

問4 あなたは入学当初、京都大学の全学共通教育に対して、次の各項目をそれぞれの程度期待していましたか。

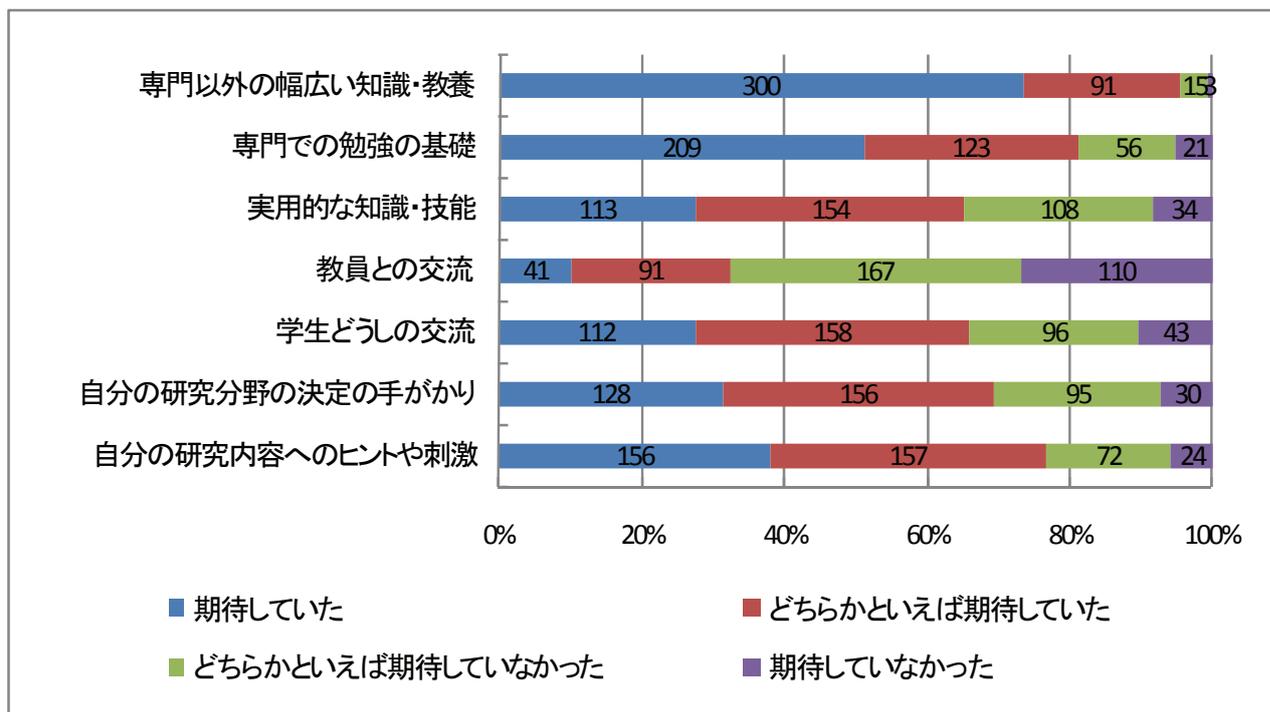
	どちらかといえば		どちらかといえば	
	期待していた	期待していた	期待していなかった	期待していなかった
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生どうしの交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手がかり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

4. 1 全学共通科目に期待する内容

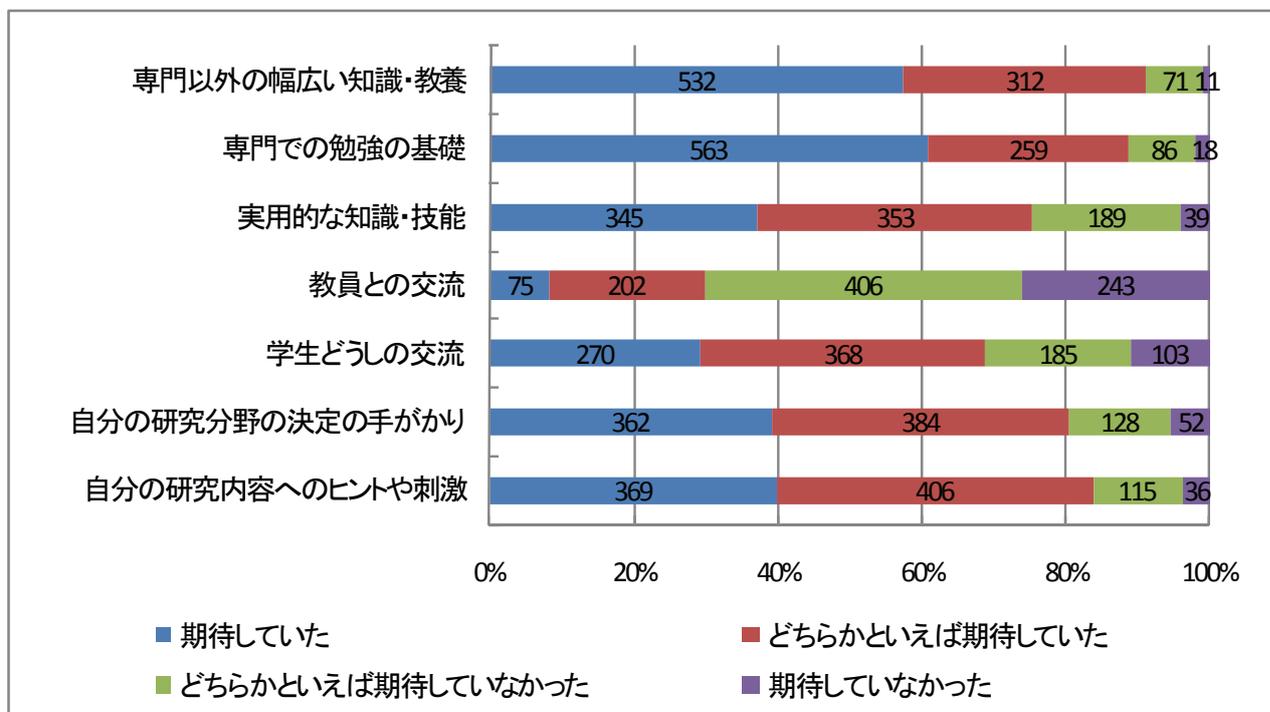
【全体】



【文系】



【理系】



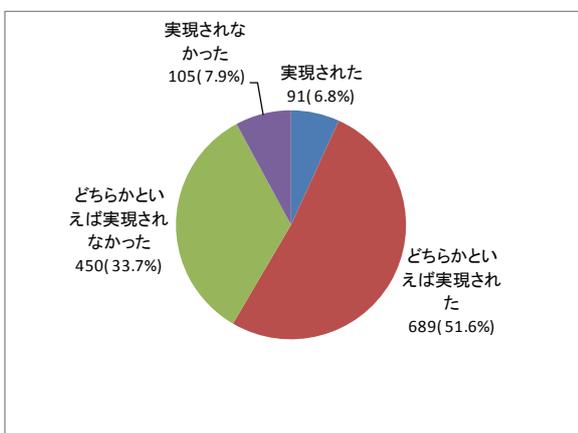
5 期待は実現されたか

問5 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。

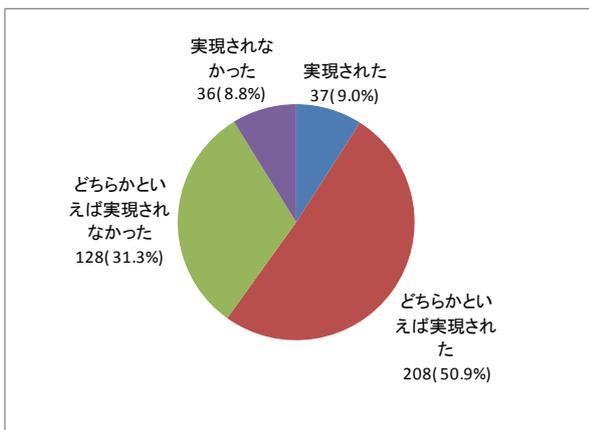
- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった |

5. 1 全学共通教育への期待は実現されたか

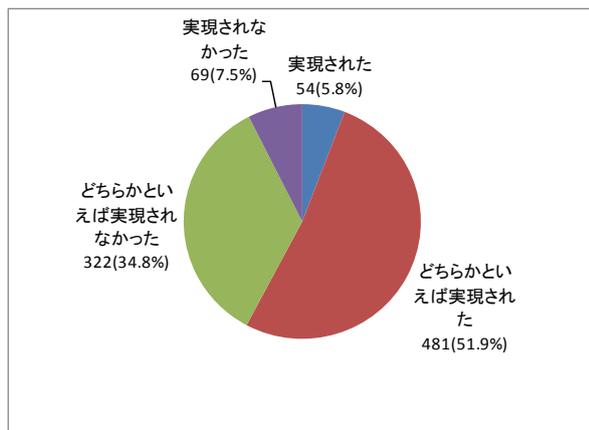
【全体】



【文系】



【理系】



6 今後の全学共通教育への要望

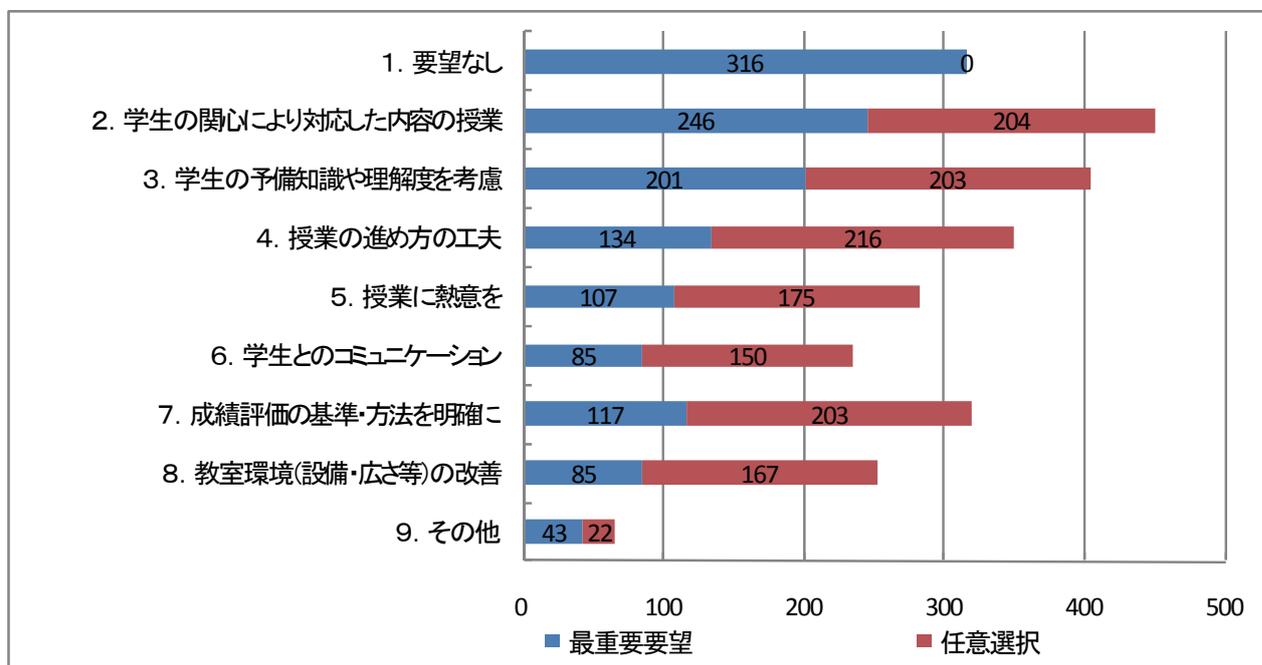
問6 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 特に要望はない
- 2 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 3 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 4 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 5 授業にもっと熱意をもってほしい
- 6 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 7 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- 8 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 9 その他（自由記述）

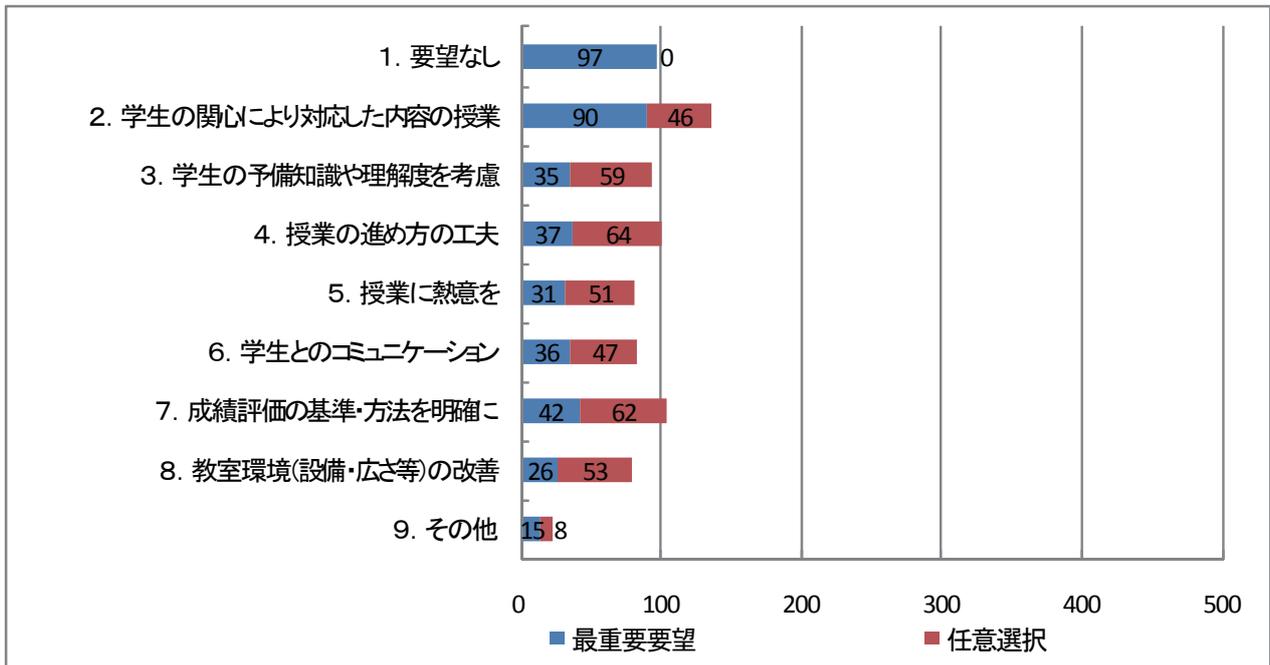
上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～9から選択）

6. 1 項目別集計

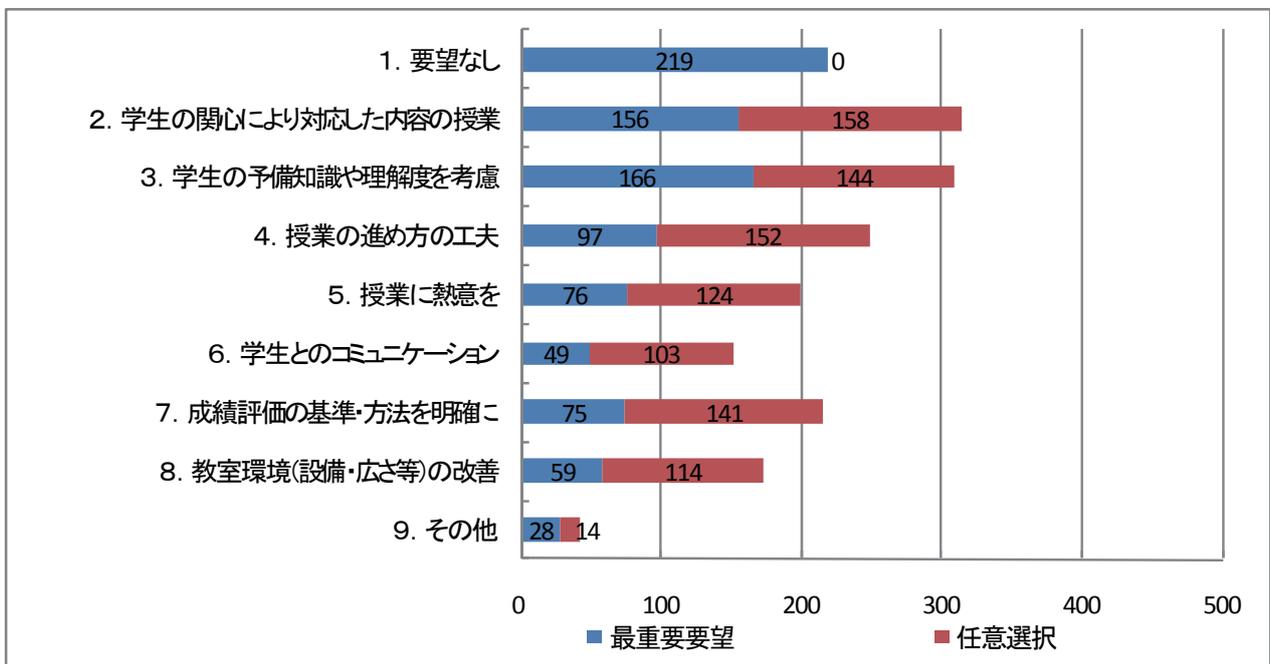
【全体】



【 文 系 】



【 理 系 】



6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容

◎は最重要項目 [1 つだけ選択] を、○は任意選択項目 [複数選択] を、それぞれ意味する。
末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- ◎高校での授業内容とあまり重複しないように、なるべく新しいことを教えてほしい。【総人
(文系)・女】
- ◎シラバスの充実【文・男】
- ◎つまらないので、取得すべき単位数を減らしてほしい。【文・男】
- ◎前期と後期で連続した受講が推奨されている科目については、特に抽選がある際には前期の
受講者を優先してほしいと思った。【文・男】
- ◎抽選なく履修させてほしい。【文・男】
- ◎いくら自由な京大だとしても、※※先生のやり方は注意した方がいい。【教育・女】
- ◎教室の空気が悪い、夏冷房が寒すぎる。【教育・女】
- ◎時間割に配慮がほしい。【教育・男】
- ◎前期のバラエティの豊富さに比べて後期は授業が少ないように感じたので、もっと後期開講
授業を増やしてほしい。【教育・女】
- ◎一部大教室での授業でうるさい学生を何とかしてほしい。【法・男】
- ◎自分勝手な授業はイヤ。【法・男】
- ◎人気があり抽選で履修制限する授業は前後期開講してほしい。【法・女】
- ◎単位が簡単に取れすぎる。【法・男】
- ◎特にありません。【法・女】
- ◎教員に期待はしていません。【経済・男】
- ◎単位取得をもっと簡単にしてほしい。(自習時間が取りやすくなるから)【総人(理系)・男】
- ◎A群の授業のレベルが理系にとっても低すぎる。【理・男】
- ◎わくわくするような語学の授業がほしい。【理・男】
- ◎学生のやる気を煽ってほしい。【理・男】
- ◎学生自身の熱意が欠けている。【理・男】
- ◎関連ある授業間で連絡を密にしてほしい。【理・男】
- ◎現在開講していないような分野の授業を追加してさらに多様な授業を用意してほしい。【理・
男】
- ◎講義室にいる学生がたとえ少数でもうるさくしている時には、注意してほしい。【理・男】
- ◎積極的に意見を述べ合うような講義が少ない。【理・男】
- ◎多重登録を許容してほしい。【理・男】
- ◎二重登録など時間割に制限されない授業の取り方ができるようにしてほしい。【理・男】
- ◎結局の所、授業に文句をつけるのではなく、自分が変わらなくてはならないのだと思う。
【医・男】

- ◎中国語の CALL 教材がある時期から使用できなくなり、窓口に相談したが、結局改善が見られなかったのが残念だった。【医・女】
- ◎難しすぎず楽しく学べる科目を増やしてほしい。【医・女】
- ◎曜日、時限によって興味のあるものが取れないことが多かった。【医・男】
- ◎授業を半端な気持ちで受けている人が学校に来なくて済む制度をみんなで一緒に考案したい。
【薬・男】
- ◎基本の用語などの解説をまったくなしに、授業が教授自身の研究発表になってしまうことは、避けるべきだと思います。【工・男】
- ◎語学ははじめから CALL でもいいと思う。【工・男】
- ◎工学部は卒業単位に認定される B 群科目が決まっているため、興味のある科目が受講しにくい。何単位かは自分の好きな科目を認定してもらえるようにしてほしい。【工・男】
- ◎出席重視の授業を増やしてほしい。【工・男】
- ◎特に大教室で行われる講義で、部屋の後ろのほうで私語をしている学生がいることがしばしばある。悪いのは僕ら学生なのだし、教員が大学生に向かって「静かにしなさい」などと叱るようなことも情けないから、教員にそのようなことは要求しない。しかしやる気のない学生を講義室に入れないような対策を考えてもよいと思う。例えば出欠を取ったり小テストを行う必要があるのは理解できるが、それによってあまりやる気のない学生まで講義に顔を出すことになり、本当に講義を聞きたい学生が迷惑しているという面があると思う。【工・男】
- ◎履修制限を無くして欲しい。【工・男】
- ◎もっと英語教育を充実させて欲しいです。英語に触れる機会がやはり少ないです。【農・男】
- ◎時間割を考えてほしい。【農・女】
- ◎授業の名前が同じでも内容が違うものなら両方とも単位として認定してほしい。【農・男】
- ◎専門科目と時限が重なって取れなかった講義が多かったので、できるだけ重ならないように改善してほしい。【農・男】
- ◎配布資料を見返す者に対して配慮して欲しい。(字が小さすぎて読めない配布資料多し)
【農・男】
- ◎理系は A 群の必須単位数を減らして B 群の必須単位を増やしてほしい。【農・男】
- これからもアンケートシステムを継続してほしい。【総人 (文系)・男】
- パワーポイントは分かりにくいので極力使わないでほしい。【文・女】
- 講義の種類をもっと増やしてほしい。【文・男】
- 学生を叱って欲しい。【法・男】
- テストを返却してほしい。クラス指定をなくしてほしい。授業を延長しないでほしい。【法・女】
- 本当にその授業を取りたいのに、単位が取りやすいといった理由で授業に出る気もないような人が抽選されるところを改善してほしい。前期の試験成績を考慮するなどしてほしい。
【法・女】

- 授業登録が複雑すぎる点【経済・男】
- 提出したレポートにレスポンスが欲しい。たとえ高得点がついても、点だけついて返ってくるだけだと、次のレポートにつながらない。レポートや小論文試験にたいしてコメントが欲しい。【経済・男】
- ビラ邪魔【理・男】
- 英語をもっと役立つものにしてほしい。【理・男】
- 成績評価の内訳を明らかにしていただかないと、試験後の抗議の意味がないです。【理・男】
- 芸術系の講義の充実【医・男】
- 2において、特に理系でも楽しめるようなA群科目を増やしてほしい。【薬・男】
- 安土桃山時代を扱った歴史の講義を開講して欲しいです。【工・男】
- 全体的に単位が甘いのが問題点だと思う。試験問題や評価をもっともっと厳しくすべきだ。また教える熱意のない教員がいるのはとても残念だった。【工・男】
- 勉強の道しるべになって欲しい。いきなり難解な事を言われても厳しい。興味が湧く前にその科目が嫌いになってしまう学生も少なくないでしょう。。【工・男】
- 履修しても単位として認められない科目はどうしても選択する際にためらってしまうので、もっと認められるようにしてほしい。【工・男】
- 教員の経験談を聴ける授業がほしい。【工・男】
- 学生の目的をもっと理解してほしい。【工・男】
- 単位がほしい。【工・男】
- 教室が離れている授業が連続している生徒に対する、個別対応を出来ればして欲しい。【農・女】
- 理系科目において、基礎知識の体系的な習得を目指して欲しい。【農・男】

7 自由記述

問7 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

●は男子学生、○は女子学生の回答である。

7. 1 総合人間学部

【文系】

- いわゆる「楽勝科目」に単位目当てで集まる人間が、本当に勉強したい人にとってとても邪魔な存在です。授業中終始雑談ばかりしてうるさく、自分もそのような人間と同類と思われるのが嫌で悲しくなります。せめて他の人の邪魔にならないように黙っていてほしいです。それができないなら退室してほしいです。
- 授業のやる気がない講師が多すぎる。それなのにこちらがやる気を出して勉強しないとけないという状況はおかしいと思う。講義に出るだけ時間の無駄だった。本当につらかった。もっと講義から色々学びたかった。
- 制限がほとんどない中で幅広い分野に触れられたことで、自分の興味や関心を知るのに役立ったと思う。
- 一回生時の履修選択を完全に興味本位で行ってしまったため、冷や冷やしています。
- 専攻する分野を決めるために色々な種類のパンキョーをとって、結果的に専攻が決められたからよかった。
- 全学共通科目といえど、やはり自分から学ぼうとする姿勢が大事であると実感しました。
- 大学にいる意味が見いだせない。
- 教授は一般教養科目に対して、一層熱心に取り組むべきだと思う。（教授の熱意は学生にも伝わるはず。）
- 意外と何も身に付かなかった。
- 数学や化学などの理系の科目は、文系で入試を通過したものにはついていけないものが多かったのが残念であります。
- 1. 授業によって成績の評価方法が異なるので同じ内容の授業でも出席だけで優がもらえる授業がある一方で出席にレポート、試験、プレゼンテーションまでしても「良」さえつかない授業もあって不公平だと思った。同じ科目（特に語学）の試験内容・評価方法は教授会で話し合って同一のものにしてもらいたい。
2. ※※先生のように一回の授業のために何時間も予習し、素晴らしい授業をする先生もいれば、一方で自分の前回の授業内容を忘れて生徒に教えてもらったり、毎回平気で十五分も

二十分も遅れてくる先生もいて本当に腹が立った。生徒だけでなく先生の遅刻・無断休講をきちんと罰するシステムを作って欲しい。

3. 一部の生徒はきちんと真剣に授業のために予習復習を積み重ねているのに教員が予習をしていない。教授とは文字通り教える者なので本来は研究、教育共に責任ある立場である。授業を改善しようとする意欲がなかったり、生徒をワクワクさせるような授業ができない教授は研究員として研究に専念すべきだし教授としての適性・資質がない。僕たちは高い授業料を払って大学に来ているので生徒の本気には本気で答えてほしい。たとえば、教員の給料を研究分と教育分で分けた後アンケートシステムの内容を反映して教授の給料を変えるなど熱心に授業をしている教員と惰性で授業をしている教員の学校側の評価を変えてほしい。そうしないと熱心に授業をしている教員のモチベーションが失われ、また新しく教員が熱心に教育するモチベーションも生まれにくい。このままだと一般教育の質の低下が加速する。

4. (一番重要) 僕たちが魂を込めて書いたアンケートが、どのように教授会や事務機関で議論されたか、その過程と結果を公表してフィードバックしてほしい (たとえば食堂ルネに置かれているメニュー改善アンケートのように)。できれば授業の改善のために教員と生徒が改善策やアイデアを話し合う場を設けてほしい。対話からは必ず新しい知見が生まれるはず。総長が入学式でおっしゃった京都大学の理念「対話による知の創造」を全員で実践しましょう。

アンケートシステムを導入してくださってありがとうございました。感謝しています。

- 基本的に授業がつまらない。与えられるものに期待するのではなく自学自習すべきとは言われるが、そうであるならば単位取得を強制すべきではない。

卒業単位を揃えるためだけの受講などナンセンス。数字だけの単位を取得しても、実質何も身につけていないことに気づき愕然とする。

単位取得を強制している以上、それぞれの授業・単位に、取得するに見合う価値を持たせるべき。

- 私が感じたのは、本当に色々なジャンルの研究があるんだな…ということです。自分が高校まで受けてきた教育とはあまりにも違いすぎてよくわからないことも多かったけれど、新鮮で、興味深かったです。

- 生物学系に興味があって、生物化学とか神経科学といった授業を結構とったのですが、高校の生物の内容と重複する部分が多く、正直勉強しなくてもテストはできたことが多かったです。もう少し生物を履修した人を考慮した講義を作ってもいいのでは。

【理系】

- B群科目では、文系の学生でも受講できるとシラバスに書いてあっても、理系の数学や理科の知識がないと理解できないものがある。現在の高校の履修内容を知らないのなら、文系も受講可能などと安易に書くべきではない。

英語(読解)の講義は、教員の専門分野に関する英語論文を輪読するものだった。しかし、その論文の内容はあまりに専門的で1回生の英語の講義には不向きだったと思われる。京大の

英語部会で文理のバランスや内容の程度を考慮したテキストを作成するなどして、このような問題を解決しなければならない。

- 大学教育という恵まれた環境にありながら最初はやる気があっても結局は多くの人が楽勝科目などに流れてしまうのは非常にもったいないと感じた。それは学生個人の問題でもあるが、教員側もその現状に危機感を持ち、より充実した講義を展開して大学教育の底上げを図ってほしいと思う。
- 単位を得るためだけの授業でしかなかった。
- 教える側の熱意のなさに落胆した。講義をより良くする工夫や、学生を惹きつけるような魅力が全くと言ってよいほど感じられなかった。
- 授業を受けているうちに、京都大学に来たんだなあ、という実感がわいてきました。
- 全学共通科目を1年間受講したことで、それぞれの教員がどのような分野の研究をしているか、またその研究手法、といったものがなんとなく見えてきた、というのが正直な感想です。
- 取りたい授業も、取らなければならない授業でいけなくなってしまうのが残念だった。
- 全学共通科目を実際に受講してみるととても内容の濃い授業があつて、ついていくのに苦労した事もありました。授業を受けたうえで自分で本を読んで、理解を深めるところまでできればよかったのになあと反省しています。
- 全学共通科目である一方、自分の学部の専門科目になり、かつ自分のもっとも関心のあるテーマの講義が、人数制限のある人気講義で、抽選のために受講できなかったのが残念でした。
- 思っていたよりも難しい内容の授業が多く、自分の中で興味があると思っていた分野でも、あまり楽しいと感じなかった。
- さまざまな種類の授業があつたおかげで、本当に自分が興味を持てる分野が明確になった。
- 総合人間学部では、履修すべき科目の縛りが少ないため、自分の興味本位で学ぶことが出来てよかったと思う。私は人の健康や、身体・運動学に興味があるので、今後も学んで生きたいと思う。
- 個人的には、文系として入学して理系向けの講義を受けることはとても大変でした。総合人間学部は他学部 비해講義を自由に取れるため、逆に専門科目の基礎を身につけるために取るべき全学共通科目がわかりづらく、1回前期は誤った履修計画を立ててしまいあとから悔やむことになりました。
- 私は入学当初、生物のミクロの分野にとっても興味を惹かれていましたが、全学共通科目を通してマクロの分野にも興味を惹かれるようになり、研究のテーマを決める上で大きなきっかけになりそうだと思います。また、いろいろな授業を通して、自分の考え方や物の見方が変わり、大きく成長できたと思います。

7. 2 文学部

- 幅広く教養を学ぶことが出来て、たいへん勉強になった。哲学系の専攻を志望する自身にとっては、特に社会科学系の授業や自然科学系の授業がたいへん刺激的で、興味深くためにな

った。とりわけ教科書的理解にとどまらず各々の先生方の最先端を勉強することが出来るような科目では、とてもスリリングな体験をすることが出来て、京都大学に入学したことの魅力を実感させてくれた。

後悔していることは、入学当初に抱いていた現場主義的学習への努力を、やや疎かにしてしまっただけです。

●英語に関してですが、担当教員によって宿題の量や予習の有無、期末試験の難易度などが全く違うようだったので、クラス指定にするのであれば、もう少しそれらの要素の基準を統一すべきであると感じました。

●自分の持つ幅というのが狭いせいか、非常に興味をもてた科目が少なかった。

●科目の数も内容の幅も広くてとても面白かった。

●内容も興味深いものが多く、何よりも選択肢が豊富だというのは嬉しいです。

しかし、全学共通科目で何を求められているのかが不明瞭で、取り組む上で困惑することがあったのも事実です。ただ、基本的には満足しています。

●友達と一緒に勉強するのが楽しい！！

単位は全部とれたが、役に立つものは少なかった気が…。

興味がある授業をいくつかとれたのでよかった。

●自分が所属している学部にはあまり関係のない分野についても、興味があれば好きなだけ学ぶ機会が得られたのではないかと思う。自分の研究分野を選ぶ良いきっかけになった。

●一年間、主に全学共通科目を受講してきて、大学で学ぶとはこういうことなのだなということを感じた。高校までの受身的な学習姿勢のままでは、大学の講義など全くおもしろくない。自らの問題を見出し大学の講義をヒントとしてその解決に努めなければならない。つまりところ、大学での学習をおもしろいものにするのか、あるいはつまらないものにするのかは自分自身にかかっている。

●授業科目は多岐にわたり、非常に充実していたと思う。

1 回生として、「大学の学問」とはどんなものなのかがよくわかった。

●どんなものを専攻するにしても必要とされるであろうジャンルを問わない知性や教養をはじめとして、いろいろと学ばなければならない余地があることを改めて実感し、今後に向けた意欲が養われたと思う。

●もともと興味をもっていた哲学、思想関係の授業以外は、やはり出席することが少なかった。テスト、レポートなどで、出席していなくても単位が取得できる授業が多かったのが原因だろう。結局、自分の興味の範囲は全学共通科目を通じて、ごくわずかしかが広がらなかったように思う。そのごくわずかが重要なものかもしれないが。

●シラバスを見たり、初回の授業に出たりして科目を決定するけれども、結局は自分の求める授業を取れるかどうかは運次第だと思いました。でもそれは仕方ないことだとも思います。

●たのしかった。

●やはり私は大勢で漫然と受ける講義授業は苦手であるし、非効率的であると再認識できた。

- まったく何もしなくても優が簡単にとれる授業と、かなり頑張っても「可」しかもらえない授業とが混在していて、その格差が凄まじく、まじめに頑張るのが馬鹿らしくなるのは問題があると思う。
- 様々な学問に触れることで、自分の視野が今まで以上に広がったように感じた。
- 学びたい内容はたくさんあり、興味深いものは多くありました。しかし、コマによって興味深い授業がかたまっていたり、あまり授業数が多くなかったりするなど、ばらつきがあったため、受講できなかった授業が多くあったのは残念です。
- 上に挙げた科学論・科学史基礎論や現代文明総論Bなど、自分が面白いと思える講義では眠くなることはない。楽かどうかよりも自分が興味あるかどうかで選んだ方が自分のためになるんだなと改めて思った。
- 少しだけ外の世界を知ったことで、さらに外の世界を知りたいとより思うようになった。
- なし。
- 高校の授業のように表面的にしか学べず物足りなさを感じることがありました。仕方のないことかもしれませんが、もっと専門的なところまで踏み込んでほしかったです。
- 役に立つ授業は非常に役に立ったと思います。新たに興味を持った分野もできました。しかし一方で少し興味があったから取った授業への興味が、逆になくなることもありました。また文系への数学でももう少し気軽に取れるものがあってもよかったと思います。全体を通してはある程度満足いくものではあったと思います。
- 全学共通科目は、自分の進む専門を決める手掛かりになったと思います。
- 日本史の史料を実際に読んだり、今までほとんど知識のなかったことをわかりやすく授業してくれたことに満足しているし、自分のためになる授業もあったのでよかった。
- 自分の意志の弱さと幼さを痛感した。今期は1回生時の経験をバネに全力で目標達成をする気概をもって臨む決意を固めている。
- なんだかんだで楽しかったし、ためになったし、総合的には良かった。ただ、1回生の時に語学の教員が選べないのは（特に英語は）不公平だと思う。語学は割と深刻に進級に関わる学部もあるようだし、たまたまとても厳しい教員に当たってしまったのは気の毒。
- 大学は自由だと思った。
- 授業すべてに全力を尽くすのは不可能。
- 勉強する上で足りない部分を自分で補うことが大切だと思った。
- 1年間、自分の研究しようとしていることと全く無関係なさまざまな分野の勉強をさせてもらったのはとてもありがたかった。将来に何を専修するかをゆっくり考えることにもなった。この自由さ、いい意味での暇さは確実に文学部の長所だと思うので、これからも失わないで欲しいとも思う。
- ・学問分野の面白み自体ではなく、面白い講義をする教員とつまらない講義をする教員の差が激しい。特に後者が圧倒的に多い。大学教員（特に京大教員）はほとんど研究だけやってればいいと個人的に思っているのだから、教え方についてとやかく言うつもりはないが、パンキ

ョーというシステムが導入されている以上、やはり面白い講義をやってほしい。

・まず断っておきますが、自分の取得単位数の少なさには納得しています。大学側の提示した条件を知った上で、履修登録したわけですので。その上で言うならば、大学側は、もっと、もっと、もっと、単位取得条件を緩くすべき。むしろ無条件で単位を与えたほうが良い。真面目に講義に出て必死にノートを取る人間に単位が与えられるのは中等教育まででいい。単位のために勉強するというのは激しく時間の無駄だし、自分のやりたい研究の邪魔以外の何物でもない。偉そうなことを言う前に教養を身につけると言われるかもしれませんが、全学共通科目は「教養」という建前で、その実、ほとんどの講義が教授の研究分野のお披露目という自己満足でしかないというのが現実だと思います。パンキョーのお役所的雰囲気強化のみならず、大学のさまざまな動きを見ていると、当局は自ら京大を潰そうとしているようにしか思えない。入学前は、「学生放置で伸びるやつは勝手に伸びろ、落ちるやつは知らん」という京大の姿勢に魅力を感じていたのに、入学して実態を知り大いに失望した。

・パンキョーで唯一良かったことは、現代文明総論という講義を受けることができたことです。この講義を受けたことは、(わずか20年の短い人生ですが)これまでの人生の、勉強・学問・研究という領域において一番大きな影響を受けた気がします。現代文明総論の教員思想・主張のおかげで、自身がこれまで抱いていた断片的な思いを、思想という段階まで体系化することができました。また、自分の研究したい分野に新たな方向性をもたらしてくれました。間違いなく人生が変わったと思います。

●全学共通科目は面白くないです。

●成績評価が甘いように感じた。ただこの全体的な傾向があることによって、(必要最低限のことをこなしていれば)単位が取得できるかどうかという不安を感じる必要がないため、興味がある分野の自主学習を自由に思うままやっていける。文部科学省の圧力に負けず、今後も必要悪である「甘い成績評価」は無くさないでほしいと思う。

問3Aの「あてはまる理由」の選択肢一番目は「授業の内容『が』興味深かった」だと思う。

○幅広い分野の授業を取ろうと思っていましたが、結局似たような系統のものばかり取っていることに後で気づきました。しかし結果的に自分の興味がどの方向にあるのか知ることができました。

○入学当時専修として選択しようと考えていた分野の授業が面白いと感じられず、興味が薄れた。

大学(学部)についての研究が足りなかったせいかもしれないが、本での学習などで得た知識から興味をもった分野が自分の学部では研究者がいなかったり、全学共通の授業で初めて興味を持って研究に携わりたいと思った分野の教授が他学部の教授であったりと、学部の壁を感じる。

転学部も考えるが入学時の成績が大きく関わるということで不可能なのではないかと思う。そのうえ研究テーマが定まっていなのに転学部をして果たして納得のいく結果を得られるかなどと考えると簡単に転学部を実行することもできない。

つまり言いたいのは、専修をどれにするかも決めきれず、2回生になって自分が本当に意欲、興味を持って学習、研究に取り組める分野を扱える研究室を見つけられるのか分からず、非常に悩んでいるということだ。

- 関心のある分野、科目を幅広く選んで学習できたので、非常に楽しかったです。熱中して、より深い理解を得られたように思います。また、選んだ科目の傾向から、これからの学習・研究の方針が見えてきたように思います。
- 今勉強していることは本当に私が学ぶべきことなのか不安になった。
- 特にはっきりした将来像を持って入学したわけではなかったもので、全学共通科目を通じて少しでもヒントをもらえればと思ったのですが、特に自分の興味や関心をそそられることはなく、とりあえず必要な単位数を取っただけ、という感じになってしまいました。サークルを辞めてから大学は、私にとって「授業受けるだけ」の場所になってしまい、特に楽しいものではなくなったので、後期からは週3で大学に行き、残りはバイトをしていた。バイトの方が人生の先輩や社会とのつながりを感じられるのでよっぽど有意義です。
- 私は文学部の学生なので専門科目がほとんどなく、他学部に比べて比較的自由に時間割を組むことができた。自分の得意とする分野でAB群の単位を揃えることができ、色々なことが学べたと思う。しかし、試験前にほとんど授業に出ていない友達が私のノートを借りに来て単位を取ってしまう、そんな目に多々遭った。全学共通の授業で幅広い教養を身につけるといっても、いかに楽しんで単位を取るかを考える学生がとても多いのが、この大学の現状だと思う。
- 履修システムの関係から、幅広い分野の授業に参加し、自分でも踏み込まないだろうと思っていた世界にまで知識を広げることができ、よかったです。しかし、その結果として、自分の志望が何なのか分からなくなってしまったようにも思います。また、学部とは関係のない全学共通科目であるために、さまざまな学部の人と交流でき楽しかったです。
- 自分から積極的に動くことが大切だと痛感した。
- 個々の授業を聞くのはそんなに楽しくなかった。要点がまとめられているプリントを配布され、それを補足する、あるいはほとんどまるきりなぞる形で進められる授業はとくに、目を開けているのすら一苦勞だった。寝るぐらいなら出席しなければいいのだろうが、馬鹿高い授業料を無理して払っているのだからサボる気にはどうしてもなれず、殆ど全回真面目に教室に行っていた。入学後の2, 3ヶ月は失望の連続だった。しかし、一見全く関係のない領域を扱った複数の授業が、実は互いに接点を持っていて、ある授業で提起された問題を解決する糸口が全然別の授業に潜んでいることに気づいてからは、出席が苦痛ではなくなった。関連文献を読んでみようという気にもなった。全学共通科目だからこそ味わえる面白い体験だった。
- 多少内容に興味を持てなくても、担当教員の熱意が感じられれば出席したくなるような気がします。
- 自分の興味ある分野や、さらに広い分野にもふれられ、とても楽しめた。自分の興味の再確

認や、見識を広げることにも役立ったと思う。

特に一見マニアックに見えるような授業は非常に興味深かった。もっとそういう授業があってもおもしろいかと思う。

○選択できる科目が幅広い分野にわたっているので、いろいろな分野に関心をもつことができた。授業を受けて少しでも知識が増えると、それに関する本や新聞を読むのが楽しくなった。

○講義の大切さがわかった。

○講義内容にひかれたというよりも、単純に単位をとるためだけにとった講義が多かったのですが、授業にでてみると意外と楽しめるものが多かったです。

英語の授業に関してはあらかじめ講義が指定されていて、同じクラスでも、前半の子たちと後半の子たちで授業が異なり、片方は大変厳しく、もう片方は単位認定も甘いなど、不公平感があったようです。

あと、1年からとれる専門の授業がもう少し多くてもいいかなと思いました。

○四共で行われる授業は、講義室が広すぎるためか、必ずしも授業に集中できる環境ではないと思った。

○当初、自分の目標が曖昧なまま、どのように授業を受けていけばいいのか分からなかったが、好奇心に応じて興味深く講義を聴くことができたので、良かったと思う。

○色々な知識が得られてよかった。けれど、日本史が1番好きで本場の京都で学ぼうと思っていたけれど、大学で学ぶ日本史というか歴史が自分の想像していたものとは違っていた。

○大学に入って今までと全く違う授業形態に最初はとても戸惑った。慣れの力を感じた一年だった。

幅広い科目から授業を選べるのはよかった。特に BD 群など自分でどの群として選択するかを決められる科目は非常に選択しやすいものだと感じた。

○好きなことが勉強できたし、成績評価も頑張りに応じていたので納得のできるものでした。

○専門にしようとしている分野以外の講義もなかなかおもしろかった反面、興味のない分野をそこまで好きになれなかった。

○講義の内容が専門的すぎて理解しにくいものが多かった気がするので、学生の予備知識をもう少し考慮してほしい。

○自分で学びに行こうとしなければ何も学べないと分かった。

○今まで学んだことのなかった分野について学び、新たに興味が惹かれたものがあったことがよかったです。

○幅広いことを学べたのがよかった。自分は一つの研究分野にしか進めないが、他の人の多様な研究の一端を知ることが出来るいい機会だと感じた。

○授業内容としては、全体的に満足だったが、受講生の雰囲気になんとなく「義務だから受けている」感じで、戸惑った。

○自分の専門外、特に理系科目を勉強するのが面白かったです。結果的に自分のこれからの研究分野の足がかりになる授業も受けることができ満足しています。

○広く浅く知識を増やせるリレー講義は好奇心が刺激されて、楽しかったです。

7. 3 教育学部

●大学の授業は、教授が一方的にする、ある意味で「レベルの高い」授業だと思っていた（自分から学ぶ姿勢が強くないと何も学べないような）。そんな授業もあったが、いっぽうでいろんな工夫をして、学生とのコミュニケーションを意識した先生が多くいらっしゃってよかった。

●大学での授業は本当に何でもありだということを実感した。ある授業でフロイトの自我の理論を学んでワクワクしていたら、哲学系の授業で「フロイトの理論は否定することが不可能なので科学と呼ぶことはできない」と言われてド肝を抜かれた経験は忘れることはないと思う。そして憲法の授業で、「大学生は講義から正しい情報を選びとるだけの批判的思考力があるので、ある程度自由な授業ができるが、高校生まではそうとはいえないので教科書検定にもとづいた教科書を使う」という趣旨の話聞いて、自分の経験が学問と結びついた気がした。

心理系の授業をたくさん受講したが、概論的な内容が多く、物足りないと感じた部分が多くあった。この物足りなさは今後専門の内容を深く掘り下げていくためのモチベーションになると思うので、全学共通科目を受講したことは自分にプラスになったと思う。

●部活との両立の大変さ。

●たのしかった。

●全学共通科目は視野を広げてくれるとても楽しい素敵なものだと思う。

●幅広い知識に触れることができ、自分の興味・関心を改めて認識できてよかった。

●教養を深めることができたとは思えませんでした。ただ、大学の講義やゼミというものがどんなものかということ、比較的簡単な内容で体験し把握できたことは有意義だったと思います。

●自分の専門外のことまで入門として教えてくれたことに感動した。夏期集中授業ではフィールド研の先生方と交流できて楽しかった。

●かなりまじめに取り組めたと思う。高校のときのような授業とはまた違った学びができ、得るものはるかに多かった。入試において必要な学力が衰えたのは間違いないが、教養のある魅力的な人間に少し近づいたように感じるが、気のせいかもしれない。

○幸いにも、私が受講した科目は全て興味深いものばかりでした。しかし、受講科目を決める際に出来るだけ自分の興味に偏らないようにこころがけましたが、語学科目などのクラス指定科目のために納得のいく時間割にはなりません。一回生も語学は予備登録制にした方がよかったとおもいます。

○高校のときよりも衰えてしまった自分を感じました。

○レポートで成績がつく場合、成績開示で点数だけがわかり、提出したレポートのどこで減点されたのか等の詳細がわからず、レポートを書く上での具体的な改善点がわからないままに

なっています。大学からのレポートは、どのようにテーマを決めるのか、決定したテーマをどのようにして掘り下げていくのか、どのようにまとめるかなど、今でもわからない点が多々あり、2 回生に進級した現在も不安が残っています。

○私の中で全学共通科目はどうしても「卒業するために必要な単位としてとる」という位置づけになってしまい、それぞれの授業に対する熱意が少なく、勉強量も少なかったため満足な知識を得られなかった。今になってもっといろいろなことについて真剣に学んでおけばよかったと少し後悔している。

これを通して、「受身の学習は自分にとって得られるものが少なく、いつか後悔することも多い」ということを学んだ。それだけでも 1 回生のうちに全学共通科目を受講したのには意味があったと思いたい。

○全学共通科目に求められているのは要領のよさだと思いました。

つまり私はクズですサセンww

○講義内容は専門的な内容が多く、わからないことだらけだったけれど、レポートなどの課題に取り組む際に自分で調べたりすることにより、各学問の導入までは理解できたと思う。

○概論と言うものは意外と面白くないものだと思います。その一方、全く自分と関係ない分野でも制限なく受講できるのはとても楽しかったです。特に先生の中には本当に精神科医だったり、元裁判官だったり、生の話を聞けてとてもよかったです。

しつこいですけど、あの先生は何とかしてほしい。口癖は「やめるという最大の自由が残されている」だったけど、確かに最悪単位を放棄すればいいんでしょうけど、授業内容自体は興味深いのに、クラスの誰か一人が気に食わないことをした時にすぐに切れたり、関係ない人のせいで授業が妨害された時に、こっちに怒鳴り散らして八つ当たりされたりして、いつだれが間違いを犯してしまうか、自分が今やっていることはきちんと指示通りできているか、常にビクビクしながら授業を受けていました。また課題の英作文でつい見落としてしまってケアレスミスをしてしまった時、先生に電話しなければ、その場で次回からの授業出席資格がなくなるという電話の中で、そもそも京大になぜ入ったのか、そんな気持ちなら大学に入る資格がない、やる気がない、お前のようなやつが犯罪者になるんだ、とまでいわれました。確かに取り続けたのは自分です。受講の際に、あほ、虫けら、やる気がないなら帰れ等の罵詈雑言は日常的で本人の人間性そのものを否定するものではないなどの誓約書にもサインしました。でも「お前のようなやつが犯罪者になるんだ」はどう考えても私の人間性そのものを攻撃しているとしか思えませんでした。こんな風に言われてやめるのでは負けたようで悔しかったので、その言葉に反抗することもなくひたすら謝り、結局最後まで続けました。単位だって無事取得しました。続けるのを選んだのは私、確かにそうです。でもいくら自由な京大でもここまでひどいことを許せるのはどうかしていると思います。

繰り返しますが、授業内容はいいのです。興味深いのです。もう少し何とかありませんか。

こんな一人のコメントを読んでいるかどうかは分かりませんが、ぜひ一度ご検討ください。

○授業で学生の興味をひく努力くらいはしてほしい。

7. 4 法学部

- 学部の専門科目とは全く違う分野の知識や考えに触れることができたのは良い経験だったと思う。
- 興味のある分野は、楽しく講義を聴くことができた。特に世界史に興味があったので、世界史系の講義はかなり面白かった。ただ、ほかにも受講したい科目があったにもかかわらず、クラス指定の語学とかぶってしまいとれなかったのが、一回生のうちから語学を選択制にしてほしかった。
- 京大、楽しかった。
- 去年度は後半勉強が疎かになってしまったのが心残りである。
- 予習・復習の難しさ（時間が足りない）、教養の面白さを実感しました。
- いい加減な教員+いい加減な生徒の授業が多すぎました。
- 専門科目より打ち込んだ気がします。楽しかったのも。
- 全学共通科目は、種類は多いけど、あまり実践的なものがなかった。
- それぞれの科目について教授がすごく楽しそうに講義をしてくれたので、すごく楽しかったです。
- 全般的に専門的な内容に踏み込んだ授業で様々な知識を得ることができた。
- 基本的には満足です。しかし、一部の講義については改善の余地があると思いました。教室環境をはじめとして、成績の評価における講義によるバラつき等は、どうにかしてほしいと感じました。
- 1.当初、私は大学の全学共通科目を通じて、多様な学問を体系的に理解する能力が得られると期待していた。
2.しかし授業が始まると、私は夢を見ていたに過ぎないということに気づかされた。というのも、おもしろい授業はあるが、それらを踏まえたとしても、どの授業も結局は教授の興味を薄めたものに過ぎず、各分野の学問の基礎や全体像などまったく見えてこなかったからだ。
3.そのため、夏休み明けからは学問への意欲は大いに衰退し、惰性で授業に出るという状態に陥ってしまった。
4.しかし、この春休みでいろいろ考えた結果、全学共通科目など所詮はパンキョーに過ぎず、結局学問とは自分で学ぶものであるという結論に至った。
5.これからは、大学や全学共通科目に無駄な妄想は抱かず、面白そうな科目だけとるなど、徹底的に利用させてもらうことにしている。
6.結局のところ、大学が社会から隔離されて時代に取り残されようがされなかりょうが、私たち学生はみんな自分で学び、社会へ出て行くのだ。
- 今まで興味が文系に偏っていたのですが、B群単位を取得するためにいやいや理系科目を受講したことで理系のおもしろさというものに少し気付けた気がしました。
- 法学以外の分野（政治や経済）についても幅広く学べたので非常に有意義でした。理系分野

の授業をあまりとれなかったのが残念です。

- 多くの授業が一方的で面白みの無い研究成果の発表の場となっている。一般的な知識、興味しか持たない学生にもわかる授業をする努力がほとんどなされていない。パワーポイントもただ画像を映し説明するだけのような単調なものが多かったし、生徒がその授業で具体的に何を学ぼうと思って参加していたのかを知ろうとする配慮に欠けていたと思う。もちろん教師が全て生徒に配慮する必要は全く無いが、授業するからには学生がよりわかりやすく関心を抱きやすいテーマ、視点から講義を進める工夫がもっと見られてもよかったと感じた。
- もっと友達を作ればよかった。
- 外国語の指定があったせいで、取りたい授業があったがそれを諦めることがあった。外国語のクラスは1回の時から抽選でもいいのではないだろうか、と思った。
- ※※先生の熱意に感動しました。教養の大切さを※※先生から学びました。今年も単位関係なしに※※先生の講義を受講しようと思います。
- 様々な分野の科目を履修しましたが、やはり自分が興味を持てる分野の勉強でないと身が入らないなと感じました。興味の持てない分野の勉強は、ある程度の教養にはなりますが、将来自分のためになるかと言われれば疑問です。今後自分が研究したい分野を見つけるのが、1回生の全学共通科目の履修意義なのかなと感じました。
- 全学共通科目では、最先端の研究成果などを、わかりやすく教えていただいて、「へえ〜」とか、「なるほどー」とか、学問に対して純粋に面白いと思える瞬間が何度もあって、楽しかった。
- あまりに専門的な授業で、初回から内容がまるっきり理解できないものがいくつかありました。興味がある授業でも、それでは受ける気をなくしてしまいます。もう少しわかりやすい内容に改善してほしいです。
- 4 共 30 での授業は後ろの方はほとんどの学生が寝るか話すかで授業になっていることは少なかった。ただ面白い授業時にはほぼすべての学生が聞き入っていることもあった。
- 学問は広く深い
だからおもしろい
もっと知りたい
教養科目で学んだことが実生活でいかせているかは疑問だ
- 楽勝科目と言われるものは、学生が集中するため教室の環境が悪く、授業自体も質が低かったように感じた。そのため後期は単位が取りやすい取りにくいに関係なく、自分の興味のある分野を自由に取ったら、中には単位を取るのが難しい科目はあったが、とても授業自体を楽しむことができた。これからの後輩たちには楽勝科目をとるという風潮に流されずに、自分の興味ある科目をとってほしい。
- 興味深い科目が多く、また役立つ知識を提供してくれる科目も多かったため、全体的には満足だった。
だが、内容が深いがために、学期が始まった最初のころは内容を難しく感じる事が多く、

そのためよく居眠りをしてしまい、学期の終わりごろにようやくその科目の魅力に気付いて、最初のころにもっと真面目に講義を聞いておけばな、と後悔する事がままあった。

次の一年間は、学期のはじめから集中して講義に臨みたいと思う。

- 自分が専門として学んでいく学問以外の分野の知識が多少は身に付いたと思う。今まで知らなかった考え方や視点を発見できた。
- 単位をとるためだけでも勉強しようと思う。
- 心から興味を持てる内容の授業が多くて、京都大学に入学できて本当に良かったと日々思った。自分が社会科学系の科目を多く受講し、将来のための知識の礎にしようと思って臨んだ。流石に1年間では深く突っ込んだ内容には手が届かなかったが、それまで全くとっていいほど知識の無かった分野の事が学べたし、もっと知りたいと思うようになった。
- 何事においても知識は持っておいて損はない、ということ。
- 幅広い知識は得られた反面、将来何を勉強すればよいか分からなくなかった。これまでは欧州統合と中東情勢のみに興味があったが、この一年間で興味の対象が広まった。ゼミナールを通して交友関係を広められ、良き友人に恵まれてたいへん満足している。
- 自分の専門以外の知識を得ることが、自分の今後の生き方や考え方に貢献してくれることを期待しています。
- 幅広く教養が身につけられたように思う。
- 非常に様々な授業があり、幅広い知識を習得するのに役立ちました。ここで学んだ幅広い知識を専門分野で活かせるようにしっかりと学習を続けていきたいと思います。
- 日本史・世界史関係しかあまり楽しくなかった。
語学は先生によって変わりすぎる。
学生は他にも授業を受けているのだから、自分の課題が最優先だ的な量の課題の出し方はやめてほしい。
- 教員にやる気がない授業とかもあった。
また、あまりにも簡単に単位が取れてしまい、全く何も身につけていないのに単位だけ揃うという事態ができていると思う。
- 少し大変だった。
- ・簡単な科目と難しい科目の差がありすぎると思った。あれだけの差異がありながら同じ2単位として認められるのはどうかと思った。
・講義の内容が分かりにくい上にテストが難しい授業があり、これでは単位が取れないじゃないかと思った。
・シラバスを見た限りでは面白そうな授業でも、いざ出てみるとつまらないものが多かった。学生が、面白いしぜひ毎回授業に出たいと思えるような授業をもっと揃えてほしいと思った。
- やはり最高学府というだけの事はあり授業内容は（他の大学とは比較できないが）充実していたし、教授も一流だったと思う。さらにテストはよっぽどの事がない限りは落とされないのでテストを意識してピリピリするという事もなかったところがよい。ただ一つ、現代文

明総論は内容は良かったが優が取れなかったのが不思議である。ノートはきちんと理解して暗記して授業でやったことをすべて書いたにもかかわらず75点というのは少々納得がいかない。

- 楽しかった。
- 大学における学問というものを理解し、学ぶことの楽しさを実感した。
- シラバスの内容と授業内容が一致していないものも多かった。また、計画通りに進まないことが多々見られ、それなら最初から少なめに書いておけばよいのにと思った。
- 自分が今まで触れることのなかったような学問分野の世界にも触れることができ、刺激的な1年だったと思います。
- 京大では勉強が自由にできるのがいいと思いました。
- さまざまな知識に触れることができ、とてもよかったです。
- 大学は教育機関ではないと感じました。研究機関であって教育機関ではない。たとえ天下の京大といえど、教育に関しては三流大学に等しいレベルだということがよくわかりました。あまりにもずさんな教育体制。非常に低い教員の質。もう大学の授業には期待いたしません。自習に励みます。
- 全学共通科目は興味深いものもあって充実していたと思う。実際出席率も良かったし単位もそれなりに取れた。専門科目になかなか興味が湧かなくてこれからどうなるか不安。
- 面白い授業は面白かった。
やはり、語学は不要。時間を浪費するだけで、自分のためになるとは思えない。
授業内容とテスト・評価内容が著しく異なる授業は迷惑。
評価基準が不透明。評価方法に対する明確な説明を求めたい。
- 教授によって授業に対する意識の差が大きい。というのも、※※さんなどは生徒に対して「わからせてあげよう」という意識を持って授業してくれているということがよくわかったが、なかには自分がしゃべりたいことをしゃべれば満足して授業を終える方もいらっしやっただので、そのような方にも同じだけの授業料を払っていると考えると不愉快でした。
- 自分の目指すべき方向性のヒントが得られたと思う。
- B群が難しかった。
- 幅広い授業があって楽しかったです。しかし、大教室での授業では授業中にしゃべる生徒も多く、集中力を邪魔されて残念に思いました。
- 様々な分野を学ぶことができました。全学共通科目がなかったら一生触れることもなかった分野に興味を持つことができ、楽しかったです。
- 自分の専門とはちがった分野の学問に触れることができ、世界が広がったように思う。
- 途中で中弛みのようなものを感じてしまった。しかし、後期中盤辺りから脱却出来たと思うので、良かった。
- 専門分野での勉強を期待して、本学に入学しました。なので、専門科目に対しては、非常に勉強意欲が高く、授業外のほとんどの時間は勉強に専門科目の勉強をしていました。一方、

共通科目で過度な負担や課題を強いる教員が見受けられます。期中にグループワーク・小試験・宿題・レポートなどの複数の課題を出し、多くの授業外時間の勉強を要求することです。自分の学びたいことがそれと合致していればよいのですが、それと合致しているわけでもなく、逆に自分のやりたい勉強を阻害している感じでした。教養科目や語学、特に第二外国語などはあくまで本人の多方面の興味を促すきっかけや刺激となるものと割り切ってほしいと思います。きっちりその科目を習得させようとするのはかえって本来、多様な学生の多様な興味を一律に強制していることになると思います。負担を軽くすると、授業外は怠けるだけの学生もいるかもしれませんが、本来学問や勉強というのは自分で意欲をもってやるからこそ身になるのであってそれが本学の理念でもあるはずです。どうか、過剰にその授業に引き込もう、しっかり習得させようといった過負荷で学生が積極的にやりたいと思っている勉強を圧迫することはないよう、その点も配慮した授業の進め方をしていただきたいと思いました。

○どちらかというと、専門科目よりも全学共通科目に対して知的興味が湧いたので、自分の学部選択は正しかったのか？と思いました…

特に、化学・環境についてもっと勉強したいと思えるようになりました。「文系向けの基礎化学」が良かったです。

○いろんな分野の基礎を広く学ぶことができ、自分の将来の可能性について考える手助けをしてくれたと思う。

○日頃からどういうふうに勉強していけばいいのかという点で非常に悩んだ。

○さすが最先端の研究をする京都大学の講義とだけあって、特に理系科目は時事ネタに絡めた新鮮な情報も聴けて非常に面白かったです。リレー講義はいろんな先生のお話がきけて好きでした。もう卒業単位は揃いましたが、余裕があればこれからも全学共通科目を受講しようと思います。

○全般的に楽しんで受講できた。一部の先生の地位を鼻にかけてろくな授業をしてない先生もいたが概ねよかった。

○どのように勉強を進めていけばいいのかわからなかった。講義が充実したものであっても、その知識を定着させられないことに苛立ちを覚えてもいた。

ただ、勉強方法を含めた全てのことを自分で管理するのが大学なんだろうとも思っていました。

常識としていたことをそのまま常識と思わなくても良いという空気は居心地が良かったです。

○全学共通科目の中でもエネルギーの必要度が大きく違ったが、全体を通して大学での勉強の仕方の訓練になったと思う。試験日程などをもっと早く(1月以上前)に出してほしい。アルバイトの予定と勉強の計画を立てるのにとっても苦労した。

○専門とは一見関係がないと思われるような科目を数多く受講していましたが、その中で、今まで全く知らなかった分野に触れることができました。その分野は、とても興味深く、日々の行動を見直すきっかけを与えてくれるものでした。これからは、専門が中心となってきま

- すが、機会があれば、読書などを通して、その分野に関する知識を深めたいと思っています。
- 講義形式の授業よりも、ゼミ形式の授業の方が自分には合っていると思った。
- クラス指定の授業のせいで受けたい授業が受けられなかったことが残念だった。一回生のクラス指定はなくしてほしい。
- テストを返却してくれないと自分の間違いや直すべき点がわからず、勉学に支障が出ると考える。希望者にはテストを返却してもらえるシステムを構築してほしい。
- 学部の科目とはまた違った雰囲気の中で幅広く学ぶ楽しさを感じながら受講していました。
- 今後もより一層刺激的で幅広い分野の授業が提供されることを期待します。
- 日本史の天平・国風文化にしぼった講義があると嬉しかったなあと思います。
- 一年前のわたしの思い通り、いろんな科目を自由にとれてよかったです。
- もう心は理系でした。というか今も心は理系です！
- まあ正直自分に教養がついたとは全く思えないですが、授業でやったことには満足しています。欲をいえばもうちょっと身に付くものを得たかったです。
- これから専門でがんばります！
- 2回生以上になると専門科目しか学べないので、全学共通科目で自分の興味がある分野をたくさん学ぶことができたととても楽しかった。
- 専門科目だけでは絶対に学べない幅広い分野の講義を受けられ、知識が広がった。
- 授業は多くの分野の興味関心を与えてくれて、学ぶ刺激にはなったが、反面後期になって自分で使える時間が増えるとそれをどう使うかという計画を立てるのが難しく、結局時間をもてあましてしまうことがあった。
- 幅広い授業があり、なかなか楽しかったです。
- 内容は基礎的で分かりやすいのに、各分野専門の先生方のお話がたっぷり聞けて勉強になりました。
- どれを取ろうか迷うくらいの講座数で、自分の興味をとことん追求できるのはもちろん、今まで特に気にならなかった分野も、授業を聞いてみて「これ面白い！」…新しく勉強を始めるきっかけになりました。
- 苦手な理数系の講義を楽しく聴けたのはこれが初めてかな、と思います。
- 専門科目も大事だけれど、これからも時間を見つけて受講したいです。
- 勉強とは自分の意志でやるものだと痛感しました。
- 知識や教養が広がった部分も確かにありましたが、教授が話したいことを話しているだけの授業も多かったように思いました。それが大学というものなのかもしれませんが……。その分野を専攻していない学生にも足掛かりとなるような授業を望みます。

7. 5 経済学部

- クラス指定科目に関して言えば、クラス指定を強制的に受講させられることで、他の受講したい全学共通科目や学部専門科目を受講できないということにもなりかねないので、2回生

以上対象の語学の講義のように自由に選択できるほうが良いと考える。

- 大学が語学能力を伸ばそうという意識へと学生を持っていけない。半ば強制的でも語学能力を向上させてやるべき。大学生にはすべきことが多くあり、物事に優先順位をつけて行っていくので、日常での必要性の低い語学は捨て置かれる可能性が高い。
- 基本的には何を勉強するのか、何をやるべきなのかが分かりやすい授業を受けていたので、「どうしよう…」と困ることはなかった。ただ、後期のポケゼミは開講数が少なく、専門科目と時間が被るものも結構あったので、もう少し増やしてほしいと感じた。
また、自分は文系だったので、B群の授業について行けるかどうか心配だった。単位は取れたものの、あまり授業内容を理解できないままになってしまったものもあるので、専門用語の解説などを詳細にすると良いと感じた。
- 興味にジャストで対応しているのがなくて残念だった
- 講義を退屈と感じてしまう自分が情けなかった。
高校とは異なり、予習の仕方が分からず戸惑った。
興味のない分野も履修することで知識の幅が広がった。
講義を能動的に受講する姿勢がなければ得るものは少ないと感じた。
- えっと…例えば経済学部の人々が法学系のパンキョーを取った時に、身につけたいことはやはり「社会人として恥ずかしくないぐらいの法学の知識」だと思うんですね。それ以上を学びたい人は自分でやりますし。
それにしたら、パンキョーなのにはほぼ専門じゃないかと思うくらい内容が相当難しいのばかりでした。色んな分野に手を出したいと思っていた意欲は完全に粉碎されてしまいました。
学生のレベル、それから学生がパンキョーに求めていること。
ほんの少しでも学生の声に耳を傾ければ、おかしいのは自明だと思います。
- 本当に自分の学びたいものをしてることができた。
- 語学の授業が担当教員により難易度に差がありすぎるのではないかと感じた。同じ語学の中でもっと統一性を持たせてほしい。
- 何事も中途半端であることはいい結果を生まない。もっと一生懸命物事に取り組みたい。
- 様々な領域の学問分野に触れてみて、自分が知らないことがいかに多いかがわかった。
自分の無知を再認識できた。
- 楽しい授業は自然と足が向くが、そんな授業でも一度体調不良などで欠席するとついて行きにくくなるのが残念であった。
- 退屈な授業がほとんどで、楽しいと感じた授業はほんの一握りだけだった。入学時に大学の授業に過度な期待をしていたと思う。
- 授業に出ようが出まいが、取れる科目があり、それはどうなのかと。
- 先生方だけでなく、生徒も授業を良くしようという心構えが必要だと感じた。
- 自分で勉強しなきゃいけないな、ということ。
- 全曜日、全時限で自分の興味があった講義が開講されていたので、「行きたくはないが時間が

空いているから入れておこう」といった消極的動機によって講義を受講することがなくその点はとてもよかったです。

- すべての講義を通じて、教授が淡々と授業している感じがして、興味をそそられませんでした。
- 全体的に予備知識がある講義を選んでしまったことを後悔しています。もう少し未知の分野に挑戦していけばよかったです。
全学共通科目といえど、文系が履修しづらい科目が多かったように思います。
- 対話が京都大学の教育におけるテーマであるのだから、やはり、先生と学生との距離はもっと近いものにもなっていたはずだと思った。
- 1年を経て、多彩な知識を得るための全学共通科目が、低レベルのものだと見做してしまうようになった。もう少し、全学共通科目の専門性をあげるか、学生の理解を得られる説明をするとういと思う。
- 一年中全学共通科目を受講し、幅広い知識を得たと思う。成績の方も良くて嬉しかった。
- 第一に、高校時代の授業とは全くの別物だと痛感した。高校では、手とり足とり教えてくれるが、大学の授業では、ずっと、教授の話だけという形式のものがああり、苦勞した。今では、少々慣れてはいるが、1回生の時は順応しづらかった。
- 生まれて初めて学ぶことの楽しみを感じました。とくに、専門外ではありますが、経済学以上に法学に興味を持ちました。大学院では法学を志せるといいなと思っております。自分の進みたい道を提示してくれる最高の機会であったと思います。また、※※先生との出会いは、自分が研究者を志したいというきっかけになりました。熱心に指導していただいたことを非常に感謝していますし、これからの3年間も何らかの形で授業に参加し、ご教授いただきたいと思っています。
しかし、語学教育に少し疑問を持ちました。特に1回生時は私たちが担当を選ぶことができません。一体どのようなことを学習するのかわからないのです。しかし、担当教官により指導内容がバラバラで、学生のニーズをとらえきれていないのではないかと思います。
しかしながら、全学共通科目には非常に満足いたしております。今年度は、専門科目、教職科目のウェイトが大きいため、全学共通科目に触れる機会は少なそうではありますが、4回生まで興味が向くままに受講しようと思う次第です。
- 去年の反省を生かして、今年は勉強と部活を両立する。
- 高校では学ぶことのできなかつた学問に触れることができ、非常に興味深いものだった。ただ、先生が生徒の理解度を把握しようとはせず、どんどんとすすんでいったのは、残念だった。
また、テストの際に範囲があまりにも広すぎて、苦勞する部分もあった。さらに、単位の認定に関して言えば、教科によって取りやすい、取りにくいの差が激しくて不平等だと思った。単位認定に関してもっと、公平性を保ってほしい。
- 開講している科目が多すぎるし、特に文系学部では自由に学生に選ばせようとしすぎ。文系

でもある程度強制的に受けさせる全学共通科目を指定してもいいと思う。

- 専門科目で重要な科目と語学などの必修科目が同時限に開講されているのが非常に不便。別のコマにするか、二重登録を認めるべき。試験或いはレポートで十分な成績を修めることができるのであれば、わざわざ授業に出席することはもちろん、履修を制限して、優秀な学生が実力に見合った単位を得られないことはナンセンスとしか言いようがない。全学共通科目がより自由の学風を体現するように改善されることを切望する。
- 予想以上に面白くなかったし、ためになることが少なく、非常にながかりした。
- 大学での勉強とはいえ、研究とは異なるので、成績の付け方を明確にしてもらいたかった。我々の世代は、そういう環境ならば意欲が出る。結果的に学ぶ姿勢が身につく。
- 幅広い分野の科目を履修できてよかった。
- 大学への過度な期待をしていたということ意識した。
関心は与えられるものでなく見つけるもの、と思いついた。
絶望する一方で、色々な興味の幅を広げられたことも事実で感謝している。
全学共通科目へのこうしたアンケートをとるところ、法人化後京大もかわりつつあるのだろうか。
- 興味のある分野を選んで学ぶことができ、とても良い経験となりました。
また、それぞれの科目から自分の興味の幅がさらに広がりました。
- ポケゼミの競争率が高いように思います。ゼミという授業形式上仕方のないことではあります。より多くの学生が経験できるよう、特に後期の開講数を増やして欲しいと思いました。
- ユーティリティな人間になりたいと思った
- 興味ある分野をちょっとずつ、つまみ食いするような感じで面白かったです。将来専門的に学ぶわけではないけれど、教養として楽しめました。
- 勉強にもっと有効なやり方を考えながら、最後まで頑張りたいです。
- フランス語に力を入れられて、大変有意義でした。しかしながら、2回生から専門科目のゼミが始まってしまい、その曜日・時間が1回だけ被ってしまい履修できません。非常に残念です。8時間コースのように、6時間コースも2種類の時間割を用意してほしいです。
- 面白かったです。
- 全学共通科目は完全に自分の選択で授業が選べるため、その時選択したい授業で自分が将来専門としないであろう分野のことも学べてよかったと思う。元理系であったこともあり、B郡では理系の内容も学べて、楽しかった。

7. 6 理学部

- 入学当初は、専門は数学にすることを固く決意していたが、全学共通科目で様々な分野に触れ、それを踏まえて改めて進路を考えることができました。
- ユニークな教員や授業が多くて、良かった。
- 1回生の間はクラス指定科目をとると本当に取りたいA群が取れず、結果、A群はとらされ

ている感覚がありました（本来取りたい科目が取れない）。授業内容についてですが、B群、特に理学部指定のB群は、かなりの厳密さをもった学問体系を教えていただいて興味がわいた一方で、A群は厳密さが無い（社会学系なのでないのが当たり前かもしれませんが）のが、学ぶ上で辛かったように感じます。この点からも、改めて自分が理系人であることを再認識できました。2回生は、1回生で学んだことを生かす科目も多いので、1回生よりも進んだ面白い内容を扱う科目も多く、興味があります。今年1年も学問の機会としての大学生活が充実出来たら・・・と思います。

- 特になし。
- 専門のみに固執しては、何か重要なことを見逃してしまうかもしれないと思った。文理の区別なしに、学問というものの目指すところは実は一つ（真理）なのかもしれないなとも思いました。以上です。
- 様々な内容の授業があって本当に学びたいことを選択して勉強することができました。ただ、受けてみると意外と楽しかったり、逆に全く予想していたものを裏切られたりする授業があったりと波が大きかったように感じます。
- 生活習慣病は怖いと思った。
- 全体的に窮屈な感覚がした。もう少し教員、学生にのびのびさせてもいいと思う。
- 特にない。
- 全学共通科目は、専門科目にしっかり取り組むことが前提になってはじめて意味があると思った。
- より広がりのある世界に達したい。
- 自分が将来専門とするであろう分野以外のことに色々と触れられたのは楽しかったです。ただ一方で、将来の専門分野に関する基礎知識を十分に得られたかについては分かりません。
- 教養科目が多彩なため、興味のある分野が少なからず見つかるのは良いことだと思います。「単位さえ取ればいい」という声もよく聞かれますが、学ぶ権利があるのだから、積極的に履修すべきだと思います。
一方で、語学については、言語ごとのレベルの差が歴然としているように感じます。実際に自分のクラスでも、中国語選択者はほとんど合格しているのに対し、フランス語選択者の合格は少なくなっています。学部内でも、語学を落として留年する人が多いと聞くので、レベルについての再考が必要かと思います。
- 幅広い分野の授業があり、感動した。
- 再履修などがわからない。
- 受けてみたい講義があったのに人数制限で引っ掛かったのに、対してどうでもよいと思っている友人が受講できたことがあった事が、どことなく残念でした。
- しっかりと生活に余裕を持たせるよう時間割を組まないと、予習・復習がおろそかになってしまう。確かにテスト前だけ努力すれば良い成績は出せるのかもしれない。日常的にしっかりと学習できるシステムにして欲しい。

- ある程度真面目に勉強してればそれなりの結果が得られるとわかってよかった。
 - ライフサイクルと教育で、ディスカッションの楽しみを知りました。
 - 全学共通科目では好きな科目以外でも単位をとれるか否かが重要になってきます。従って単位目当ての学生が、評価の甘い講義を受講することは仕方のないことですが、興味を持って聴講している学生からすると、そういった意識の低い学生の存在は迷惑です。

人が多すぎて受講は諦めましたが、後期・金4の『環境形成と農業』の※※先生の進め方はすばらしいと思いました。あの講義は評価が甘いので人であふれかえっていますが、直接教員とメールするというシステムは他の講義でも取り入れてほしいですね。
 - 新しいことを学ぶのは楽ではないと思った。隣で授業をすらすら理解し、時には馬鹿にしている友達を見て劣等感をもった。自分には得意な分野がないのかと悔しい思いをした。しかし、他人と比較をせず、自学すれば勉強はおもしろかったし、少しずつ理解が増すにつれていい気になれた。学習には、外へ出て競争する面と、内へこもって熱中する面のバランスが大事だと思った。とにかく前へ進まなければならないのだから。

しかし、授業ではなかなか前へ進めなかった。自分は飽きっぽいのか、授業でとっていない内容の本にすぐ手がでてしまい、結果的に授業で学んでいる内容を深めることができなかった。新書等を読むのはいいことだと甘えて、やるべきことをサボっていた。そして、悪いことに本で読んだ事にしろ授業で聞いた事にしろ、ぼんやりとしか覚えていないのだ。「学んだことは忘れるもの」というが、こんなことでいいのか不安だ。記憶に刻み付けるような勉強の仕方をしないといけないのかもしれない。忘れるのは悪いこととは思わないので、真剣に取り組んで忘れるのは仕方ないと思うが、せめて集中して授業に取り組むようにしよう。

微積の授業は、前期と後期で先生が違った。前期の※※先生で、非常に熱心で、研究者の姿勢や参考図書をいろいろ教えてくださり、学習意欲がたいへん向上した。しかし、先生が思っているより、自分の理解力が低かったため、数学の内容は結局よくわからなかいところもあった。一部（多く？）の生徒は先生の授業はわかりやすいと言ったが、個人的にはわかるより、やる気になる方でお世話になった。一方、後期の※※先生は、質問がないか聞いたりして熱心であったが、授業はだいぶ難しかった。細かいことにも例を出してほしかった。板書もやたら速く、必死でとったノートを何度見直してもなかなか理解できなかった。これは※※先生の場合も同じだったが、※※先生のときの方が頑張ってみ直した。少しでもわかると嬉しかった。また、成績は良心的だった。ノートを見返す執着心に大切さを感じるとともに、授業にリアルタイムで理解する能力がないことに危機感を覚える。

また、先生にはいろいろな本を紹介してもらいたいし、先生が学生時代どのように学習されていたか（寝る間を惜しんで勉強してたとか）を聞けば、モチベーションはかなり上がると思う。ここでも、本を紹介してもらって教科書から逃避を図ろうとする魂胆が見え隠れしている。
- 4月に哲学と文法とコンピュータをやると書いたが、哲学は自学でちょっとだけ、文法もほとんどやらず、コンピュータは実技の方で脱落してしまった。入学当初からある程度わかっ

ていたが、自分の興味ある数学の分野とこれらがどんな関係なのかはあまりないのかもしれない。表現論が近いかもと思ったが、難しすぎてあまり立ち入っていない。数学の将来を考えるための授業もあるのでそれをとろう。

教員免許を取ろうと考えているが、そうして時間割を組むと、結構息苦しい。コマ数は少ない目にしてじっくり取り組むのが理想と思っているが、教育学部提供の科目を取り出すとそんなところでない。数学と教職だけで、いっぱいになってしまう。ただ、少なくしたところで、今の自分では勉強しないでしょう。もっとバイタリティあふれる人間にならないといけない。

将来どうつながるか、どう役立つかはわからないが、興味のあること（ないこと）を貪欲に勉強することが今やるべきことだと思う。ある科目を学ぶことの正当性を探そうとすると困ったことになるのでとりあえず、学び前進することが肝心である。躊躇するよりも、将来になってからそのときもっているもので何とかするのがよい。

- 基本的には、クラス科目及び自分の興味があるA群等の講義を受講したので、例外はあったものの、教養が深まったと思います。しかし期が進むにつれ、居眠りや自主休講が目立ち始め、講義の内容を聞きそびれてしまいました。その理由は、いわゆる楽勝科目の存在でしょう。

京大は単位が降ってくると言われるように、出席・勉強せずとも単位が取れる講義は多いです。それは学生の身である自分にとってはありがたく、自由の学風こそ京大の方針ですが、怠惰な学生が増えてしまうのも現状だと感じられます。

同じ人気科目でも、楽勝ではなく講義の質に焦点を当てたものがより見られるようになる事を次回から期待します。

- 勉強で興味無い分野はやる気出ない。
- 自分が知らない世界を知ることができ、全体的に満足しています。
- 微積分Bの授業でついて行くのもやっとなのに、話がそれてばかりで一本筋が何か分からないまま時間が過ぎて行った。
自分が好きなことをやっている分野だからいろいろ話したい気持ちはわかるが、いっぺんにいろいろ言われても理解できないので筋道を立てて授業をやっていただきたい。全体的に研究者としてのポリシーが強いからか指導者としての意識が薄い様な気がした。

- 将来が不安。
- 大学の授業は予想以上に難しかった。
- 気を抜いてると何も残らない。
- 自分の求める講義に曜時限の重複が多く、履修が困難なことがあった。講義ごとの曜時限は必ずしも分散しているとは言えず、例えば5限に講義数が少なく、1～4限に偏っていると思われる。

全学共通科目は、自分の専門とはまた別の視点で物事を考えるきっかけになる。時間を見つけて、2回生以降も講義に出席していきたい。

- 自由に授業をとれるというところにひかれて入学したのだが、予想していた以上の自由度と、充実した授業の種類だった。ただ、時間がかぶっていると興味があっても受けられないので、ビデオとかで別の時間に受けられるようになると便利だと思った。実際に授業を受けてみて、テストのときだけ集めれば、ビデオでもほとんど問題ないような授業もあったので。勉強の面では、高校までのテストを解くための勉強とは違い、自分の興味や目標に見合った勉強は楽しく充実していたと思うが、その変化に戸惑うことも多い。現在も、具体的な勉強法やどんな教材の選択は手探りの状態で、このままでいいのか、という不安はある。
- 理系の授業が難しすぎてついていけなかった。しかし、それでも単位は落とすことが無かった。そのために授業に出る意義があまり見いだせないと感じた。
- 幅広く授業を取りすぎたあまり、単位の取得が目的のようになってしまっていることを不安に思うこともありましたが、いずれ講義を受けてよかったと思える時がくると信じています。
- 大学では、もっと幅広い教養を身につけようと思って、高校までに習わなかった科目を受講してみたが、どの授業も退屈だった。自分で勉強したほうが早い。だから、一般教養の授業のときは、ただ本を読んでいても知ることのできない話や教授の考えなどを伝えて、学生の知的好奇心を刺激してほしい。
- 学問に終わりは無い。
- 授業によって求める厳密さにばらつきがあって、その辺の調節が難しかった。
- ありきたりなテーマを扱う講義が多い。
- 語学のウェイトが高すぎる気がします。
- 自分の興味とかが色々分かったりしてよかった。
- 化学、生物系の科目であまり深いところまで突っ込まれなかったもので、今後はもう少し深いところまで突っ込んだ講義をしてほしい。
- 大学生にやる気がないのは、大学側にやる気がないからじゃないのでしょうか？
- なかなか勉強するモチベーションが上がらないということが悩みですがこれは自分で何とかしなければならないことですし、全共さんには十分サポートしていただいていると思います。
- 数学や物理は教科書を読んでも理解に苦しむこともあったので、先生はそこをわかりやすく説明してほしい。
- 理学部の専門科目として開講された科目は概ね満足だった。
そうでないA群は面白みがなかった。
 $e^{\pi i+1}=0$
- 一部の先生は板書の字が薄かったり小さかったりして、4共の大教室や共南等の縦長の教室の後ろの方では見えないため、黒板の映像をモニターに映す設備があると助かります。
- 実験が2コマ2単位なのはおかしい。
- 学部の専門科目に捉われない授業をたくさん受講することができて、新しい分野に興味を持つきっかけができた。実際、ある講義を受けて生物学に進む決心をすることができた。できればレジュメを配布してくれるときは、授業中の説明はそこに書いてある以上の内容まで踏

み込んでくれるともっと嬉しかった。

- やはり遠方からの通学はしんどいということと、モチベーションを維持できないとすぐ留年の道へと進んでしまうということ。
- 語学を落としたこと以外は成績に納得しています。
上にも書きましたがやはり 1 回生の英語が運次第というのは納得できません。理学部は 3 回生になるときに語学をすべてそろえなければ進級できません。語学だけで、運の悪さだけで、取れる授業が制限されたり進級できなくなる危険を帯びることにはどうしても納得ができません。それを救済するための CALL という制度なのかもしれませんが。
- とてもつまらなかった。
- パワーポイントの授業をするならレジュメを配るべき。
- 学部分野・専門分野以外に本当に学んでみたい授業がなかなか無かったように思った。理学部のクラス指定科目の数学の授業が難しくついていけなかった。
- 種類が多くてよかった。
- 一般教養（A 群）は本当に必要なのかと感ずることがあった。これからの人生でほとんど必要ないんじゃないかと感じた。
- いろいろと受けたが、結局私には何も決められなかった。
- 自分が興味ある分野以外で、魅力のある授業が無かった。
- この一年で勉学とは机に向かって行うだけのもの、という考えから変わった。
- 理系の僕にとって、文系の授業は勉強にはなったが、その分しんどかった。
- 英語の授業がただの小説読みになってると思います。それも結構ですが、一回生のうちは英語の基礎的なことをきっちり固める授業の展開を期待していました。
- 大講義室での授業は、勉強のきっかけということ以外ではあまり意味を感じなかった。少人数での授業が自分のためになると思う。
- 自分の人生にとって価値のある科目を選んできたが、意外に興味深い科目であったり、逆にそこまで興味がわかなかつたりした。シラバスから実際に授業の様子が分かるものが少なかった。
- 理解するにはそれなりに時間がかかってしまうものだと再認識しました。
- 二重登録できないのはきついです。
- 自分自身の興味や関心にあった授業はすすんで勉強できるが、興味のわからない授業は授業に行くことすらしなかった。さまざまなことに挑戦するのもいいが、すべてのことをこなすのは時間的にも体力的にも無理があるので自分のペースにあった勉強を心がけるようにすべきだと感じた。
- 知らない人ばかりの教室に入るのが苦痛だった。
- クラス担当の講師の先生によって、成績判断基準が違いすぎて公平さに非常に欠けている。他のクラスは勉強さえすれば「良」「優」取れる授業が多いのにもかかわらず、私のクラスでは、いくら勉強しても「不可」「可」しか取れない B 群授業が多すぎる。

- 深く専門的内容に入らず、紹介程度で終わる事が多かったので、興味を持った内容を自分で調べることが習慣になり、調べる楽しさを実感できました。
- 当たりといえる授業が少なすぎる。中学高校で体験してきたものと比べても退屈で工夫もない。教員の能力は高いはずなのだから、その能力を授業に向けて欲しい。
- 特に発表、報告といった作業を通して表現に関わる技能の重要性を実感した。
- まず僕が感じたのは、大学の授業は高校の授業と全く違うということだった。高校の授業はどちらかという押しつけがましく、こうであるべきだとか、これを覚えなさいということが多かった。納得できる理由なんてないことのほうが多かった。授業中は体を緊張させ、一生懸命ノートを取っていた。しかし大学の授業はそのような押しつけがましい授業とは打って変わって、とても自由で穏やかで興味深いものだった。しっかりとした根拠があり論理があった。既成のものを覚えることよりも世界を見る目、なにもないところから何かをする方法、を養えたように思う（もちろんまだまだ）。ほかにも学ぶことはたくさんあった。新発見のない授業はなかった。全体としてとても有意義で価値のある授業が受けられたと僕は思う。
- 大学に過度の期待をしてはならないこと。
 なんだかんだで最終的には自分で行動しなければならないこと。
- 勉強とは自分でするものだと気づいた。語学はコツコツと勉強すればよかった。
- 前期・後期共に23コマで忙しく、勉強が不徹底な科目がいくつかあった。
 以前は数学しか興味が無かったが、他分野にも興味を持った。
- 共北の教室において、後ろの方の席に座ると、前の席に座っている生徒の頭で隠れて黒板の下部が殆ど見えない。前の方～真ん中ぐらいの席に座ったとしても、黒板の下部がある程度隠れてしまう。高低差をつけるか、もっとゆとりを持たせた椅子配置であった方がよかった。これを解消するために、黒板を上下移動させることができるようになっているのだろうが、しばしば上げ忘れる先生が少なくない。口頭での説明は、たいてい下部黒板に板書しながら行われるので、板書されている間の手元を見ることができない。このおかげで、今何について説明しているのかわからないことがよくあった。
 説明が終わり、下部黒板を上へ引き上げると、書いてある内容を見ることができると、その時にはすでに次の説明に入っているのでは、授業についていけなくなる。
 モニターを使っている先生は滅多にいない。
 また、理学部6号館の一部の教室でも同じように感じた。重要な科目ほど多くの生徒が出席するので、より黒板は見えづらくなっていた。
 また個人的には、授業中に常に手を動かしていなければいけないほど板書量の多い授業では、話を聞くことに集中したいので、出来ればレジュメなどを配るか、クラススなどにノート内容をアップして欲しかった。
- 定期試験のみで成績を決めると始めから公言していたにもかかわらず、授業に来る学生が減らない、そういった学生は少ないだろうなあと感じた。
- 朝が早い。

- 今まで理系科目にしか興味がなかったが、文系科目も面白いと思うようになった。
- 自分の興味ある分野が、理学部用の授業として別枠になっていない場合は、自分で勉強するだけで事足りることが分かった。勉強に関して言えば、出来るだけ興味のままに進めていけばいいと思った。
- A群科目は聞いていてとても興味深いものが多かった。
B群はどちらかといえば、退屈になるものが多かった。
単位にとられることなく、もっと授業に出席していればよかったなあ、と思う。
- 対話を基本とした自学自習の校風は最高です！
全学共通科目なんて概念、必要ありません！
- 自分で勉強しなければ専門基礎すら理解できない事が分かった。二回生は自分で勉強します。
- 幅広い分野の授業が自由に取れたので、とても良かったです。
勉強が楽しい、と思えたのは久々です。
- 何が理学部でしたいのか、その取掛かりがつかめた気がする。
- 今後の専門分野とは全く異なる内容の科目も多数受講してみましたが、色々な物事の見方・捉え方・考え方を知ることができ、参考になったと思っています。
- 自分は興味をもって受講したい授業なのに、抽選で落ちてしまったのが残念だった。興味をもって受けてほしい人が落選し、適当に選んだ人が当選することがよくあると思う。

7. 7 医学部

- あまり、教えてもらっているような感じは受けなかったが、さまざまな分野のことをかじることができたのは、良かった気がします。
- 単位が思っていたよりも簡単に出た。
京都大学は本当に自分で勉強しないとイケないということを痛感した。
英会話専門の授業があるならば、とってみたい。
- 大教室の授業は私語も多く、後ろの方に座ると板書も見えず、先生の声も聞こえず、授業に出席している意味がありませんでした。
- A群は、そもそも体系立った知識を教えるのではなく、その学問の導入部に触れるというコンセプトそのものに問題があり、最終的に何も身に付かなかった感が漂うのだと思う。
B群はその逆で一通り学んだから結構自信が持てるようになった。良かったと思う。
第二外国語は、ドイツ語が読めるようになったから、授業やテストは大変だったけどホントに良かったと思う。
英語は、そもそも京大入試よりも簡単な授業をしている時点で皆が物足りなさを感じるの当たり前だと思う。
単位の取りやすさだけでなく、やりがいを求めている生徒も多いはずだから学生の自主性に期待するだけでなく、学生のやる気に答える事の出来る授業となることを望む。
京大の教官として始めて会った※※先生を見たときの「すごいところに来てしまった」とい

う気持ちをずっと維持できるような京大であってほしい。

●全く授業に出ていないのに、最後のテストやレポートが良かったからといって単位を認定するのはちょっとどうなのかなと思う。

●私は以前、大阪大学で学んでいたからわかるのですが、京都大学は他の大学とは大分授業の雰囲気の違いがありました。いい意味でも悪い意味でも。理系なのに哲学や言語学が勉強できたのは京大のいい所だと思います。一方で教室に明らかに入りきれないのに多数受講させ、立ち見が出るような授業は普通ありえないと思う。席がいっぱいになるのはいいとして、立ち見になったり、先生が用意した授業のプリントが少なすぎて早いもの勝ちになるようなことはやめてほしい。学生にはきちんと授業を受ける権利があると考えます。

●色々な知識を得ることができて楽しかった。

●いろいろな分野を幅広く学べるとてもいい時間であった。

正直1回生のうちでは興味がある科目を取りきれなかったのもまた専門科目の数少ない空き時間に履修できたらいいなと思う。

●知識の幅はかなり広がったが、その知識を応用させるようなところまで授業が発展しなかった。

●もう少し授業に積極的に参加したくなるような授業があればよかったです。

●興味があり、集中して講義を受け、いい成績を取ったものは身になりました。しかし、興味があまりなく、学部が要求する単位を修得するために勉強したものはつまらないものでした。

●入学当初は意欲もあり、授業にきっちり参加していたのだが、教員の授業の進め方というか伝え方が下手に感じられ、講義によってはこれ以上出席しても退屈なだけだと思うものがあった。

また学生全体としての雰囲気に意欲的なものが無く、日が経つにつれて、ただ出席のために居る人が多いように感じた。もっと学生の興味をそそり、双方向での意思疎通ができる講義を期待したい。

楽勝科目など学生に分類される講義は、内容よりも単位のとれやすさばかり強調され、このような状況はますます新入生の意欲を削ぐものだと思う。改善の余地は遥に多い。

逆に集中講義は、講義内容が充実しており、楽しく学べさらなる学習意欲も湧いてくるものであった。

●授業受けるより自分で勉強したほうが好きなところを勉強できるしいいかなと思った。

単位取れる授業をやっぱ探してしまう。(興味ある分野ってそんなにないのにいっぱい単位を取らなくてはならないから)

この1年の間にいろんなことに興味を持って勉強しておくのは大事だと思った。

●自分の興味に見合った授業が中々なかった。

●週一のたった12回の授業なんだから、深いところに踏み込んでマニアみたいな授業をするのではなく、テレビ番組のようにみんなの関心をひくような内容から入って行ってほしかった。中にはそういう授業もあるけど、教員の趣味をひたすら語ってるだけなものが多い。

- 自分の知らないことを学べる機会が非常に充実しており、自ら学ぼうとする者には最高の環境ともいえる本学で学べるのが非常に嬉しい。
- 自ら学びたいことを明確にして授業に臨まないと、多少の理解不足からくるモチベーションの低下を防ぐことができない。
- 興味がある分野はとても興味深く、楽しかった。ただ、全体的に理解度が今一つだったかなと思う。
- 京都大学という日本の leading university で学べる喜びを感じた。
- 特になし。
- 単位が揃う喜びを感じた。
- 広く浅くさまざまな学問分野と知り合いになれたことは意義深かったと思います。
- 勉強の楽しさをあまり感じられなかった。
- ちょうどいい感じだった。
- 各分野の専門家の熱意に触れ、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。まだまだ受講してみたい授業が多数あるのですが、カリキュラムの都合上叶わないのが残念でなりません。
- 元々理系科目の方が文系科目よりも好きだったし得意だったのが、全学共通科目に関しては B 群よりも A 群の方が面白かった。B 群の授業、特に選択必修科目は少し単調すぎたり、新しい概念の説明が少なすぎて何を言っているのか分かりづらいものが多かった。また簡単なところに時間をかけて説明して、難しいところを早足で終わらせてしまったりもした。
- 専門外の分野を勉強することで、思考方法の新たな視点をもつことができ、物事を深く考えるときの役に立った。
- 広く浅い教養講座は刺激的でしたが、同時に欲求不満で終わるものも多かったです。やや高度な講座を拡充して二回生以上をより取り込んでいただけると嬉しいです。
また、特に数学関連の講座が充実してないとの印象を持っています。講座の増設をご一考下さい。
- 教員の良し悪しが激しい。
- 色々な分野の授業がたくさんあるのはすごいと思うのですが、教員の自己満足に終わっているものも少なくないのではないかと思います。
- 自分とは異なる学部や専攻の人と知り合いになる機会になったことが嬉しかった。
- 良くも悪くも、いろんな人がいるんだなと思いました。
- 幅広い分野の授業が用意されていて、所属学部に関わらず様々なことに触れられてよかった。
自分の興味のある分野だと授業を楽しめたのだが、全く興味の湧かなかった分野の授業はただ時が流れていくのを待っていた感じだったので、もったいないことをしたと思った。
- やっぱり京大の一般教養はゆるいしすぐ単位が取れるんだなあと思いました。そのためもあるのか、甘えて授業に出なくて、入学当初に多くの幅広い知識を学ぼうと思っていたのに、今この一年で受けた授業の内容が頭に残っていないことに気づいて後悔しています。一度も

授業に出ていないのにレポートや試験だけで単位が取れた、という人が多いのはいけなくな
いか？と思います。(私も含め)一般教養は単位をそろえるだけのもの、になってしまってい
てもったいないなあとも感じました。

あと授業内容がマニアックすぎる授業が多い気がしました。入学したときはたぶんほとん
どの人が、いろいろなことを学びたいと燃えていると思うので、その意欲を維持できるよ
うな工夫していくのが大切だと思います。

○学生側の授業に臨む姿勢があまりにひどいと思います。

授業中に物を飲み食いする、携帯電話を堂々といじる等、常識としてそれはどうかと…

○自分が何に興味があるのか分からなくなりました。

○専門以外のことに興味を持つのはいささか難しいですが、興味を持たないことを学んで知識
を増やす機会があるのはとても良いことだと思います。

ただし、関心を持たないため、勉強に取り組みにくく、単位を取ることが難しかったです。

だから、興味がない人にもおもしろいと思える授業が聞きたかったと思います。

○みんな単位をとることだけを目的としていてカンニングも平気とするし、先生も適当だっ
たりして、入学してものすごく落胆しました。京大は名前ばかりで中身はすかすかだと思
いました。単位をとるためでしかないのなら、初めから専門科目をやりたいです。授業にこ
ないことを見越しているなら全学共通科目を必須にする必要がまったくないと思います。学
生をダメにする京大はやめてください。いい人間を育てるためにもっと考えてほしいです。

○いろいろな分野の側面が見られておもしろかったです。

○単位をとることに専念しすぎたため、全学共通科目は自分の努力でもっと有意義にす
ることもできたと思った。

○幅広い科目を取っていたため、自分の知識が系統化されずにバラバラだと感じる。それ
もそれでいいが。

○1回生のときは学習する意欲や授業に出席する意欲がありませんでした。その原因とし
ては人間関係における不安からくる鬱や、家と学校の距離が遠かったこと、全学共通科目
が自分の専門分野に役立たないと考えてしまったことなどがあげられます。意欲がなかつ
たため楽に単位を取ることばかり考えてしまうことがよくあり、せっかくの幅広い教
養を身につけるチャンスを台無しにしてしまったことを後悔し、反省しています。授
業に出席しなかったため1回生の成績はひどいものであり、京大生失格だと思
いました。今はそれを挽回しようと思っているため学習意欲は以前よりはだいぶ改善
しました。

7. 8 薬学部

●もう少し興味を持てる内容の授業にしてほしいです。

●薬学以外での様々な学問を通し、自分の見ている世界がいかに狭いかを感じた。だが、それ
らすべてを学ぶというのは到底難しく、広く浅くしか身に付かなかったというのも正直な感
想である。それだけ研究の幅が広く、またそれぞれ深いものだなと感じた。

- 全学共通科目のうち、卒業要件を満たすためにやむをえず補てんした科目に対して、受講するにつれ学習意欲が減退していった。自身が興味関心を抱く題材以外を取り扱う講義に、高い向上心をもって挑むのは至難であった。
- 私は、全学共通科目を受講して、薬学のみならず、幅広い分野の事柄に興味を持ち、理解を深められたと思います。今後、この身に付けた知識が、何らかの形で役立てられることを望んでいます。
- 様々な教授の授業を受けられて面白いと思いました。
- 色々学べ、視野が広がった。簡単な答えはないと感じた。
- Prayer is to be a player.
When you pray for peace, you can play for that.
Even if it takes a long term, with a strong will,
I believe I can.
Someday' s Arcadia.
- 楽しくない授業には出たくなくなり、その後の時間の授業にも支障を来すようになってしまった。
- 物理化学、有機化学は楽しかった。大学に入って初めて生物（生理学など）を学習したが、あまり興味を持てなかった。将来は有機化学関連の研究室で頑張りたい。
- 自分の興味のあることに関する授業を受けることが理想だが、授業を受けるだけではなく最終的な単位を取得しなければならないということを考えると、興味のある授業ばかりを受けることはできないと思った。しかし、そのような状況もあり、全学共通科目の授業を受けるのは、最初は魅力を感じなかったことに興味を持つようになる良い機会でもある。今まで知らなかったときの感動は、その新しい知識が自分の人生に役立つかどうかはわからないが、確立しつつある自分の価値観にすくなくならず良い刺激を与えたいと思う。やはり、視野を狭めて自分の関心のあることにばかり選択肢を絞ってしまえば、自分の可能性を低め、幅広い教養を身につけた社会人にはなれないと思う。
単位を取得するために友人と協力することで、新しい交友関係を築けるということも、全学共通科目の利点のひとつだと思う。全学共通科目は、わたしたちが知らないことに関するものがほとんどである。ひとりで勉強するのも十分良いとは思いますが、ひとりでは解決できない事柄にぶつかったときに、身近に質問したり議論したりすることができる友人がいると大きな助けとなる。
- 幅広い知識を得ることによって、自分の専門科目にも活かせるのだなと思った。
- シラバスを読んで「絶対取りたい!」と思った科目がクラス指定のものと重なっていて取れない、ということがよくあったのが残念。
理系はクラス指定や専門科目、学年のしぼりで取りたくても取れない科目がたくさんあるので、そういう時は、せっかく京大に入ったのに…とってしまった。
- さまざまな教養をつけられるので般教は必要だと感じます。けれどもだんだん受講者が減っ

ていくのは寂しいけど仕方がないかも。確かに眠かったりしたが、はっと気づくこともあり、そういうのいいところかなと思いました。

○全学共通科目は、実生活に役立ちそうなことや、知っていて得する知識などを豊富に学べるものだったと思った。単位のためではなく自分から興味を持って受講すればもっと有意義なものになったと思う。

○理系の学生にとって親しみやすいA群の授業が少なかったように思う。

7. 9 工学部

●無事卒業できるか不安。

●僕は工学部生ですが、意欲的に講義を受けられたと感じるのはA群の科目ばかりです。全学共通科目で受講しなければ一生出会うことでなかったであろう分野のことを面白く学べて良かったと思っています。

●専門と専門外の融合。

数学が難しい。

●全学共通科目はさまざまな科目が用意されていたため、どれを選ぶか迷うほどでした。

今後の更なるラインナップの充実にも期待します。

●B群科目に関して、とにかく不満だらけでした。僕は勉強が好きです。そんな学生が今年京大に入学する人の中にも多いと思います。彼らを失望させて欲しくないです。大学が過保護過ぎてはいけません。それには賛成です。ただ学問の魅力をもっと伝える授業があってもいいのではないかと。特に数学系の授業には絶望しました。

一回生のときからその学部学科の人に数学を教わりたかったです。その方が絶対わかりやすいし、今やってる勉強にも意味を見いだせる。特に、工学部生に理学部数学科を出た人ような人の授業を受けさせるのはどうかと思います。なぜなら彼らは学生側の事を考えず、一人よがりな授業しかできないからです。少なくとも僕はこの1年間でそう思わずにはいれなかったです。彼らがもっと工夫した授業をする事を心より願います。このままでは本当にマズいです。正直言いますと、京大の全学共通は質が致命的です、もっと熱心な数学 etc の授業が増える事を強く強く要望します!!!!個人的に理系にとって重要な「数学」と言う科目を全学共通に入れる事に疑問さえ感じてしまいましたよ。。専門にしていんじゃないですか?で理学部レベルの数学の勉強をしたければ「全学共通の数学」を選ぶ、とか。色々改善できる点があります。

とにかくまず授業の質をどうにかして欲しいです。アンケートで不満が多い授業を担当する先生は一端授業を受け持つのを止めさせ頭冷やさせてはいかがですか?自由競争の世界に変えないと授業の質は落ちる一方です。ゆとり化が何やらとかたまに言いますが、みっともない言い訳に過ぎないですよ。京大は自由な校風で人気です。それに加えて授業もわかりやすければどれだけ良いことでしょうか?鬼に金棒ですよ?

京大はもっといい大学になれる。僕はそう信じています。だからこそ挑発的な事書きました。

何よりこのようにアンケートを書かせてくれる場を与えてくれた事に感謝しております。とりあえず京大が変わろうとしている表れだと捉えさせていただきます。

●理系なのにB群で良い先生に恵まれなかった。すごい先生だと思ったのは、前期の自然現象と数学の※※教授と、後期微積Bの※※准教授くらいである。他は生徒に分かってもらおうという工夫が全く見られなかった。天下の京都大学なのに、残念である。

●A群：経済や農学など今まであまり触れてこなかった分野に触れることができよかった。
B群：身につけるには自主勉強が足りなかった。次年度は改善していきたいと思う。

C群：第2外国語は大変だったが、文法のみだけでなく、その国の文化も勉強できてためになった。

D群：週1 ぐらいは運動すべきです。

●大学では自分の興味よりも単位がとりやすいか否かが重要な気がしてきました。

●自分の気になる科目が、クラス指定科目とかぶって受けられないことがかなりあったので、改善してほしい。

●思っていた内容と実際の内容が違ったことがあった。

高校のときと比べて講義(授業)内容の進度が遅く退屈だと感じることも多々あった。

●今まで大学で受けてきた授業から、将来の職業などのビジョンがほとんど見えないというのが今の一番の悩みです。化学のプロになりたいという漠然とした夢はありますが、これまで必要性も分からずテストのために勉強してきた線形代数学や微分積分学はいつ役に立つのか、今のペースで夢は実現できるのか、など不安はたくさんあります。今は春休みで勉強したいという気持ちはあるものの、具体的に何をすればよいのでしょうか。とりあえずWikipediaで化学物質を調べたり、基礎有機化学の教科書をぺらぺらしている毎日です・・・。

●面白い教科とそうでない教科の差が激しかった。

●確かに、興味が持て楽しいと感じる科目も中にはあるけれど、興味をあまり感じない科目のほうが多く、卒業するための単位集めのために仕方なく受けていた感じがしていたというのが正直な感想です。

●所謂自由なスタイルで勉強できてやりやすかったです。

全学共通科目とは話がそれるのですが、成績表の印刷可能期間をもうちょっと延ばしていただけると幸いです。

●出席をとらない教科が意外と多いのに驚いた。また出席しない人が多いことにも驚いた。

●中には声が聞こえにくい授業があったので、そこだけは聞こえる声を出してほしかった。

●試験期間だけ勉強するような人間には単位を与えない方がいいと思う。

●講義の内容に関しては、講義の数も多く様々なものがありとてもよかった。しかし、教室によっては(例えば大教室など)黒板の字が見えなかったり教授の声が聞こえなかったりして、その結果その講義に行かなくなってしまうこともあった。その辺にすこし不満をもつこともあった。

●高校までの授業とは大きく異なった大学の授業を味わうことができました。自分の所属学部はク

ラス指定が多かったが、それでも自分で好きな講義を選んで受講できる良さを感じることができた。

- 京都大学は本当に自由な感じの授業スタイルであるため、意欲を持たなければ厳しいと思う。いろいろ改善してほしいという意見があるかもしれないが、本当に学力が身につくか否かは結局受ける学生自信に依存する部分が大いと思う。
同じ内容でも、受ける側の気持ち次第で結果は全く異なる授業スタイルだと感じる。
- B群の自分の興味がある講義でも指定した講義以外は受講しても単位に数えてもらえないので、受講する気が起きなかった。
- 全学共通科目は、大学での学問に触れる最初の機会であり、この機会を通して未知の学術分野を知り、更に自分の将来を考えるきっかけになると思います。そのため、教員一人一人は自分の講義を受講している学生の熱意に応えるよう、より熱意を出して講義を行うべきだと思います。
- この一年間、さまざまなことを学びたいと思い理科系・文科系を問わずに多くの講義を受講した。どの分野も中途半端に終わってしまったことは残念だと思ったが、教養科目は学生がみずから学ぶきっかけを作るためのものであってその分野を講義だけでマスターすることができるはずはないことに気付いた。今後も全学共通科目を受講して自分を刺激していきたいと思う。
- A群科目ではさまざまな分野の学問に触れることが出来て非常に楽しく感じた。
- 専門科目では触れられない、文系の社会、哲学などの講義を聴いていると、いろんな考え方があるのだと実感した。
また、成績評価は教員によってばらつきが大きすぎると思った。
- 高校の時と違い、自分の好きな勉強ができるので、ある程度、楽しんで勉強することが出来たと思う。
- 選べる科目の種類が豊富だったので自分の興味にあった科目がいろいろ見つかった。
特にB群科目で、生徒の理解度をもっと考慮してほしかった。関係のある科目同士で連携を取ってほしかった。
- 京都大学では、教育の学問にはあまり力を入れていないという印象を抱いていたが、それはあながち間違っていなかった。教員の授業に対する熱意があまり感じられない、または、学生の関心とあまりフィットしていないような内容のことをダラダラとしゃべっているようなものだった。そのような授業を展開しては、生徒の方も、単位をとれたらそれでいい、というような態度になるのも致し方ないと感じた。これからの全学共通科目には、期待をもって入ってきた京都大学の生徒を失望させないような何かしらの工夫が必要だと思う。
- 勉強はやっぱ面倒くさい。
- はじめは今までとは違う学習形式に不安もあったが、慣れてみると、この自由さはうれしいものであると思いました。
大体の科目で友達と同じ科目を選択していたことも心強かったかもしれません。

- 教員とのかかわりが少なかったため、質問などにも行きづらかった。
- 自分は理系だが、一般に文系分野といわれるような事柄にも興味があった。そうした好奇心を満たすにはとても役に立ったし、自分の中で一つ統一したテーマをもって受講することができた。例えば1回生の後期は自己・他者の理解を深めようと思って、宗教学や偏見差別人権、青年期に関する授業をとり、一定の収穫はあったように思っている。
- 自分がいかに未熟であるか思い知りました。
- ゆとり教育を長く受けてきた世代の僕たちですから、学力が以前の京大生よりも劣っているのは事実だと思います。それを考慮にいれ、それを補いつつ従来のレベルの学力に追いつけるような教育方法を探っていただきたいです。それは自分でやることなのかもしれませんが、なにせ教育を今までより受けてきていないわけですから、以前のような学力を我々に求めるのならば、そのような教育を受ける権利があると思います。
- 心理学や存在論という工学とはかけ離れた分野を楽しく勉強できた。
- リレー講義において、教師によって極端に授業に対する姿勢が異なるのはどうかと思った。
- 京都大学はかなり自由に講義が取れるので、単位に縛られず自分の興味のある講義を気楽に聞くことができたので、本当の意味で勉強になったと思う。
- ほとんどの分野の学習において、うわべを勉強した程度では使える知識などたかがしれてると感じた。
- 僕は、中国古典に興味がありますが、そのような授業をもっと増やしてほしいです。
- ある程度仕方無かったとはいえ、事実上の必修が多すぎて、とりたい科目を取れなかった。せめて、空きコマにとりたい科目を埋めることができるような工夫がほしかった。
- とくになし。
- B群の科目の勉強が（個人的には）すごくむずかしかったので、A群の科目の勉強がだいぶおろそかになってしまいました。
- 自分の興味のある授業が受講できるのでとてもよかったと思う。
- 授業自体はどれも有意義なものばかりで、自分の教養を高めるのに非常に役立ちました。ただ、全学共通科目と学部専門科目との二重登録が1コマ限定でもできればいいなと思いました。教員免許取得を目指しているので、同じ時間帯に授業がかぶっていることが多々あり、苦勞しています。（「授業にきちんと出席して単位を取れ」というスタンスなら仕方ないなどは思いますが・・・）
- 授業が眠かったです。
- 当たり前のことかもしれないが、先生の話がおもしろければ授業を能動的に受け、内容も理解できます。逆に興味が持てなければまったく授業に出ようとは思いませんでした。
- 大学での勉強は高校までとは違って、時間割からほとんど全てを自分自身で判断して決めていかなければいけないし、講義への出席も自由なので初めのころは戸惑いや違和感すら感じました。しかし、京大は自由放任の環境で必ずしも勉強しなければいけないというわけでもないの、そのせいか何の為に勉強するのだろうかといった事をよく考えるようになりました。

そして入学して1年が過ぎその疑問に対する自分なりの考えができてきました。それは、勉強とは義務ではなく、自分の将来の目標の為または勉強の内容に対する純粋な興味関心によってやるべきものだということです。また勉強は「楽しく」「自主的に」することが大切だということにも気付き、今ではそのように勉強することを心がけています。そして私はこのようなことに気付くことができたのは京大の自由な校風があったからこそだと思っています。だから私は京大の校風はとてもいいと思います。

- 単位が取れるととてもうれしい。
- もっと学生がまじめに勉強する仕組みにしたほうがいい。
ただし必ずしも授業に出なくてはならないというものではなく、とにかく勉強したものが報われるようなテストにしてほしい。
- 高校時代とは違い、自分の興味と考えを広げる学習が出来た。自分で全てをしなければいけないことが大変と感じる時期もあった。内容の奥深さを感じる授業や教授と出会い、京都大学に入学してよかったと思う。
- B群科目に指定がかかっているのだが、そのせいで自分が本当に興味があるB群で単位を取れない。
また、高い教科書を買ったのに、それに見合った授業をしていない授業もあった。
- 語学（とくに第2外国語）の授業は廃止すべきだと思った。もし共通教育センターに本当にやる気があるなら、留学生センターの※※准教授が作成した英語学習プログラムを全学部1回生に適用すべき。
- あまり勉強できなかったので2回生になったら頑張りたい。
- 雑談を増やせばいいと思いました。
- 自分が専門にしようと思っている分野以外の幅広い知識が得られたのでよかった。また、それらの授業では、自分の知らないことも多くあるため、新たな発見が多くて楽しむことができた。
- 自分が興味のある分野以外にも多くの分野があり、講義を取ってみて、その入口に触れてみると意外と興味深く学問は面白いと感じた
- 試験前にしか勉強しなかったもので、学んだことが本当に身に付いているのかわからない。
- 高校までの今までの学習とは違い自分の好きな物を選択して学べる点で、大学らしさを感じた。また、興味のわくことを学ぶことは、非常に楽しいことなのだと思えて感じる事ができた。
- 自分としては、まじめに勉学に取り組んできたつもりであるし、結果としてそれに見合うだけの単位も獲得できているとは思いうし、余裕さえあれば、これからも積極的に受講していこうと思う。だが、その反面、過去問や友達からの情報だけを頼りにし、自分から受講しようとする意欲が見られない学生もたくさん見受けられたために、自分のモチベーションが下がることも多々あり、その点については自分をちゃんと律していかなければならない。
- 数学が高校までと違い、高度に理論的になり計算要素が減ったことが驚きだった。しかし数

学や科学に関する科目は、自身の興味と一致することもあり、面白く感じるが多かった。語学は興味がないことも手伝い、あまり面白いとは感じられなかった。それに加え、他のクラスと自分のクラスとの間の内容の違いが大きく、不満に思うことがあった。特に英語は、「楽勝科目」といわれる人の講義か否かにより成績に差がつくよう感じ、コース分属の際、影響が出ないか不安だった。

- 自分の専門としていない科目でしたが、興味を持って講義に参加できたので本当にためになりました。
- 特に4共30等大教室での講義がパワーポイントによるものが多いですが、そのような講義ではレジュメは最低でも配って欲しい。
- インターネット使用の授業は自宅生だったのでありがたかった。
- 特になすい。
- もっと自学自習がしやすいといいなあと思います。
- 私は理系の学生ですが、他大学と比べて幅広い分野、特に文系的知識を全学共通科目で学べたと思います。A群の授業は物の見方が変わるようないい授業が多かったように感じます。
- 同じ科目であっても、教員の教え方かなりのバラつきがあり、不公平感は否めなかった。受講したA群科目は、どれも満足した。
- 京都大学はとても良い大学だと思いました。良い意味でも悪い意味でも自由であることがとても魅力的です。
- 黒板に文章を書いて、授業をしてほしい。レジュメだと眠くなってしまう。授業中にただ聞くだけではなくて何か手を動かさせてほしいと思った。
- 案外専門でない人文系の科目のほうが肩の力をぬいて聞くことができ楽しかった。
- 高校での授業に比べ、専門性が高くなったことでより強く授業に対して興味をもつことができた。
- 物理学基礎論が前期・後期ともにわかりづらかった。板書が悪いし、先生の声も聞きづらかった。進度も早すぎる。
- 専門分野以外の様々なことを学べたと思う。専門分野以外とはいえ、なかにはそれを専門分野に活かせるような発見もあったため、やはり知識の偏りはよくないことではないのかと思った。人間としての教養を深めるためにも、もっと様々な講義に出てみるべきだったかもしれない。また、これは仕方のないことだが、興味のある講義に限ってクラス指定科目と時間がかぶること、抽選によって振り分けられることが少し残念だった。
- 大学に入った当初は大学の講義の様子をつかめていなかったもので、正直戸惑った。というのは、高校までの勉強とは違い分からないことがありすぎたことがあると思う。今となっては、わからんものはわからんし、すべて理解する必要はないと割り切って、勉強しているので問題は無いし、大学というところが研究機関であることを思えば、勉強なんて自分でするものであり、人から学ぶものではないと考えている。
- 興味深い科目がたくさんあり、楽しかったです。

- 自由度が高い分、自律が難しく、しんどかったけれど、面白い勉強が出来た。
- 自分の持っている知識に偏りがあることを感じた。
 普段の生活では知り得ない社会知識を知ることができたのは良かった。
 教員にはもっと興味を抱かせる授業内容になるように工夫してもらうことを期待したい。
- 全体的に形骸化を感じました。特に第二外国語に関しては苦痛で仕方がありませんでした。
- いろいろな学問分野の存在や大学とはどのようなものかがわかり、充実した一年を過ごすことができたと思う。
- クラス指定の科目であらかじめ教員が決められているもので、教員によってわかりやすさ、テストの難易度が大きく違っているのが、仕方ないとはいえ少し不満だった。
- 工学部の学生だからか、A群の講義が特に有意義だったと思う。専門科目ほど深い内容に入らないので興味と内容とがよいバランスだった。B群は卒業に認められる単位が一部の科目に限られており、教養を増やす全学共通科目でありながら結局は専門科目へ通じるものを受講せざるを得ないのが残念であった。
- 興味を持てる科目は頑張れるが、興味を持たない科目はなかなか勉強し辛い。
- 一回生の間は、学習内容も拘束されていて、高校の学習の延長上である感じがした。これからどんどん自分の興味のもてることに関して、深い知識を身につけていければいいと思う。
- 幅広い選択肢から自分で気に入った科目を選択出来たのでよかったです。
- 全学共通科目を受講し、興味を持った様々な分野に対して学ぶことができたのでよかったです。
- 高校までは、与えられた問題を解く、というのが勉強だったのですが、大学では、レポート課題が多く課されて、とくに前期はレポートの作成に苦戦しました。前期は物理学実験のレポートを書いていた記憶しかありません。また、授業を入れすぎてしまって自分のペースで勉強などができなかつたような気がします。後期は授業を必要最低限しか登録しなかつたので、ある程度時間にゆとりを持つことができました。それによって、前期より充実した時間がすごせたと感じます。
- 幅広い知識を得られて良かったです。
- 自分の生活態度が一番重要でした。
- ポケゼミのおかげで読書をする習慣が身に付いたことが、この一年での一番大きな変化だと思う。自分の専門の科目だけでなく、文科系の分野にも教養を広げられたのは、京大だからこそだと思い、非常に満足である。
- ひとつの分野に限定するのではなく幅広い情報を学ぶことでさまざまなアイデアを生み出せるし、多くのことを学べると思った。特にA群科目は今までに学んだことのないような分野が多くてどれも新鮮だった。
- ま、僕としては大体満足しています。
- 自身の専門を決める上で参考にしたいので、教員が自身の専門分野に対してどのような点で興味を感じているかを、授業で話してほしい。
 また、教員の学生時代の経験なども併せて聞きたい。

- 期待よりはるかにつまらなかった
- 大変だった。。
- 何となく単位をとるために頑張り、何となくコース分けされ、何となく研究所配属される。結果的には何が生まれるのだろうか、と思う。
- 全体的に授業内容のレベルは高いのかもしれませんが、クオリティの低い講義が多いと感じました。大学の講義はそれほど親切ではないと入学前から聞いてはいましたが、講義にほとんど出席せずに自分で勉強した方が効率良く成績も良かったので講義の必要性がそれほど感じられなかった。試験の答案の返却・解答がないと、自分の理解度が把握できないため不安感が残ったままである。
- 身に付くも付かないも、学べるも学べないも、全ては自分次第だということがわかった。
- 大学には慣れてきたから、今年は自分のやりたい勉強をもっとしようと思った。
- 全学共通科目、とくにB群は充実していた。
- ある授業にぜんぜん行かない、試験でなにも書いていない人が先生と相談して結果、少しレポートを出すぐらいで可(60点)にされた、私が精一杯頑張り、優を取るつもりで準備した結果も69点の可になった、これが一番納得できないことでした。あまりにもフェアじゃないと思います。
- 音楽に関する講義を取りたかったが、週に1コマしか存在せず、学科の専門科目と重複してしまい、履修出来なかったことが残念だった。
- 高校の時と違い扱う学問がより専門的で難しくなり大変だと思う反面、その分自分の知識が豊かになっていくことに喜びを感じています。
- 同じ科目でも、教員によって当たり外れがある。
- ここに書くべきなのか分からないが言いたいことはひとつ。
全授業で全ての掲示をKULASISにも載せるようにしてください！
ひとつでもKULASISに載ってなくて現地で確認する必要が科目があると意味を成さない。
- 早く専門を学びたかったです。
- B群科目が難しすぎてついていけない。
- 単位がほしいです。
- 授業をもっと力を入れてやってほしい。
- もう少し個別に質問などを受けてくださったりすると非常にありがたいです。
- 授業が一方的過ぎてついていくのに多大な努力を必要とした。
- 楽勝科目が多すぎるかも。もっと高等教育機構の教員を増やしてほしい。
- 素人には全くもって難しい専門書のような教科書を自分と同様に、まるでこっちが理解したかのように流し読みで進めるのは非常に大変なので、そういうような授業の仕方は教員の方にはホントに勘弁してほしい。
- 自分が今まで知っていた知識がいかに小さいもので、これから学んでいかななくてはならないことの大きさを知ることができました。

- さまざまなことを学ぶことができ非常に役に立ったと思う。たくさん講義があることは非常にありがたいが、シラバスだけではどのような講義かわからない面もたくさんあり、自分の興味のある講義を探すことが大変であった。
- いろんな分野の知識や教養を得ていることが大事なんだと改めて実感しました。
- 中途半端に単位をくれると基礎知識が身についていない状態でレベルがあがるので困ることが多々ある。
- 自分にとって興味のある科目を探して履修することができたので非常に楽しめた。
- さまざまな分野の講義が開かれているのはとても嬉しいが、成績評価が講義によって違いすぎる。講義よりもはるかに苦勞しているのに、実験の単位が少なすぎる。実験の単位をもっと増やしてほしい。
- 1度でも講義を休んでしまうとそこから休みがちになるので、遅刻してもいいから頑張って講義にでることが大事。課題もその日の内にしないと忘れてしまい、講義に出づらくなる要因になる。NFが鬼門。
- 特になし。
- 朝起きるのがつらい。
- 正直、「単位が欲しい」で一年が終わりました。興味・関心よりも単位優先という状態。
- 語学の授業は高校のときとは違いい意味で衝撃的なものが多かった。
とてもよかった。
- それぞれの分野の奥深さがわかった。
- 大学生という自由な時間で自主的に勉強をするのは大変だった。
- シラバスでは面白そうな科目でも、実際の授業をうけてみると、あまり興味が持てない科目がちらほらあった。しかし、教授が熱心に講義してくれる科目はたいがい面白いものばかりで、引き込まれるものも多かった。教室のスペースと生徒の比がおかしい授業もあり、何度も立ち見になったときは心折れそうになったが、我慢した。
- 特になし。
- 生物系の授業はとても興味深かった。特に遺伝子レベルでの生命の仕組みを扱う講義は、最新の研究成果や教授自身が行った実験結果と共に紹介され毎回新鮮な驚きを感じた。
- サークルと勉学とバイトの三つを全て満足にするのは難しい。結局どれかを犠牲にしなければ、体のほうがもたなくなってしまう。去年の後期はそのうち勉学を切り捨ててしまうという学生にあるまじき行動をとってしまった。
- 授業の進むスピードや授業、テストの難しさが教授によって大きく異なることに驚きました。また、単位取得のためだけにあまり興味のない授業をとったが思いのほか講義を聞いてみると興味が出てくる授業などもあり、様々な分野に触れることができたのが今後の自分にとって大きな経験になると思います。
- 「教養」がいかなるものか感じ取れた。なぜそれが大切か分かった気がする。
- 自分の興味がある分野を自由に選択できてよかったと思う。

- 同じ科目名でも、担当教員が異なれば授業内容に違いがでるのは当然のことだが、試験や評価の方法にも違いが現れ、そのため単位を取りやすい先生や取りにくい先生がわかれてくる。同じ科目名ならもう少しは統一感を持ってほしいのでは？
- 意外と普通だと感じた。
- 2 回生の授業を受けていて、やはり、1 回生の時の授業は、質がかなり悪かったと思う。授業を 10 分しかしない先生や英語の授業なのに論理学をしだす先生や声が小さい上にかつ舌が悪い先生など・・・。
- 自分の専門の科目ばかりとっていると視野が狭くなったり、行き詰ったりしがちになる。全学共通科目は分野の垣根を越えて幅広い知識や興味を与えてくれたし、息抜きにもなった。
- 受験時にはあまり重視していなかった文系科目を、自分のペースで学べたことが、自分の幅を広げるという意味で良かった。ただ、全学共通科目に限らず、受験勉強の延長の感覚でテストに臨む人が多く、自分の意志で学ぶ学生が思っていたより少なかったことに失望したので、点取り狙いの学生には厳しい採点がなされるような成績評価方式を考えてほしい。
- 高校までの教育との違いを感じた。
- 必修科目が教員により不平等が生まれる。
- 京大の授業というだけあり、やはり期待していたような面白い授業は多かったです。
ただ、興味のない授業だった場合に話半分に聞いて単位だけ取ろう、授業に出なくてもいいや、という考えに自らが至ってしまい、自分が割りと単位をとる要領がいいせいもあってか興味のある科目すらも教科書を読んだら自学自習に走ってしまった科目が多かった。
教科書に書いてあることをなぞるような授業は、教員にとっても楽だろうが生徒にとっても授業に出なくてもこれをやればいいのか、という安心感が得られるしそういった方針の場合は最初に言ってくれれば、自学自習ですませるのが得意な人などにはありがたいのかもしれない。もっとも、自分は最大限授業に出ずに単位を取得する方法を考えているだけだが。
- しっかりやる気を持って臨めば、自分の教養を深めることができる科目は多くあると思う。しかし自分も含め、楽な方向に走って熱心に授業に向かわなくなる学生が多いのはもったいなく残念だと思う。
- 一年間で一体何を学んだのかがはっきり分からない。ただ去年に比べて、まったく同じ状況とも言い切れないので、何かしらの成長はしているらしい。
- 必要性がいまいち感じられない。
- 勉強というのはその学問に興味があればなかなか取り組みにくいということ。
分からない時や休んでしまった時に助けてくれる友達の存在の大きさ。
- 高校のような授業の楽しさがない。
- まずはちゃんと授業に出席するべきだった。
- 高校までとは異なり、総じて講師の teaching skill の低さ、授業への熱意の低さに失望した。
もっと生徒の面倒をきちんと責任もってみるべき。自分で勉強しろと言われてたら確かにその通りだが、自分で勉強するだけだったら、こんな高い授業料を払って大学に来る必要がない。

- もっと興味をそそるような授業を増やしてほしい。
- 教授によって講義は本当にそれぞれ違っていました。それは良さでもありますが、シラバスに詳しく書いてある講義とあまりそうでもないものがあって、その辺をもう少し強化してもらえれば、講義選びもしくは勉強により参考になったと思います。あと、レポートなどの連絡に KULASIS を使う教授と使わない教授がいるので、「内容は授業で指示したとおり」程度の内容でもかまわないので、講義の連絡を KULASIS に掲示してほしいです。
- いろいろなことが学べてよかったです。京都大学で授業を受けられる喜びを感じました。
- 様々な経験ができ、また自分の興味のある分野などの授業にも触れることができ楽しかった。
- 専門科目では学ばないような幅広い知識を得ることができ、興味を持てた分野もあった。しかし、入学当初の段階ではどれが自分の興味にあったものかはすぐに判断できないし、もっと分かりやすく紹介してくれるものがあってもよかったと思う。
- 1年間大学で講義を受けてきたが、今では自発的に勉強することの重要性を感じている。京都大学が特殊なのかもしれないが、例えば物理学でも、講義の中で問題演習などは特にせず、理論を展開しているのが主なので、自分で問題を解く練習をするのが重要だと思う。その代わり、講義では定理の導出や証明をやってくれたのが良かったと思う。
- 授業の数は多いが、中身のあるものは限られている。もっと中身の濃い授業（より専門的という意味ではない）を充実してもらいたい。
単位を単に渡すだけの授業をもっと改善して欲しい。
- 自分が進もうとする道の専門的な知識ばかり得ようとするのではなく、幅広い視野を持てるよう全学共通科目をとるやり方はいいと思う。けれど、別に悪いことだとは思わないが、結局単位修得が最優先され学生が内容に関心を持って授業を受けるにはいたっていない印象を受けた。
- 全学共通科目は生かすも殺すも自分次第だと感じた。もう少ししっかり勉強していれば、もう少し自分のものになったと多少後悔している部分もある。
- 一筋縄ではいかないなと思った。
- A群の中にはそこそ自分に興味のあるものがあり、そういった科目は特におもしろく感じました。
- 勉強への意欲がだんだん薄れていったのが残念だった。
- これは、私だけかもしれないが、案外先生の人間性、人柄というものに左右される。嫌味ばかり言う先生の授業に対しては、いくら授業が良くても興味を失ってしまう。逆に、多少難しくても人間性に優れている先生にだつていてこうという気がする。これは、熱心かどうかとはまたちょっと違うと思うので、改善することは難しいだろうが…。
- 1年間の全学共通科目の受講を通して、京都大学の基本理念である基礎学力を拡充するために、質の高い講義が、数多く提供されていると感じた。これは、学生が望みさえすれば、あらゆる分野の基礎知識を得ることができるものである。
しかし、その興味深い講義があつたとしても、必要なクラス指定科目などのために、履修す

ることが叶わず、学ぶことができないという点で、やや自由度がないようにも感じた。

- 大学は専門科目に特化して学ぶところというイメージがあったので、専門科目や必須科目の勉強に少しだけ邪魔になった。
- 勉強しないこちらが悪いが、講師陣の「理解させよう」という意欲もかけているように感じた。
- 高等教育での授業との関連などが解り、楽しいこともあった。しかし、大学の知識を知っている方が高校の内容を理解しやすいこともあるように感じた。
- 全く違う学部の人たちと授業を通して知り合い、お互い良い刺激を受けることができました。
- 授業内容が、高校まで学習してきたものとは違ってレベルが高く新鮮で非常に面白かった。
- 全学共通科目は教授の自己満足だった。
- 最低限勉強しないと単位は取れないものですね、ということ。
- もっと様々な教科の基礎を学びたかった。(日本史とか)
同じ科目でも教員によって厳しさが違いすぎると思う。
- なし。
- いわゆる楽勝科目というものばかり受講するよりは自分のためになるものや、教員の熱意のある講義を受講したほうが楽しいです。
- 人間だもの。
- 入試の勉強の反動で1回生の間はほとんど勉強できないと思っていたので、勉強に対する意欲が湧かなかつたのは仕方ないと思う。その分2回生からは頑張って勉強できる気がする。
- 1回生は単位のこともあるので、週に20コマ程度のクラスを履修していたが、そうするとやらなければいけないことがあまりにも多すぎて、全て中途半端になってしまったような気がします。
- 教員の熱意を感じる授業が多く満足しています。
- 一般教養を身につけようとして受けた講義が、難易度が合わなかったり、期待していたものと異なっていたりということがあった。
- 単位を取ることに集中しなくてはならず、興味のある科目をろくにとれなかった。
- 成績に影響する試験等での不正行為の多さを見て、学生の質が相当低いと感じた。
- 習ってもいない内容を前提として授業を進められることが多々あった。例えば物理では高校では習っていない数学の知識を必要とするときがあるのに、その部分の説明が不十分であったために授業の内容を完全には理解できなかった。
- ポケゼミは非常に興味ももて、授業に参加でき、有意義な授業であった。
それ以外の授業は、教員が自分の分野について、ただひたすら語っているというだけでなんの興味も持てず、ひたすら単位の取得に力を傾けただけであった。
- 全学共通科目というと楽勝科目にばかり目が行き、「本当に興味があるか」で科目を選ぶことはまずない。そして興味を持って選んだ授業も大概はつまらない。周りの多くの人が「大学の授業は想像していたものとは違い全然面白くなかった」と言っている。自分の知的好奇心

を満たすような授業を期待している学生のためにも、授業の質の向上に取り組んでほしい。

- 役に立つ授業もあり、ただ苦しいだけの授業もありました。単位の取得の難易度に関しても、世の中は平等にはできていないということを感じました。
- 専門科目以外の知識をいろいろ勉強してきました。いい経験だと思います。
- 自分の知らない知識を身につけることができよかったです。
- 大学の授業の教科書や参考書のレベルが、かなり高度なものと、さわり程度しか扱わないものに二極化していて、また絶対数も高校時代と比べ少ないため、自分の理解力程度の参考書を見つけるのが難しいような気がしました。また、わからないことを聞く相手もあまりいなく授業について行くのにわりと苦労しました。
- B群科目においては、理論のみを説明し、一部科目を除き講義中に演習の時間がないため、自ら積極的に演習して理解をすることが求められるのだと感じた。
- きっと大丈夫。
- 講義を通して新しい刺激を受けることが多く、実用に近い形にもっていったものもあった。取っつきやすい構成のものが多かったが、どれも深く勉強するとなると話は別であるといった印象は受けました。
- A群科目が良くも悪くも適当であった。
- B群科目の単位認定の難易度が教員によって偏りすぎ。そして、授業をもっとわかりやすくしてほしい。
- 先生の説明は基本的に理解できず結局参考書で自分でやらなければならなかった。
- 大学に勉強は授業をうけるだけじゃなくて自ら学ぶことが大事だと思った。
- 興味を持って受けることができる授業が少なかった。
- B群。。
- 人が多すぎてやる気がなくなります。
- いわゆる「楽勝科目」をとりましたが、単位はとれたものの、得られるものは少なかったように感じます。自分が言えた立場ではありませんが、このようなものを推奨するような傾向はやめさせるべきだと思います。
- 興味のあるものは良いのですがあまり興味を持たないものは単位を取るためだけに受講するようになってしまいました。
- 最初はB群科目の難しさにあたふたしていましたが、自分で本を色々調べて解決していったり、友達と考えたりすることの楽しさを知ることができました。また、学部をこえて友達が増えたのが非常によかったです。
教授との距離が近いのも京大の強みだと感じています。
- 自分が元々興味を持っていなかった分野も受講してみることで面白いと思えることも多々あってよかったですと思いました。
- 教員の評価が甘いような気がして、申し訳なく思うと同時に助かった気持だった。
- 共通科目を受講して一年間、全体的によかったと思います。授業のおかげで、友達とのつな

がりも強くなりましたし、自分の興味深い分野に入門知識を身につけました。

- 大学の講義というものが良く分かった。講義は天才や秀才を基準に行われているので、一般学生はとにかく自学自習をしなければいけないと痛感した。
- B群が、クラス指定科目しか卒業に必要な単位として認定されない事に不満を覚えた。興味を持った講義で単位を取れない事は、教育という無限の可能性に制限を設けているのと同じだと思った。
勉学に対する喜びを見いだせたのは主にA群だったと思う。
大学の時にしか学べない基礎を学べる機会、それが全学共通科目であり、とても重要だと思った。
- 授業の選択肢が多くて良かった。
- 同じ授業名でも教員によりその単位取得難度が大きく違うので運みたいなものだった。学生に出来るだけ理解させ出来るだけ単位を取ってほしいという教員もいれば、声が聞こえず、ただただ板書をして授業内容が授業中に全く理解できない授業をする教員もいた。
- 専門以外のことを勉強できる、とてもいい機会になりました。
- 京都大学は自由な学校だと改めて感じました。興味のある分野に対し時間をさくことができ、また趣味にもうまく時間を活用すれば充実した生活を送れると感じました。
- なし。

7. 10 農学部

- 全学共通科目をとっても、すぐ忘れてしまうようなものが多かった気がした。
- こんなに自由度の高い授業のとり方をできる大学なんて、そうそうない。非常に僕の性に合っていて、満足している。
- 専門に進み、研究を行っていくうえで、非常に重要な英語の学習への支援体制が今以上に全学共通科目を通じてなされればと思う。数学の学習のサポートとして数学質問コーナーが設置されているが、英語についても同様のコーナーの設置がなされ、ライティングの添削などがなされればと思う。
- 講義を受けるにあたって、はじめに考えていたようには学べなかったように思うが、理系向け講義だけでなく文系向け講義を学ぶことで自分の中で見解の視野が広まる一助となったように思う。単なる教養と考えると甘く考える事なく講義を受けたのは正しかったように思う。
- より良い研究をするためには、専門的な知識だけでなく、幅広い教養や知識があったうえで、いろいろな立場から物事を眺めることができることが必要だと感じた。
- 私は自宅生で、自宅から大学へ通うのに約2時間かかってしまうので、学科推薦の講義を1限目に行わないで欲しいです。
- どれも興味のある科目を受講したが、その興味が続くかどうかは指導教員の熱意・工夫に掛かっていると思った。受動的な学習姿勢と言われるかもしれないが、教員の方も天下の京都大学の講義なのだからもっと身を入れて欲しい。真面目で常識のある先生方の講義はとても

タメになったし、知的好奇心を大いに刺激された。

- 興味のある科目の時間がかぶって履修できないものが多かった。
- 大学の先生は授業の進め方があまり上手ではないようです。もちろん、上手な先生もいますが。興味深いものに出会えただけでも幸運だったと思います。それぐらいに入学当初から全学共通科目にはあまり期待はしていませんでした。
- 自分がどんな学問が好きで、どんな学問を生理的に受け付けないかということが高校生だった頃よりもはっきりと分かりました。高校物理と大学物理の差はひどいですね…。
- 本学のシステムとして、自由な履修科目選択が挙げられるが、私には非常に魅力である。後世に伝えたい。
- 多くの科目を用意し、学生の選択肢を広げてくれていたことがありがたかった。
- 高校時代、生物・化学選択だったため、初修物理学の授業は大変役立った。一方、基礎物理化学の授業では生物選択者への配慮が全くなされておらず、残念だった。(仮にも生物選択者の多い農学部生のクラス指定科目なのだから配慮すべきだと思う)
その他、全学共通科目を受講して、自分にはまだまだ沢山の知らないこと、勉強しなくてはいけないこと、があることを再確認した。
- 自分の興味、やる気次第で色々なことが勉強できる。
- 自分の学部以外の授業を受けることで、とても視野が広がったと思います。
- 全学共通科目を受講することで、今まで自分が興味を持っていた分野はより知識を深めることができ、更には今まで特に興味の無かった分野に関しても興味を向けることができた。
- 今までの勉強では学ぶこともなかったような内容を学べた点では良かったが、逆に学び終わった時に今後利用しようのない何の達成感も残らない科目もあったような気がする。とりあえず専門科目や教職科目との折り合いが悪すぎて将来的に興味のある分野の共通科目がほとんど受講出来なかった点は残念に思った。
- 自分の興味のあることを学べ、とても楽しかった。
- コマ数が多すぎるので、全部を高めていくのは難しいと思いました。
- 入学当初、時間割など授業の取り方など一体全体どうすればよいか全くわかりませんでした。多くは先輩などに聞いて解決するのですが、最初にもっと詳しくわかりやすい方法で学生に説明をするような冊子を必要とします。そのような冊子は幾つかあるのですが、どれもが粹にはまったようなものであり、いろいろな規定に基づいた機械的な説明、ルールのみを提示しているからです。学生目線にたったわかり易い言葉での解説も必要だと思います。また、パソコンでのQ&Aは充実していますが、もう少し充実させても良いと思います。慣れれば全然大丈夫ですけど。
あと、今回(2回生進級時)も外国語予備登録など説明があまりないのでよくわかりませんでした。農学部は科学英語(農学)以外にも英語をとらなければならないと認識出来ている人が半分程度でした。ガイダンスをもっと早めるべきです。
- 最初は浅く、そして徐々に深くなるものかと思いきや、最初からやや深く後は?が続くとい

うものがあった。自分で勉強しなかったからそうなったのかもしれないが、最初からよく分からなかったので何を勉強すればいいのかも分からなかった。

ただ、様々な分野の科目を受講してみて自分がどのようなことに関心を持っているのかは分かりよかった。今年からはその分野をより学んでいこうと思っている。

- 理系の科目は積極的に取り組みましたが、文系科目、A群に関してはいわゆる楽勝科目で単位をとりに行っていました。

あと1回生のころは理系の場合クラス指定でだいぶ時間割が埋まっていて興味があっても取れない、といったものが多くあり残念でした。

- もっと思いっきり興味の赴くままに勉強したかった。
- 質問する機会が設けられないものが多い。
- 入学してしばらくは勉強への意欲が低下し、不安だった。期末試験の勉強を通じてやや向学心を回復することが出来た。
- 自分は専門に関する講義だけをとればよいと思っていたので、後期でとった文化人類学は、初めは単位合わせのため聴講でした。しかし講義を聴き進めていくうちに新しい学問への意欲が湧いてきました。2回生以降もこの学問に関する講義をとっていきたいと思います。副専攻にしたいとさえ思える学問に出会えたことは、自分にとって大きな幸運でした。
- 全般的に理解しやすい授業であり、自分の教養の為になる講義内容で、満足している。
- 勉強はしたいが、課外活動にすごくやりがいを感じるので、おろそかになりがちになってしまう。まあ、それは自分が悪いんだけど。。。
というわけで今年がんばります（笑）
- 特になし。
- 学科の推薦教科を多く選んだので、勉強にはなりましたがもう少し多く自分の興味が強い講義を選んでもよかったかもしれないと感じます。
- 勉強に対する意欲を継続できない。
- 自分でしっかり受けたもの以外は成績にかかわらず記憶に残ってない。
- 割とおもしろい授業もあって良かったと思う。
- 興味を持てた授業は最後まで講義に出席して単位も取得することができた。
- いわゆる楽勝科目は単位をとるだけで身にならない。
- 後期開講の授業が少ないと思った。
- いろんな分野の勉強をしたことで自分の将来の道を決める手助けに少しだけなったような気がします。
- 人気のある科目にはあまりにもたくさんの人がいて、授業に集中できないことが多くあった。そのような授業には履修制限をもうけて人数を調整するか、同じ授業を2回行うなどして、1回の授業の人数を減らしてもらいたかった。
- 英語力が落ちた。英語は教員の当たり外れがあった。友達に他の教員の話を知っていると、とても熱心で、その教員の授業を受けたかったと思っている。2回生みたいに教員を選ぶよ

うにしたほうが良いと思います。自分で選ぶなら、失敗しても後悔は少ないでしょう。

- 同じ事柄についてもそれぞれの先生が独自の考えをしていて興味深かった。
 - 大学の授業は自学自習のきっかけであるということを理解した。

2回生からは図書館などのインフラを積極的に利用し自学自習を進めようと思う。
 - 全学共通科目、専門科目両方に言えることであるが、単なる出席を取りそれで評価をする制度は正当とはいえないのでは。出席を書くのみなら知人にたのんでおけば、授業にでなくても点数がもらえる。これは、まじめにでている人にとって不公平ではないだろうか。出席を小テストやミニレポート形式にし、期末テストの配点を大きくすべきである。
 - 多くの教員はただ授業をするだけで熱心に感じられない。実用的な知識だけを伝授するのではなく、脱線を増やしたり、あるいはその学問のどこが面白いのかをつたえるべき。
 - 諦めたらだめ。
 - 全学共通科目の面白さは、授業の内容もさることながら、教授には様々な人がいるということを実感できることです。いかにも堅物そうな先生もいれば、ずいぶん適当な感じでしゃべる人もいます。また、生徒が楽しくなるような授業展開を作れる人もいれば、高度なことへ突っ走りすぎて何を言っているかわからない人もいます。どの性格がもっとも教授としてふさわしいのかを考えるのも重要かもしれませんが、私が感じたのは、自分の性格を変える必要は必ずしもないということです。自分のペースを乱さないように、着実に勉強するのが大切なのです。
 - 単位をそろえるために、興味のない授業にも出席を続けた結果、全てにおいて中途半端になった。これはかなり多くの人を感じていることだと思う。

大教室は私語が多い。
 - 自分が授業を理解できるほどの知識がないということを一年を通して、切に感じました。
 - 一般教養の授業で得たものはほとんどありません。唯一真剣に受けた日本の企業システムが、多少身についたように思います。そもそも、僕の場合(おそらく周りの学生も)90分の講義をだらだらと続けられるよりも、その90分で自習していたほうが有効な時間の使い方だと思われる。

また、数学の授業も、一人では何も出来ない人を除いては自学を基本にして講義自体は質問の場にするというほうがベターかと思われます。
 - ただ受動的に聞くだけで考えることを必要としない全学共通科目に無意味さを感じた。
 - やる気を持続させるのは難しいと思った。
 - とくになし。
- 単位は要らないので、もっと面白い授業をして欲しい。
- 難しすぎる内容の講義を受けたあとは、それについて知りたいという気持ちが強く起こり、自分から進んで本を読んだりパソコンで調べたりして学習するのがとても楽しかったです。
- 様々な教員の話を知りたいと思い、リレー講義形式の授業を多く受講しました。しかし、それらの多くは楽勝科目と呼ばれる科目で、やる気のない生徒たちのせいでその授業自体の空

気が悪くなっていました。そのことは残念でしたが、狙い通り多くの教員のお話を聞くことができ、私の興味の幅を広げることができました。そのことは大変役に立ちました。ありがとうございました。

- 興味のままにいろいろな講義を受講し、自分の世界を広げることができました。ただ、もっと歴史の勉強がしたかったのですが、多くの歴史系の講義で「高校程度の知識が必要」となっていたので高校で詳しく学んでいない私は受講できませんでした。全学共通ということ considering 理系のための文系科目、文系のための理系科目をもっと充実させてほしいです。
- 出席のみで評価をする授業では、学生がうるさくて集中できなかった。
そのような学生に対して何らかの処置を施して欲しい。
- 本当に自分の好きなことができるので驚きました。
ただ自分の責任が大きいので、何も考えないと時間を無駄に使うなと思いました。
- 自分の専門分野以外の一般教養でも、興味を持って履修することができた。一見関係の無い科目同士が、実はかかわりのあるものだと分かり、おもしろいと感じた。
- 入学当初の抱負はすでに忘れつつあった。
今の生活にある程度満足してはいるが、向上心をなくしつつあることに気がついた瞬間は、これでいいのかと不安になる。
- 授業を受けることで何か自分が成長したとは感じられない。
- 数学が結局よくわからなかった。
- 大学は、本当に色んな意味で様々な講義があるんだなと思いました。
もっと自分の興味のある講義をたくさんとってみたいかったです。
- 自分で勉強しなければ、何も身につかない。
- 試験対策をしっかりしているクラスとそうでないクラスあった。クラス単位ではなく、全学生が過去問などを平等に共有できたらよいと感じた。
- 全学共通科目で予想以上に学部外の友人ができでとてもよかった。また、思ったより学生と教員が話し合う場があり満足だった。これからもコミュニケーションが活発に行われる授業が増えることを希望します。
- 専門の授業が少なく、将来の展望が見えにくい1年でしたが、一般教養で専門以外の幅広い知識や考え方を知ることが出来たのはよかったです。
- もっと全学共通を重視してもいいと思う。
特にB群科目の講義は高校との違いが激しく、内容を理解するのに苦しんだ。
- 全学共通科目で結構多く履修登録をしたものの、何コマかは関心ももてず授業に出席しなくなったりまったく勉強しなかったりとやる気が持てませんでした。
- 部活だけじゃなく、勉強もしないといけないと思った。
- 個人的には、とりたかった授業が火2に集中していて、専門のせいでとれなくなってしまった。前期に比べて、後期の全学共通に面白みが感じられるものが少なく、教員の熱意も感じられなかった。

- あまり自分の専門と関係のない教科も幅広く受講できたので楽しかったです。逆に、学部から推薦されているため受講していたあまり興味のない講義も、先生が面白かったり話し方が聞きやすかったりするとやる気が出ました。
- 高校以前では全員が決まったことを学習していたが、全学共通科目では自分の興味のある分野を幅広く、また深く学ぶことができ、興味深かった。
- 一年経ってしまったが、まだ将来自分のやりたいことがあまり見えてこなかった。でも、チアという新しく頑張れるものは、見つかった。今は、英語の力をつけたいと思っているが、どうすればいいのか、わからない。高校で物理をやってないのに、物理を基礎とする学科でとても不安だったが、クラスの人が丁寧に教えてくれたので不安が少しずつなくなった。
- 楽勝科目ばかりとってしまいあまり勉強できなかった。
- まだまだ受け身なのでもっと自分から動く。
- 豆知識みたいなものが増えて良かったです。
- 面白いものは面白かったが、そうでもないものはまったく理解ができなかったし、きつかった。もうちょっとわかりやすく授業をしてほしかった。
- 高校と違って自由に授業が受けられる反面、強制されることがないので学業が疎かになることがあった様に思う。

- 2 成績評価が甘すぎる
- 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていなかった
- 4 成績評価の基準・方法が不公正である
- 5 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～5から選択）（ ）

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A（満足した科目）

あなたが特に満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）（ ）

（以下、科目2、3も同様）

B（不満だった科目）

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった



平成21・22年度
2回生進級時アンケート

平成23年3月 発行

編集 京都大学高等教育研究開発推進機構

発行 京都大学 教育推進部共通教育推進課
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
Tel 075-753-6513
